

令和元年度 老人保健事業推進費等補助金  
老人保健健康増進等事業

外国人介護人材の受入れ実態等に関する調査研究事業  
【報告書】

令和2年3月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング



## ◆◇目 次◇◆

【報告書概要版】 .....	1
第1章 事業の概要 .....	21
1. 事業の目的 .....	21
2. 事業の実施体制 .....	22
3. 事業内容 .....	23
第2章 外国人介護職員受入れ事業所向けアンケート調査 .....	24
1. 調査実施概要 .....	24
2. 調査結果概要 .....	26
3. 調査結果 .....	29
第3章 外国人介護職員向けアンケート調査 .....	122
1. 調査実施概要 .....	122
2. 調査結果概要 .....	124
3. 調査結果 .....	131
第4章 事業所の回答と外国人介護職員本人の回答との関係 .....	192
1. 調査結果 .....	192
【参考資料】	



## 【報告書概要版】

厚生労働省 令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

### 外国人介護人材の受入れ実態等 に関する調査研究事業【報告書概要版】

令和2年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング



## 1. 事業概要

## 事業概要

### 事業目的

- 我が国では2008年より、EPA(経済連携協定)に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムから外国人介護福祉士候補者の受入れを行ってきた。また、2017年9月には、在留資格「介護」の追加、11月には技能実習制度に介護職が追加されている。
- さらに、2018年末の出入国管理及び難民認定法の改正に伴い、2019年4月からは、在留資格「特定技能」が新設され、介護分野での受入れが開始された。
- 今後はこれら4つのルートを入口に、外国人介護職員の受入れ拡大が進んでいくことが見込まれている。外国人の方が我が国の介護の現場で定着し活躍できるよう、外国人介護職員を受け入れた後の人材育成やキャリア支援が重要であり、このことが我が国の介護サービスの質の維持・向上につながるものと考えられる。
- そこで本事業は、上記の背景を踏まえ、外国人介護職員の育成やキャリア支援の実態や課題等を把握するとともに、外国人介護職員がキャリアアップして(介護福祉士の資格を取得等)地域に定着した事例、受入れにあたり着実な支援の取組みを進めている施設の事例等を収集することによって、外国人介護職員の受入れ及び定着促進を図ることを目的とした。

### 事業実施体制

- 本事業では、検討にあたって、今後の外国人介護職員の育成やキャリア支援のあり方について全般的な議論を行うため、検討委員会(全3回)及び、調査票検討ワーキンググループ(1回)を開催し、議論を行った。

### 検討委員(敬称略、座長◎) ※肩書は就任時のもの

石本 淳也	公益社団法人日本介護福祉士会 会長
井之上 芳雄	公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長
遠藤由美子	アークアカデミー 校長
川勝 貴子	公益財団法人国際研修協力機構 実習支援部 職種相談課 課長代理
白井 孝子	学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校 副校長
角田 隆	公益社団法人国際厚生事業団 専務理事
野村 愛	首都大学東京オープンユニバーシティ 講師
◎藤井賢一郎	上智大学 総合人間科学部 社会福祉学科 准教授

### <オブザーバー>

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

### <事務局>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

### 事業実施内容

#### (1) アンケート調査

- 1)外国人介護職員を受け入れている施設向け、2)EPA(在留資格:特定活動)、在留資格「介護」、技能実習のいずれかで在留する外国人介護職員本人向けの2種類のアンケート調査を実施した。

#### (2) ヒアリング調査

- 外国人が介護福祉士の資格取得等により、地域への定着に成功した事例、受入れにあたり着実な支援の取組みを進めている施設の事例等について、ヒアリング調査を行った。

#### (3) 外国人介護職員受入れと活躍支援に関するガイドブックの作成

- 外国人介護職員のキャリア支援に積極的に取り組む介護施設を増やし、介護サービスの質の確保に資することを目的として、外国人介護職員の受入れと定着支援に関するガイドブックを作成した。

## II. 外国人介護職員受入れ事業所向けアンケート調査

## 調査実施概要

### (1) 調査の目的

- EPA介護職員、技能実習生、在留資格「介護」を受け入れている施設・事業所を対象に、外国人介護職員を受け入れている施設における人材育成やキャリア支援の実態、課題等を把握する。
- 外国人介護職員本人が定着している、もしくは定着意向が強い事業所で、どのようなキャリア支援が行われているか分析することで、外国人介護職員の定着支援に有効な事業所の取組を把握する。

### (2) 調査対象

- 厚生労働省から提供されたリストについて、1事業所に複数の調査票が届かないよう、重複のチェックを行った上で、2,224事業所に2種類の調査票(事業所調査票①、事業所調査票②)を送付した。

#### (送付対象)

- ・ 調査票送付事務の都合上、リストに重複があった場合は在留資格「介護」受入れ事業所を優先した。このことを踏まえた内訳は、EPA介護職員受入れ事業所628件、技能実習生受入れ事業所1,368件、在留資格「介護」受入れ事業所228件。
- ・ 在留資格「介護」受入れ事業所について、事業所名が不明のため、法人本部に送付したものも含む。
- ・ 技能実習生受入れ施設・事業所について、提供されたリストが認定時点のものであるため、実際に当該事業所で実習をしているかどうかは不明であった。そのため、事業所調査票の冒頭に、外国人介護人材の受入れの有無を確認する設問を設けた。

#### (調査対象)

- ・ 事業所票① : 施設長・管理者  
※施設・事業所の人材育成やキャリア支援の実態や課題、外国人介護職員に対する支援状況等を把握
- ・ 事業所票② : 受け入れている外国人介護職員(EPA介護職員、技能実習生、在留資格「介護」)の直属の上司  
※受け入れている外国人介護職員の客観的な評価を把握

### (3) 調査方法

- 郵送による配布・回収

### (4) 調査実施期間

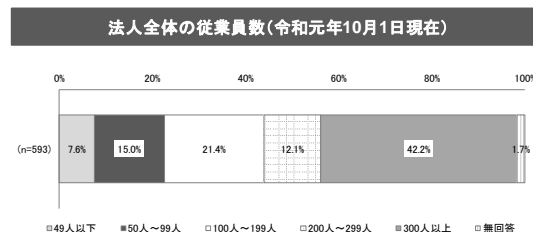
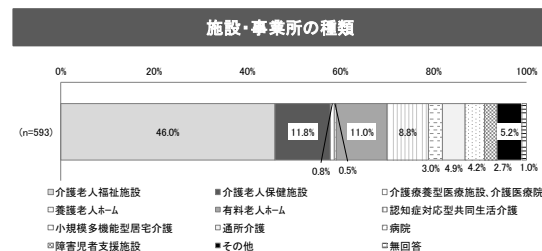
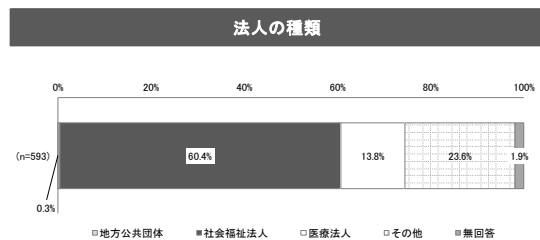
- 令和元年12月6日～2月6日

### (5) 回収結果(右表のとおり)

調査票名	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
事業所票①	2,224件	593件	593件	26.7%
事業所票②	---	1,490件	1,490件	---

## 回答者の基本情報(1/3)

- 法人の種類は、「社会福祉法人」が60.4%と最も多く、次いで「医療法人」が13.8%であった。
- 施設・事業所の種類は、「介護老人福祉施設」が46.0%と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が11.8%だった。
- 法人全体の従業員数は「300人以上」が42.2%と約半数を占め、次いで「100人～199人」(21.4%)、「50人～99人」(15.0%)、「200人～299人」(12.1%)だった。



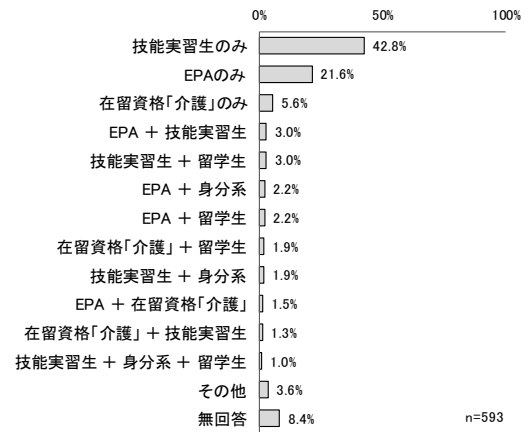
## 回答者の基本情報(2/3)

- 介護職員数(実人数)は、常勤が平均28.9人、非常勤が平均34.4人だった。うち、介護福祉士保有者数(実人数)は、常勤が平均17.4人、非常勤が平均3.8人だった。
- 各施設・事業所において受け入れている外国人介護職員の在留資格の組み合わせは、「技能実習生のみ」が42.8%で最も多く、次いで「EPAのみ」が21.6%だった。

施設・事業所の介護職員の数、常勤換算数

	件数	平均値	中央値
介護職員(常勤)	532	28.9	26.5
うち外国人(EPA介護職員)	319	2.3	1
うち外国人(技能実習生)	398	1.5	2
うち外国人(「介護」)	262	0.5	0
うち外国人(特定技能1号)	216	0	0
うち外国人(身分系の在留資格)	226	0.2	0
介護職員(非常勤)	509	11.3	9
うち外国人(EPA介護職員)	236	0.2	0
うち外国人(技能実習生)	246	0.4	0
うち外国人(「介護」)	220	0	0
うち外国人(特定技能1号)	212	0	0
うち外国人(留学生アルバイト)	222	0.7	0
うち外国人(身分系の在留資格)	222	0.2	0
介護職員(常勤換算数)	490	34.4	32
介護福祉士(常勤職員)	521	17.4	15
うち外国人(EPA介護職員)	253	0.6	0
うち外国人(身分系の在留資格)	121	0	0
介護福祉士(非常勤職員)	488	3.8	3
うち外国人(EPA介護職員)	216	0.1	0
うち外国人(身分系の在留資格)	118	0	0
介護福祉士(常勤換算数)	475	19.1	16.2

受け入れている外国人介護職員の在留資格の組み合わせ

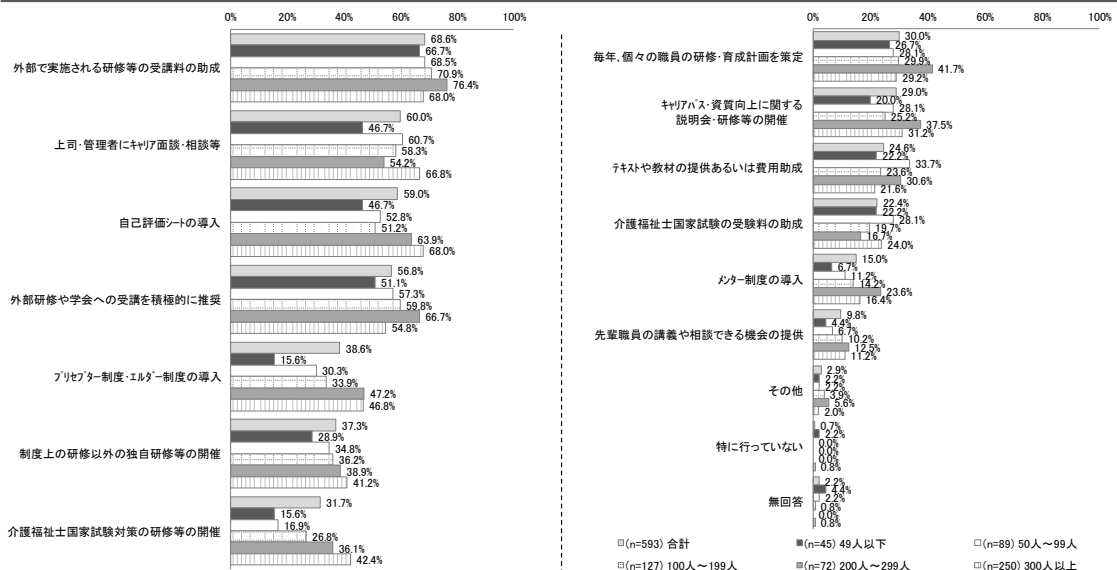


※ 身分系：永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者のいずれかの在留資格

## 回答者の基本情報(3/3)

- キャリア支援の取組みとして、全体で最も多いのは「外部で実施される研修等の受講料の助成」で68.6%であった。次いで、「上司・管理者にキャリア面談・相談等」が60.0%となっている。

実施しているキャリア支援の取組み

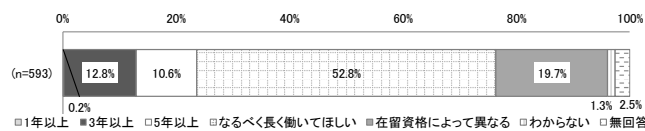




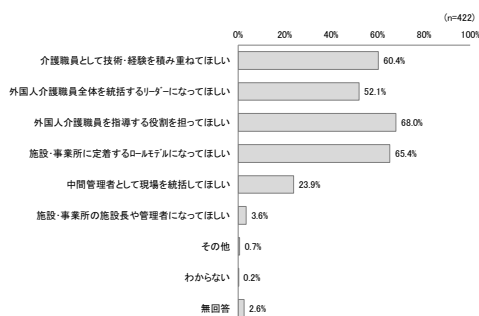
## 主な調査結果(1/9)－外国人介護職員に対する期待

- 施設・事業所の半数以上(52.8%)が、外国人介護職員に「なるべく長く働いてほしい」と考えている。
- 外国人介護職員に期待する役割は、「外国人介護職員を指導する役割」(68.0%)、「施設・事業所に定着するロールモデル」(65.4%)など。

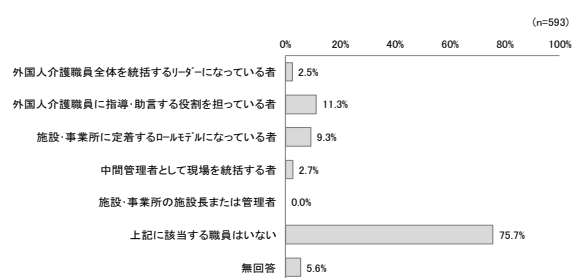
外国人介護職員に期待する就業年数



外国人介護職員に期待する職位や役割



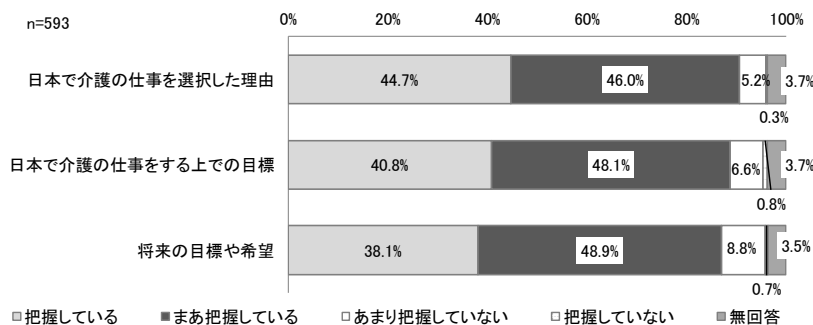
現在の外国人介護職員に職位や役割(活躍の状況)



## 主な調査結果(2/9)－外国人介護職員の目標や希望に関する把握状況

- 外国人介護職員のキャリアに関する把握状況において、「把握している」と「まあ把握している」を足した割合は、「日本で介護の仕事を選択した理由」90.7%、「日本で介護の仕事をする上での目標」88.9%、「将来の目標や希望」87.9%、の順になっている。

外国人介護職員の日本で介護の仕事を選択した理由、日本で介護の仕事をする上での目標、将来の目標や希望の把握状況

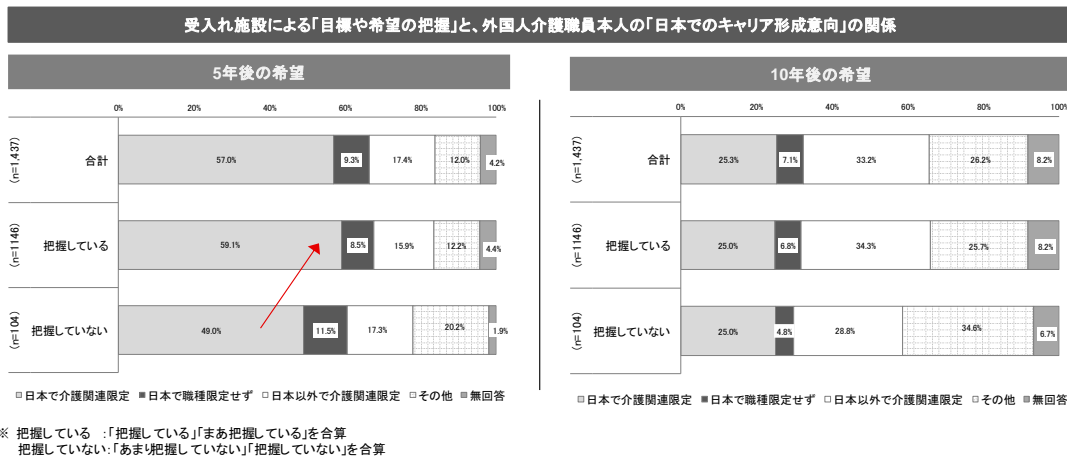


- すべて「把握している」と回答した施設・事業所は 30.3%(180件)であった。
- すべて「把握している」または「まあ把握している」と回答した施設・事業所は 83.8%(497件)であった。

## 主な調査結果(3/9) – 受入れ施設による外国人介護職員本人情報の把握と、職員本人のキャリア形成意向①

**仮説 外国人介護職員本人の目標や希望を把握している施設(上司)ほど、そこで働く外国人介護職員は日本でのキャリア形成意向が強い**

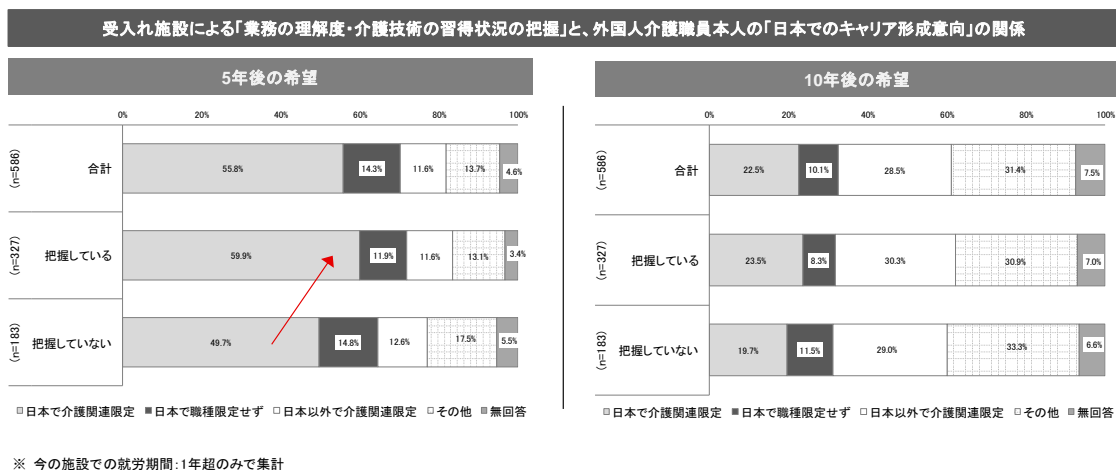
- 外国人介護職員の将来の目標や希望を把握している(外国人介護職員の将来のキャリア形成について理解しようとしている)施設で働く外国人介護職員は、5年後の希望として、「日本で介護関連に限って就労したい」(59.1%)と考える割合が高い。
- 10年後の希望として、「把握している」施設で働く外国人介護職員では、「日本以外で介護関連に限って就労したい」(34.3%)と考える割合が高い。



## 主な調査結果(4/9) – 受入れ施設による外国人介護職員本人情報の把握と、職員本人のキャリア形成意向②

**仮説 業務理解度や介護技術の習得状況を把握している施設(上司)ほど、そこで働く外国人介護職員は日本でのキャリア形成意向が強い**

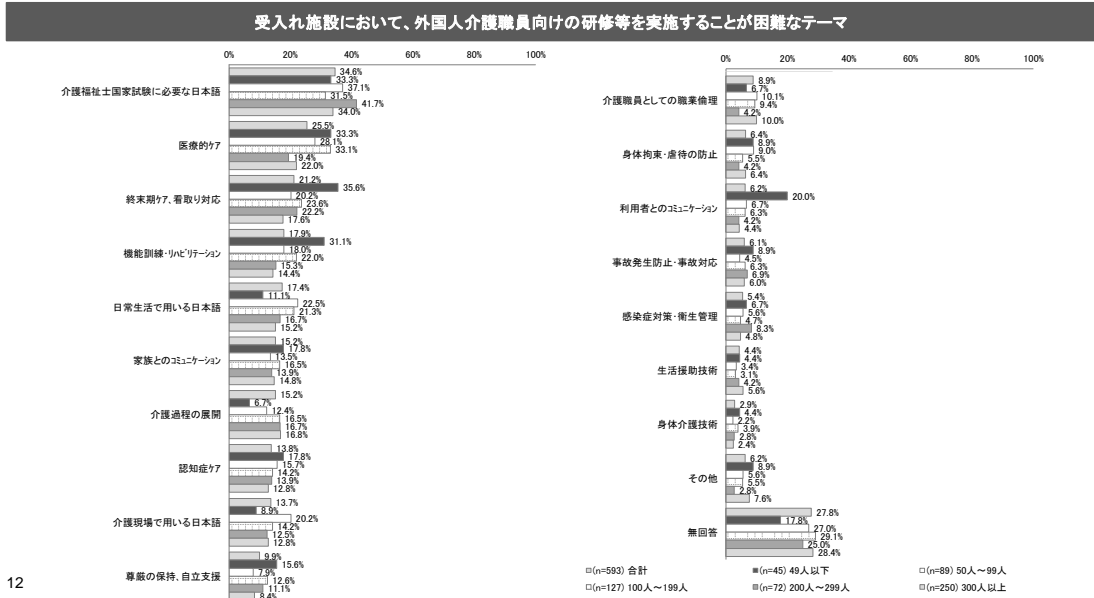
- 外国人介護職員の業務理解度・介護技術の習得状況を把握している(外国人介護職員の業務状況について理解しようとしている)施設で働く外国人介護職員は、5年後の希望として、「日本で介護関連限定」の割合が高くなっている。
- 一方、10年後の希望は、明確な相関性がみられなかった。



## 主な調査結果(5/9)－外国人介護職員向けの研修等を実施することが困難なテーマ

仮説 外国人介護職員に対する基礎的な部分での教育については、各事業所で共通する課題があるのではないかと

□ 外国人介護職員向けの研修等を実施することが困難なテーマは、全体で、「介護福祉士国家試験に必要な日本語」(34.6%)が最も多く、次いで「医療的ケア」(25.5%)、「終末期ケア、看取り対応」(21.2%)が多くなっていた。

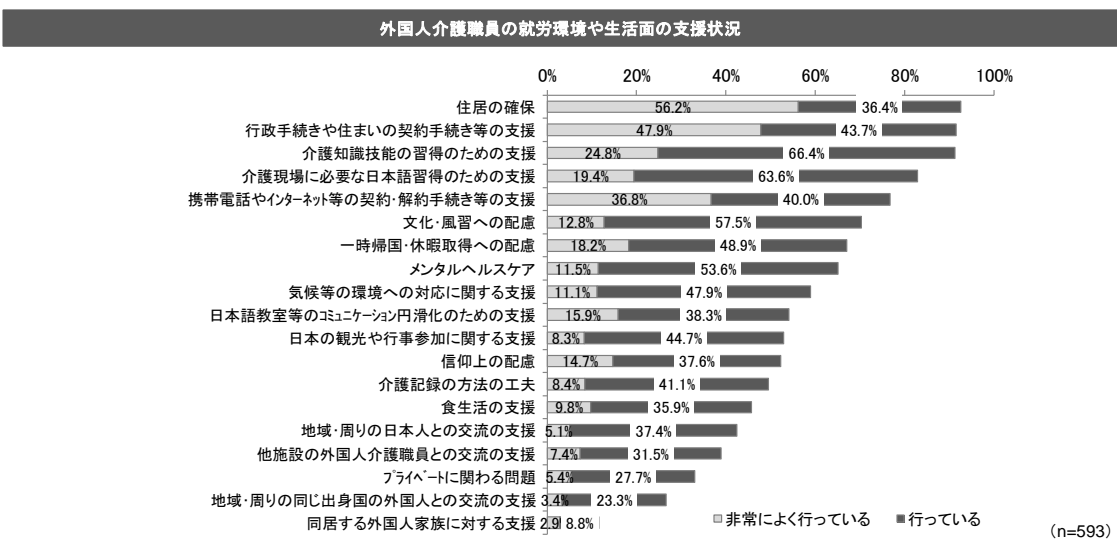


12

## 主な調査結果(6/9)－外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援状況

□ 外国人介護職員の就労環境や生活面の支援として、「非常に良く行っている」「行っている」を足した割合は、「住居の確保」(92.6%)、「行政手続きや住まいの契約手続き等の支援」(91.6%)のといった生活面の支援が高い割合となっている。

□ 次いで、同程度の割合で、「介護知識技能の習得のための支援」(91.2%)、「介護現場に必要な日本語習得のための支援」(83.0%)といった介護施設での就労に関わる支援も高い割合となっている。



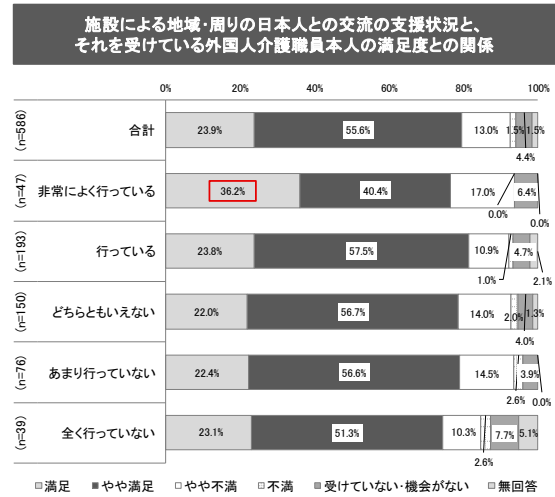
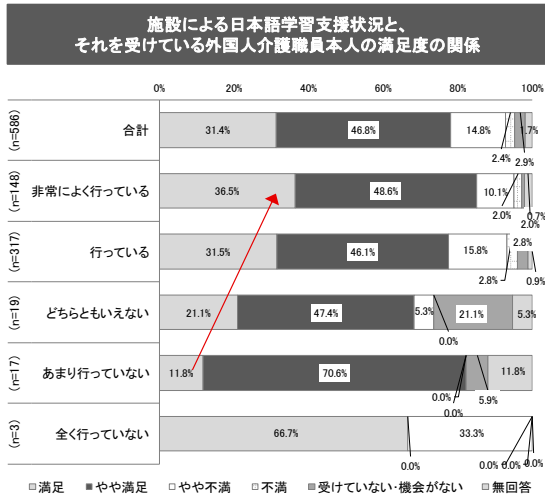
13 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



## 主な調査結果(7/9)－施設からの支援と外国人介護職員の満足度の関係

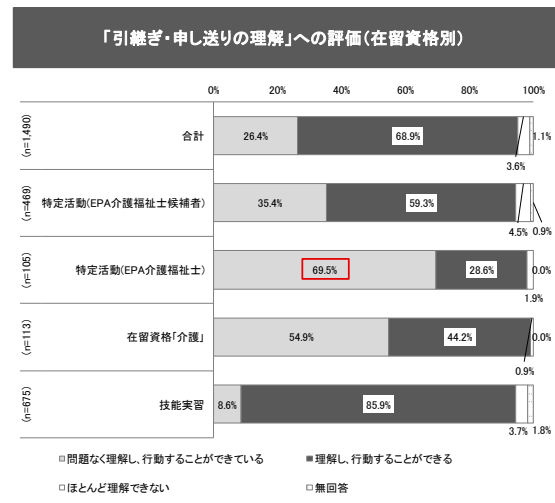
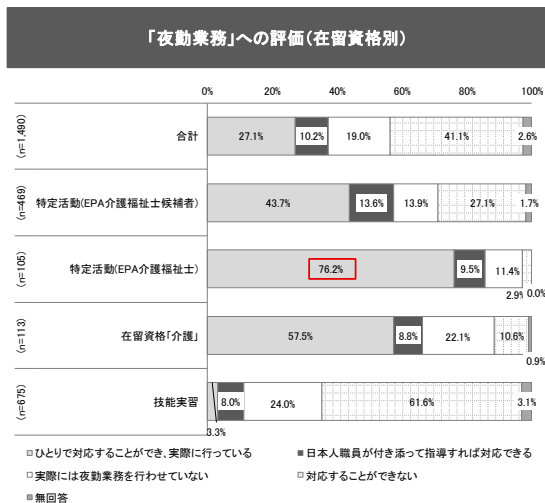
### 仮説 外国人介護職員に対する支援を手厚くしているほど、外国人介護職員本人の満足度も高いのではないか

- 施設が実施している各種支援状況と、それを受けている外国人介護職員本人の満足度の関係をみてみると、日本語学習の支援を手厚く行っているほど、外国人介護職員本人が「満足」と感じている割合も高まる関係がある
- また、施設から地域・周りの日本人との交流に関する支援を非常によく行っているところでは、外国人介護職員本人が「満足」と感じている割合が高い関係がある(36.2%)。



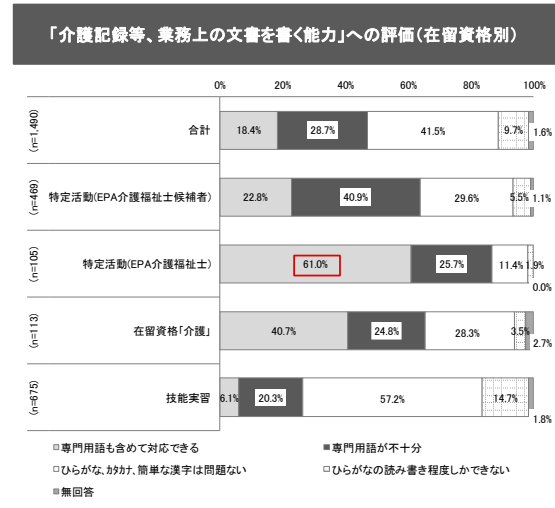
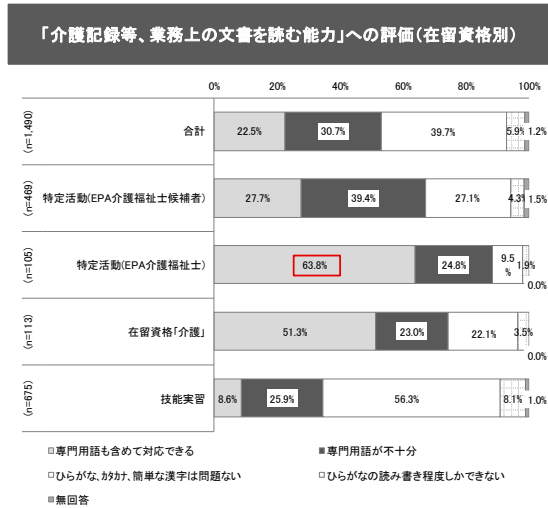
## 主な調査結果(8/9)－施設(上司)からの評価①(夜勤業務、引継ぎ・申し送り)

- 夜勤業務について在留資格別にみたと、**「ひとりで対応することができ、実際に行っている」**割合が最も高いのは**「特定活動(EPA介護福祉士)」**の76.2%であった。次いで、在留資格「介護」が57.5%であった。
- 引継ぎ・申し送りの理解について在留資格別にみたと、**「問題なく理解し、行動することができる」**割合が最も高いのは**「特定活動(EPA介護福祉士)」**の69.5%であった。次いで、在留資格「介護」が54.9%であった。



## 主な調査結果(9/9)－施設(上司)からの評価②(文書を読む能力、書く能力)

- 介護記録等、業務上の文書を読む能力について在留資格別にみたところ、「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「特定活動(EPA介護福祉士)」の63.8%であった。次いで、在留資格「介護」が51.3%であった。
- 介護記録等、業務上の文書を書く能力について在留資格別にみたところ、「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「特定活動(EPA介護福祉士)」の61.0%であった。次いで、在留資格「介護」が40.7%であった。



## III. 外国人介護職員向けアンケート調査

## 調査実施概要

### (1) 調査の目的

- 外国人介護職員の4つの受入れルートのうち、特定技能1号を除く3つの受入れルートで入国・在留している外国人介護職員本人に対して、従事する職務内容、介護知識・技能及び日本語能力の実態、育成や支援の取組み、今後の働き方やキャリア形成の考え等について実態を把握することを目的に実施した。
- 調査にあたっては、先行研究等を踏まえて、外国人介護職員が日本において介護職でキャリアを築いていきたいと希望する要因に関わり、仮説を設定した。

### (2) 調査対象

- EPA介護職員、在留資格「介護」を取得した外国人介護職員、介護職種で技能実習を行う技能実習生。

### (3) 調査方法

- 事業所調査とともに、外国人職員本人調査票（以下、本人調査票という。）を同封し、上記の調査対象に該当する外国人介護職員に対して調査票を配布してもらった。言語は、日本語版のみで実施した。日本語での回答が難しい外国人介護職員は日本語がわかる他の職員からフォローしてもらい回答するケースを想定し、調査票では、どのように回答したかを回答方法も尋ねた。なお、回収は、原則本人から直接返送してもらった。

### (4) 調査実施期間

- 令和元年12月6日～令和2年1月14日

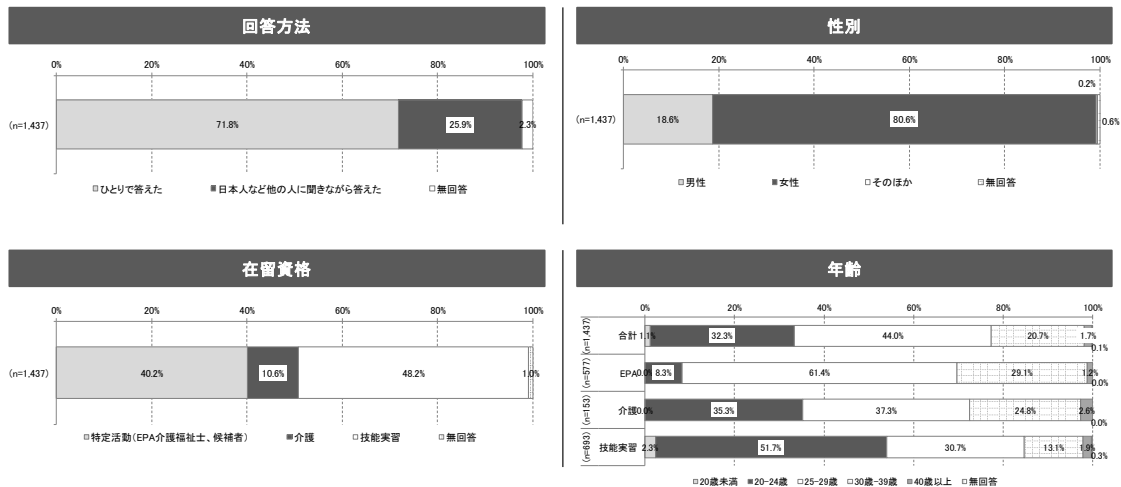
### (5) 回収結果

- 合計566施設、1,437人の有効回答があった。事業所別回答人数が4人以下の施設で、88%を占める。
- なお、事業所調査票配付数が2,224件のため、事業所基準の回収率は25.0%。

事業所別回答人数	事業所数	人数			
1人	157事業所	157	7人	3事業所	21
2人	204事業所	408	8人	2事業所	16
3人	78事業所	234	9人	4事業所	36
4人	61事業所	244	10人	0事業所	0
5人	42事業所	210	11人	3事業所	33
6人	11事業所	66	12人	1事業所	12
			合計	566事業所	1,437人

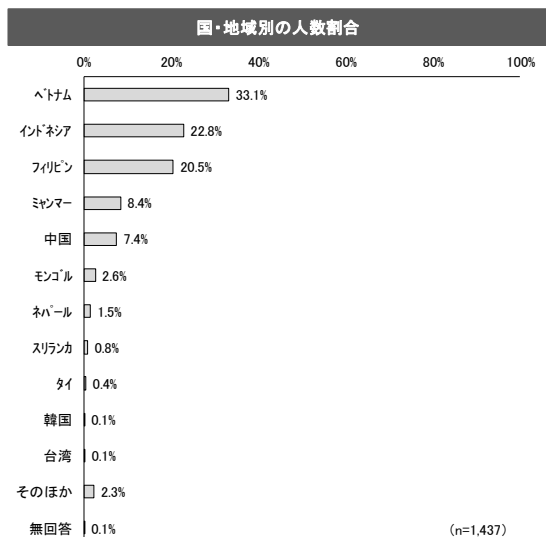
## 回答者の基本情報(1/5)

- 回答方法は、「ひとりで答えた」が71.8%、「日本人など他の人に聞きながら答えた」が25.9%だった。
- 性別は、「女性」が80.6%
- 在留資格は、「特定活動」(EPA介護福祉士、候補者)が40.2%、「介護」が10.6%、「技能実習」が48.2%だった。
- 年齢は、EPA、介護、技能実習の順に若年化する傾向があった。技能実習では、51.7%が「20-24歳」であった。



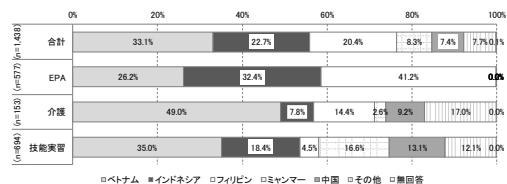
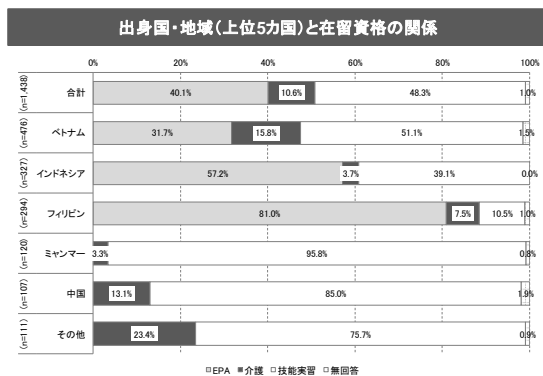
## 回答者の基本情報(2/5)

- 出身国・地域は、「ベトナム」が33.1%、「インドネシア」22.8%、「フィリピン」が20.5%で、上位3カ国で76.4%を占めている。
- 在留資格別では、ベトナムでは「技能実習」が最も多い51.1%だった。ミャンマー、中国は、「技能実習」8割以上を占めている。



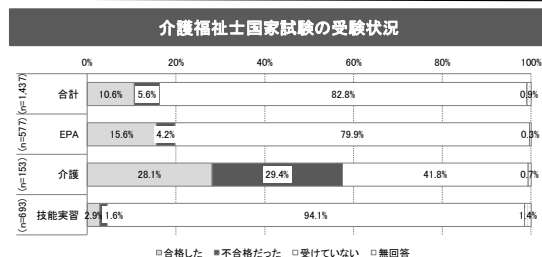
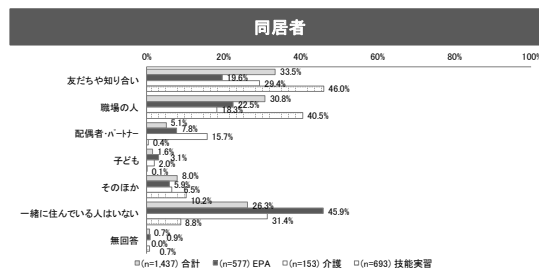
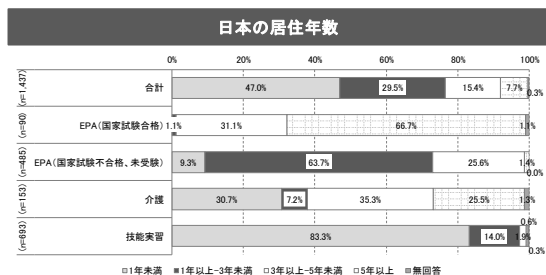
※ 調査票上、選択肢として設けたバングラデシュ、マレーシア、ブラジル、ペルーの回答は0名のため上記集計から削除

20 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



## 回答者の基本情報(3/5)

- 日本の居住年数は、EPA(国家試験合格)では「5年以上」が最多の66.7%、EPA(国家試験不合格、未受験)では、「1年以上～3年未満」が最多の63.7%、介護では「1年未満」(30.7%)と「3年以上～5年未満」(35.3%)が同程度の割合、技能実習では、「1年未満」が最多の83.3%となっている。
- 同居者は、EPA、介護では「一緒に住んでいる人はいない」が最多(それぞれ45.9%、31.4%)。一方で、技能実習は、「友だちや知り合い」が46.0%で最多となっている。
- 介護福祉士国家試験の受験状況は、全体では「受けていない」が82.8%で最多である。在留資格「介護」で「不合格だった」は29.4%である。

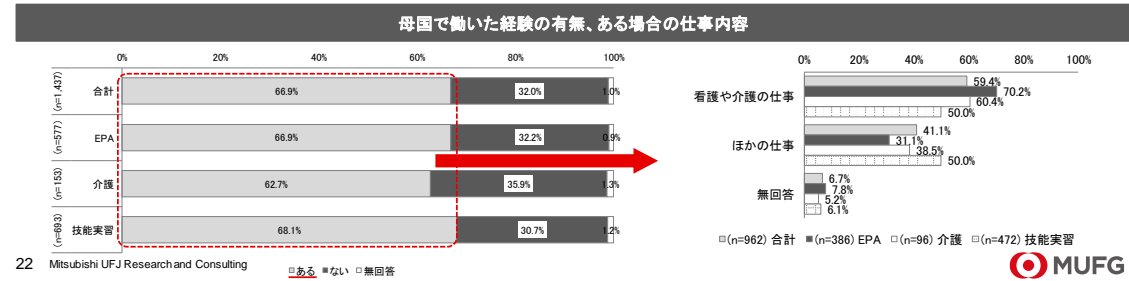
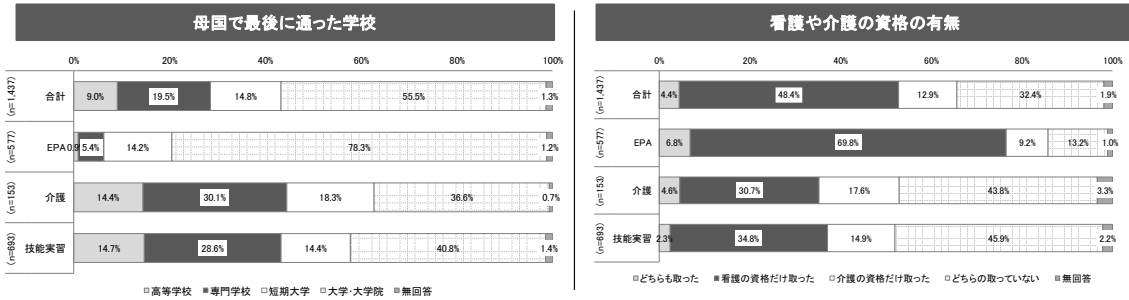


21 Mitsubishi UFJ Research and Consulting



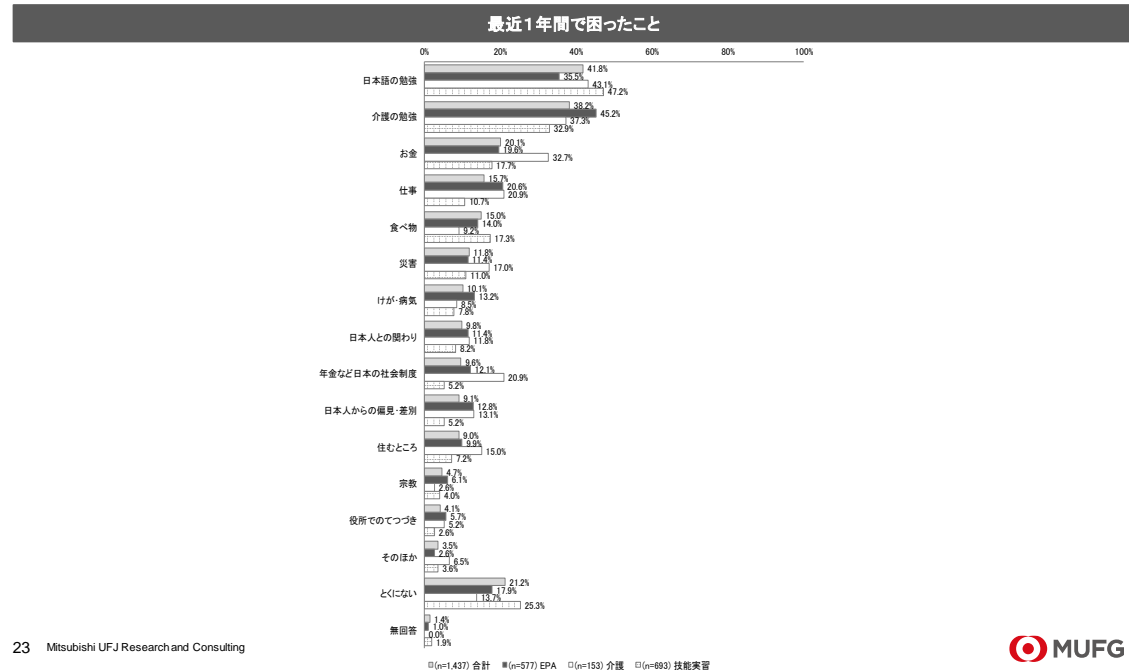
## 回答者の基本情報(4/5)

- 母国で最後に通った学校は、EPAでは「大学・大学院」が78.3%で最多、介護と技能実習は、それぞれ同程度の割合である。
- 看護や介護の資格の有無は、EPAでは「看護の資格だけ取った」が69.8%で最多、介護と技能実習は、それぞれ同程度の割合である。
- 母国で働いた経験の有無は、在留資格別で大きな違いはなく、「ある」が6-7割程度、具体的には看護や介護の仕事の従事の割合が5割を超えている。



## 回答者の基本情報(5/5)

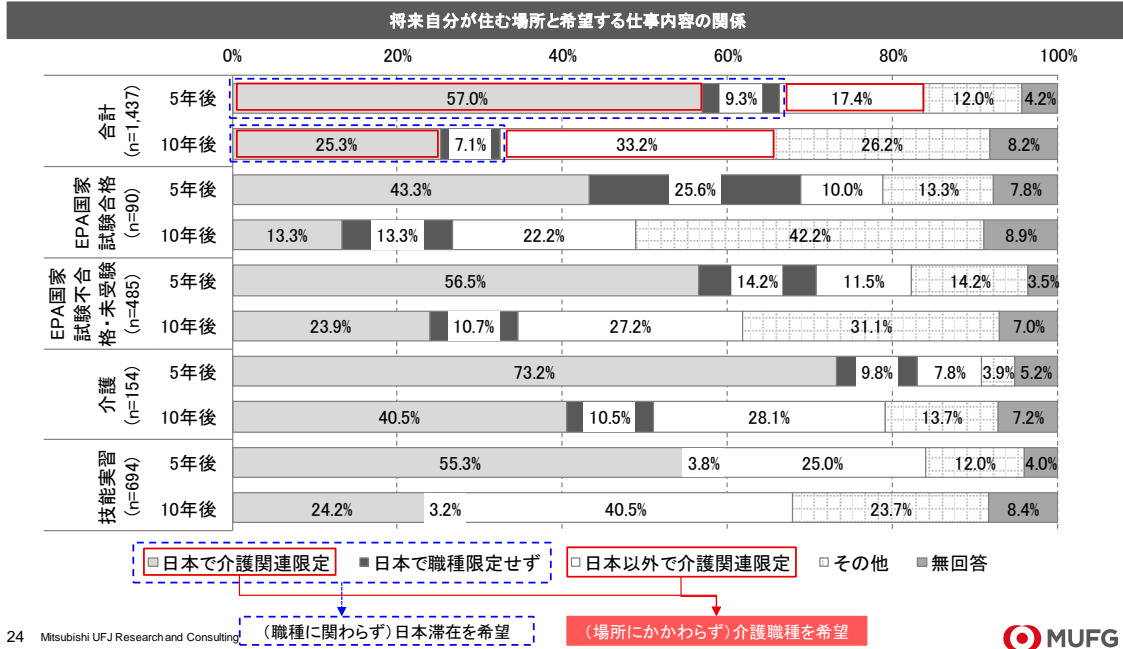
- 最近1年間、日本で困ったことを在留資格別にみると、介護と技能実習は「日本語の勉強」(それぞれ43.1%、47.2%)が最多、EPAは「介護の勉強」(45.2%)が最多となっている。





## 主な調査結果(1/5)－将来の希望

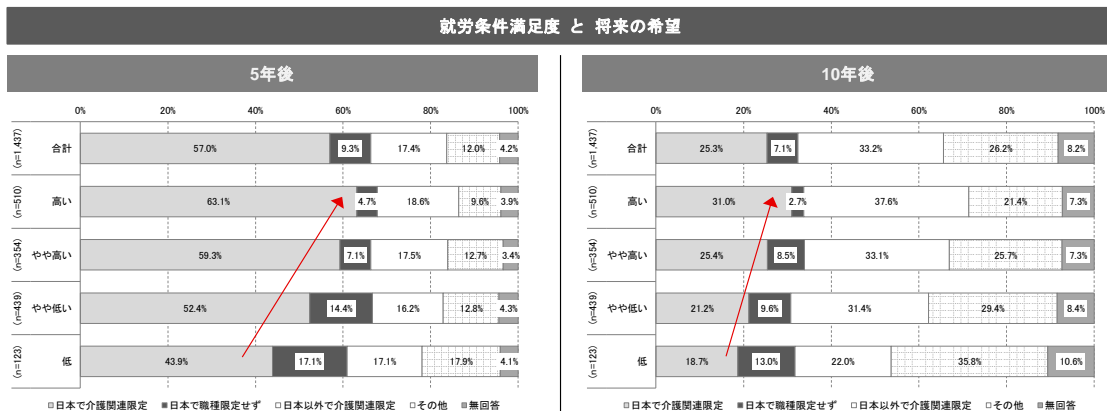
- 5年後は、「日本で介護関連の仕事をしていきたい」と考えている割合が、全体で57.0%と最も高い割合となっている。
- 10年後は、「日本以外で介護関連の仕事をしていきたい」と考えている割合が、全体で33.2%と最も高い割合になっている。



## 主な調査結果(2/5)－職場満足度と将来の希望の関係①

**仮説 就労先の満足度が高いほど、日本国内で介護職としてキャリア形成する意向が強い**－就労条件への満足度－

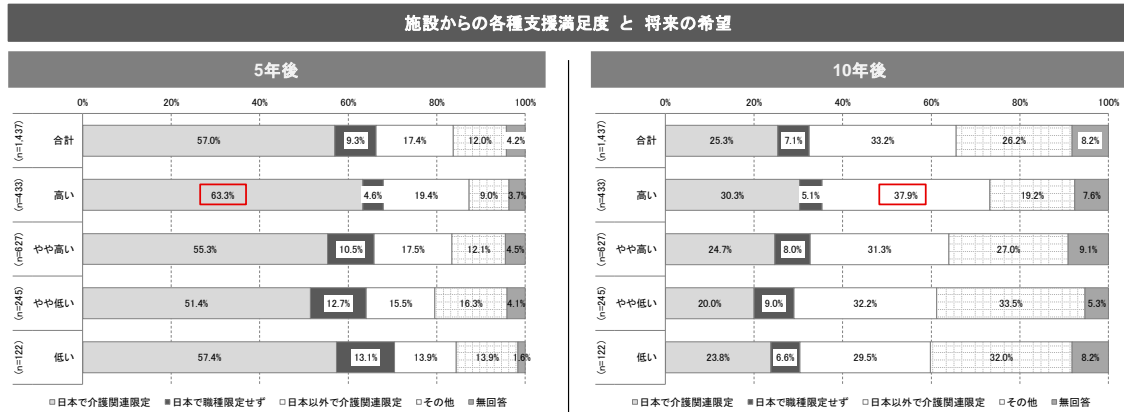
- 5年後、10年後ともに、就労条件の満足度が高いほど、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が高くなる傾向がみられる。
- また、就労条件の満足度が高いほど、「日本で職種を限定せずに働きたい」と考える割合や、「その他」の割合が低くなる傾向がみられる。



## 主な調査結果(3/5)－職場満足度と将来の希望の関係②

仮説 就労先の満足度が高いほど、日本国内で介護職としてキャリア形成する意向が強い ー施設からの各種支援への満足度ー

- 5年後では、各種支援満足度が「高い」層は、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が最も高い(63.3%)。
- 10年後では、各種支援満足度が「高い」層は、「日本以外で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が最も高い(37.9%)。



■施設からの各種支援満足度(本人調査票:Q17)

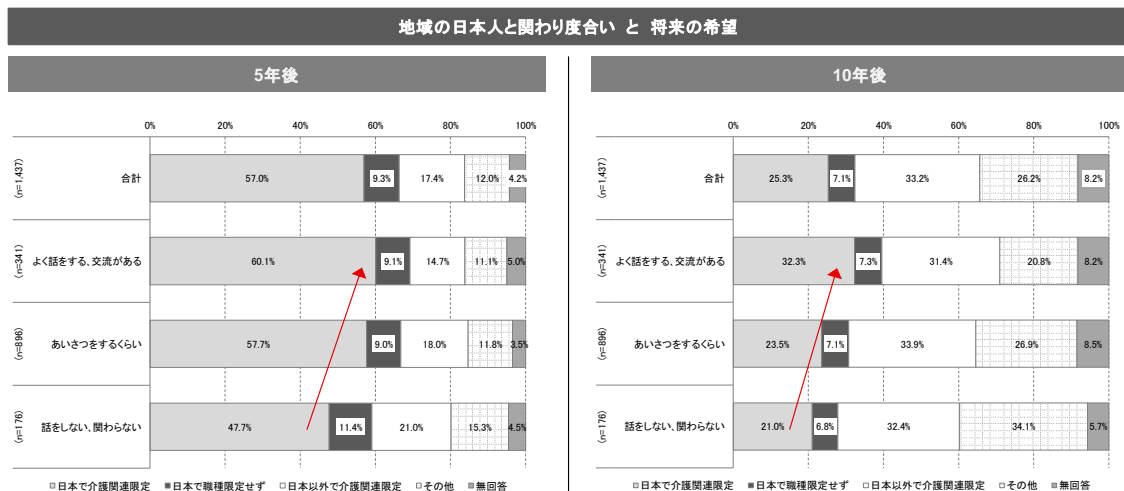
- ⑥日本語の勉強への支援、⑦介護の技術・能力を高める研修・支援、⑧将来のキャリアに関する説明・支援、⑨家族への支援、⑩まわりの日本人と交流する機会、⑪自分の国や文化を教える機会 の6項目について、「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点、「受けていない、機会がない」を0点として換算した後、6項目の点数を合計し、集計した(24点満点)。
- 分布を勘案し、21点以上:高い(n=433)、16-20点:やや高い(n=627)、15-11点:やや低い(n=245)、10点以下:低い(n=122)とした。



## 主な調査結果(4/5)－地域との関わりと将来の希望

仮説 就労先である介護施設外(地域社会)との関わりがあるほど、日本国内でのキャリア形成意向が強い

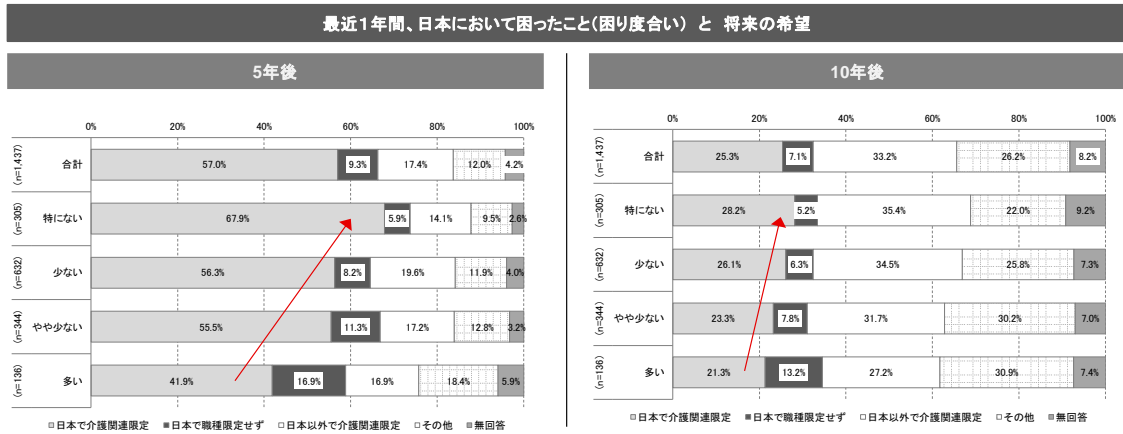
- 5年後、10年後ともに、地域の日本人住民との交流度合いが高いほど、日本に残りたいと考えている割合(「日本で介護関連限定」と「日本で職種限定せず」を足した割合)が高まる傾向がある。
- 特に、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合について、「よく話をする、交流がある」層は、5年後:60.1%、10年後:32.3%となっている。



## 主な調査結果(5/5)－生活の安定と将来の希望

### 仮説 生活の基盤が安定しているほど、日本国内でのキャリア形成意向が強い

- 最近1年間、日本において困ったことが少ないほど(生活が安定している)ほど、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が高まる傾向にある。
- (困ったことは)「特にない」をみると、5年後・10年後ともに、「日本で介護関連に限って就労したい」が最も高く(それぞれ、67.9%、28.2%)、「日本で職種限定せずに就労したい」(それぞれ、5.9%、5.2%)が最も低くなっている。



#### ■最近1年間、日本において困ったこと(困り度合い) (本人調査票: Q23)

- 困ったことについて、選択された数が多いほど、困りごとが多い(困り度合いが高い)として集計した。
- 分布を勘案し、0個: 特にない(n=305)、1-2個: 少ない(n=632)、3-4個: やや少ない(n=344)、5個以上: 多い(n=136)とした。

## IV. ヒアリング調査

- 本章では、ヒアリング調査を実施した調査対象のうち、外国人介護職員の受入れに向けて、特徴的な取組を行っている自治体(千葉県、愛媛県)の事例を紹介する。
- なお、千葉県、愛媛県には、本事業で設置した検討委員会にて、それぞれゲストスピーカーとしてご発表いただいた。

## 1. 千葉県(1/2)

### 外国人介護職就業促進事業(令和元年度新規事業：①千葉県留学生受入プログラム)

- 令和元年度から、在留資格「介護」を取得し、介護福祉士として県内介護施設での就労を目指す外国人留学生及び留学生候補者、受け入れる介護施設を支援し、県内の介護職員の確保を図ることを目的として「千葉県留学生受入プログラム」を実施

#### 1. マッチング支援

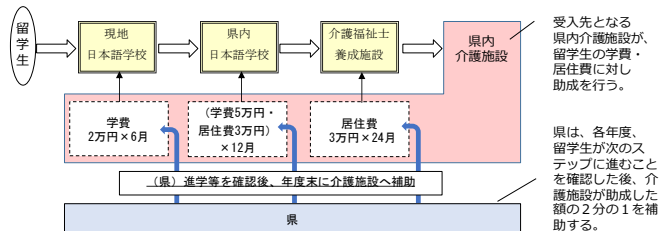
- 海外現地日本語学校での日本語学習から、県内日本語学校、介護福祉士養成校、県内介護施設での就労まで、一貫した支援・フォローを実施
- 事業実施に向け、首長トップセールスにより、ベトナム政府と人材育成及び受け入れを推進するための覚書を締結。本プログラムに参加する現地日本語学校5校と事業協定を締結
- 事業新年度である令和元年度は、11月時点で現地日本語学校にて65名を支援対象者として事業を実施
- 県から委託を受けたマッチング機関が、学生と介護施設・日本語学校・養成施設とのマッチングを実施するほか、参加者に対して関係者が協力し、介護に関すること、日本文化や暮らししていくための情報提供などを実施

#### 取組のポイント

- 海外現地の日本語学校から、介護施設での就労まで、**足かけ4年程度にわたる一貫したフォロー体制**を構築している
- 国内入国後は、県から委託を受けた千葉県外国人介護人材支援センターを中心に生活支援や情報提供等を実施する予定

#### 2. 学費及び居住費の支援

- 現地日本語学校及び県内日本語学校、介護福祉士養成施設に在籍する留学生(候補者)の学費等に対して、県内の介護施設等が助成を行い、県はその一部を補助



#### 取組のポイント

- 海外現地の日本語学校時点から**学費補助**を実施
- 県内在学中は、居住費を補助することで学習時間を確保
- 首長のリーダシップより、手厚い予算確保を実現

30 Mitsubishi UFJ Research and Consulting

(出所) 本事業第3回検討委員会 千葉県発表資料をもとに作成



## 1. 千葉県(2/2)

### 外国人介護職就業促進事業(令和元年度新規事業：②千葉県外国人介護人材支援センターの創設)

- 令和元年7月1日、外国人介護職員や介護分野への就職を目指す留学生が生活や仕事上の悩みについて相談できる「外国人介護人材支援センター」を開設(千葉県社会福祉協議会への委託事業)

#### <業務内容>

- 英語とベトナム語での対応が可能な外国人支援コーディネーターによる相談(窓口、電話、メール、訪問相談)
- 外国人介護人材の受け入れに関する制度等の説明会
- 外国人留学生と外国人介護職員の交流会の開催
- 外国人介護職員を対象としたメンタルヘルズセミナー
- 施設管理者職員向け研修「外国人介護職員とうまく向き合う方法」の開催

#### 取組のポイント

- 英語、ベトナム語の2か国語対応
- 外国人介護職員本人と受け入れ施設の両方を支援
- 外国人留学生と先輩(外国人介護職員)との交流を促進

#### <同センター開所式の様子>



#### <同センターチラシ>



### 外国人介護職就業促進事業(令和元年度新規事業：③外国人技能実習生の日本語学習等に係る支援)

#### <支援内容>

- 介護施設が負担する外国人技能実習生の日本語学習に係る費用について助成

- 補助基準額：技能実習生1人あたり235千円
- 補助率：10/10

31 Mitsubishi UFJ Research and Consulting

(出所) 本事業第3回検討委員会 千葉県発表資料、及び千葉県ホームページ掲載資料をもとに作成



## 2. 愛媛県(1/2)

### 外国人介護人材の受入れ状況

- EPA : 平成20年度からEPAによる受入れを開始し、平成30年度までに、85名の候補者の受入れ実績あり  
令和元年12月末現在では、4法人10施設において49名の候補者が就業中
- 介護 : 平成29年度に、県内の介護福祉士養成校1校において3名の受入れ実績あり  
令和元年度から、県内の介護福祉士養成校2校において、計5名の受入れを開始
- 技能実習 : 平成30年9月から受入れ開始。令和元年11月1日現在、159名が実習中(ただし、県内の監理団体(9団体)による受入れのみ)

### 外国人介護人材マッチング支援モデル事業(令和元年11月～)

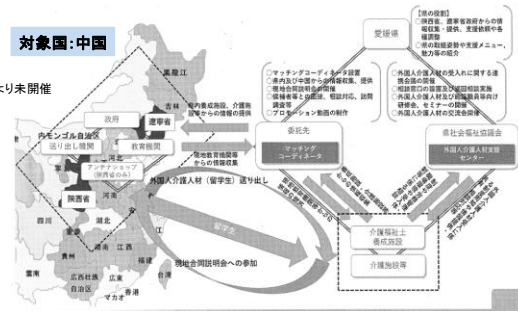
#### 1. マッチングコーディネータの設置(委託事業)

- 海外の学校及び県内の介護福祉士養成校、介護施設等からの情報収集、情報提供を行う
- 現地の候補者との面接や相談対応、学校の訪問調査等も行う

#### 2. 現地合同説明会の開催(委託事業) ※令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により未開催

- 現地教育機関や送出し機関等を対象とした合同説明会を開催
- 県内の介護福祉士養成校、介護施設等の参加を想定  
開催場所は、中国陝西省(1回)、遼寧省(1回)を想定

#### <外国人介護人材マッチング支援モデル事業概要>



(出所) 本事業第2回検討委員会 愛媛県発表資料をもとに作成



#### 取組のポイント

- 留学生の受入れ拡大に向け、海外の学校と県内の介護福祉士養成施設、介護施設等とのマッチングを支援
- 対象国の中国(陝西省、遼寧省)については、**県が地方政府との間で締結している協定に基づき交流**を深めている
- 上記委託事業の他、現地政府との信頼関係を構築し、事業実施に当たっての全面的な協力を得るため、**県が前面に出て、現地政府との情報交換や各種調整等を実施**

32 Mitsubishi UFJ Research and Consulting

## 2. 愛媛県(2/2)

### 外国人介護人材受入連携強化事業(平成31年4月～)

- 介護施設や法人における外国人介護人材の受入れの円滑化等を図るため、愛媛県内における外国人介護人材の受入れに関する総合支援窓口として「愛媛県外国人介護人材支援センター」(委託先:愛媛県社会福祉協議会)を設置
- 愛媛県外国人介護人材支援センター運営連携会議の開催、相談員による窓口や巡回による相談対応、各種セミナー等の開催等を実施

#### 1. 愛媛県外国人介護人材支援センター運営連携会議の開催

- 外国人介護人材の受入れに関して、制度や取組み状況等の情報交換を行う(年2回開催)
- 構成員は、外国人介護人材受入れ施設・事業所、県老人福祉施設協議会、県老人保健施設協議会、県介護福祉士会、技能実習制度監理団体、介護福祉士養成校、学識経験者、行政機関等

#### 取組のポイント

- 県内で介護職種での**技能実習生受入れに関わる全ての監理団体が参画**しており、顔の見える関係を構築。情報共有に努めている

#### 2. 相談窓口の設置及び巡回相談の実施

- 相談員による窓口相談及び定期的な施設等への巡回相談を通して、施設等に対する制度や受入れ環境整備等に向けた情報等の提供、外国人介護人材本人や受入れ施設職員からの悩みや課題の解決等に繋げる
- 専任相談員: 1名、巡回訪問回数: 年48回程度  
(右: 愛媛県外国人介護人材支援センター チェラン)



#### 取組のポイント

- 外国語が堪能な、専門の相談員を配置して対応
- 在県外国人のための生活全般の情報提供・相談等を行う、**愛媛県国際交流センターとも連携**しながら業務を実施

#### 3. 法人・施設職員等向け研修会、外国人介護人材向けセミナー・交流会の開催

- 外国人介護人材の受入れ制度等に関する研修会や、外国人介護人材のケア等に関するセミナーを開催
- また、外国人介護人材を対象に、職場の垣根を越えたネットワークの構築や参加者同士の情報交換、外国人介護人材の母国との繋がりを目的とした交流会を開催

#### 取組のポイント

- 外国人介護人材本人対象の交流会は、**地域内での定着という点でも効果が期待**される

※その他、外国人介護福祉士候補者(EPA)学習支援事業、外国人留学生介護福祉士候補者学習支援事業を実施。令和2年度から外国人介護人材集合研修支援事業を実施予定

(出所) 本事業第2回検討委員会 愛媛県発表資料、愛媛県外国人介護人材支援センターHPをもとに作成



33 Mitsubishi UFJ Research and Consulting

## V. 検討結果のまとめ、得られた示唆

### 検討結果のまとめと示唆(1/2)

#### 既にリーダー的な役割で活躍している外国人介護職員もみられ、事業所の外国人介護職員に対する期待は高い

- 事業所の約半数(52.8%)が外国人介護職員に「なるべく長く働いてほしい」と考えており、職場や地域への定着を願う事業所が多い。また、外国人介護職員に期待する役割は、「外国人介護職員を指導する役割を担ってほしい」が68.0%、「施設・事業所に定着するロールモデルになってほしい」が65.4%あり、事業所の外国人介護職員に対する期待は高まっている。
- 現状でも、少数ではあるが、他の外国人介護職員に指導・助言する役割や、施設・事業所に定着するロールモデルになっている職員もみられ、今後このような人材が増えるよう、キャリアアップの仕組みづくりが求められている。

#### 外国人介護職員本人の状況をよく把握していたり、日本語学習の手厚い支援をすることが、日本での介護職としてのキャリア形成意欲に影響

- 事業所が、外国人介護職員が持っている将来の目標や希望を把握しているかどうかを尋ねたところ、「把握している」事業所の外国人介護職員は、5年後も「日本で介護の仕事をしたい」と考える割合が59.1%と高く、「把握していない」事業所では49.0%であった。
- 外国人介護職員の業務の理解度・介護技術の習得状況を「把握している」事業所の外国人介護職員は、5年後も「日本語で介護の仕事をしたい」と考える割合が59.9%と高く、「把握していない」事業所では49.7%であった。
- このように、外国人介護職員本人の、1)将来の目標や希望や、2)業務理解度・介護技術の習得状況について把握している事業所で働く職員ほど、自らのキャリア形成について事業所が理解してくれていると捉え、5年後も日本において介護の仕事希望する割合が高くなる相関がみられた。
- また、事業所が行う日本語学習の支援と、外国人介護職員本人の満足度の関係を見ると、日本語学習の支援を「非常によく行っている」事業所では「満足」している割合が36.5%と、支援を行っていない事業所より割合が高い傾向がみられた。  
外国人介護職員本人が、最近1年間で日本にいて困ったこと上位に「日本語の勉強」が挙げられていることも踏まえると、日本語学習の手厚い支援を行うことが、満足度の向上につながるものと考えられる。
- こうした結果から、事業所が本人の将来目標や現在の技能レベル等を確認・把握する機会を設けることや、さらには、そこで把握した本人の将来目標等を施設職員内でも共有し、事業所あるいは法人全体で定着支援に繋げていくことが重要であることが示唆される。

#### 日本語学習等、外国人介護職員向けの研修には、法人・事業所の枠を超えた取組みも必要

- 上記において、事業所が、外国人介護職員の業務の理解度・介護技術の習得状況を理解・支援し、また、日本語学習の支援を行うことが、本人の満足度向上、ひいては、日本での介護職としてのキャリア形成意欲に影響を及ぼすことを述べた。
- しかしながら、法人・事業所単位だけでは、外国人介護職員向けの研修等を実施することが難しいテーマとして、「介護福祉士国家試験に必要な日本語」(34.6%)、「医療的ケア」(25.5%)、「終末期ケア、看取り対応」(21.2%)などが挙げられている。
- これらの研修の実施については、自治体や業界団体の単位で実施するなど、法人・事業所の枠を超えた取組みも必要であると考えられる。

## 検討結果のまとめと示唆(2/2)

### 就労条件や施設外部の地域社会との関わりが、日本における介護職としてのキャリア形成意向に影響

- 外国人介護職員本人に対して行った調査では、職場の就労条件(給料、休日の取りやすさ、労働時間、利用者との関係、施設の職員との関係)への満足度が高い職員は、5年後も日本で介護の仕事をしたが割合が63.1%、10年後も日本で介護の仕事をしたが割合が31.0%と、満足度が低い職員の割合(5年後:43.9%、10年後:18.7%)より高かった。  
職場の就労条件への満足度が高いほど、日本において介護職員としてキャリアを形成したいという意向が強くなる相関がみられる。
- また、就労する施設以外の地域住民との交流が深いほど、5年後、10年後も日本において介護職員としてキャリアを形成したいという意向が強くなる相関がみられた。
- こうした結果から、給与面をはじめとした就労条件や環境を整え、納得して働いてもらうことが重要であるといえる。これに加え、施設外での関係性が、結果的に現在暮らす地域・働く施設に残る選択を促す可能性が高いため、積極的に地域社会との交流の機会をもつことの重要性が示唆される。

### 地域内の関係機関を巻き込んだ受入れ / 入国前時点からの支援

- 介護職員の不足は全国における課題であるが、今回調査を行った先行的な自治体ではさまざまな取組を行っており、今後他の地域にも広まることが望まれる。
- 愛媛県の取組事例からは、1)外国人技能実習生の受入れにあたり、関係する県内の全監理団体も連携会議に参画してもらうことで、実習状況の把握や、行方不明・失踪等の未然防止、2)愛媛県外国人介護人材支援センターと愛媛県国際交流センターの連携など、主要な関係機関を巻き込みながら、地域全体での受入れ体制の構築が進められている。
- また、千葉県の取組事例では、入国前の海外現地日本語学校時点から学費補助を行い、3-4年かけて外国人介護職員を育成する腰を据えた取組に着手している。

### 調査研究における今後の課題

- 今年度から、新たな在留資格「特定技能」が創設され、海外での試験が実施されたものの、まだ本格的な入国には至っていないため、本事業では、特定技能1号外国人を対象とする調査は実施できなかった。今後、特定技能1号外国人を受け入れた事業所、及び本人の実態や課題を把握することが重要である。
- また、本調査を通じて、外国人介護職員の日本でのキャリア形成に与える要因を把握したが、今後その詳細や事例をさらに明らかにしていくことが必要である。





## 第1章 事業の概要

### 1. 事業の目的

我が国では2008年より、EPA（経済連携協定）に基づき、インドネシア、フィリピン、ベトナムから外国人介護福祉士候補者の受入れを行ってきた。また、2017年9月には、在留資格「介護」の追加、11月には技能実習制度に介護職が追加されている。

さらに、2018年末の出入国管理及び難民認定法の改正に伴い、2019年4月からは、在留資格「特定技能」が新設され、介護分野での受入れが開始された。

今後はこれら4つのルートを入口に、外国人介護職員の受入れ拡大が進んでいくことが見込まれている。外国人の方が我が国の介護の現場で定着し活躍できるよう、外国人介護職員を受け入れた後の人材育成やキャリア支援が重要であり、このことが我が国の介護サービスの質の維持・向上につながるものと考えられる。

そこで本事業は、上記の背景を踏まえ、外国人介護職員の育成やキャリア支援の実態や課題等を把握するとともに、外国人介護職員がキャリアアップして（介護福祉士の資格を取得等）地域に定着した事例、受入れにあたり着実な支援の取組みを進めている施設の事例等を収集することによって、外国人介護職員の受入れ及び定着促進を図ることを目的とした。

## 2. 事業の実施体制

本事業では、調査の設計や結果について助言を得るため、検討委員会を設置した。

### <委員> (敬称略)

#### (座長)

藤井賢一郎 上智大学 総合人間科学部 社会福祉学科 准教授

#### (委員：五十音順)

石本 淳也 公益社団法人日本介護福祉士会 会長

井之上芳雄 公益社団法人日本介護福祉士養成施設協会 副会長

遠藤由美子 アークアカデミー 校長

川勝 貴子 公益財団法人国際研修協力機構 実習支援部 職種相談課 課長代理

白井 孝子 学校法人滋慶学園 東京福祉専門学校 副学校長

角田 隆 公益社団法人国際厚生事業団 専務理事

野村 愛 首都大学東京オープンユニバーシティ講師

### <オブザーバー>

厚生労働省 社会・援護局 福祉基盤課 福祉人材確保対策室

### <事務局>

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング株式会社

### <開催経緯>

	開催日時・場所	議題
第1回	令和元年8月9日(金) 17:30-19:00 コンフォート水道橋 Room C	・事業実施計画について ・外国人介護人材の育成・キャリア形成に係る問題意識の共有
調査票検討 ワーキンググループ	令和元年9月13日(金) 13:30-16:00 厚生労働省会議室	・アンケート調査票に関する具体的な検討
第2回	令和元年10月3日(木) 13:30-16:00 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング 24 階会議室	・愛媛県の取組みについて ・アンケート調査について
第3回	令和2年1月30日(木) 10:00-12:30 ビジョンセンター日比谷 302 会議室	・千葉県の取組みについて ・アンケート調査結果について ・事例集について
第4回	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止	

### 3. 事業内容

#### (1) アンケート調査

本事業では、主に2種類のアンケート調査を実施した。

1つ目は、外国人介護職員を受け入れている施設を対象として、人材育成やキャリア支援の実態、課題等を把握することを目的としたアンケート調査である。

2つ目は、外国人介護職員の4つの受入れルートのうち、特定技能1号を除く3つの受入れルートで入国・在留している外国人介護職員本人に対して、従事する職務内容、介護知識・技能及び日本語能力の実態、育成や支援の取組み、今後の働き方やキャリア形成の考え等について実態を把握することを目的としたアンケート調査である。

#### (2) ヒアリング調査

外国人介護職員を受け入れる施設の参考になるよう、①外国人が介護福祉士の資格取得等により地域への定着に成功した事例、②受入れにあたり着実な支援の取組みを進めている施設の事例の収集を目的としたヒアリング調査を8件実施した。上記①については、例えば、EPA介護福祉士（候補者から引き続き在留・就労している事例等）、在留資格「介護」を取得した外国人（留学生アルバイトからの継続雇用等）の事例を主に扱った。

#### (3) 外国人介護職員の受入れと活躍支援に関するガイドブックの作成

外国人介護職員のキャリア支援に積極的に取り組む介護施設を増やし、介護サービスの質の確保に資することを目的に、外国人介護職員の受入れと活躍支援に関するガイドブックを作成した。

また、既に我が国で活躍している外国人介護職員に着目することによって、留学生や就労年数の短い外国人介護職員、及びこれから日本で働くことを考えている外国人にロールモデルを示すことも目的として作成した。

## 第2章 外国人介護職員受入れ事業所向けアンケート調査

### 1. 調査実施概要

#### (1) 調査の目的

EPA 介護職員、技能実習生、在留資格「介護」を受け入れている施設・事業所を対象に、外国人介護職員を受け入れている施設における人材育成やキャリア支援の実態、課題等を把握する。

外国人介護職員本人が定着している、もしくは定着意向が強い事業所で、どのようなキャリア支援が行われているか分析することで、外国人介護職員の定着支援に有効な事業所の取組を把握する。

#### (2) 調査対象

厚生労働省から提供されたリストについて、1 事業所に複数の調査票が届かないよう、重複のチェックを行った上で、2,224 事業所に 2 種類の調査票（事業所調査票①、事業所調査票②）を送付した。

#### (送付対象)

※調査票送付事務の都合上、リストに重複があった場合は在留資格「介護」受入れ事業所を優先した。このことを踏まえた内訳は、EPA 介護職員受入れ事業所 628 件、技能実習生受入れ事業所 1,368 件、在留資格「介護」受入れ事業所 228 件。

※在留資格「介護」受入れ事業所について、事業所名が不明のため、法人本部に送付したものも含む。

※技能実習生受入れ施設・事業所について、提供されたリストが認定時点のものであるため、実際に当該事業所で実習をしているかどうかは不明であった。そのため、事業所調査票の冒頭に、外国人介護人材の受入れの有無を確認する設問を設けた。

#### (調査対象)

- ・事業所票①：施設長・管理者

※施設・事業所の人材育成やキャリア支援の実態や課題、外国人介護職員に対する支援状況等を把握

- ・事業所票②：受け入れている外国人介護職員（EPA 介護職員、技能実習生、在留資格「介護」）の直属の上司

※受け入れている外国人介護職員の客観的な評価を把握

### (3) 調査方法

郵送による配布・回収。

### (4) 調査実施期間

令和元年12月6日～令和2年2月6日

### (5) 調査項目

#### ■事業所票①

- ・ 施設・事業所の属性（法人種別、施設種別、介護職員数等）
- ・ 介護福祉士の資格取得に伴う昇給や手当等
- ・ 介護職員のキャリアパスの導入状況
- ・ 介護職員に対するキャリア支援の取組み
- ・ 外国人介護職員の受入れにあたり、重視していること
- ・ 外国人介護職員に期待する職位や役割
- ・ 今後3年間の外国人介護職員の受入れの意向
- ・ 外国人介護職員の将来の目標の把握状況
- ・ 外国人介護職員向けに特に実施している支援
- ・ 外国人介護職員向けに特に実施している介護福祉士国家試験対策
- ・ 外国人介護職員向けの研修等を実施することが困難なテーマ
- ・ 外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援状況
- ・ 外国人介護職員の定着・活躍支援で連携している関係機関・団体
- ・ 地域住民に対して実施している取組 など

#### ■事業所票②

- ・ 外国人介護職員の属性（在留資格、施設・事業所での就労年月、日本語能力）
- ・ 外国人介護職員に対する評価（能力スキル、個別業務等） など

### (6) 回収結果

回収結果は以下のとおりである。

図表 2-1 有効回収数と回収率

	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
事業所票①	2,224 件	593 件	593 件	26.7%
事業所票②	—	1,490 件	1,490 件	—

## 2. 調査結果概要

### (1) 事業所調査票①

#### ① 回答施設・事業所の基本情報

- 施設・事業所の種類は、「介護老人福祉施設」が46.0%と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が11.8%だった。(問3)
- 受け入れている外国人介護職員の在留資格の組み合わせは、「技能実習生のみ」が42.8%で最も多く、次いで「EPAのみ」が21.6%だった。(問5)
- 介護福祉士養成施設卒業者に対する経過措置が適用されている職員への手当の支給について、受入れ在留資格別で見たとところ「支給されている」が最も多いのは「在留資格「介護」のみ、在留資格「介護」+留学生 or 身分系」(45.1%) だった。(問6(2))

#### ② 介護職員のキャリア支援の取組み

- 介護職員のキャリアパスの導入と明示状況は、「導入し、明示している」が69.6%、「導入しているが、明示していない」が6.9%と、4分の3以上の施設・事業所でキャリアパスが導入されていた。(問7)
- キャリア支援の取組みは、「外部で実施される研修等の受講料の助成」が68.6%と最も多く、次いで「上司・管理者にキャリア面談・相談等」が60.0%だった。(問8)
- 介護職員向け研修等のテーマで、最も多いのは「感染症対策・衛生管理」で91.2%、次いで「身体拘束・虐待等の防止」が91.1%、「事故発生防止・事故対応」が85.3%だった。(問9)

#### ③ 外国人介護職員の受入れ

- 外国人介護職員の受入れで重視していることは、全体で「日本語能力」が78.1%で最も多く、次いで「日本の介護知識・技能の習得に対する意欲」が70.7%、「コミュニケーション能力」が68.3%だった。(問11)
- 将来、外国人介護職員に期待する職位や役割について尋ねたところ、「外国人介護職員を指導する役割を担ってほしい」が68.0%と最も高く、次いで「施設・事業所に定着するロールモデルになってほしい」が65.4%、「介護職員として技術・経験を積み重ねてほしい」が60.4%だった。しかし、実際に「該当する職員はいない」と回答した施設・事業所は75.7%だった。(問13、14)
- 今後3年間の外国人介護職員の受入れの意向は「積極的に受け入れる意向がある(41.3%)」と「受け入れる意向がある(36.3%)」の合計が77.6%だった。(問15)

#### ④ 外国人介護職員のキャリア支援の取組み

- 受入れ外国人介護職員の志望動機、目標等における、日本で介護の仕事を選択した理由の把握についてすべて「把握している」または「まあ把握している」と回答した施設・事業所は 83.8% (497 件) であった。(問 16)
- 外国人介護職員の日本で介護の仕事をする上での目標で最も多いものは、「仕送りや貯蓄」が 43.5% で最も多く、次いで「介護福祉士等の資格の取得」が 27.8%、「日本の高度な介護を学ぶこと」が 18.9% だった。(問 16-1)
- 外国人介護職員に対して特に実施している支援は、「介護知識・技能の指導」が 85.0% で最も多く、次いで「介護現場で用いる日本語会話の指導」が 69.1%、「定期的な面談による困りごとや悩みの把握」が 68.8% だった。「介護知識・技能の指導」の具体的なテーマは、「身体介護技術」が 88.9%、「利用者とのコミュニケーション」が 81.2%、「感染症対策・衛生管理」が 71.0% だった。(問 17、17-1)
- 外国人介護職員に対する介護福祉士国家試験対策は、「介護知識の指導」が 35.1% で最も多く、次いで「介護技術の指導」が 32.9%、「国家試験対策の日本語の指導」が 30.5% だった。(問 18)
- 外国人介護職員向け研修における実施困難なテーマは、「介護福祉士国家試験に必要な日本語」が 34.6% で最も多く、次いで「医療的ケア」が 25.5%、「終末期ケア、看取り対応」が 21.2% だった。(問 19)
- 外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援において、「非常によく行っている」項目についてみると、「住居の確保」が 56.2% と最も高く、次いで「行政手続きや住まいの契約手続き等の支援」が 47.9%、「携帯電話やインターネット等の契約解約手続き等の支援」が 36.8% だった。(問 21)
- 外国人介護職員受入れに係る日本人職員に対する研修等のテーマは、「外国人介護職員受入れの方針や姿勢」が 70.7% と最も高く、次いで「外国人介護職員に教育・指導する際の留意点」が 62.7%、「外国人介護職員の出身国の文化・風習」が 43.0% だった。(問 22)
- 地域住民に対して実施している取組みと実際に外国人介護職員が参加している取組みは、ともに「施設・事業所が開催するお祭りやコンサート等のイベントへの招待」が最も高く、次いで「地域住民が参加する定期的な会議等の開催」、「防災訓練等の地域住民との協力による災害対策」の順番だった。(問 24、24-1)

## (2) 事業所調査票②

### ① 在留資格、就労期間、現在の日本語能力

- 在留資格は、「技能実習」が45.3%と最も高く、次いで「特定活動（EPA 介護福祉士候補者）」が31.5%、「在留資格「介護」」が7.6%だった。また、現在の施設における就労期間は、「技能実習」、「在留資格「介護」」、「特定活動 EPA 介護福祉士候補者」、「EPA 介護福祉士」の順に長期化していく傾向があった。現在の日本語能力は、全体として「N3 相当」が47.9%と最も高く、次いで「N4 相当」が22.3%、「N2相当」が19.5%だった。

#### (問1)

- 能力・スキル等の評価を在留資格別にみたところ、全体の傾向として、「できている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA 介護福祉士）」だった。また、日本語能力別にみたところ、「できている」割合が最も高いのは「N1 相当」だった。(問2)
- 個別業務の評価を在留資格別にみたところ、全体の傾向として、「できている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA 介護福祉士）」だった。また、日本語能力別にみたところ、「できている」割合が最も高いのは「N1 相当」だった。(問3)



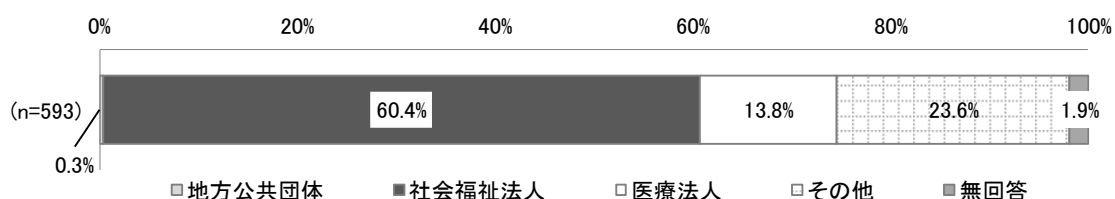
### 3. 調査結果

#### (1) 事業所調査票①

##### ① 法人の種類

法人の種類は、「社会福祉法人」が60.4%で最も多く、次いで「医療法人」が13.8%だった。

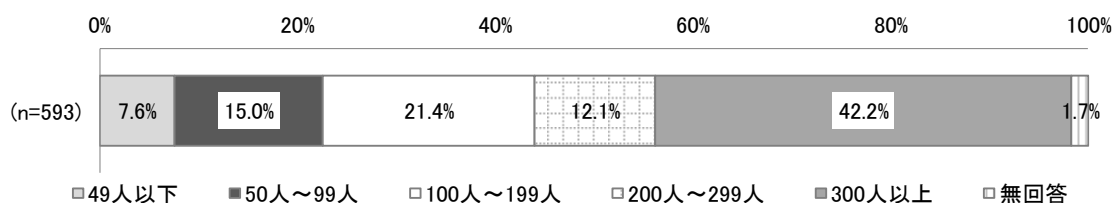
図表 2-2 法人の種類(問 1)



##### ② 法人全体の従業員数

法人全体の従業員数は「300人以上」が42.2%と約半数を占め、次いで「100人～199人」(21.4%)、「50人～99人」(15.0%)、「200人～299人」(12.1%)だった。

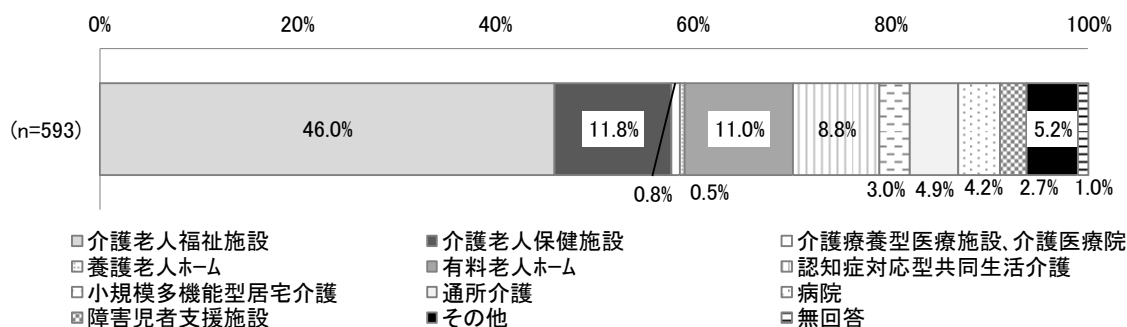
図表 2-3 法人全体の従業員数(問 2)



##### ③ 施設・事業所の種類

施設・事業所の種類は、「介護老人福祉施設」が46.0%と最も多く、次いで「介護老人保健施設」が11.8%だった。

図表 2-4 施設・事業所の種類(問 3)



④ 施設・事業所の定員・病床数、職員数

令和元年10月1日現在の施設・事業所の定員・病床数は平均83.3人、職員数（実人数）は平均79.8人だった。

図表 2-5 施設・事業所の定員・病床数、職員数(問4)

	件数(件)	平均値(人)	標準偏差(人)	中央値(人)	最大値(人)	最小値(人)
定員・病床数	568	83.3	70.8	80.0	1,024	9
職員数	549	79.8	91.0	61.0	815	5

⑤ 施設・事業所の介護職員の人数

介護職員数（実人数）は、常勤が平均28.9人、非常勤が平均11.3人だった。

うち、介護福祉士保有者数（実人数）は、常勤が平均17.4人、非常勤が平均3.8人だった。

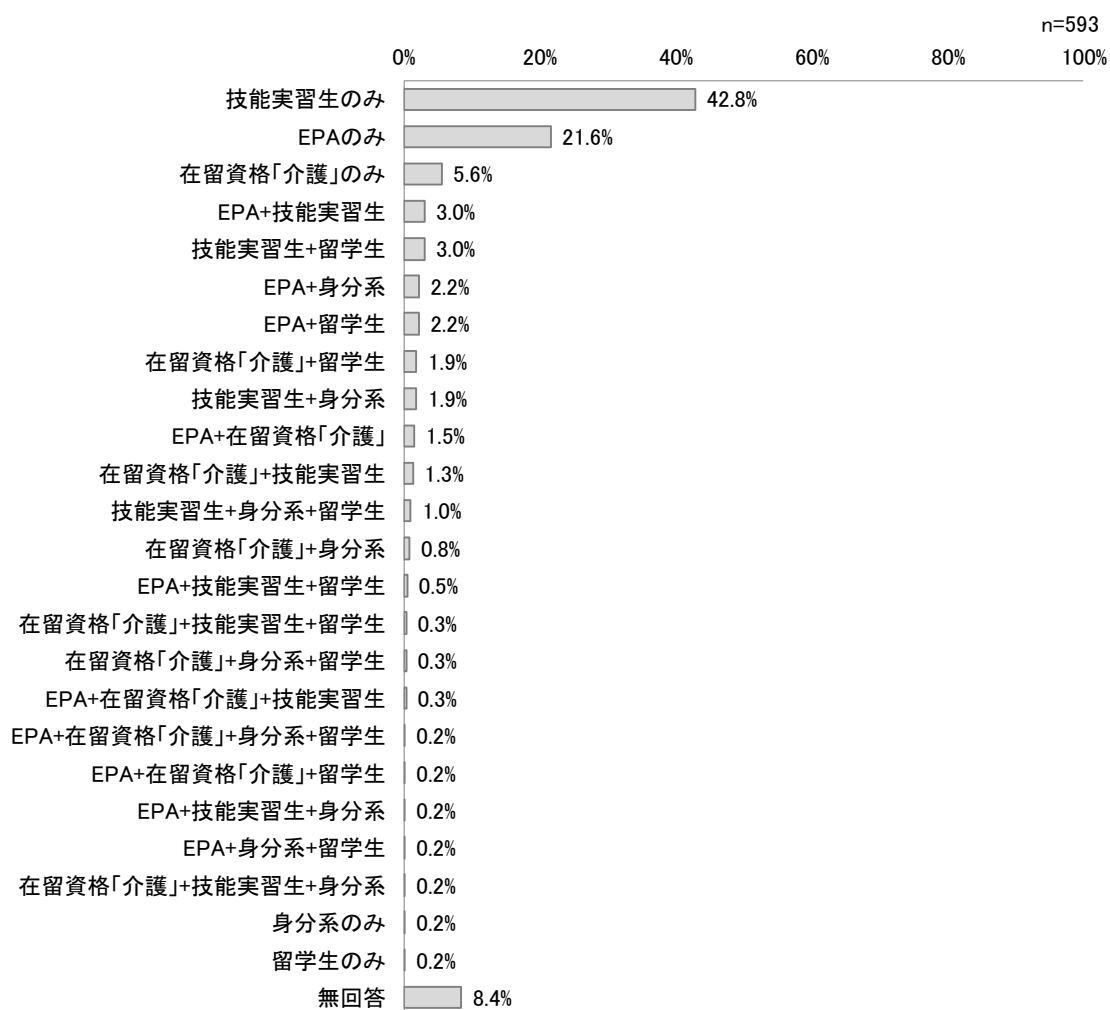
図表 2-6 施設・事業所の介護職員の人数、常勤換算数(問5)

	件数(件)	平均値(人)	中央値(人)
介護職員(常勤)	532	28.9	26.5
うち外国人(EPA介護職員)	319	2.3	1.0
うち外国人(技能実習生)	398	1.5	2.0
うち外国人(「介護」)	262	0.5	0.0
うち外国人(特定技能1号)	216	0.0	0.0
うち外国人(身分系の在留資格)	226	0.2	0.0
介護職員(非常勤)	509	11.3	9.0
うち外国人(EPA介護職員)	236	0.2	0.0
うち外国人(技能実習生)	246	0.4	0.0
うち外国人(「介護」)	220	0.0	0.0
うち外国人(特定技能1号)	212	0.0	0.0
うち外国人(留学生アルバイト)	222	0.7	0.0
うち外国人(身分系の在留資格)	222	0.2	0.0
介護職員(常勤換算数)	490	34.4	32.0
介護福祉士(常勤職員)	521	17.4	15.0
うち外国人(EPA介護職員)	253	0.6	0.0
うち外国人(身分系の在留資格)	121	0.0	0.0
介護福祉士(非常勤職員)	488	3.8	3.0
うち外国人(EPA介護職員)	216	0.1	0.0
うち外国人(身分系の在留資格)	118	0.0	0.0
介護福祉士(常勤換算数)	475	19.1	16.2

⑥ 受け入れている外国人介護職員の在留資格の組み合わせ

受け入れている外国人介護職員の在留資格の組み合わせは、「技能実習生のみ」が42.8%で最も多く、次いで「EPAのみ」が21.6%だった。

図表 2-7 受け入れている外国人介護職員の在留資格の組み合わせ(問 5)

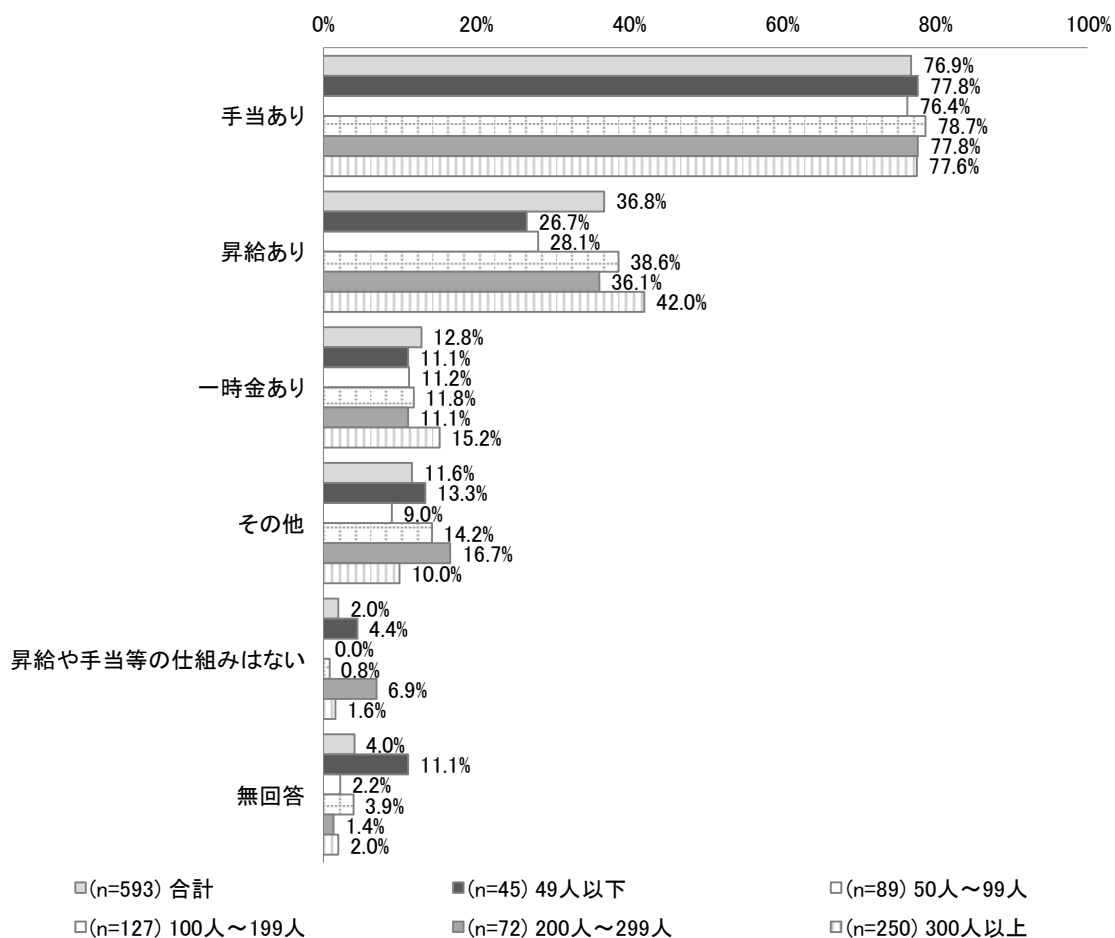


⑦ 介護福祉士の資格取得に伴う昇給や手当等の仕組み

介護福祉士の資格取得に伴う昇給や手当等の仕組みについては、全体では「手当あり」が76.9%、「昇給あり」が36.8%、「一時金あり」が12.8%、「昇給や手当等の仕組みがない」は2.0%であった。

具体的な金額をみると、全体では昇給（時給）は平均 148.3 円、昇給（月給）は平均 8,212.4 円、手当の平均は 10,456.9 円、一時金の平均は 58,309.0 円だった。

図表 2-8 介護福祉士の資格取得に伴う昇給や手当等の仕組み(問 6(1))



図表 2-9 介護福祉士資格取得に伴う昇給・手当の金額(問 6(1))

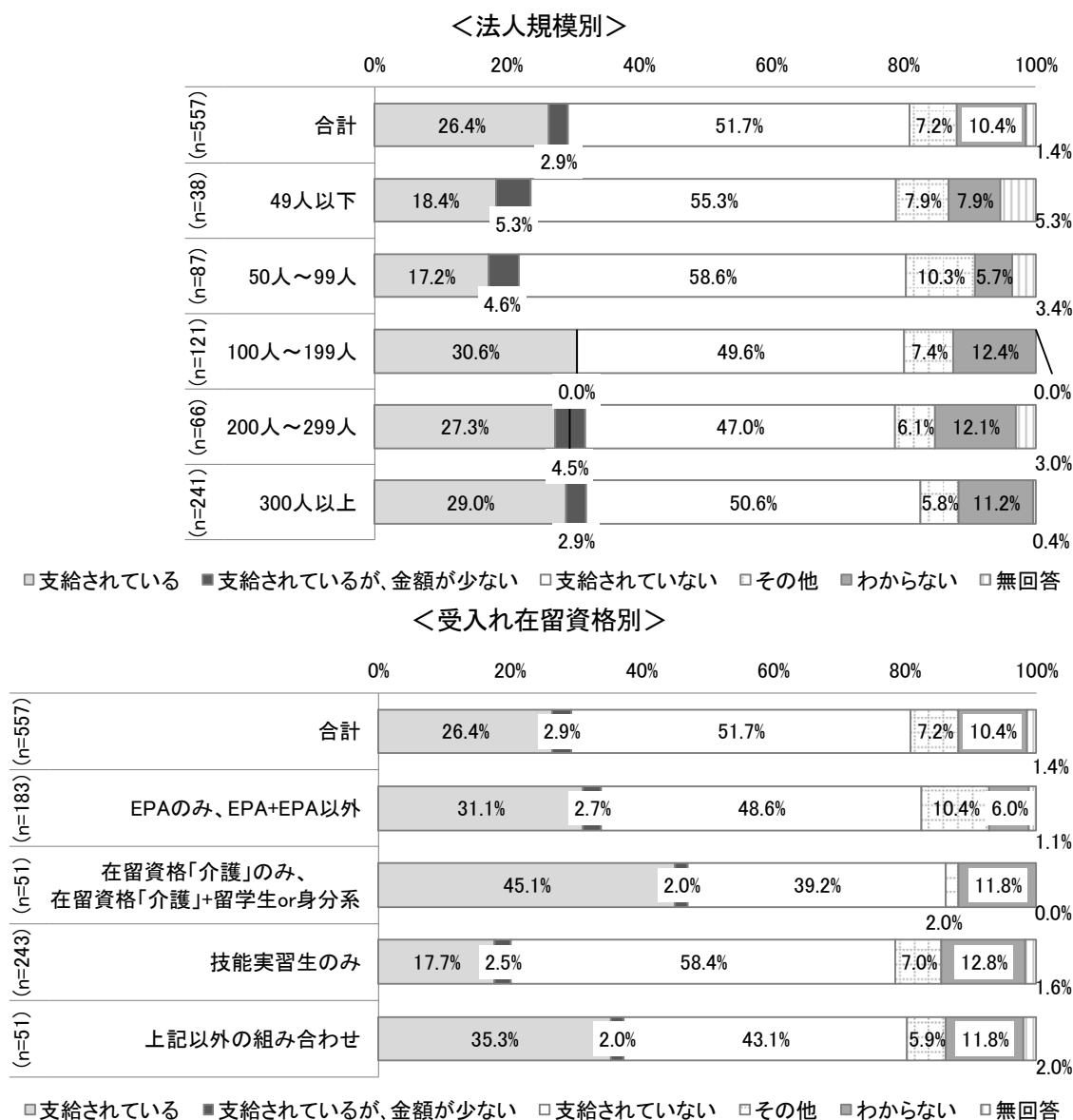
	件数(件)	平均(円)	標準偏差(円)	中央値(円)	最大値(円)	最小値(円)
昇給あり(時給)	64	148.3	344.6	55.0	2600.0	20.0
昇給あり(月給)	114	8,212.4	7,114.0	5,000.0	30,000.0	50.0
手当あり(1か月あたり)	410	10,456.9	9226.3	10,000.0	125,000.0	1,000.0
一時金あり(金額)	54	58,309.0	124,043.2	30,000.0	61,8300.0	1,085.0

⑧ 介護福祉士養成施設卒業者に対する経過措置が適用されている職員への手当の支給  
 介護福祉士養成施設卒業者に対する経過措置が適用されている職員への手当の支給につ  
 いては、法人規模別に見たところ「支給されている」が最も多いのは「100～199人」  
 (30.6%)であった。次いで「300人以上」(29.0%)、「200～299人」(27.3%)と  
 なっている。

また、「支給されていない」が最も多いのは「50～99人」(58.6%)であった。

受入れ在留資格別で見たとところ「支給されている」が最も多いのは「在留資格「介護」  
 のみ、在留資格「介護」+留学生 or 身分系」(45.1%)、次いで「上記以外の組み合わせ」  
 (35.3%)となっている。

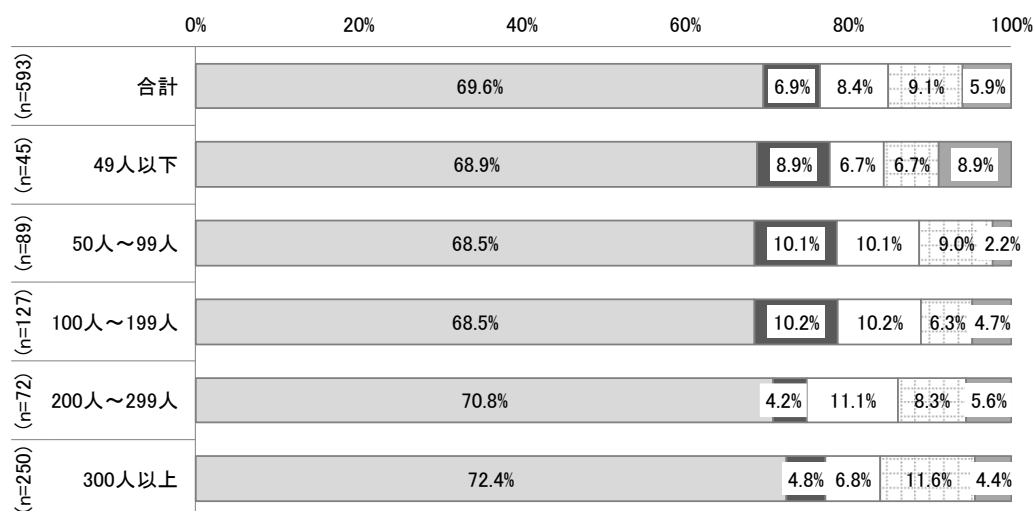
図表 2-10 介護福祉士養成施設卒業者に対する  
 経過措置が適用されている職員への手当の支給(問6(2))



⑨ 介護職員のキャリアパスの導入と明示

介護職員のキャリアパスの導入と明示については、「導入し、明示している」が最も多いのが「300人以上」（72.4%）であった。次いで「200人～299人」（70.8%）となっている。

図表 2-11 介護職員のキャリアパスの導入と明示(問 7(1))

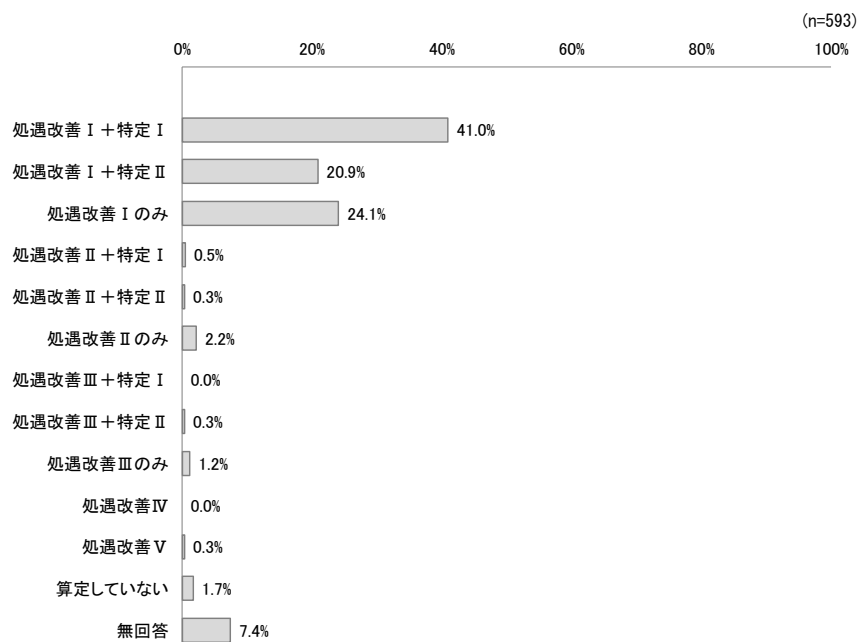


□ 導入し、明示している ■ 導入しているが、明示していない □ 導入に向けて、検討中 □ 導入していない ■ 無回答

⑩ 介護職員処遇改善加算の算定

介護職員処遇改善加算の算定は、「介護職員処遇改善加算Ⅰ＋特定加算Ⅰ」が41.0%と最も多かった。

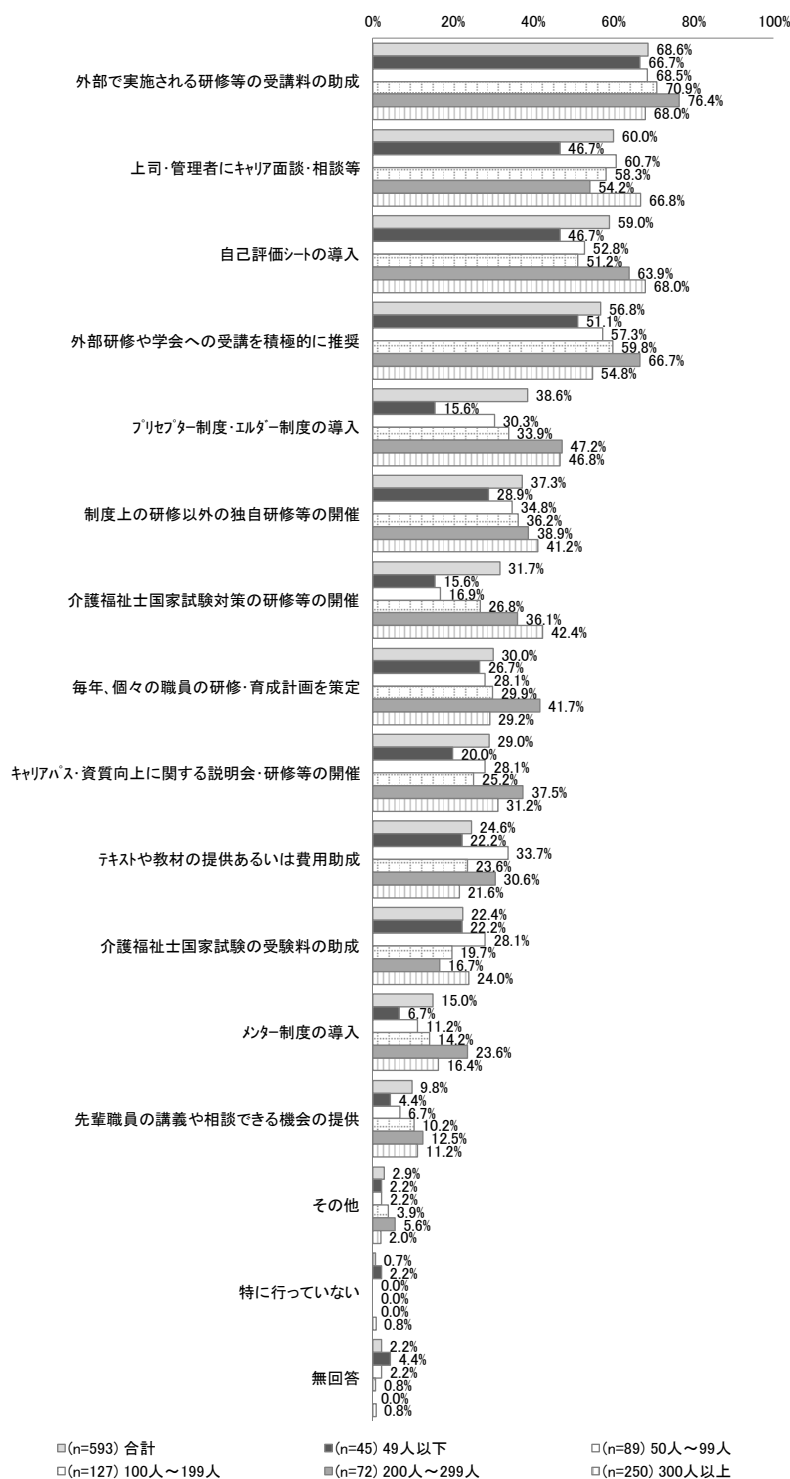
図表 2-12 介護職員処遇改善加算の算定(問 7(2))



⑪ キャリア支援の取組み

キャリア支援の取組みとして、全体で最も多いのは「外部で実施される研修等の受講料の助成」で68.6%であった。次いで、「上司・管理者にキャリア面談・相談等」が60.0%となっている。

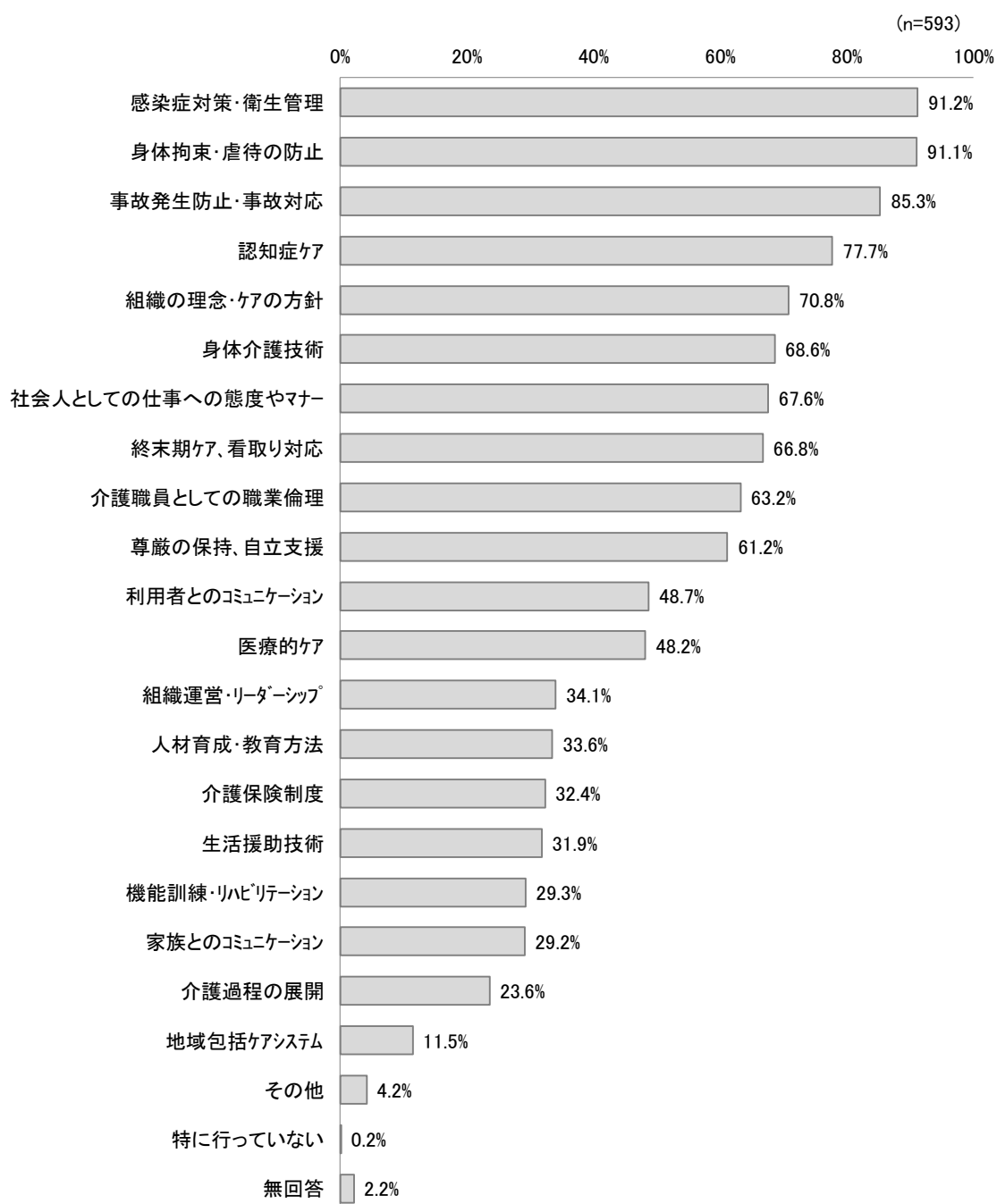
図表 2-13 キャリア支援の取組み(問8)



⑫ 介護職員向け研修等のテーマ

介護職員向け研修等のテーマで、最も多いのは「感染症対策・衛生管理」で91.2%であった。次いで「身体拘束・虐待等の防止」が91.1%、「事故発生防止・事故対応」が85.3%であった。

図表 2-14 介護職員向け研修等のテーマ(問9)





### ⑬ 介護職員のキャリア支援に関する課題

図表 2-15 介護職員のキャリア支援に関する課題(問 10)

#### 【定着しづらい】

- ・時間とお金をかけてもひきぬき、ヘッドハンティングにあっけしき、金額、時間がおりあわない。
- ・資格取得後、退職するスタッフがいるため、会社負担が大きい。
- ・人材不足の為か他会社・法人の規模が大きい所は給与面も充実している。キャリア支援を積み重ねても退職者がでてしまう。
- ・採用した人材の定着とその育成による質的向上の必要性が課題になってくる。 / 等

#### 【職員体制に余裕がない】

- ・研修に仕事扱いで参加させる余裕がない。
- ・介護職員の不足から、十分な支援ができない状況になってきている。
- ・支援をする人材の不足(1人の職員に負担が集中してしまう)
- ・マンパワー不足(離職に伴う)。
- ・人員不足の時はキャリア支援にまわす余力がない。
- ・キャリア支援の計画は行うが人員不足の為、現場の厳しい現状があり、研修時間を短くしたり、十分な外部研修を参加させにくい実態がある。
- ・外部の研修にもっと参加してもらいたい職員不足により、行かせてあげられないことあり。
- ・人材が不足する中での研修や支援が十分に行われていない。
- ・研修等をする時間が業務内にとりにくい(人手がないため)。
- ・業務時間内でキャリア支援するには、職員数が充足していない現状では困難であり、今後も継続していくには全員の理解と協力が必要。
- ・地域的なこともあり、職員採用に苦慮しており、それが影響して、キャリア支援に関する時間が取りにくい。
- ・コスト。現場の変わりの人材をどう出すのか。
- ・職員不足により、苑外研修や苑内研修を実施する時間が、勤務時間内に確保できない。
- ・人材不足もあり、実施する研修への参加者が少ない。 / 等

#### 【施設・事業所内での指導・研修の実施が困難】

- ・小規模の事業所のため、自施設での研修開催は難しい。市主催等の外部研修に積極的に参加させている。
- ・高齢の職員が増加しておりキャリア支援にそもそも興味がなく指導が困難。
- ・約半数の退職者が1年前後で離職するケースが多く、キャリアアップの建設的な、ラダー研修が進まない。紹介料が財政を圧迫しており、キャリアが積み重なり難い。
- ・定期的な面談ができず、目標等の進捗状況の確認が不十分である。
- ・人材が不足する中での研修や支援が十分に行われていない。
- ・新入職員研修は、時間を確保して、実施しているが、3年目、5年目等、中堅の研修が十分に実施できていない。人材不足により、研修を実施する、時間、(講師・受ける側)が十分に確保できない。
- ・新卒者だけでなく中途採用者も多く、それぞれの経験は様々であり、そのような状況の中でのキャリア支援は、非常に難しいと感じている。
- ・研修等をする時間が業務内にとりにくい(人手がないため)。
- ・勤務シフトや出退勤の都合により、一度に全職員に対する研修等を実施することが難しく、配布資料を用いたレポート提出となると研修内容の理解度向上を図ることが難しい。
- ・研修を重ねてもあまり実践で生かしてない。
- ・実習生の目標を把握して達成できるようにサポートしていきたいと思っているが現実的に欠ける部分があると認識している。
- ・施設内研修を実施しているが、全職員の参加が難しく周知の方法に検討が必要である。
- ・研修時間等の確保 / 等

#### 【リーダーや管理職等の育成が難しい】

- ・介護職員を指導するリーダークラスが成長しないこと。

・キャリア支援をサポートする管理職の育成。／等

**【職員の能力・状況に応じたキャリア支援が必要となる】**

- ・“なれなれしい”又は“きつくあたる”等接遇に関する研修が、職員によって促え方が違う。転職前の職場の考え方によって接遇の考え方が違うので、温度差がありすぎる。
- ・未経験の新人職員に対して、経験のある職員が指導するにあたり経験者、未経験者では常識の範囲が異なるため、伝え方、伝わり方に差が出てしまう。
- ・個々に対応した育成プログラム(OJT)での指導、指導担当者の配置含む。
- ・職員構成が学卒から家庭の主婦まで幅が広いため、キャリアに対する姿勢が違う。しかし収入は多い事を全員が望むため、現状の文化に新しい考えを浸透させるには時間がかかる。／等

**【キャリア支援体制の強化】**

- ・役職者、管理職の人数が決まっているので、退職者が出る、新規事業を展開する等が無ければ、上がる事が(上がる機会に恵まれない)難しい。
- ・キャリアパスの体系立ったものがない。キャリアプランの選択肢が限定されている。
- ・経験年数が長い職員(10年以上)に対してのキャリア形成の促進が課題。経験値を積む事で昇進する事の大変さを知っているため、昇進を嫌がり現状維持の状態になってしまっている。／等

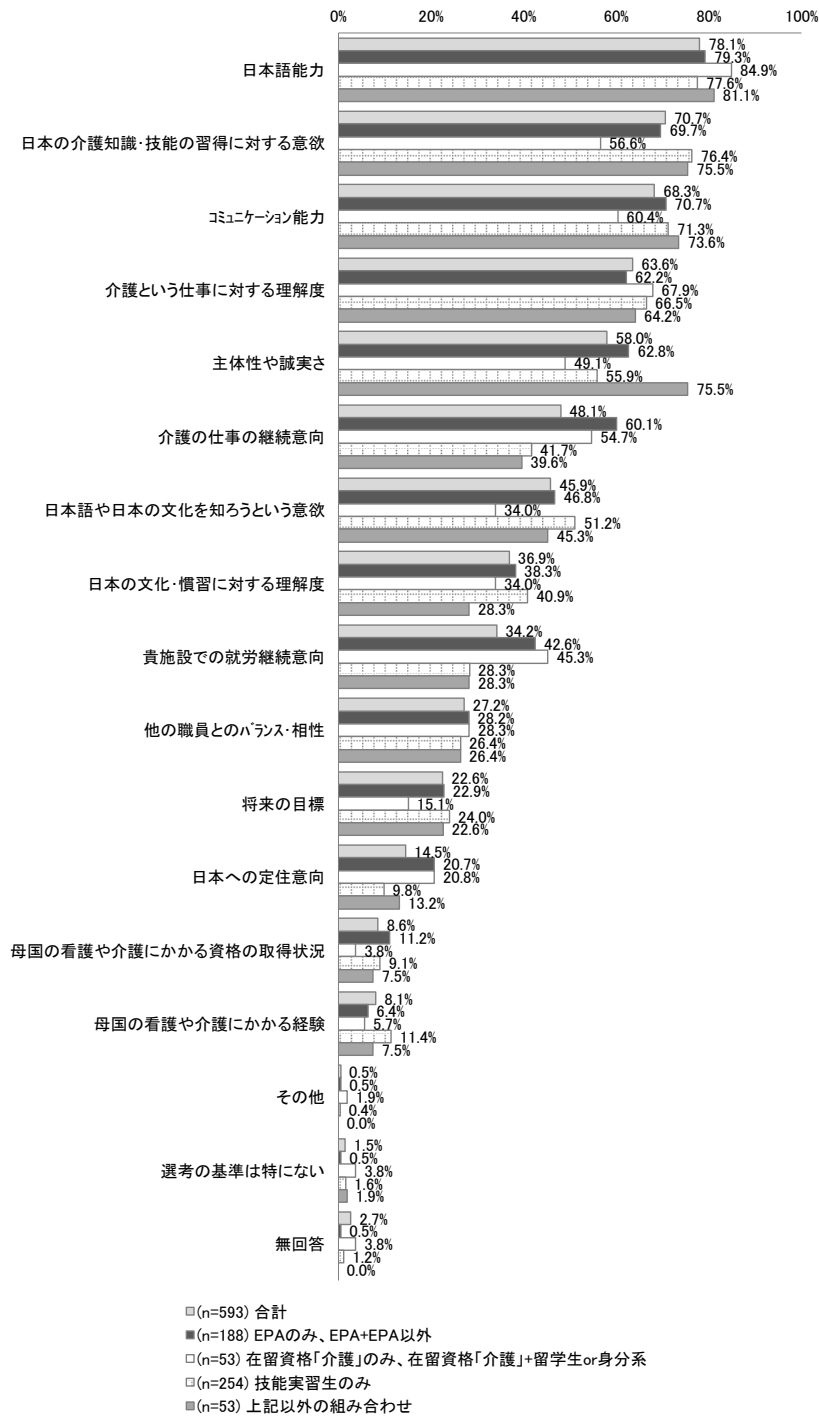
**【キャリア形成を意識する職員が少ない】**

- ・高齢の職員が増加しておりキャリア支援にそもそも興味がなく指導が困難。
- ・人財育成には、現在も多くの課題がある。いかに自分の仕事に誇りを持ちながら、継続して働き続けることができるか？キャリアアップを希望しない職員がふえてきた。
- ・キャリアを意識している職員が少ない。一生続けるという気持ちを持てるよう、指導・研修を行っている。
- ・以前は、福祉系学校を卒業した職員が多く、福祉に関しての基礎は学んでいましたが現在は、未経験や長く介護から離れていた職員も多く、個別に合わせた支援が求められている。また、キャリア支援ではなく、プライベートを重視する考えも増えており、個別での意欲に差がある。
- ・上を目指そうとする人の減少を感じる。
- ・自身を成長させたいという想いを持った人が少ない。
- ・仕事に対するモチベーションの維持。
- ・役職にはつきたくないが、金額は高くほしいと思う介護職が増えたと感じる。技術、資格、経験実績から全国統一の仕組があると助かる。
- ・内部、外部研修は充実しているも、職員の成長に不安を感じている。
- ・介護職員に従事する人の資質が低下してきている。能力についても同様、本人が希む待遇とのギャップが大きくなっている。
- ・経験年数が長い職員(10年以上)に対してのキャリア形成の促進が課題。経験値を積む事で昇進する事の大変さを知っている為昇進を嫌がり現状維持の状態になってしまっている。女性が多い為、昇進に興味がない。
- ・キャリアを考えている人は少ない。一生の仕事と考えている人が少ない。／等

⑭ 外国人介護職員の受入れで重視していること

外国人介護職員の受入れで重視していることは、全体で「日本語能力」が78.1%で最も多く、次いで「日本の介護知識・技能の習得に対する意欲」が70.7%、「コミュニケーション能力」が68.3%であった。

図表 2-16 外国人介護職員の受入れで重視していること(問 11)



⑮ 施設が外国人介護職員に希望する就業年数

施設が外国人介護職員に希望する就業年数は「なるべく長く働いてほしい」が最も多く52.8%であった。次いで「在留資格によって異なる」が19.7%、「3年以上」が12.8%となっている。

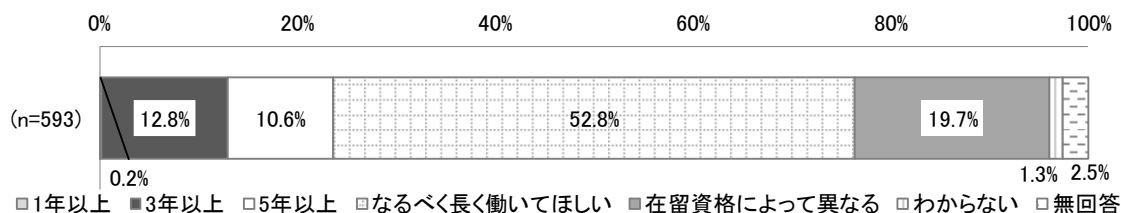
また、問12で、「在留資格によって異なる」と回答した施設・事業所に、外国人介護職員に希望する就業年数を在留資格別で見たところ、「なるべく長く働いてほしい」が最も多いのが「身分系の在留資格」で87.0%であった。次いで「特定活動」が85.7%であった。技能実習は「5年以上」で29.2%となっており、その他の在留資格に比べて施設が希望する就業年数が短い傾向がうかがえる。

さらに、問12または問12-1で「5年以上」「なるべく長く働いてほしい」と回答した施設・事業所に、将来、外国人介護職員に期待する職位や役割について尋ねたところ、「外国人介護職員を指導する役割を担ってほしい」が68.0%と最も高く、次いで「施設・事業所に定着するロールモデルになってほしい」が65.4%、「介護職員として技術・経験を積み重ねてほしい」が60.4%であった。

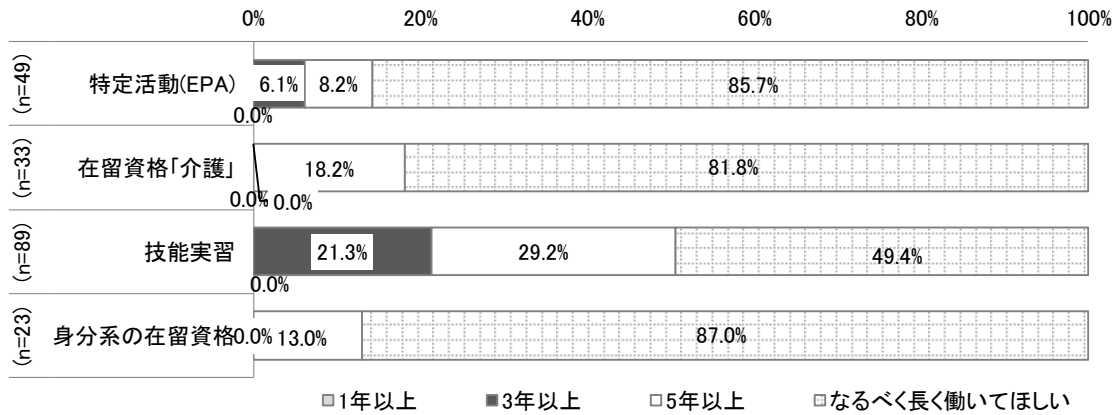
実際に該当する職員がいるか尋ねたところ、「該当する職員はいない」という回答が75.7%と最も高かった。該当する職員がいる施設・事業所に、その職員の在留資格を尋ねたところ、「特別活動「EPA」」が55.0%と最も高く、次いで在留資格「介護」が31.5%、「身分系の在留資格」が9.0%であった。

将来、外国人介護職員に期待する職位や役割と現在受け入れている外国人介護職員の活躍状況の比較をみると、「外国人介護職員に指導・助言する役割を担う」「施設・事業所に定着するロールモデル」「外国人介護職員全体を統括するリーダー」の3つの項目については、施設側の「期待」と「現実（実際に該当者がいる）」のギャップは特に大きくなっていた。

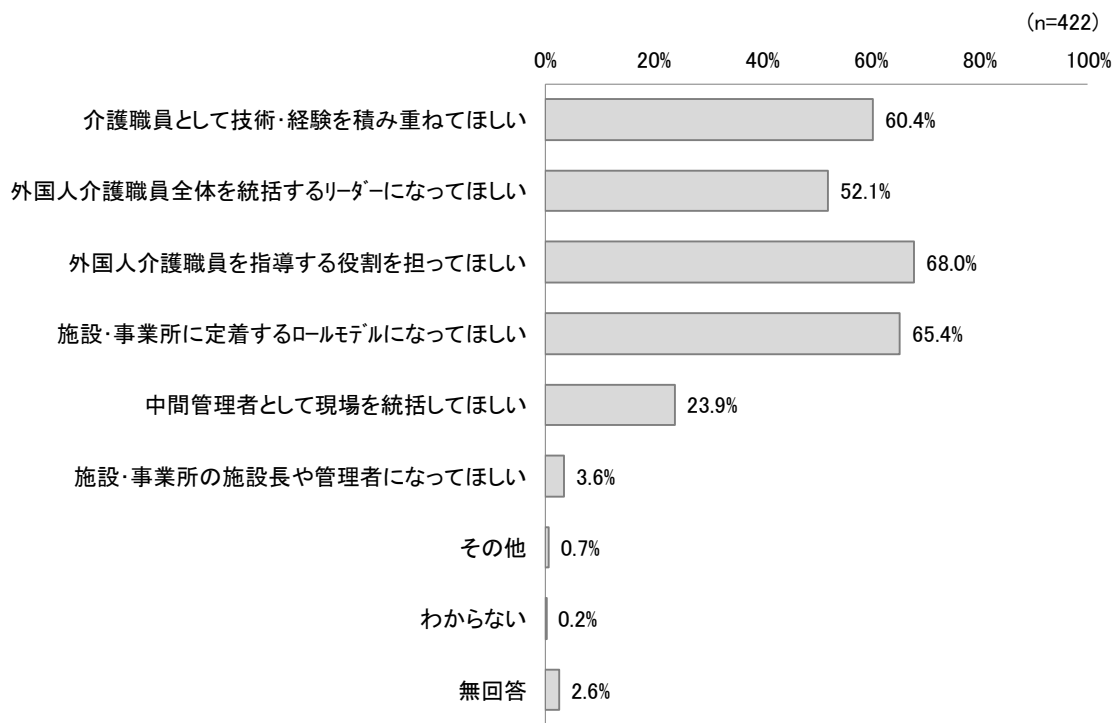
図表 2-17 施設が外国人介護職員に希望する就業年数(問12)



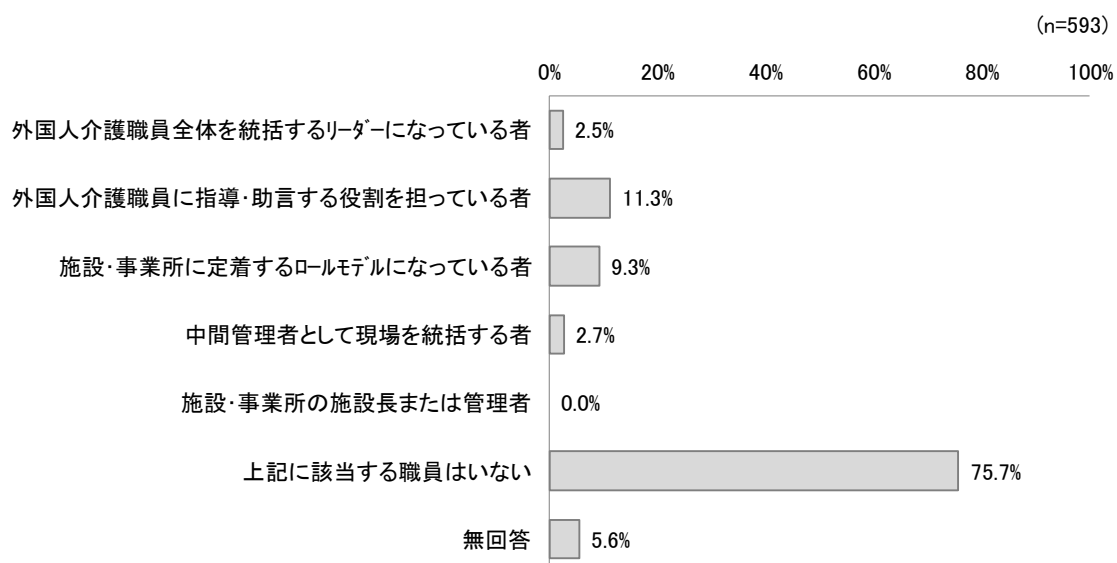
図表 2-18 在留資格別 外国人介護職員に希望する就業年数(問 12-1)



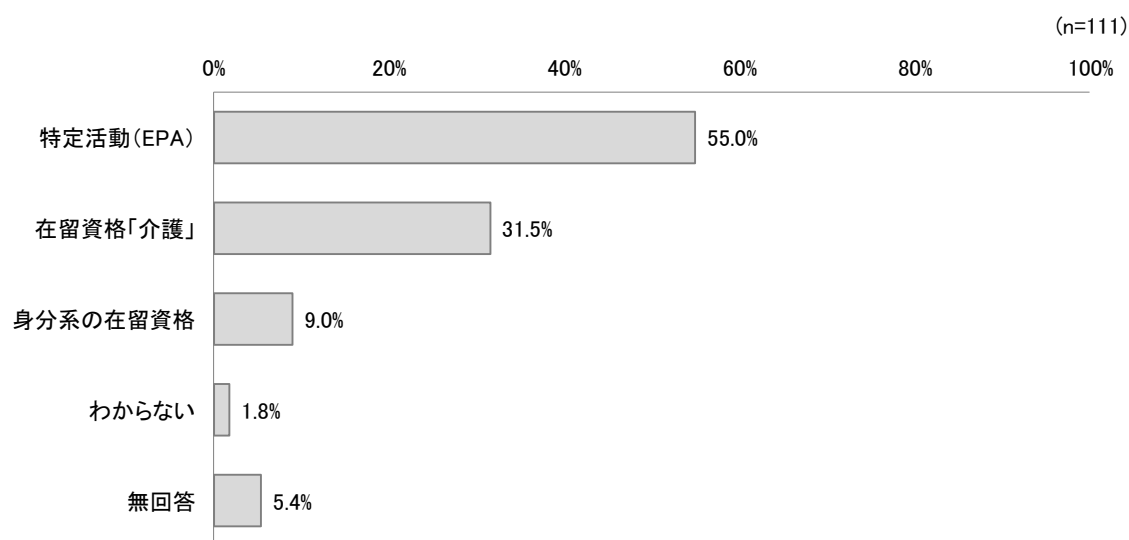
図表 2-19 外国人介護職員に期待する職位や役割(問 13)



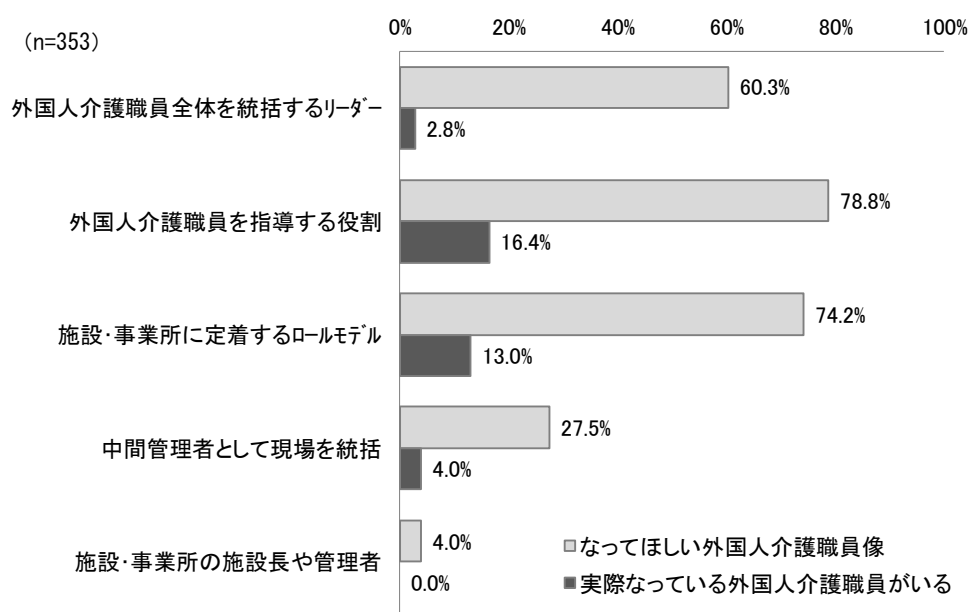
図表 2-20 外国人介護職員の職位や役割(問 14)



図表 2-21 該当する在留資格(問 14-1)



図表 2-22 外国人介護職員に期待する職位や役割(問 13)と実際の活躍状況(問 14)



※上記の結果は、問 13 と問 14 を両方回答した施設・事業所のみ集計している。

⑯ 今後3年間の外国人介護職員の受入れの意向

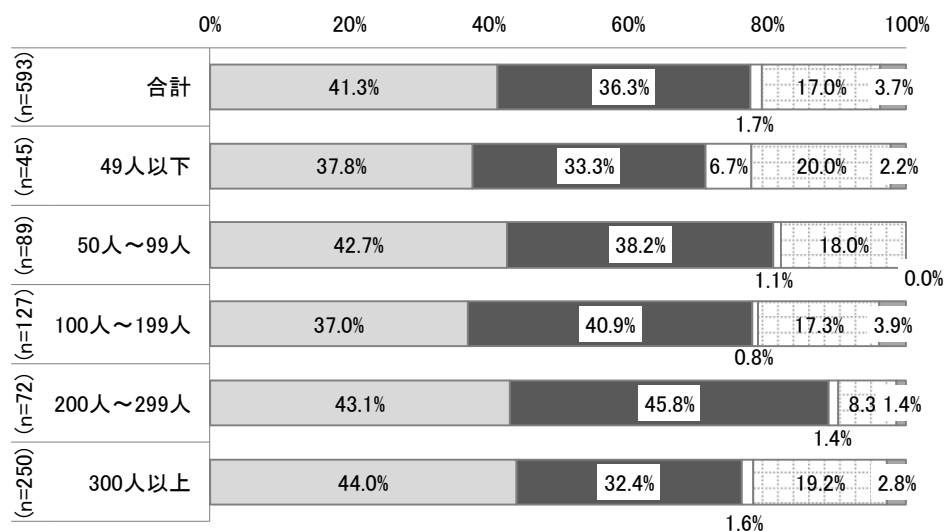
今後3年間の外国人介護職員の受入れの意向について、法人規模別では「積極的に受け入れる意向がある」と「受け入れる意向がある」合計で最も多いのは、「200人～299人」で88.9%であった。次いで、「50～99人」で80.9%となっている。

受入れ在留資格別では、「EPAのみ、EPA+EPA以外」が81.4%で最も多く、次いで「技能実習生のみ」が79.5%となっている。

具体的な受入れ希望人数の平均は、全体で7.7人、特定活動（EPA）で1.3人、在留資格「介護」で0.9人、技能実習で3.3人、特定技能1号で0.7人、身分系の在留資格で0.8人、留学生アルバイトで0.6人であった。

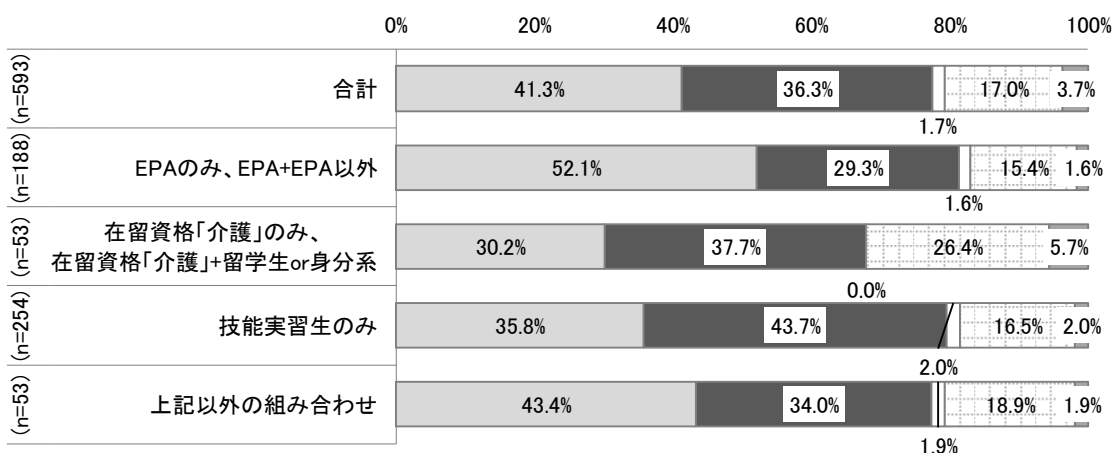
図表 2-23 今後3年間の外国人介護職員の受入れの意向(問15)

<法人規模別>



□積極的に受け入れる意向がある ■受け入れる意向がある □受け入れる意向はない □わからない・未定 ■無回答

<受入れ在留資格別>



□積極的に受け入れる意向がある ■受け入れる意向がある □受け入れる意向はない □わからない・未定 ■無回答



図表 2-24 今後3年間の在留資格別の受入れ希望人数(問 15-1)

	件数 (件)	平均値 (人)	標準偏差 (人)	中央値 (人)	最大値 (人)	最小値 (人)
全体	415	7.7	24.2	4.0	450.0	1.0
特定活動(EPA)	416	1.3	2.4	0.0	15.0	0.0
在留資格「介護」	416	0.9	3.2	0.0	50.0	0.0
技能実習	416	3.3	7.5	2.0	110.0	0.0
特定技能1号	416	0.7	3.2	0.0	50.0	0.0
身分系の在留資格	416	0.8	14.8	0.0	300.0	0.0
留学生アルバイト	416	0.6	4.0	0.0	60.0	0.0

⑰ 受入れ外国人介護職員の志望動機、目標等の把握

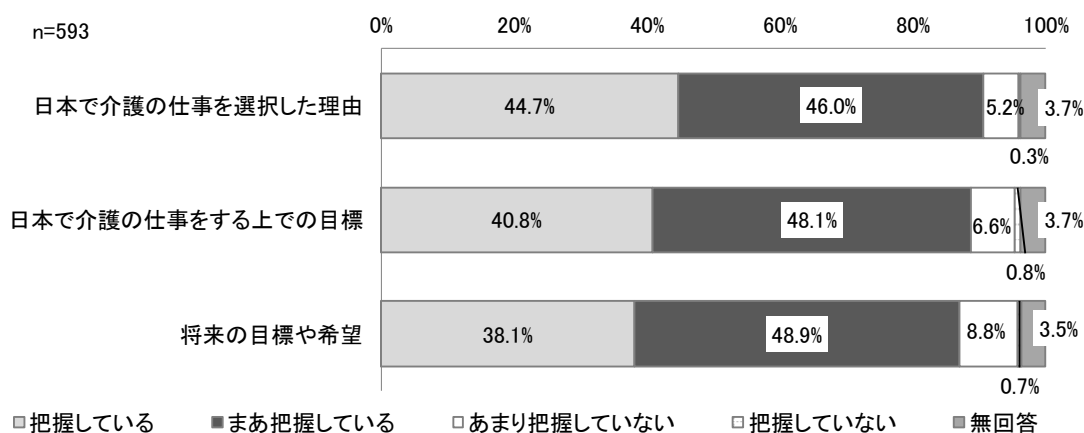
受入れ外国人介護職員の志望動機、目標等における、日本で介護の仕事を選択した理由の把握については、外国人介護職員のキャリアに関する把握状況において、「把握している」の割合は、「日本で介護の仕事を選択した理由(44.7%)」、「日本で介護の仕事をする上での目標(40.8%)」、「将来の目標や希望(38.1%)」の順で低くなっている。

すべて「把握している」と回答した施設・事業所は30.3%(180件)であった。なお、すべて「把握している」または「まあ把握している」と回答した施設・事業所は83.8%(497件)であった。

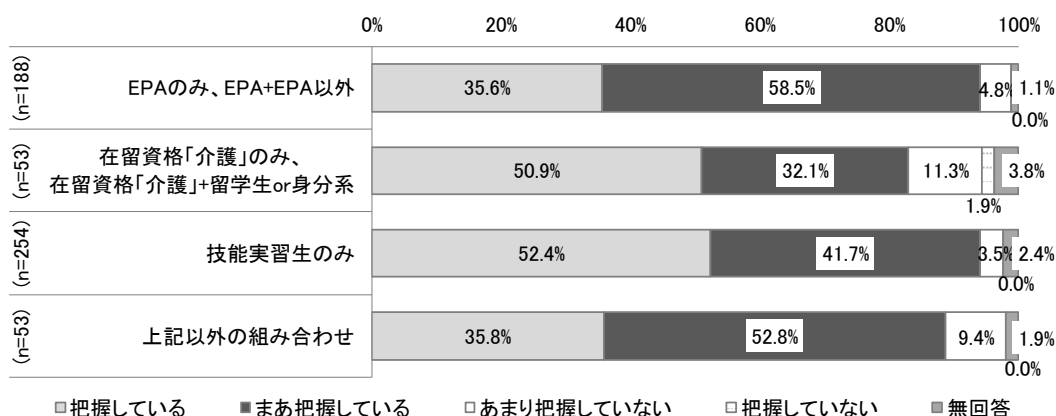
受入れ在留資格別にみたと、把握している「まあ把握している」の合計で「技能実習生のみ」と「EPAのみ、EPA+EPA以外」が94.1%で最も高かった。

日本で介護の仕事をする上での目標の把握や、将来の目標や希望の把握についても、日本で介護の仕事を選択した理由の把握と傾向に差は見られなかった。

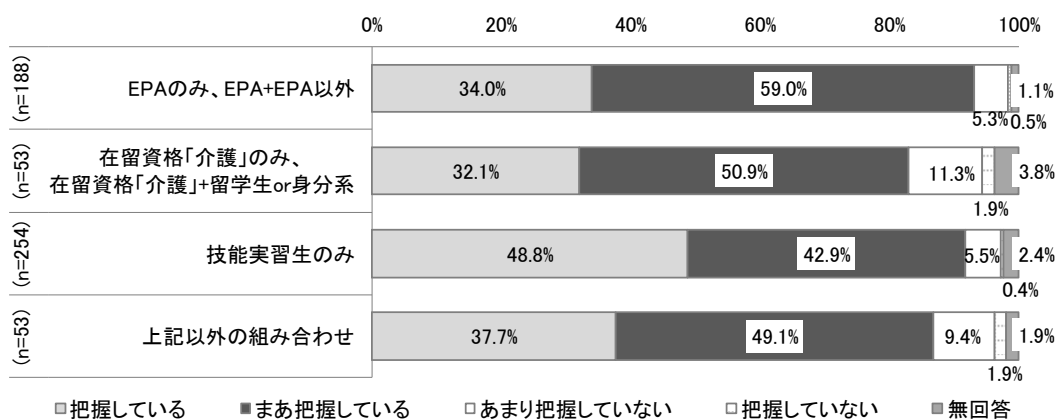
図表 2-25 受入れ外国人介護職員の志望動機、目標等の把握(問 16)



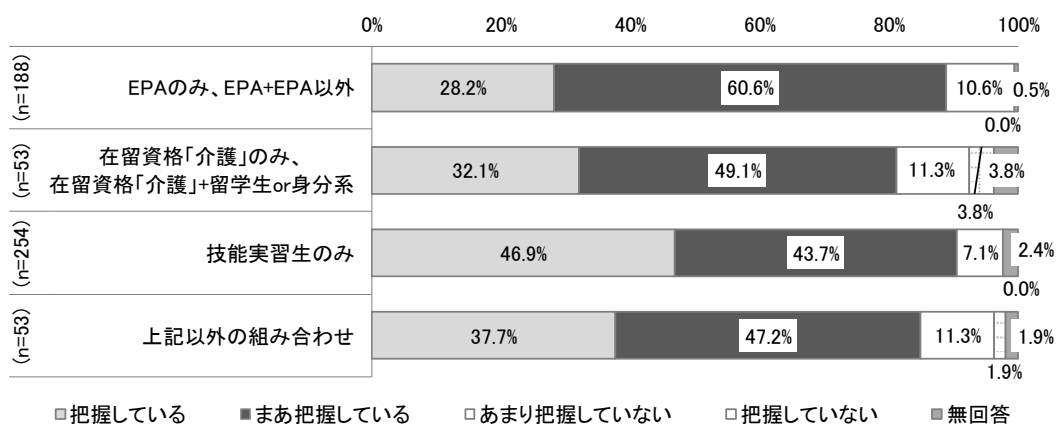
<日本で介護の仕事を選択した理由>



### <日本で介護の仕事をする上での目標>

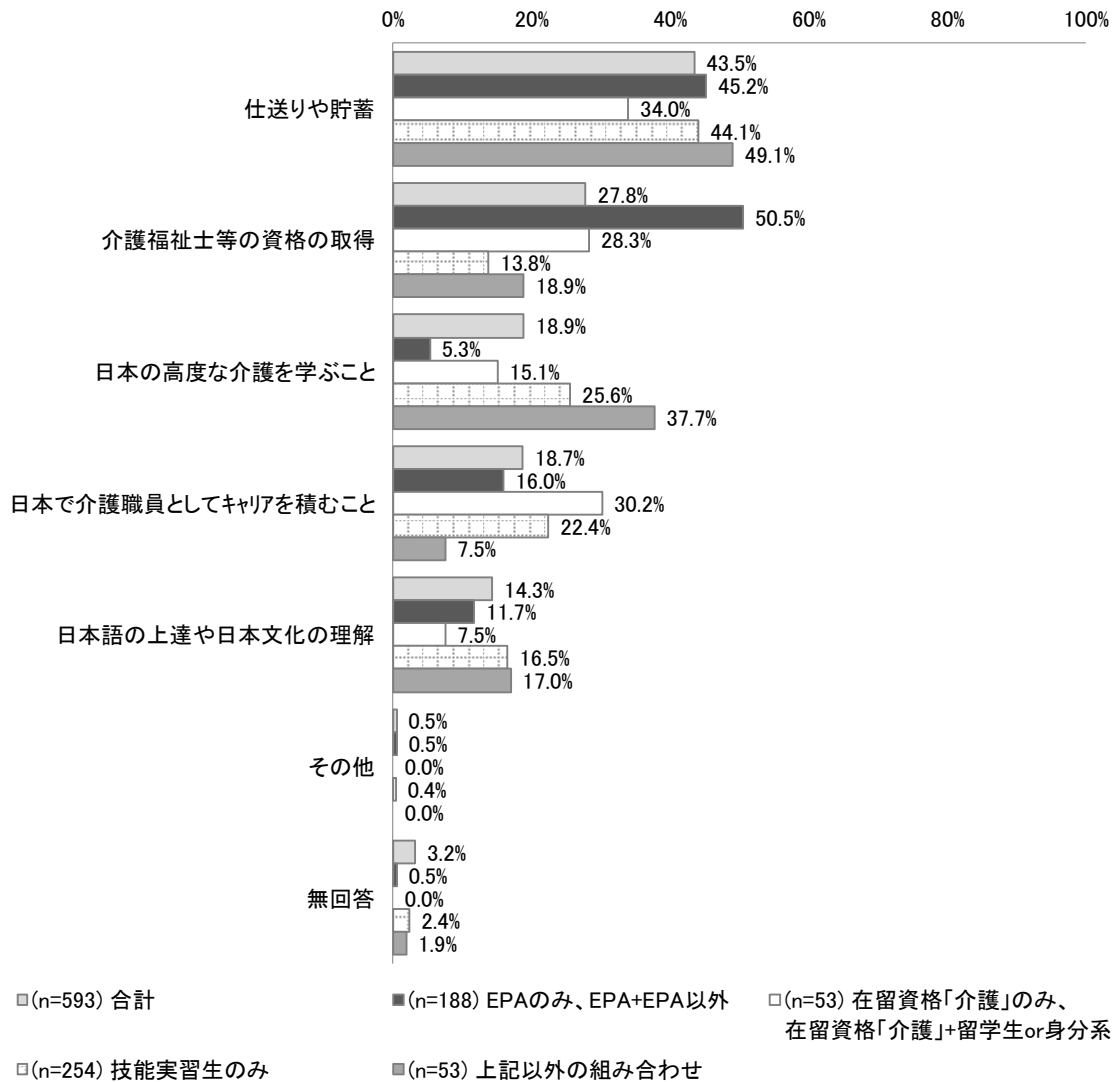


### <将来の目標や希望>



- ⑩ 外国人介護職員の「日本で介護の仕事をする上での目標」で最も多いもの  
 外国人介護職員の「日本で介護の仕事をする上での目標」で最も多いものは、全体で「仕送りや貯蓄」が43.5%で最も多く、次いで「介護福祉士等の資格の取得」が27.8%、「日本の高度な介護を学ぶこと」が18.9%であった。

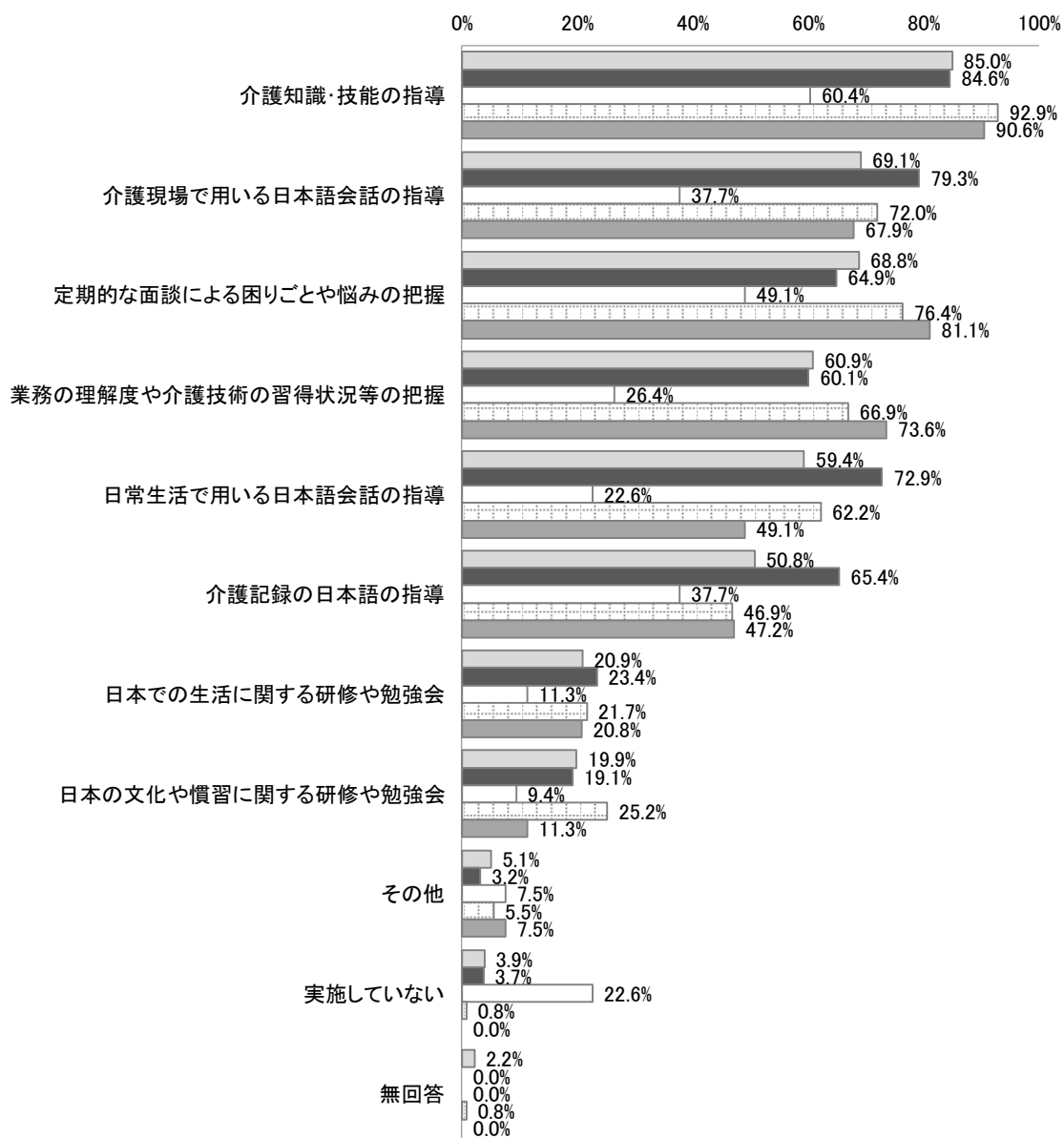
図表 2-26 外国人介護職員の日本で介護の仕事をする上での目標で最も多いもの(問 16-1)



⑱ 外国人介護職員に対して特に実施している支援

外国人介護職員に対して特に実施している支援は、全体で「介護知識・技能の指導」が85.0%で最も多く、次いで「介護現場で用いる日本語会話の指導」が69.1%、「定期的な面談による困りごとや悩みの把握」が68.8%であった。

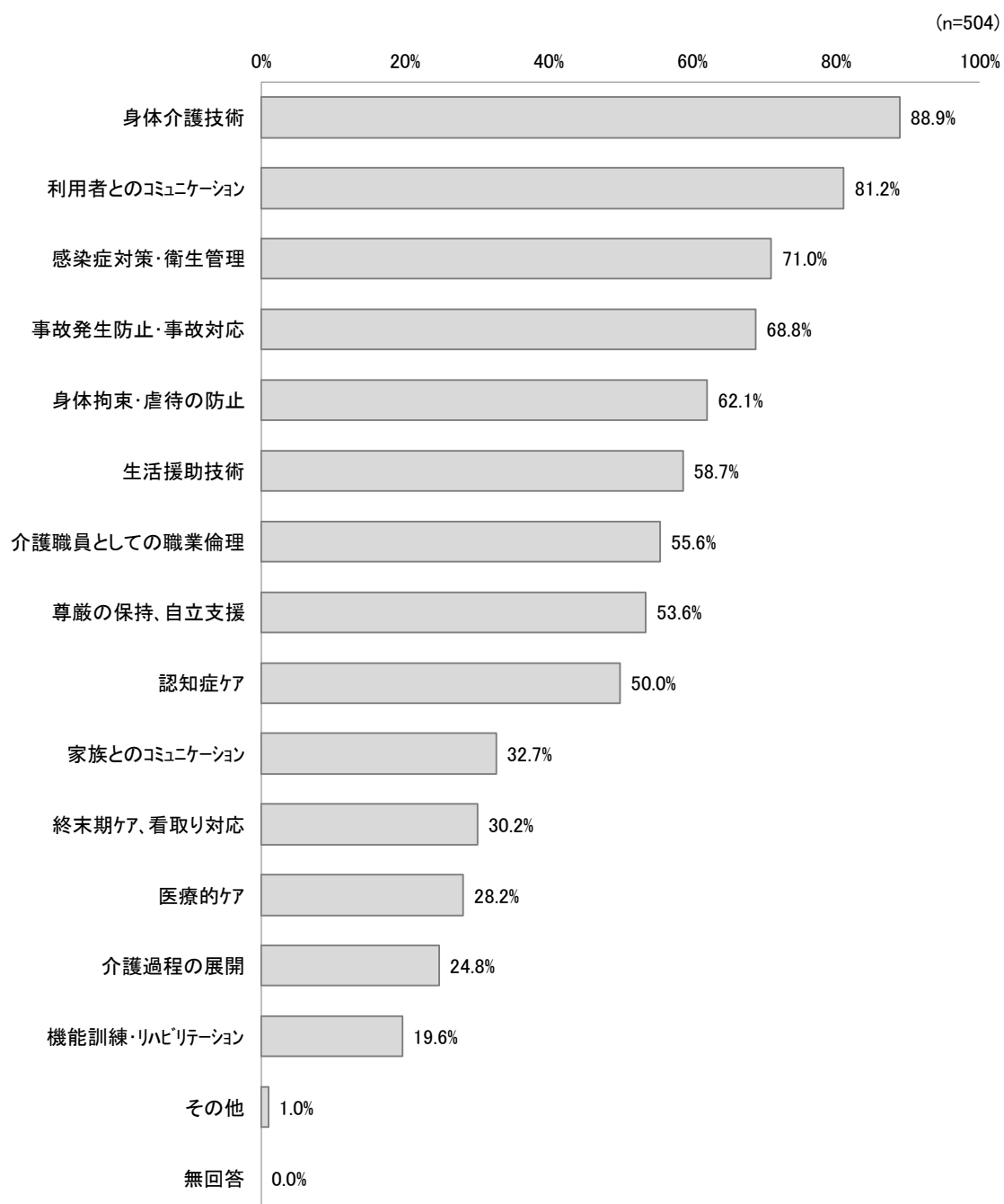
図表 2-27 外国人介護職員に対して特に実施している支援(問 17)



□(n=593) 合計  
 ■(n=188) EPAのみ、EPA+EPA以外  
 □(n=53) 在留資格「介護」のみ、在留資格「介護」+留学生or身分系  
 □(n=254) 技能実習生のみ  
 ■(n=53) 上記以外の組み合わせ

問 17で「介護知識・技能の指導」を選択した施設・事業所に、介護知識・技能の指導の具体的なテーマについて尋ねたところ、「身体介護技術」が88.9%で最も多く、次いで「利用者とのコミュニケーション」が81.2%、「感染症対策・衛生管理」が71.0%であった。

図表 2-28 介護知識・技能の指導の具体的なテーマ(問 17-1)

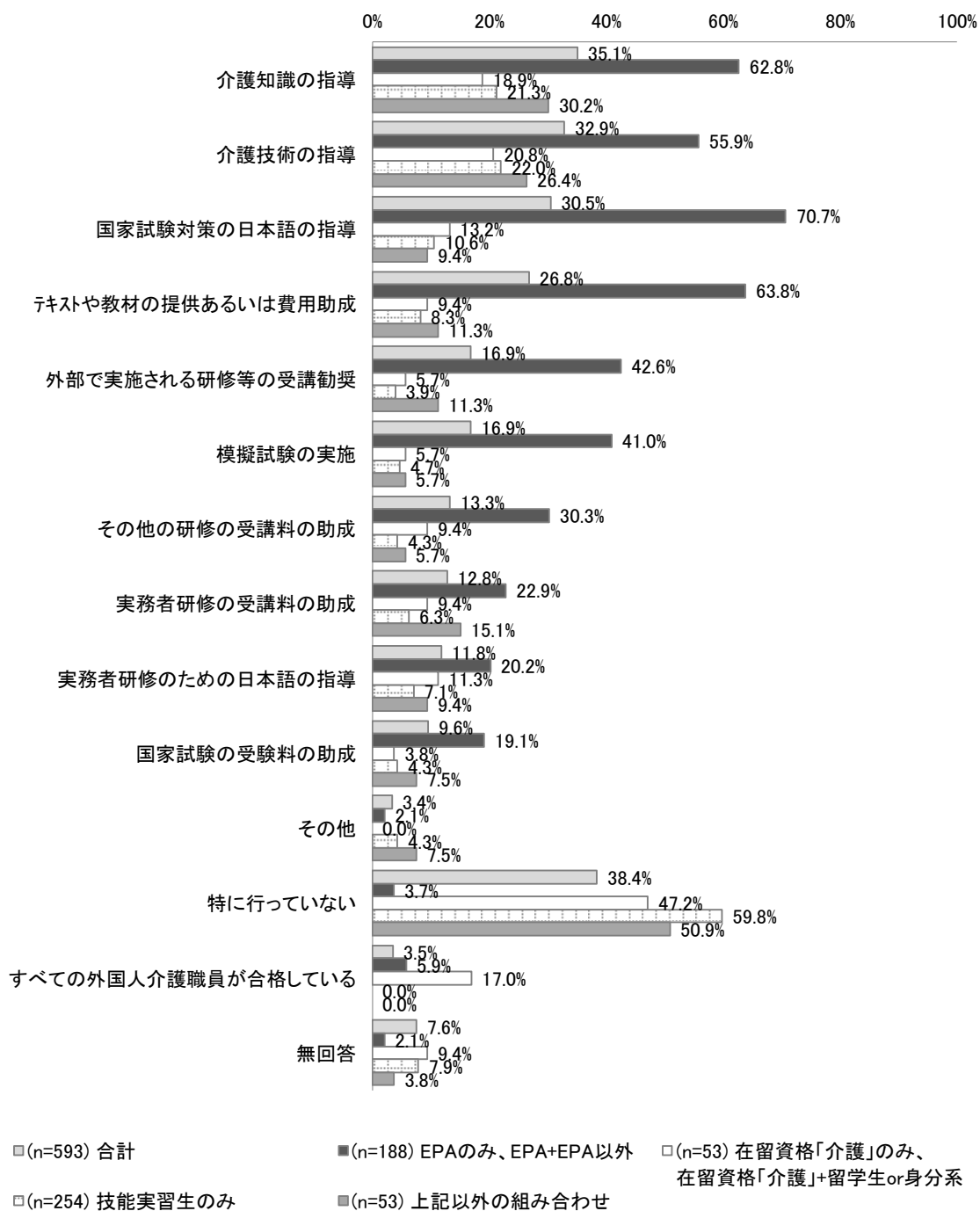


⑳ 外国人介護職員に対する介護福祉士国家試験対策

外国人介護職員に対する介護福祉士国家試験対策は、全体で「介護知識の指導」が35.1%で最も多く、次いで「介護技術の指導」が32.9%、「国家試験対策の日本語の指導」が30.5%であった。

受入れ在留資格別にみると「その他」を除くすべての項目について、「EPAのみ、EPA+EPA以外」が他の受入れ在留資格よりも多くなっていた。

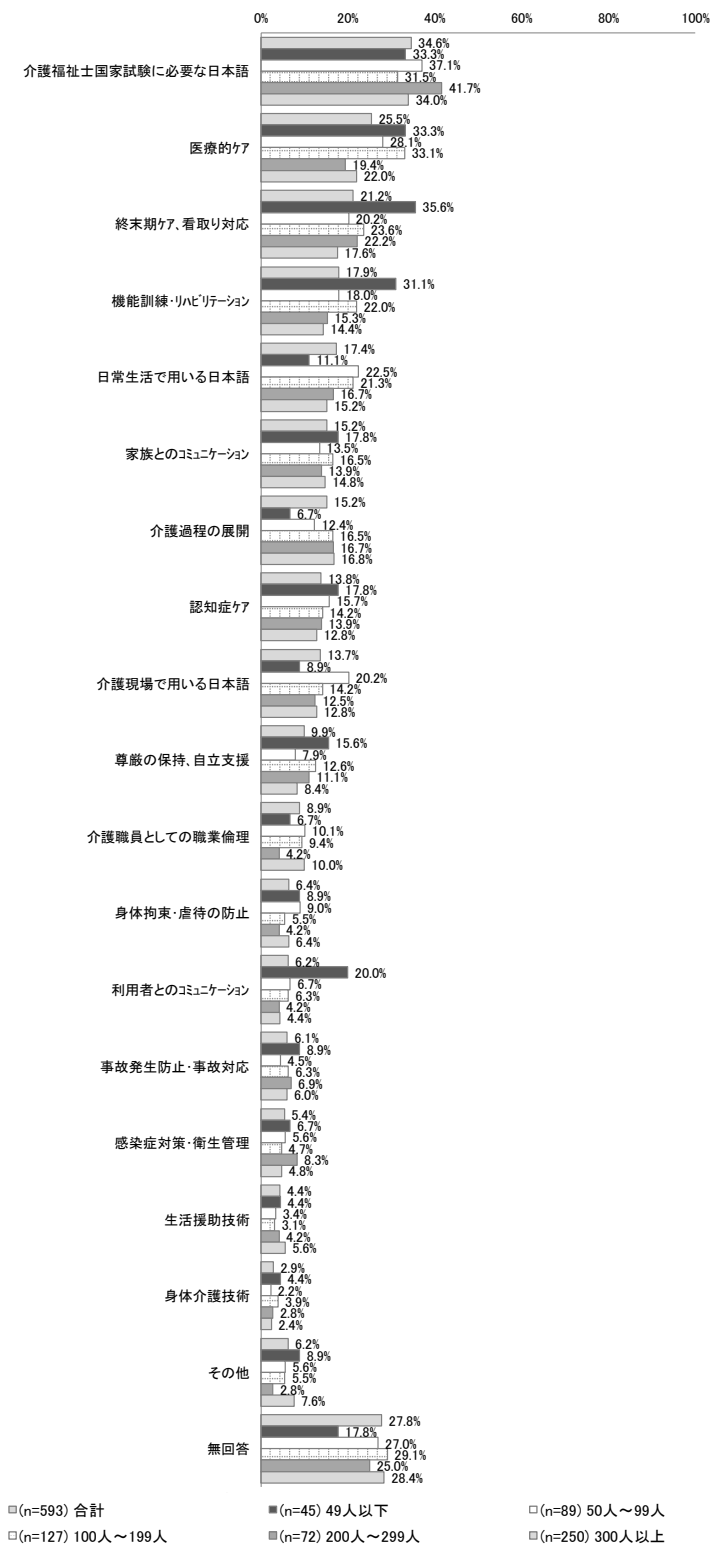
図表 2-29 外国人介護職員に対する介護福祉士国家試験対策(問 18)



## 21 外国人介護職員向け研修における実施困難なテーマ

外国人介護職員向け研修における実施困難なテーマは、全体で「介護福祉士国家試験に必要な日本語」が34.6%で最も多く、次いで「医療的ケア」が25.5%、「終末期ケア、看取り対応」が21.2%であった。

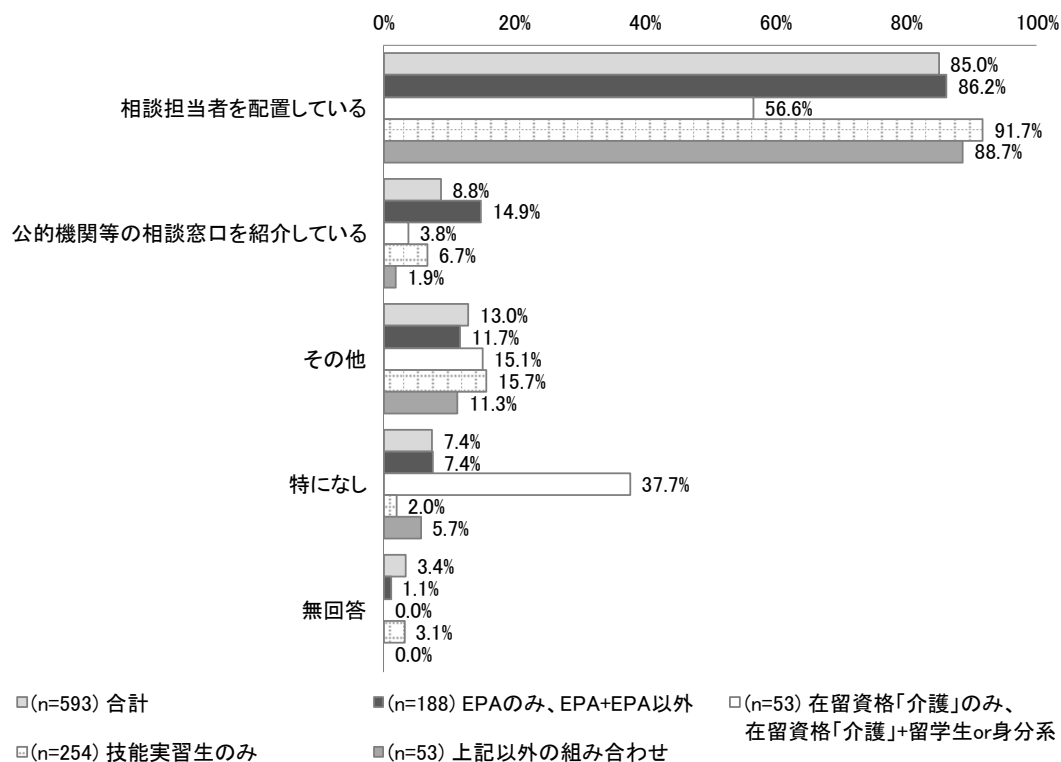
図表 2-30 外国人介護職員向け研修における実施困難なテーマ(問 19)



## 22 外国人介護職員に対する相談支援体制

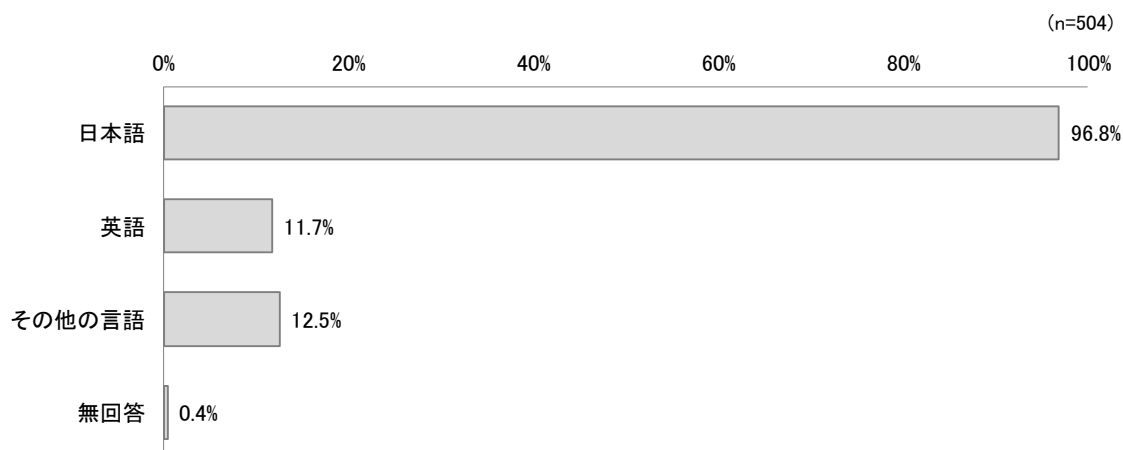
外国人介護職員に対する相談支援体制は、全体で「相談担当者を配置している」が85.0%で最も多く、次いで「公的機関等の相談窓口を紹介している」が8.8%、「その他」が13.0%であった。その他では、監理団体による相談支援などが挙げられていた。

図表 2-31 外国人介護職員に対する相談支援体制(問 20)



問 20 で「相談担当者を配置している」と回答した施設・事業所に、相談担当者が対応する言語について尋ねたところ、全体で「日本語」が96.8%で最も多く、次いで「その他の言語」が12.5%、「英語」が11.7%であった。その他の言語では、ベトナム語、インドネシア語、中国語などが挙げられていた。

図表 2-32 相談担当者が対応する言語(問 20-1)

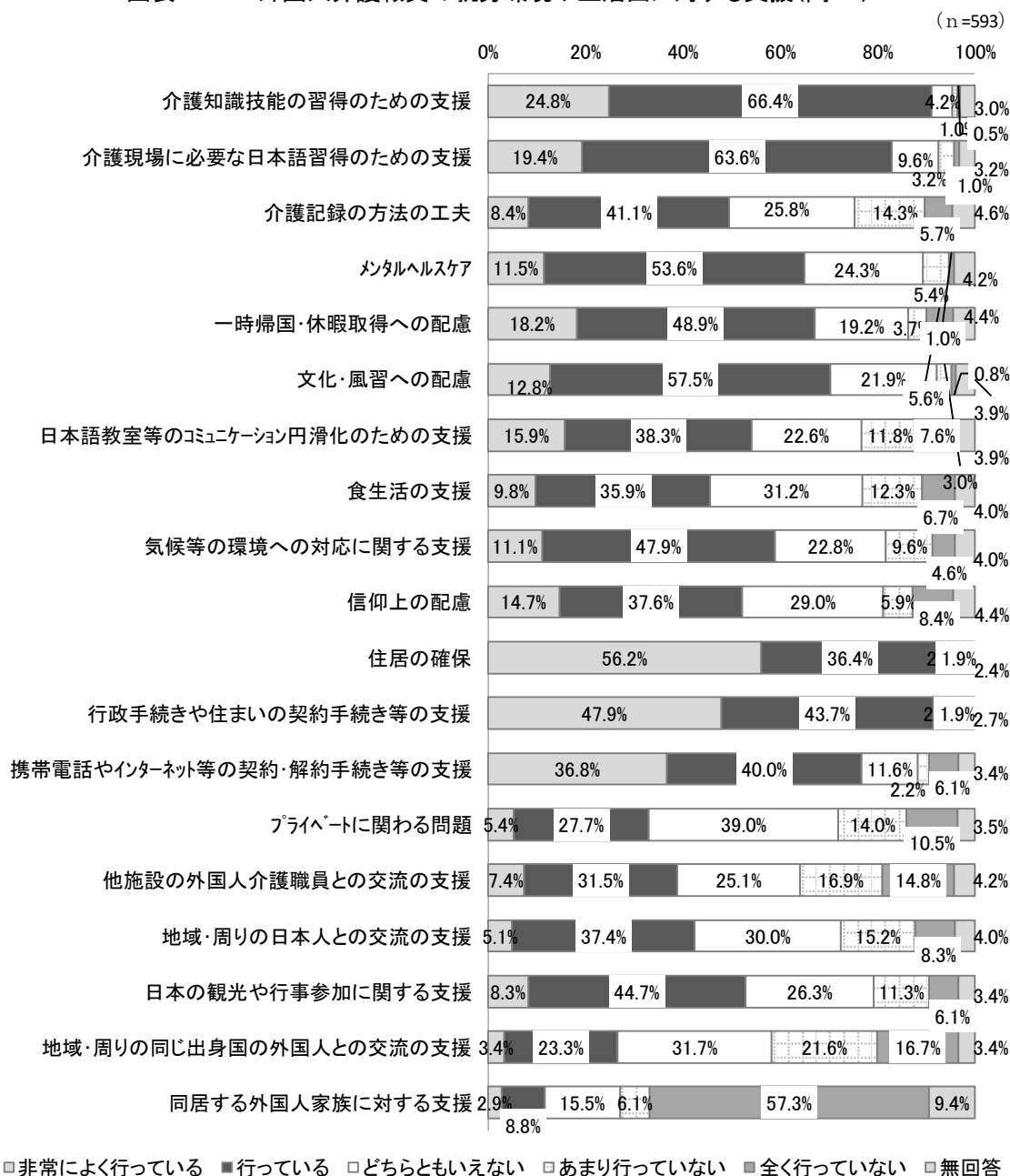




### 23 外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援

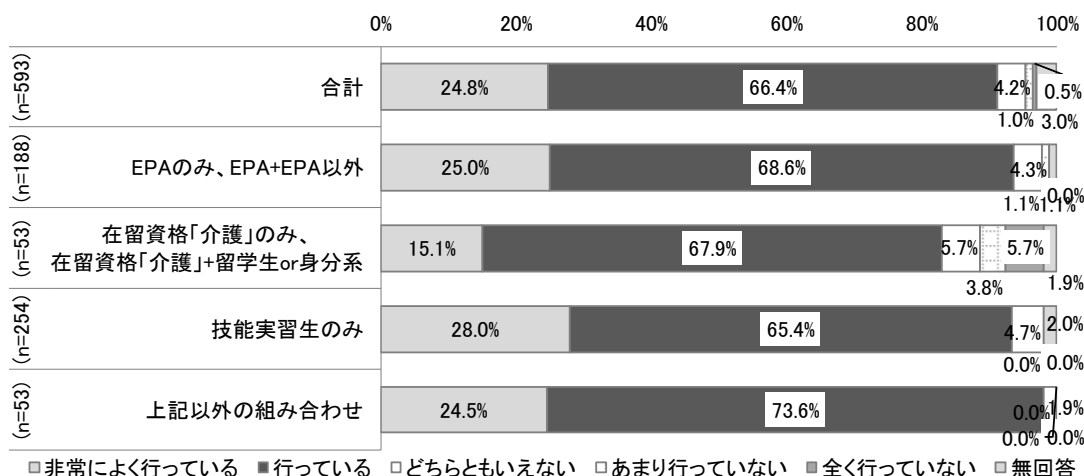
外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援において、「非常によく行っている」項目についてみると、「住居の確保」が56.2%と最も高く、次いで「行政手続きや住まいの契約手続き等の支援」が47.9%、「携帯電話やインターネット等の契約解約手続き等の支援」が36.8%であった。

図表 2-33 外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援(問 21)

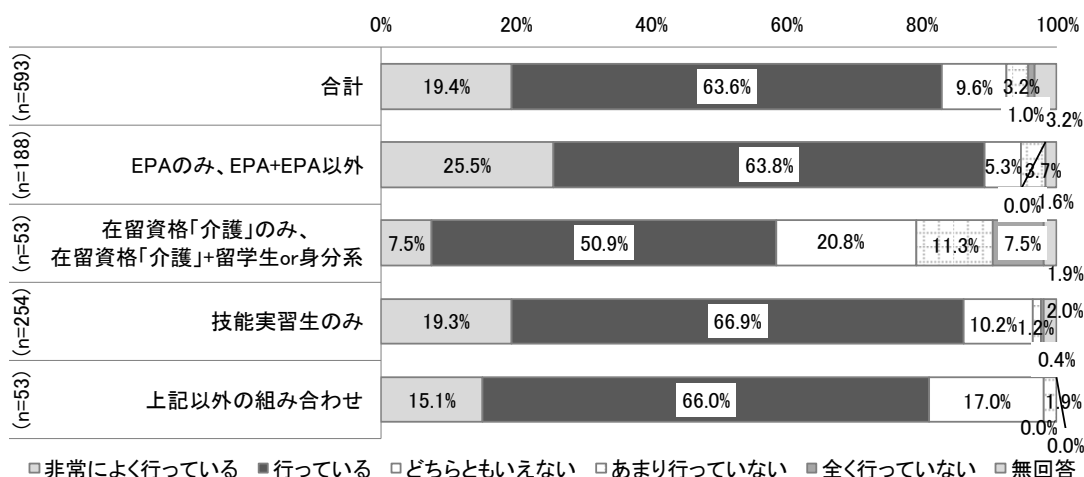


各種支援の実施状況について受入れ在留資格別にみたところ、支援項目によって、各受入れ在留資格の「非常によく行っている」割合の高低状況が異なっていた。

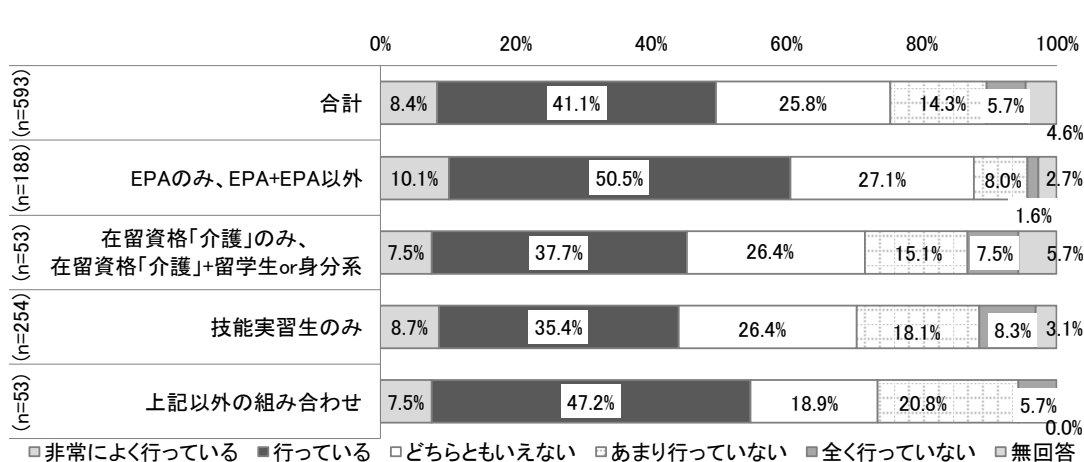
### <介護知識技能の習得のための支援>



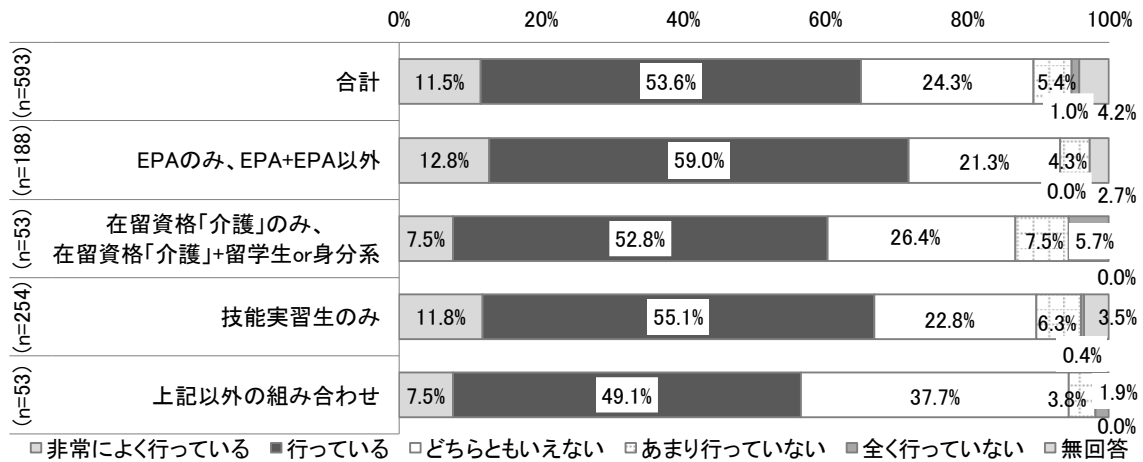
### <介護現場に必要な日本語習得のための支援>



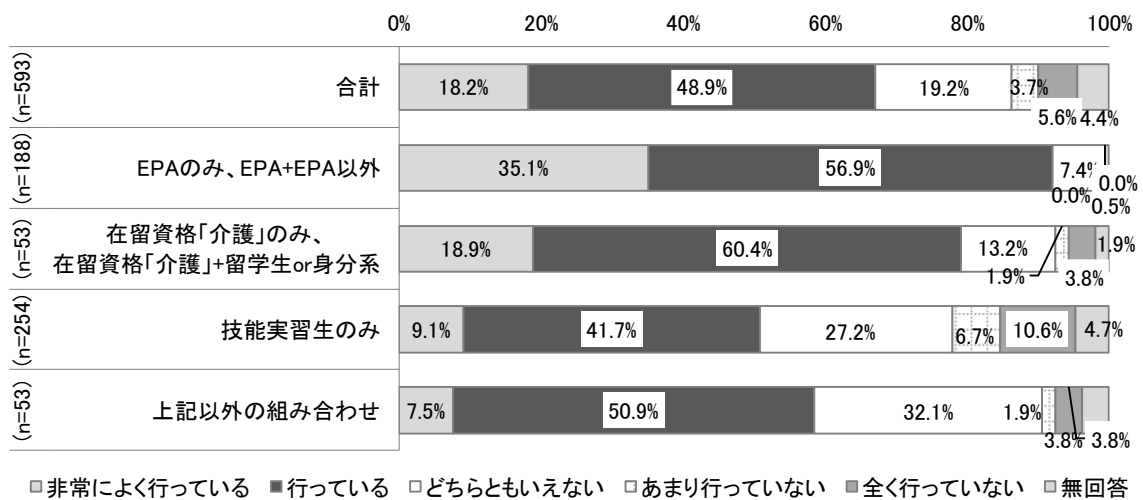
### <介護記録の方法の工夫>



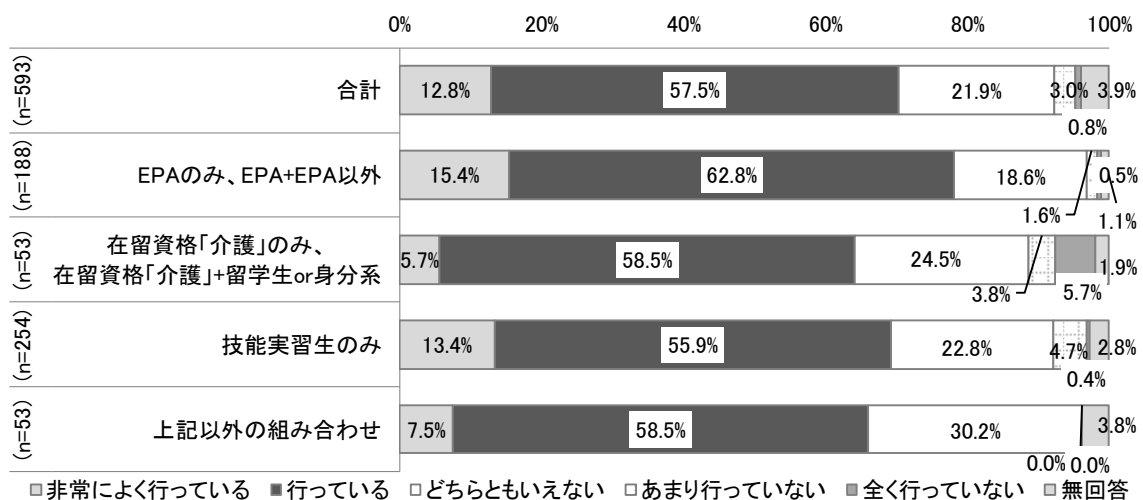
＜メンタルヘルスケア＞



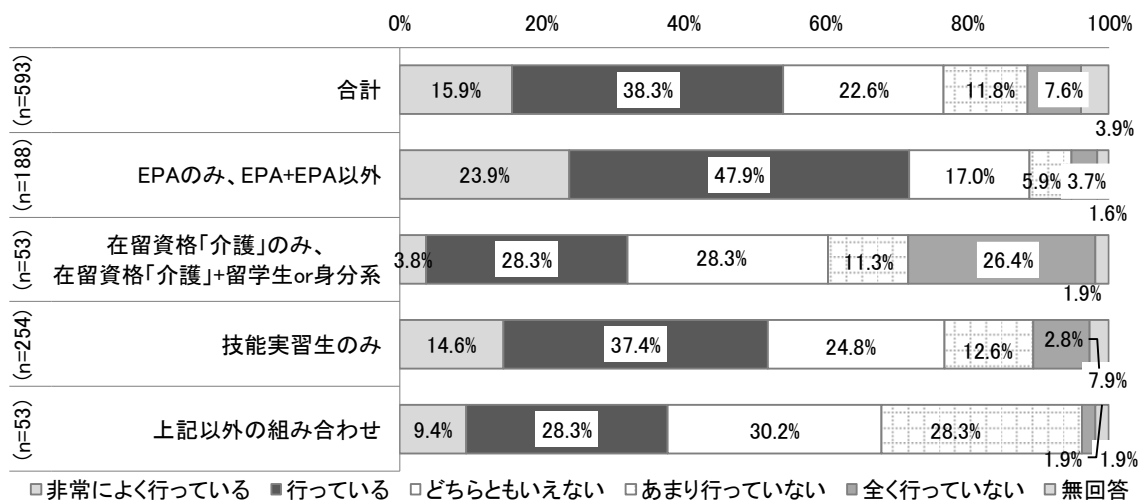
＜一時帰国・休暇取得への配慮＞



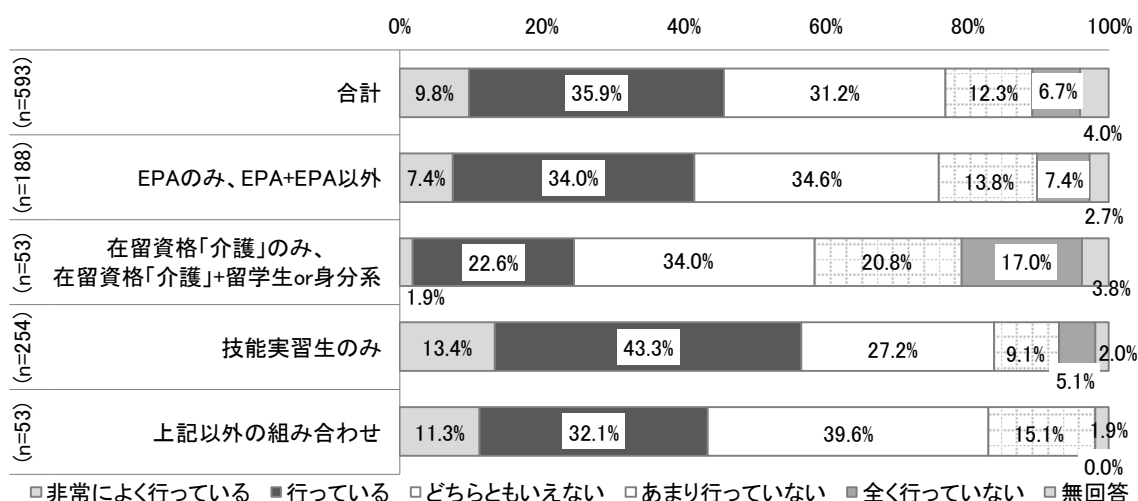
＜文化・風習への配慮＞



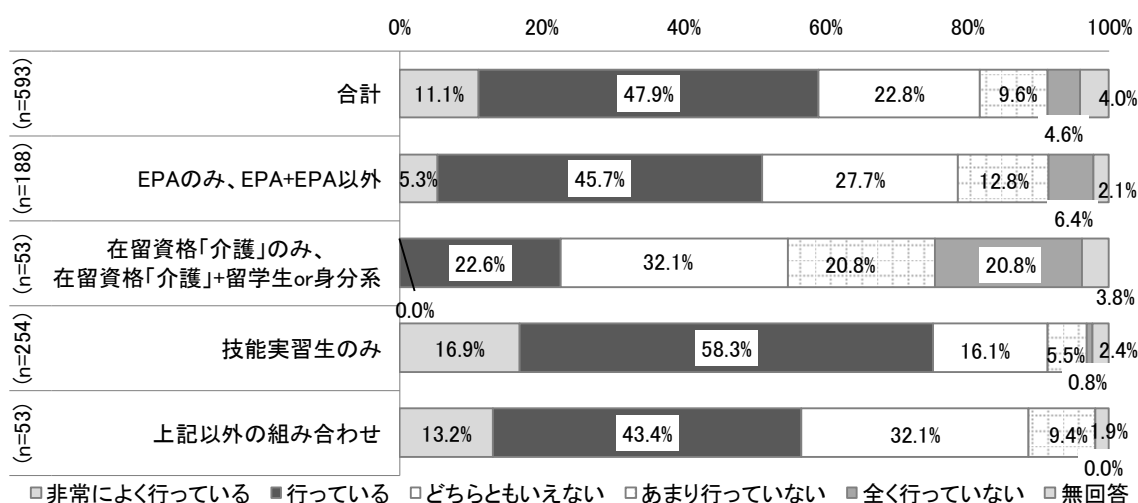
＜日本語教室等のコミュニケーション円滑化のための支援＞



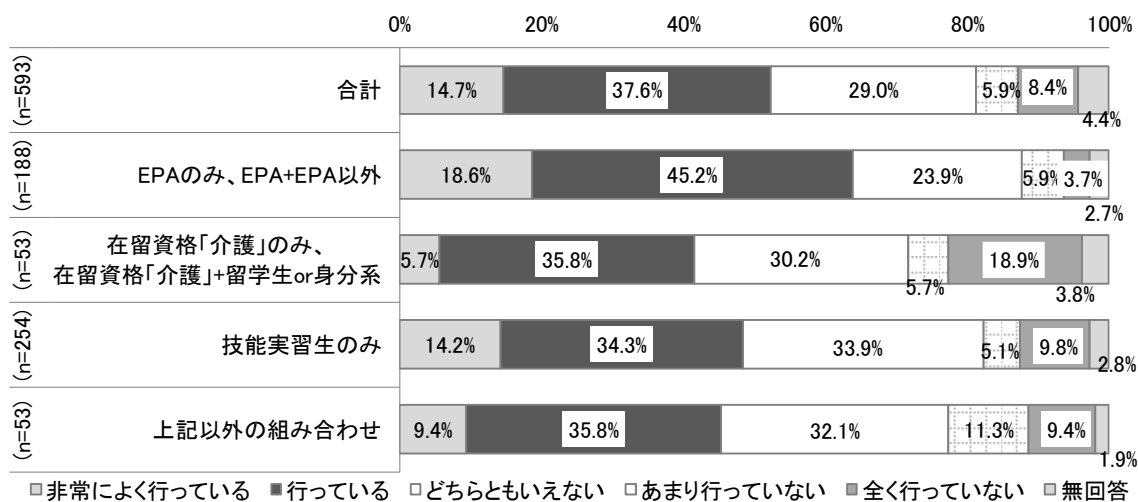
＜食生活の支援＞



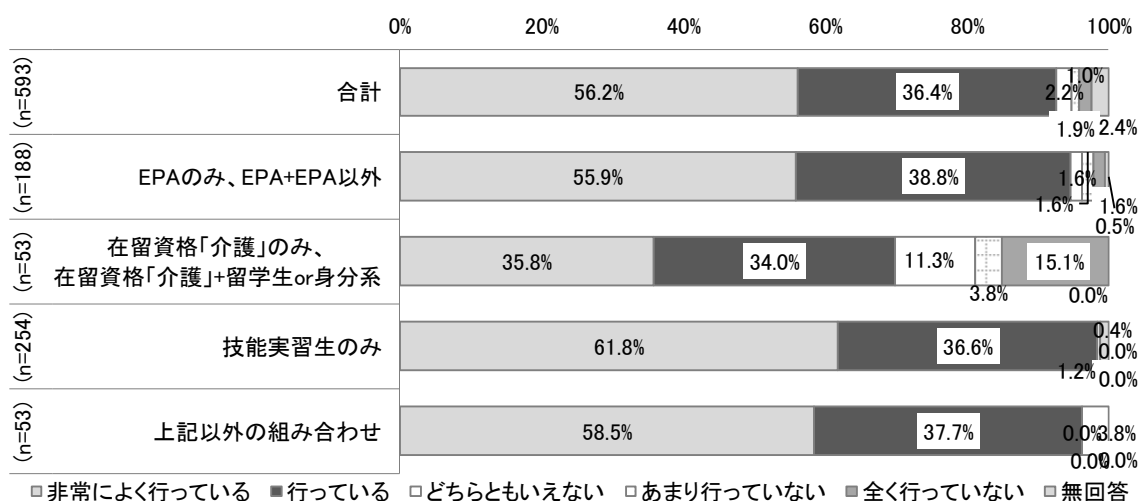
＜気候等の環境への対応に関する支援＞



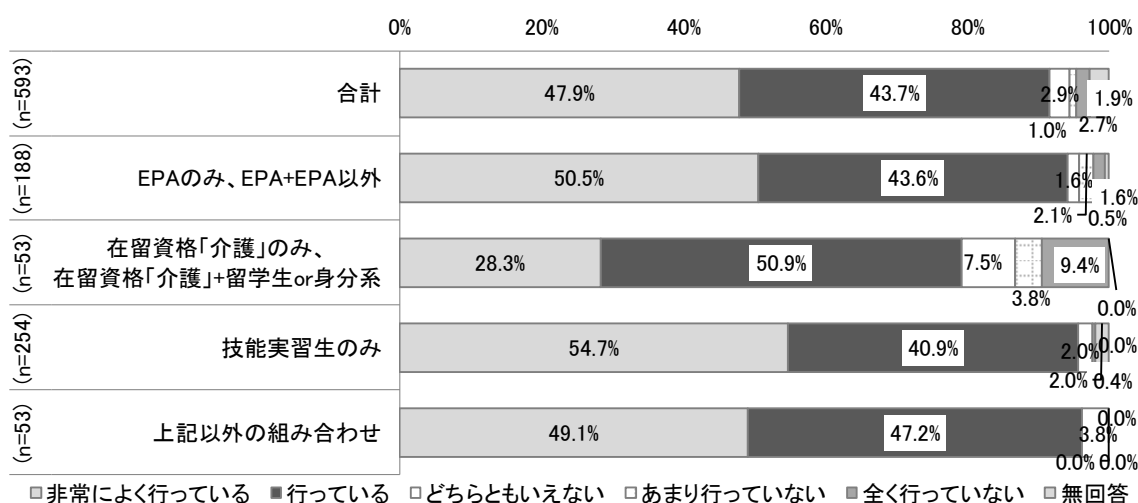
### <信仰上の配慮>



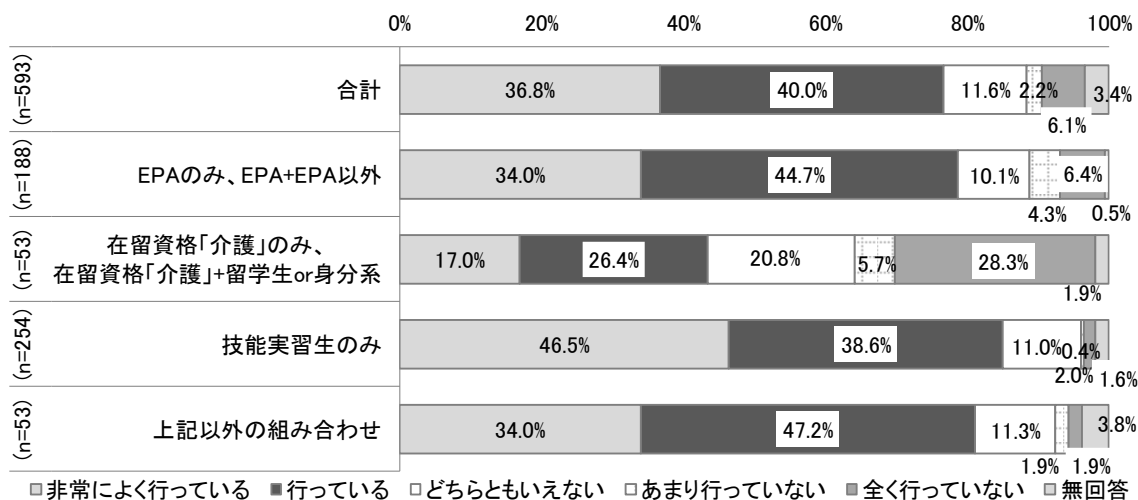
### <住居の確保>



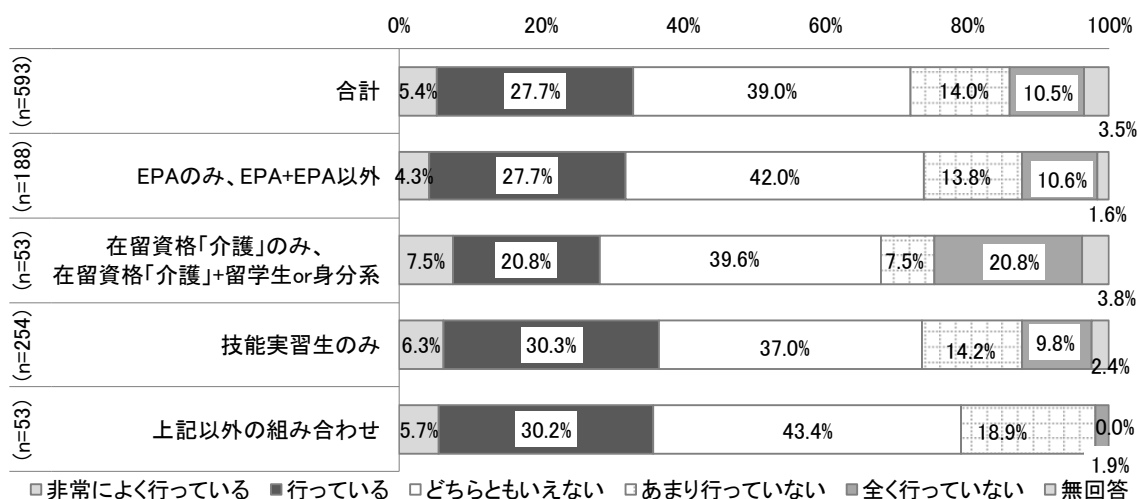
### <行政手続きや住まいの契約手続き等の支援>



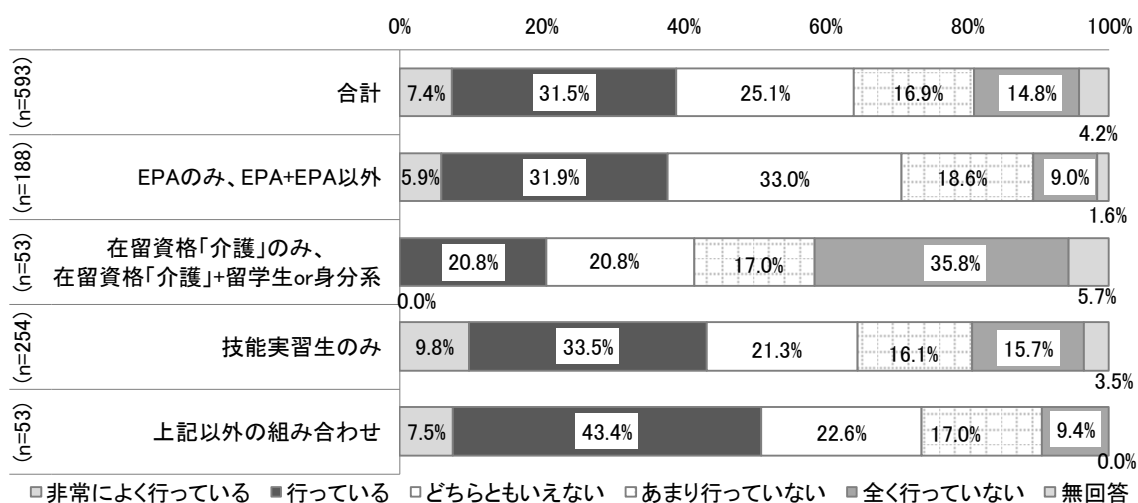
<携帯電話やインターネット等の契約・解約手続き等の支援>



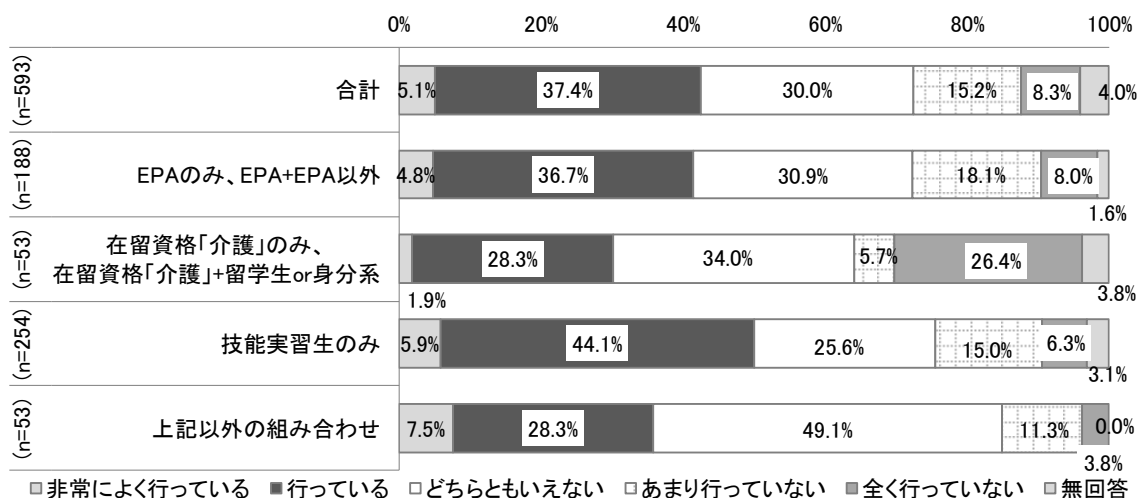
<プライベートに関わる問題>



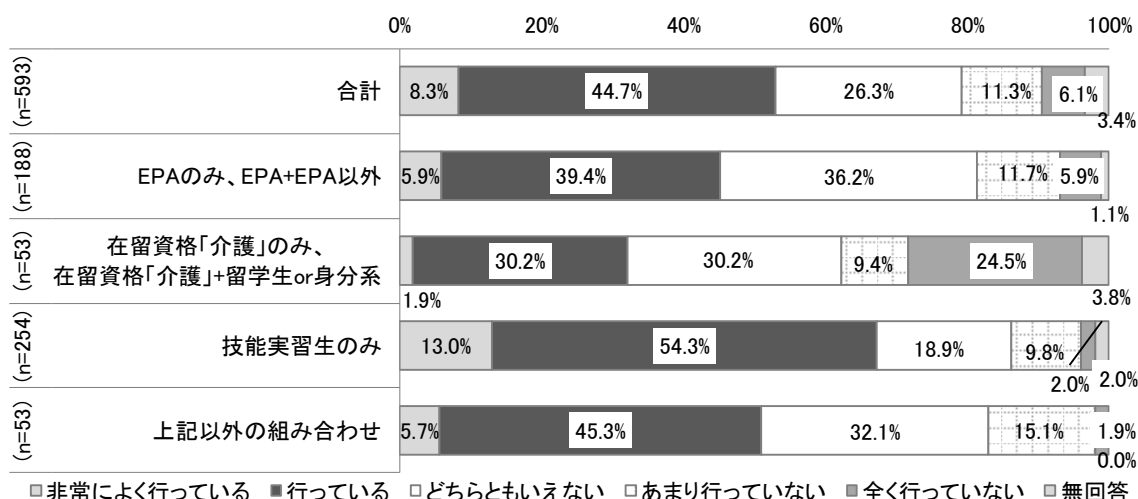
<他施設の外国人介護職員との交流の支援>



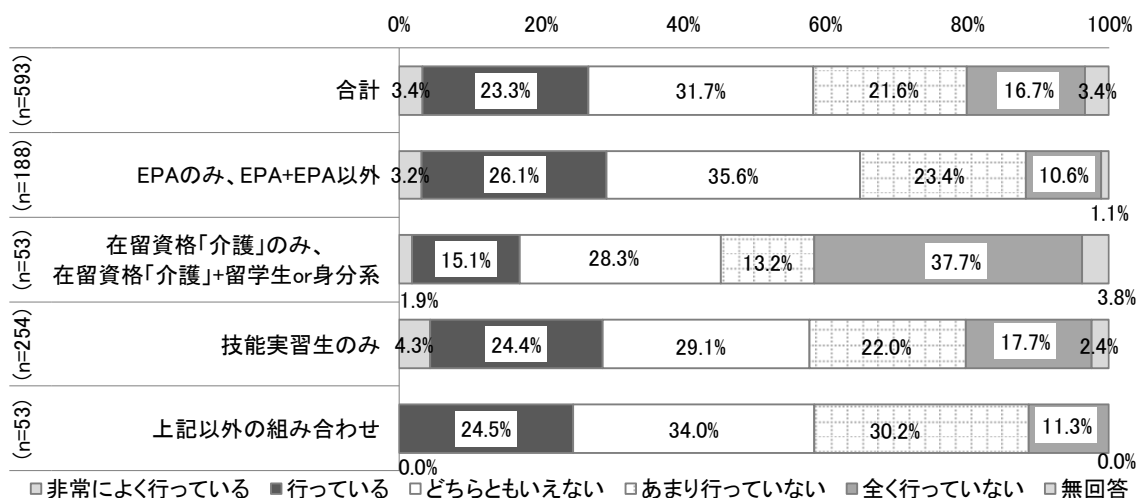
＜地域・周りの日本人との交流の支援＞



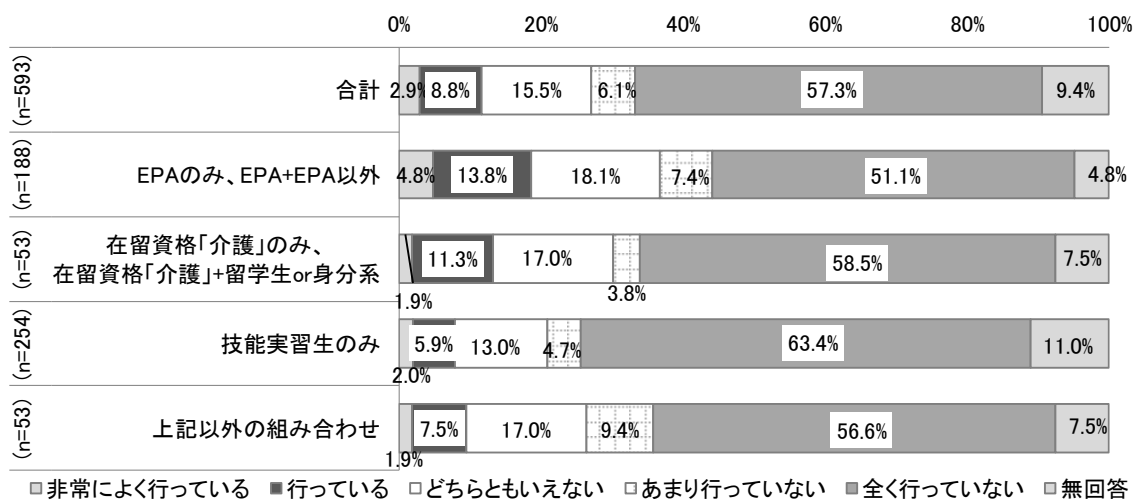
＜日本の観光や行事参加に関する支援＞



＜地域・周りの同じ出身国の外国人との交流の支援＞



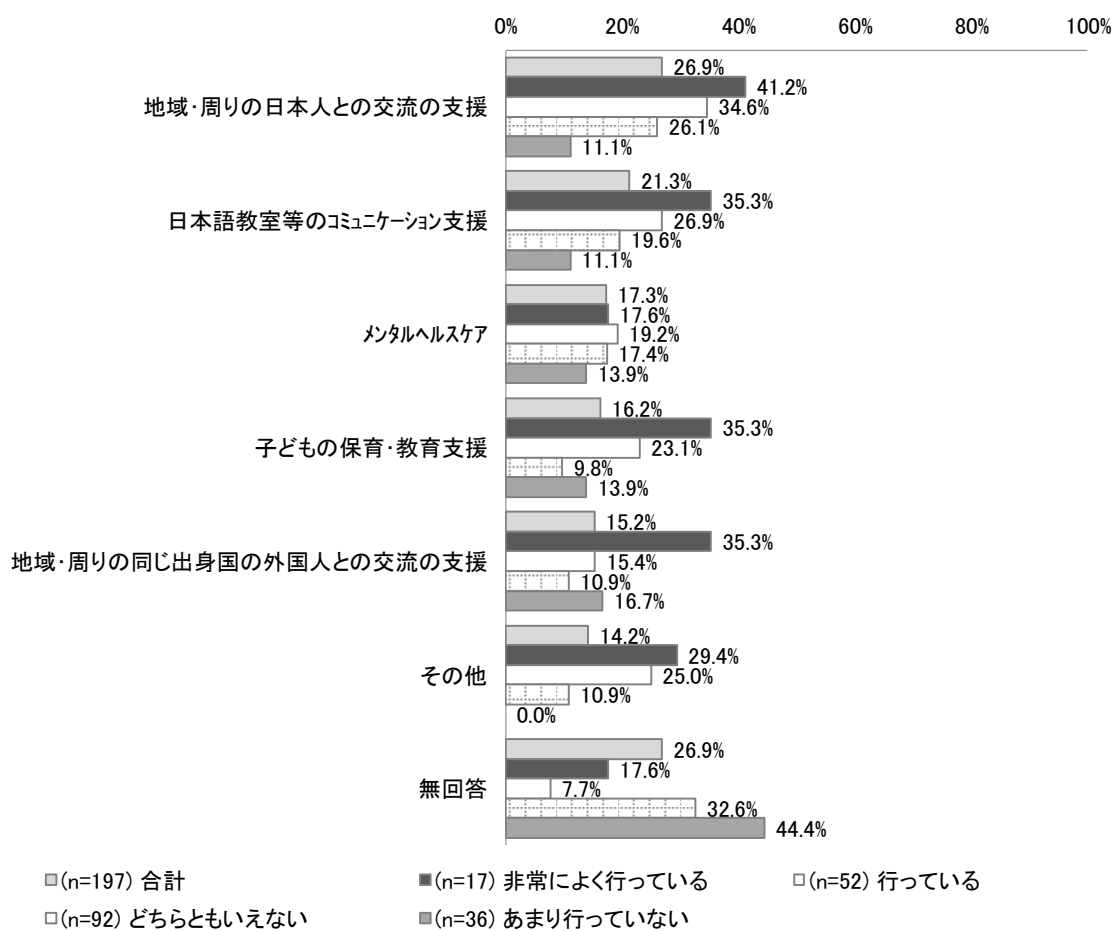
<同居する外国人家族に対する支援>





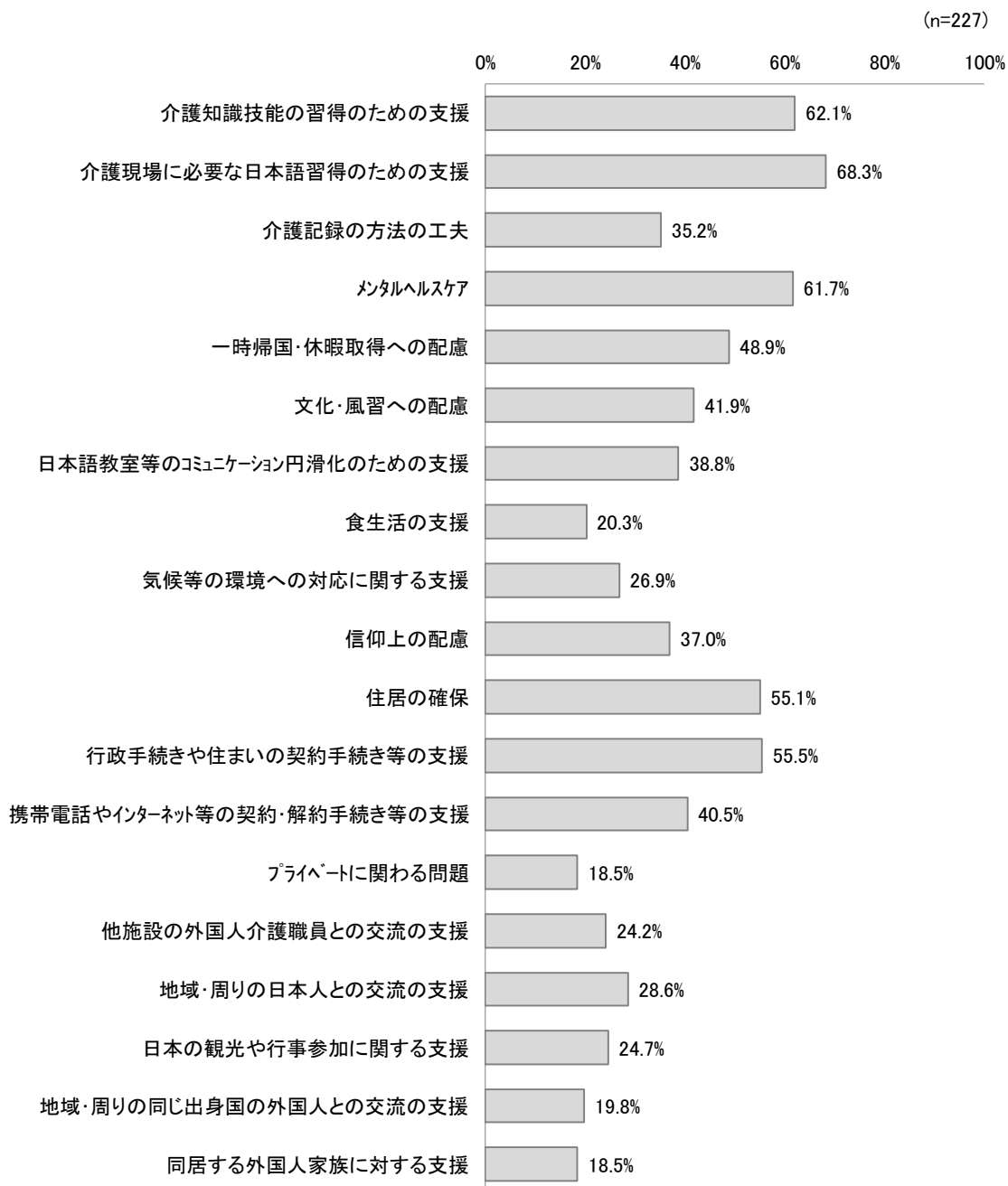
同居する外国人家族に対する支援で「全く行っていない」以外を選択した施設・事業所に対して支援内容について尋ねたところ、全体として「地域・周りの日本人との交流の支援」が26.9%と最も高く、次いで「日本語教室等のコミュニケーション支援」が21.3%、「メンタルヘルスケア」が17.3%であった。その他では、就職支援などが挙げられていた。

図表 2-34 外国人介護職員の家族に対する支援(問 21-1)



外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援・重要と思う支援は、「介護現場に必要な日本語習得のための支援」が68.3%と最も高く、次いで「介護知識技能の習得ための支援」が62.1%、「メンタルヘルスケア」が61.7%であった。

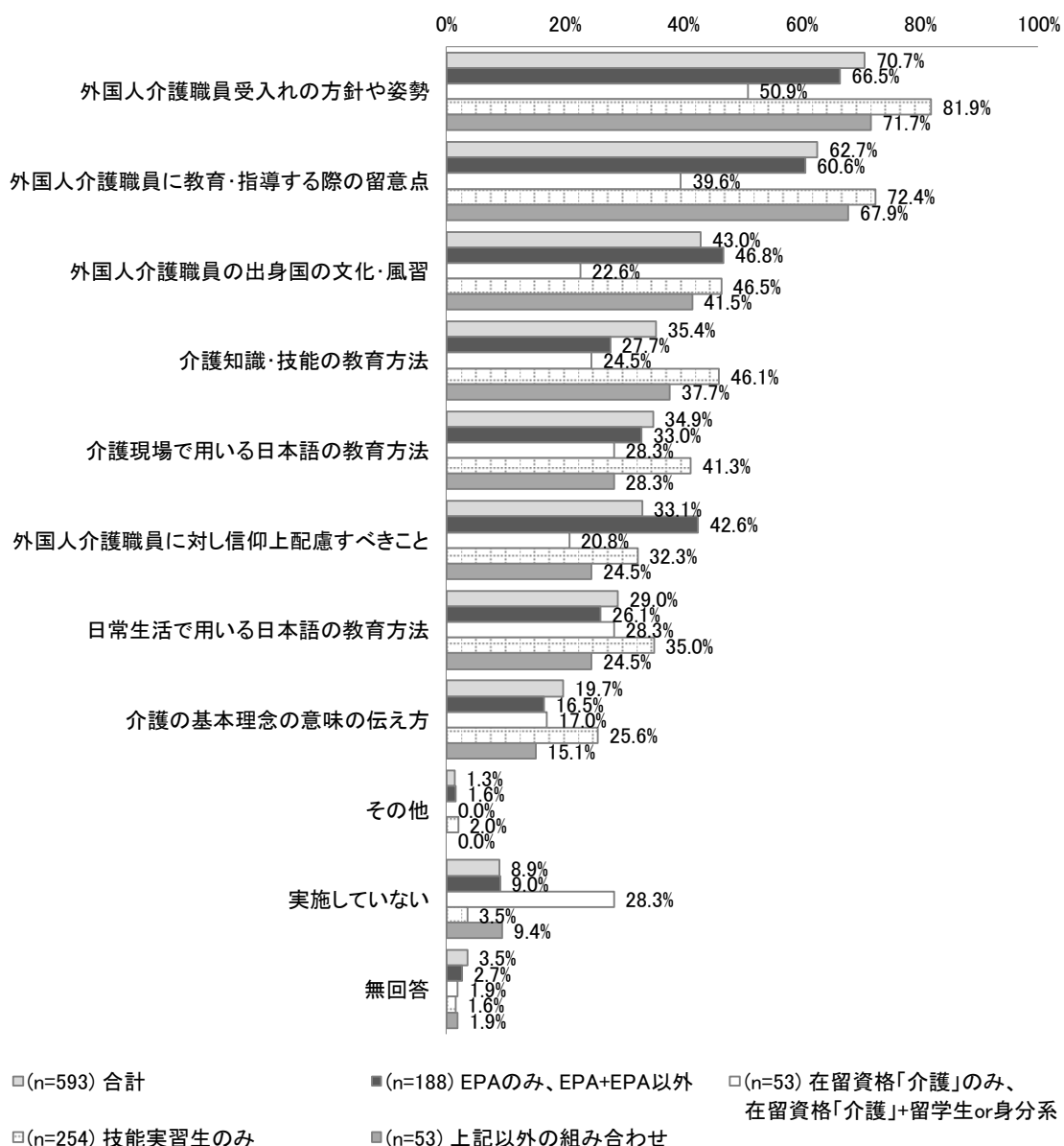
図表 2-35 外国人介護職員の就労環境や生活面に対する支援・重要と思う支援(問 21)



## 24 外国人介護職員受入れに係る日本人職員に対する研修等のテーマ

外国人介護職員受入れに係る日本人職員に対する研修等のテーマは、全体として「外国人介護職員受け入れ方針や姿勢」が70.7%と最も高く、次いで「外国人介護職員に教育・指導する際の留意点」が62.7%、「外国人介護職員の出身国の文化・風習」が43.0%であった。

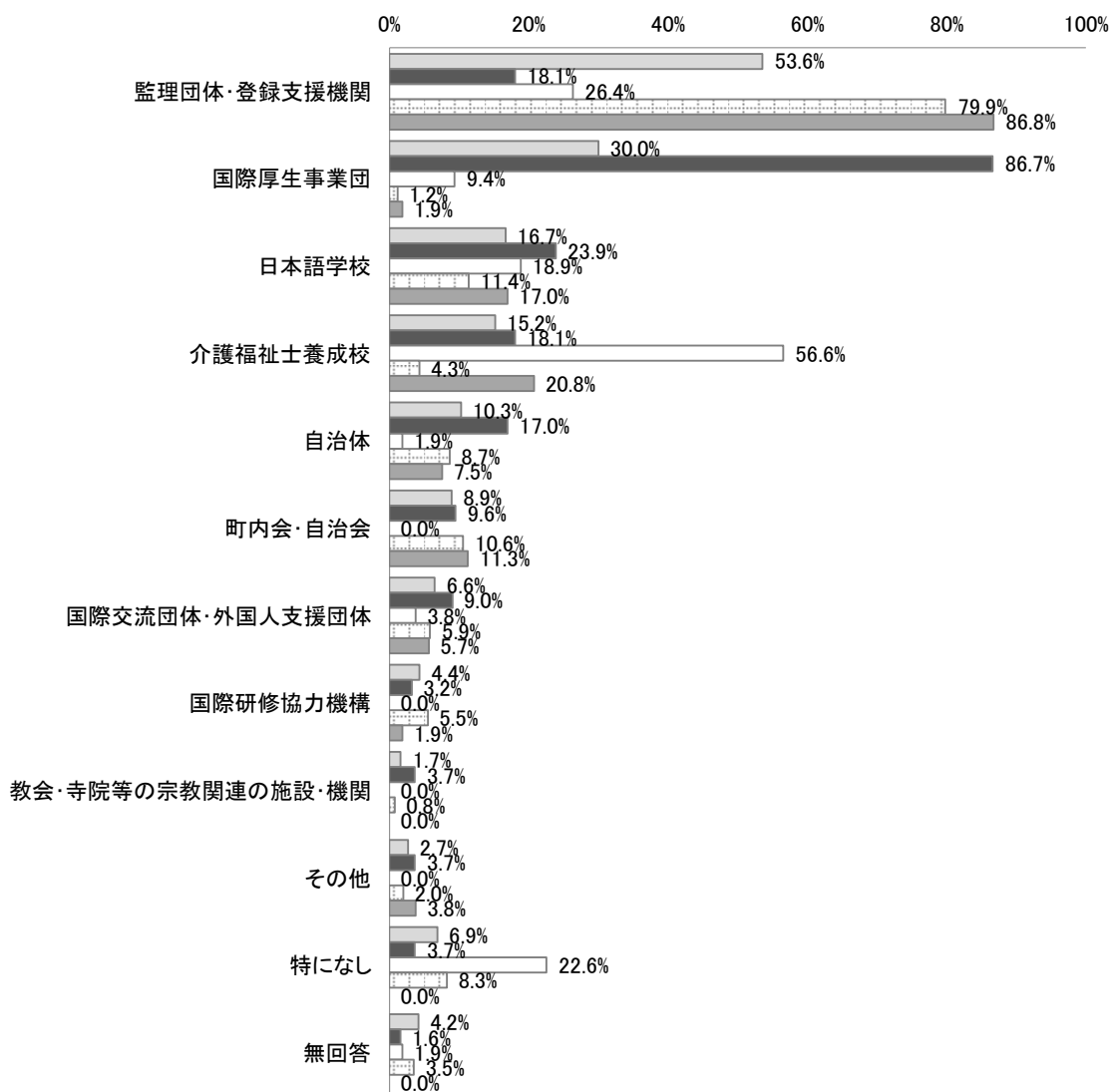
図表 2-36 外国人介護職員受入れに係る日本人職員に対する研修等のテーマ(問 22)



## 25 外国人介護職員の定着・活躍支援について連携している機関・団体等

外国人介護職員の定着・活躍支援について連携している機関・団体等は、全体として「監理団体・登録支援機関」が53.6%と最も高く、次いで「国際厚生事業団」が30.0%、「日本語学校」が16.7%であった。

図表 2-37 外国人介護職員の定着・活躍支援について連携している機関・団体等(問 23)



□(n=593) 合計

■(n=188) EPAのみ、EPA+EPA以外

□(n=53) 在留資格「介護」のみ、  
在留資格「介護」+留学生or身分系

□(n=254) 技能実習生のみ

■(n=53) 上記以外の組み合わせ

図表 2-38 関係機関・団体との連携内容(問 23-1)

**【日本語学校】**

- ・訪問活動・県担当部署との情報交換(支援対策等)・定期的面談支援。
- ・学習支援。学習支援への補助金。
- ・監理団体を通して、日本語学校と連携している。
- ・必要情報の届出。
- ・困った時の支援や日本語で理解困難な時に通訳をお願いしている。
- ・情報交換(勉強や、仕事)。
- ・日本語学校(研修センター)については、施設配属後も、他の技能実習生達との交流の機会を得ています。監理団体は、実習生の相談にも応じて頂いています。
- ・日本語講師による週1回の日本語学習。
- ・月1回の面談時に報告と相談。
- ・生活面での支援。(奨学金の寄付。お祭への参加など)・自治会では避難訓練への参加や避難時の対応確認。
- ・学校での日本語・専門的知識の習得 定期的な試験の実施。定期巡回による取り組み状況の把握、教育へのアドバイス。
- ・市内の日本語教師とマンツーマンでの教育指導の実施。
- ・日本語の習得 役所等の手続き。
- ・日本語検定試験学習・介護の言葉学習。
- ・毎月1回の施設への巡回監査の実施。
- ・日本語教育支援、国家試験対策、面談による生活課題支援。
- ・法人内研修機関による、定期的な日本語で介護技術についての教育等。
- ・卒業生・在校生の紹介。
- ・外国人への指導方法、や文化的な違いを、注意する、事情)指導してもらっている。
- ・日本語学校生のアルバイト受け入れ。
- ・日本語講師との日本語能力レベルの確認や対策の確認、受入状況の確認、報告と支援内容の確認。 / 等

**【介護福祉士養成校】**

- ・介護資格取得の為の研修。
- ・定期的な情報交換。
- ・留学生の施設実習の受け入れ。
- ・専門学校への受講手続き、日常の授業の様子の報告を受けている。
- ・週に1回通学し、介護福祉士受験科目の学習。
- ・養成校在席時からアルバイトとして採用し、定期的な報告会をし、情報の共有を図っている。
- ・学校訪問や説明会参加。
- ・就職担当者と連携し、就職までの行政手続を支援。
- ・外国人仲介業者が間に入り本人と施設が面談しお互いが気に入れば4月～専門学校に通い資格取得の為の支援を行う。卒業後は本人が希望すればその施設で働く事が出来る。
- ・資格取得の手引き、留学生の紹介。。
- ・授業態度や成績、普段の様子等。
- ・オープンキャンパスの受け入れ。
- ・卒業生・在校生の紹介。
- ・介護福祉士養成校及び町内会との定期的に交流会を実施しています。EPAは国際厚生事業団、技能実習生は監理団体と連携が図れるように定期的報告をしています。
- ・介護福祉士国家試験合格に向けての研修・講義の実施。
- ・情報の共有や卒業後も学校のOBとして行事等に参加している
- ・介護福祉士試験対策週1日。
- ・雇用している職員の出身校の教員と勤務状況や態度等の情報交換をしている。性格や学生時の様子など、本人の特徴を踏まえた対応につなげるようにしている。
- ・奨学金サポートと休日のアルバイトサポート。
- ・授業参観、担任との面談。 / 等

**【自治体(都道府県、市町村)】**

- ・自治体主催の研修会への参加。
- ・自治体の催しに参加協力。
- ・助成金の申請。
- ・外国人介護福祉士候補者受入施設学習支援事業費補助金交付。
- ・自治体の翻訳ボランティア登録や国際文化を紹介するフェスタへの参画。
- ・区長を介しての地域との関わり、都道府県、市町村への情報提供、現状報告。 /等

**【国際厚生事業団(JICWELS)】**

- ・学習支援。
- ・試験対策研修参加。
- ・各種手続きの相談。
- ・情報交換、共有、必要情報の届出、実習生受入れ。
- ・巡回訪問等を通して指導助言を頂いている。
- ・教育計画の作成。
- ・定期的な面談。
- ・年間でテキストに応じた、定期的な試験の実施、分析、日本語教師の派遣。
- ・定期的な学習支援、情報提供。 /等

**【国際研修協力機構(JITCO)】**

- ・技能実習生の受け入れ準備。
- ・技能実習生受け入れの準備についての指導や、月1回の定期訪問。
- ・監理団体がJITCOより情報を提供してもらい、それを事業所にも伝えて頂いている。 /等

**【監理団体・登録支援機関】**

- ・送り出し機関の情報を得ている。
- ・相談、問合わせ等をしている。
- ・1ヶ月に1回話し合いの場をもうけている。
- ・監理団体を通して、日本語学校と連携している。
- ・監理団体との情報交換・研修参加等。
- ・監理団体担当職員による1ヶ月に一度の面談。監査(3ヶ月に1回)の実施。 /等

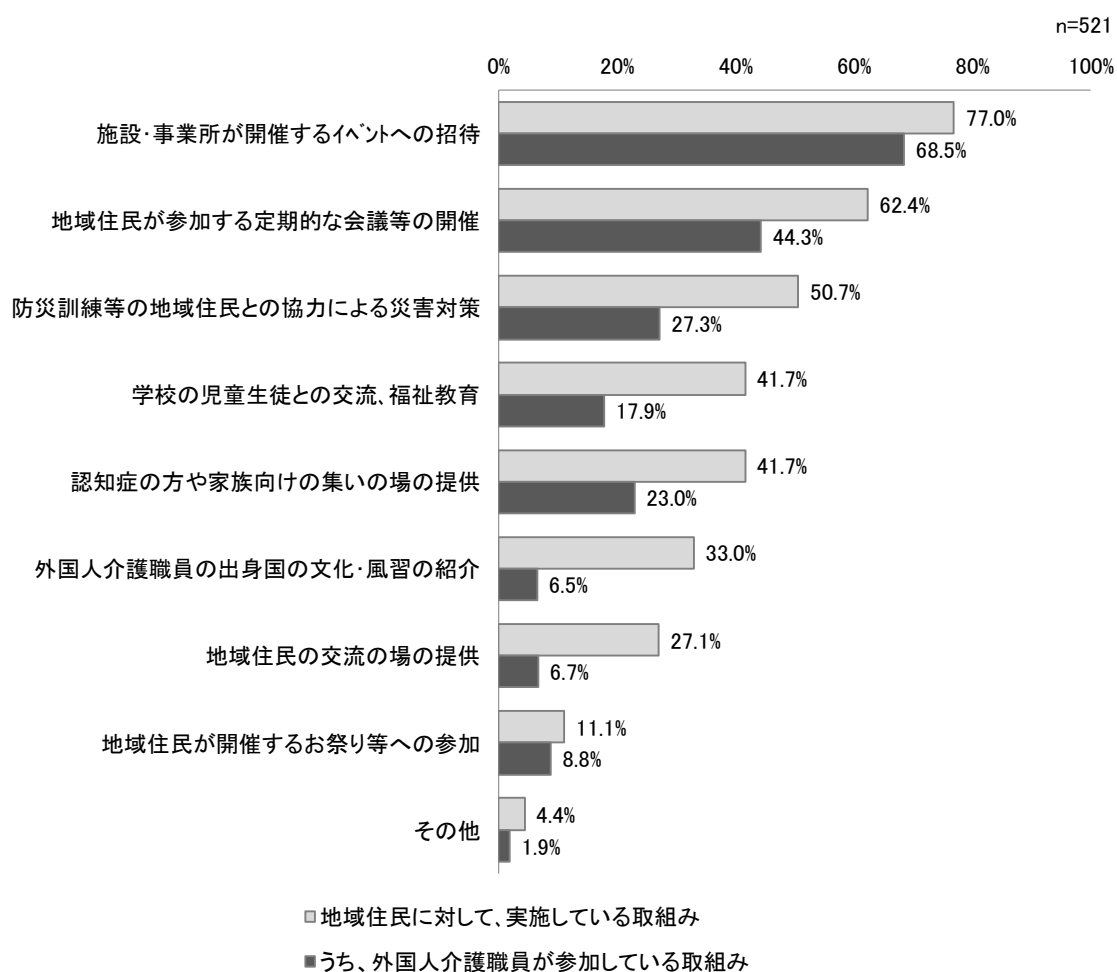
**【町内会・自治会】**

- ・地域活動への参加。
- ・町内会には日本人スタッフが出向き、回覧やゴミについて決めてきた。
- ・町内会、自治会行事への事業所としての参加、職員派遣。 /等

## 26 地域住民に対して実施している取組みと実際に外国人介護職員が参加している取組み

地域住民に対して実施している取組みと実際に外国人介護職員が参加している取組みは、ともに「施設・事業所が開催するイベントへの招待」が最も高く、次いで「地域住民が参加する定期的な会議等の開催」、「防災訓練等の地域住民との協力による災害対策」の順番であった。

図表 2-39 地域住民に対して実施している取組み(問 24)と  
実際に外国人介護職員が参加している取組み(問 24-1)



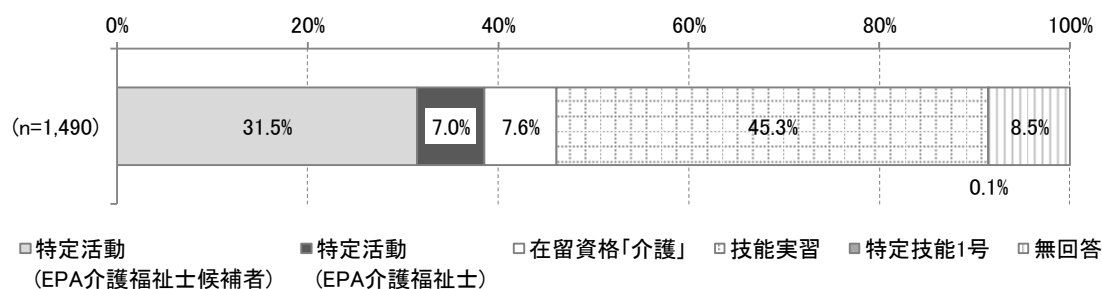
※上図は、「地域住民に対して実施している取組み」と「実際に外国人介護職員が参加している取組み」の両方について回答している施設・事業所について集計。

## (2) 事業所調査票②

### ① 在留資格

在留資格は、「技能実習」が45.3%と最も高く、次いで「特定活動（EPA 介護福祉士候補者）」が31.5%、「在留資格「介護」」が7.6%であった。

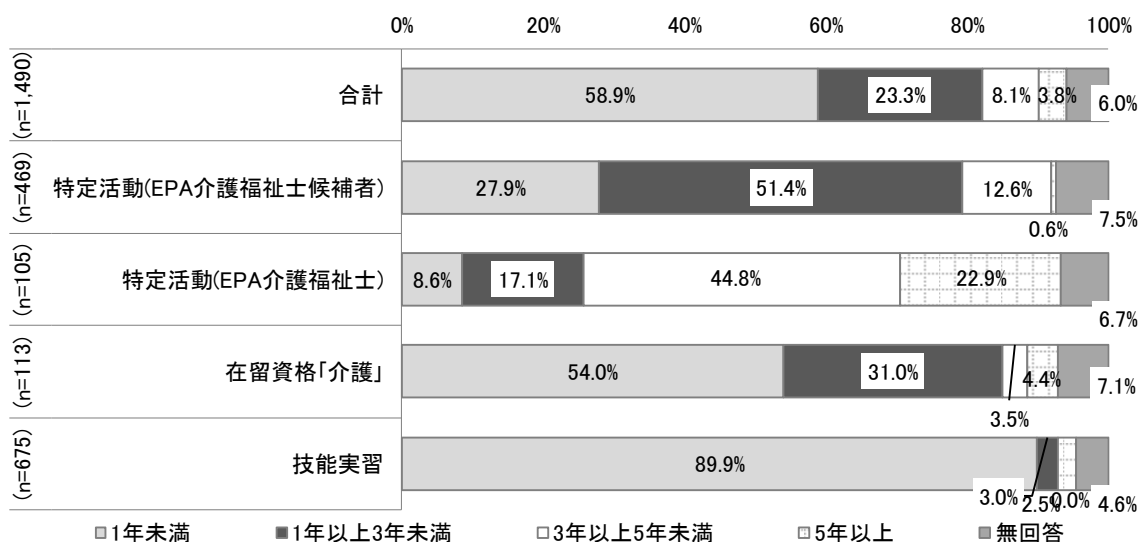
図表 2-40 在留資格(問1)



### ② 就労期間

現在の施設における就労期間は、「技能実習」、「在留資格「介護」」、「特定活動 EPA 介護福祉士候補者」、「EPA 介護福祉士」の順に長期化していく傾向がある。「在留資格「介護」」と「技能実習」では、「1年未満」が最多（それぞれ54.0%、89.9%）となっている。

図表 2-41 就労期間(問1)



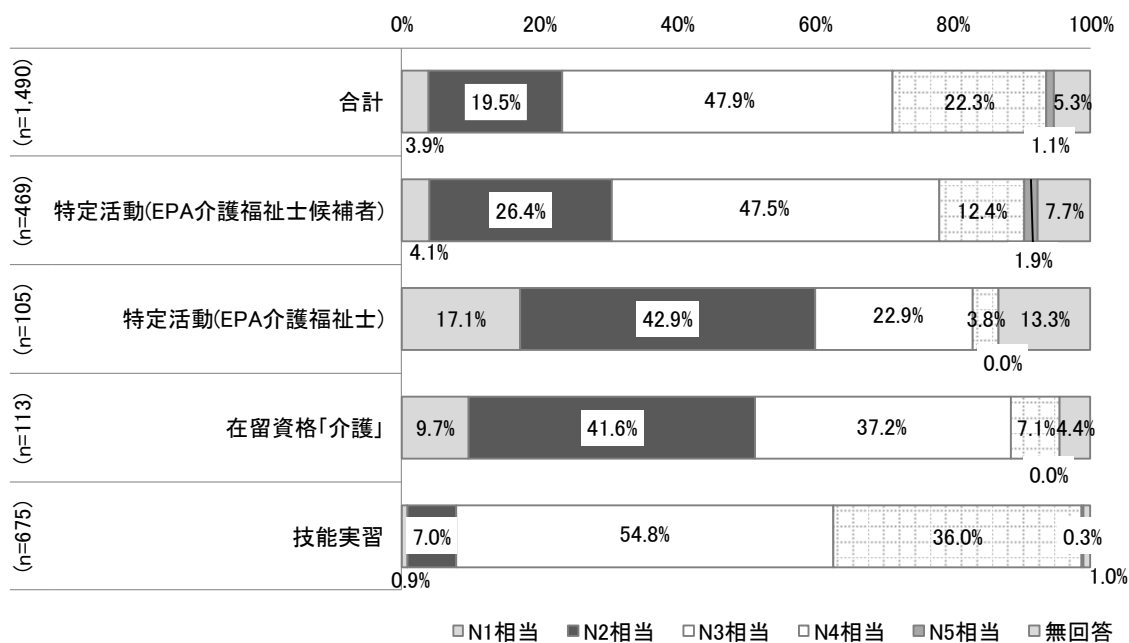


### ③ 現在の日本語能力

現在の日本語能力は、全体として「N3相当」が47.9%と最も高く、次いで「N4相当」が22.3%、「N2相当」が19.5%であった。

図表 2-42 現在の日本語能力(問1)

<在留資格別>



#### ④ 能力・スキル等

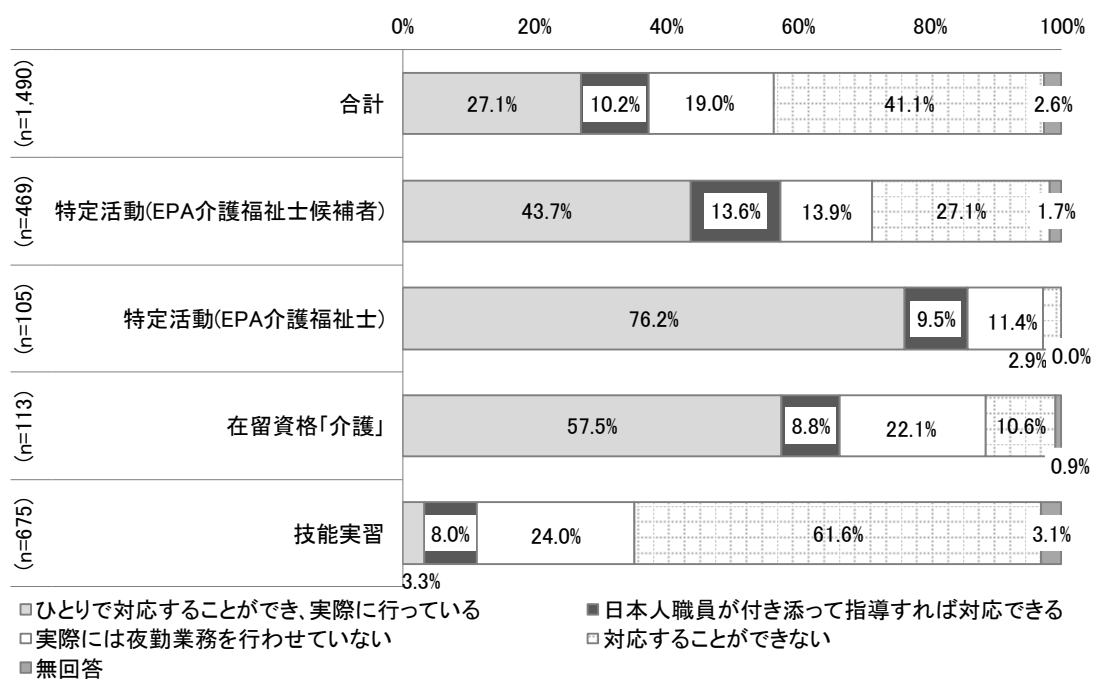
能力・スキル等：夜勤業務は、全体として「対応することができない」が41.1%と最も高く、次いで「ひとりで対応することができ、実際に行っている」が21.7%、「実際には夜勤業務を行わせていない」が19.0%であった。

在留資格別にみたところ、「ひとりで対応することができ、実際に行っている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の76.2%であった。日本語能力N2相当、N3相当だけで見ても同じ傾向であった。

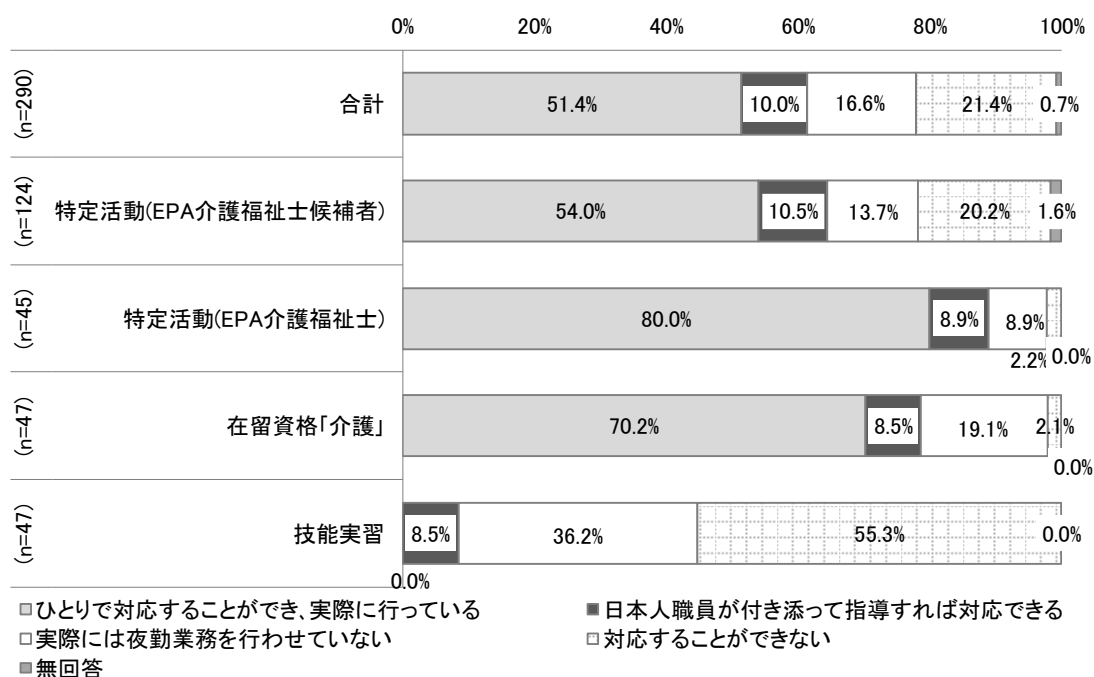
また、日本語能力別にみたところ、「ひとりで対応することができ、実際に行っている」割合が最も高いのは「N1相当」の74.1%であった。

図表 2-43 夜勤業務(問2)

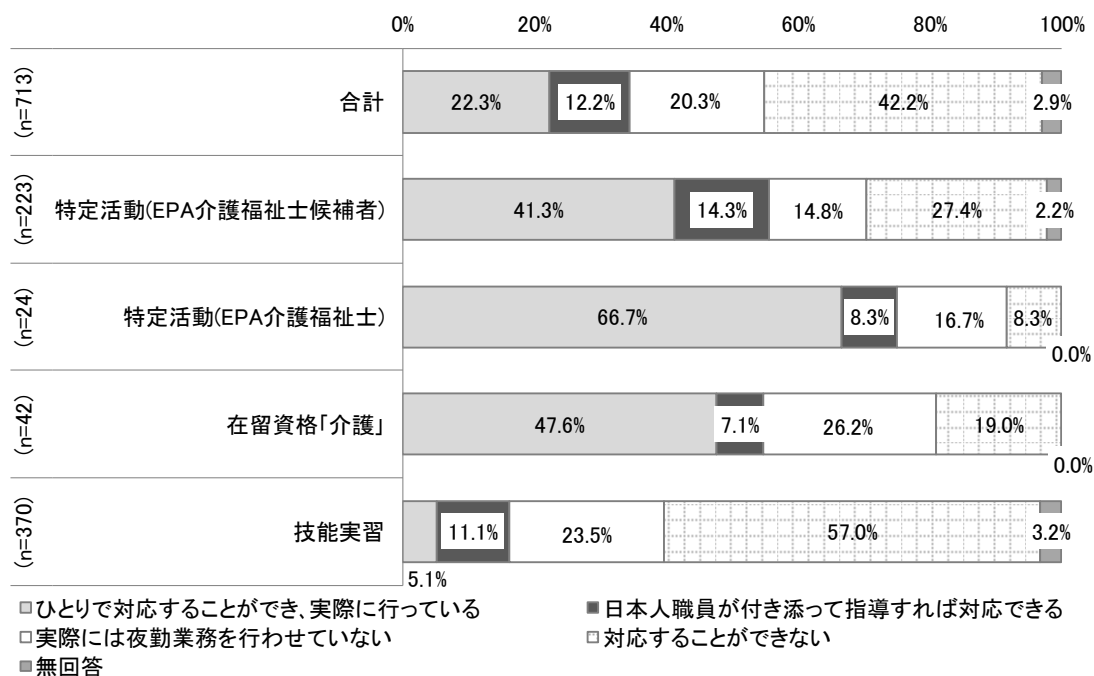
<在留資格別>



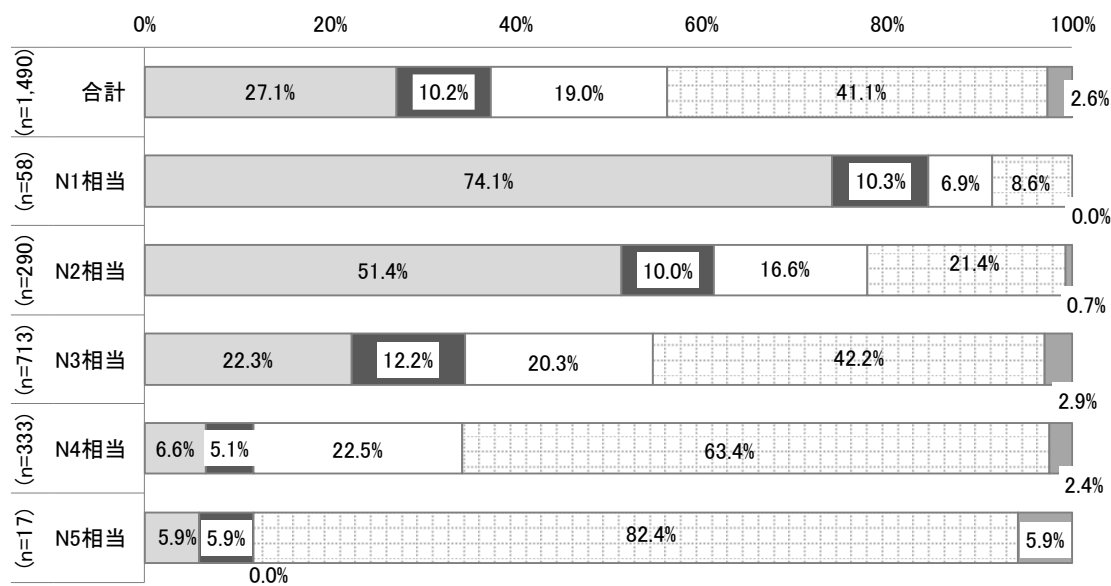
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



- ひとりに対応することができ、実際に行っている
- 実際には夜勤業務を行わせていない
- 日本人職員が付き添って指導すれば対応できる
- 対応することができない

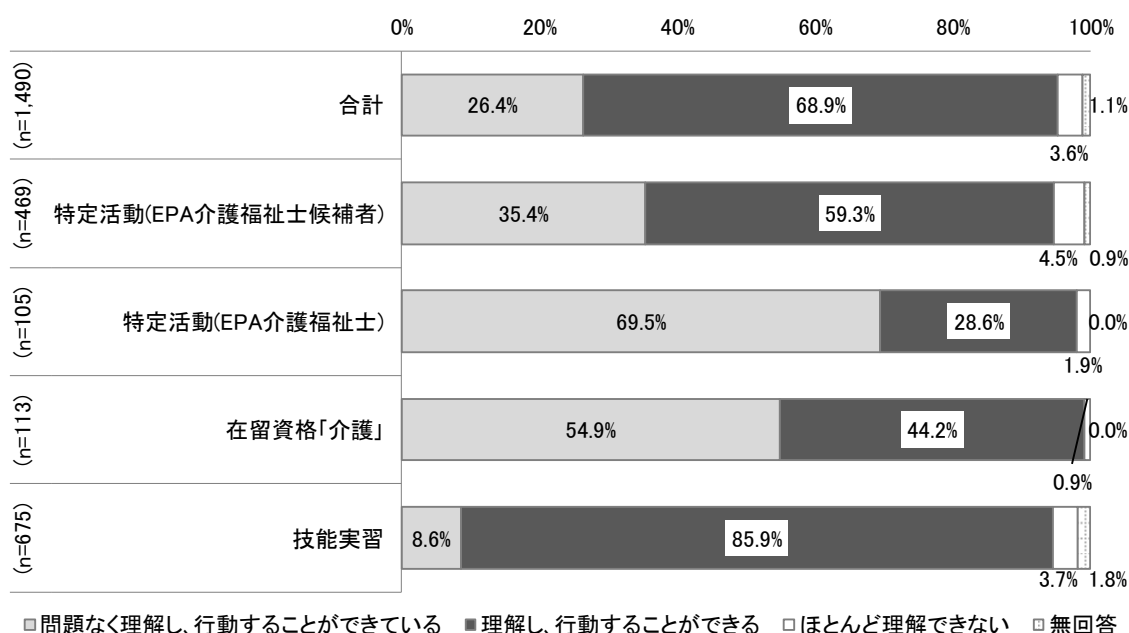
能力・スキル等：引継ぎ・申し送りの理解は、全体として「理解し行動することができる」が68.9%と最も高く、次いで「問題なく理解し、行動することができる」が26.4%、「ほとんど理解できない」が3.6%であった。

在留資格別にみたところ、「問題なく理解し、行動することができる」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の69.5%であった。日本語能力N2相当、N3相当だけで見ても同じ傾向であった。

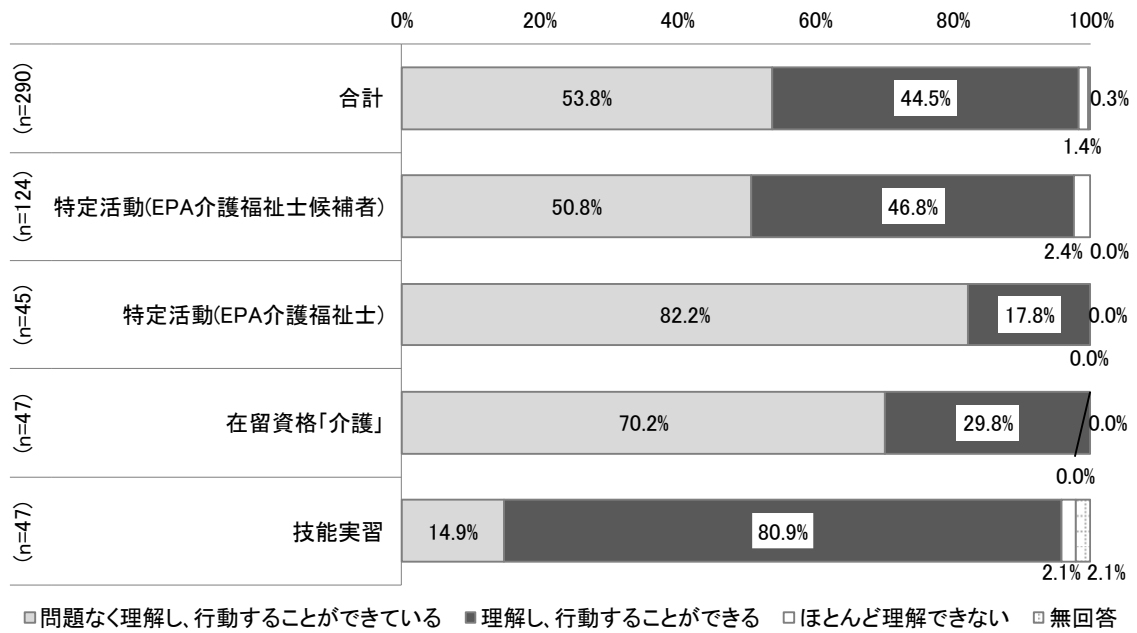
また、日本語能力別にみたところ、「問題なく理解し、行動することができる」割合が最も高いのは「N1相当」の77.6%であった。

図表 2-44 引継ぎ・申し送りの理解(問2)

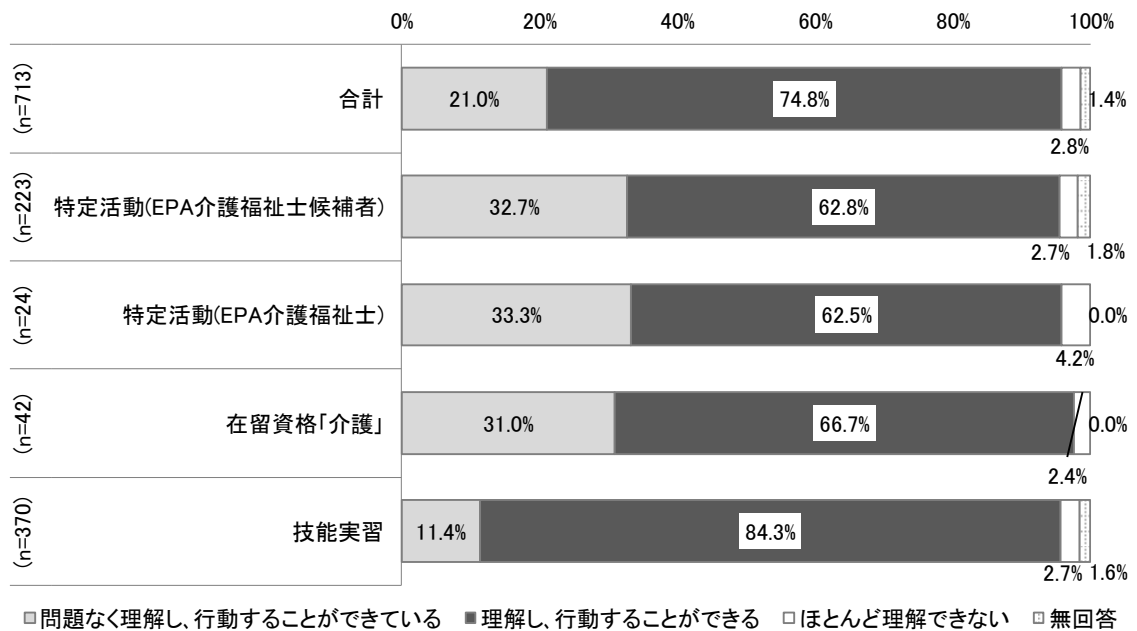
<在留資格別>



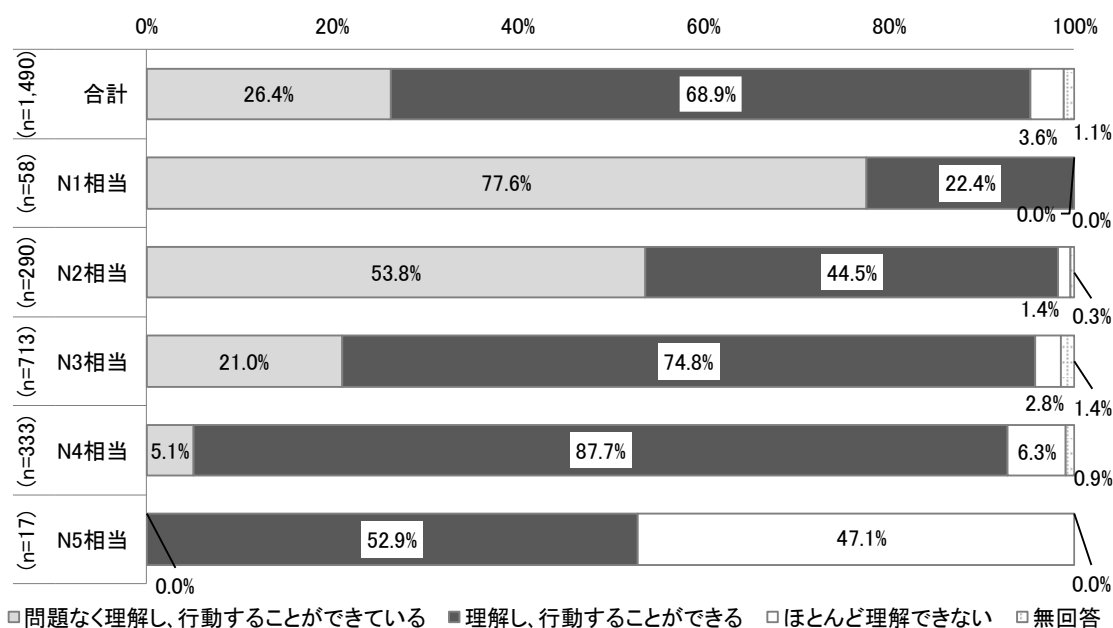
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



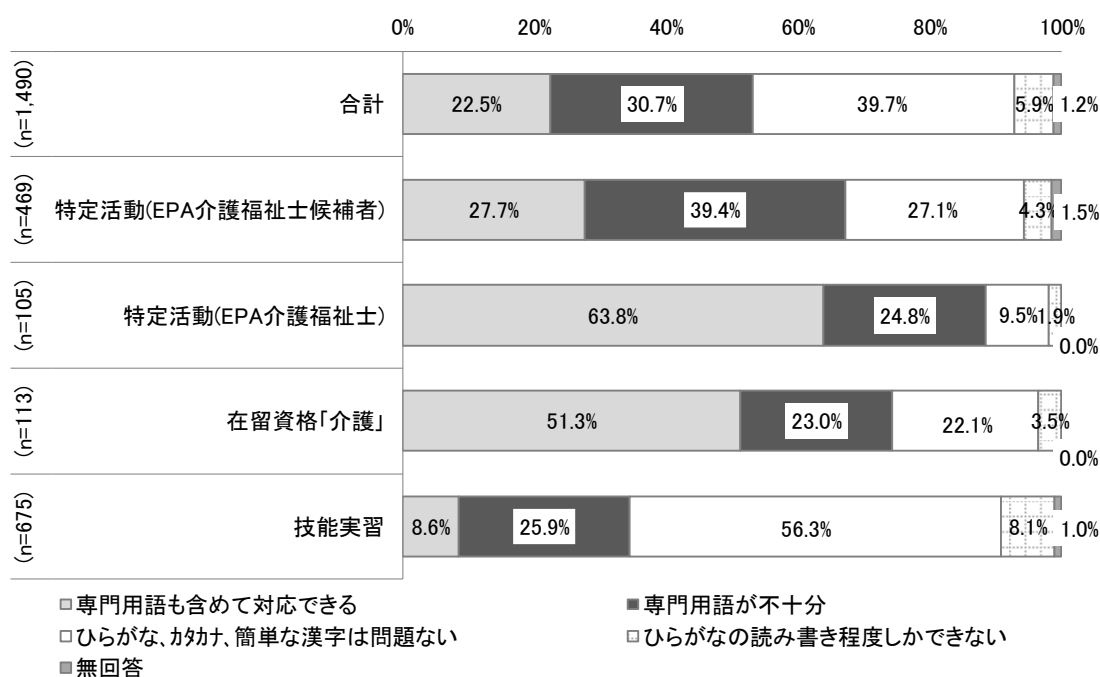
能力・スキル等：介護記録等、業務上の文書を読む能力は、全体として「ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない」が39.7%と最も高く、次いで「専門用語が不十分」が30.7%、「専門用語も含めて対応できる」が22.5%であった。

在留資格別にみたところ、「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の63.8%であった。日本語能力N2相当だけでみても同じ傾向であった。一方で、日本語能力N3相当だけでみると「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「在留資格「介護」」が26.2%であった。

また、日本語能力別にみたところ、「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「N1相当」の77.6%であった。

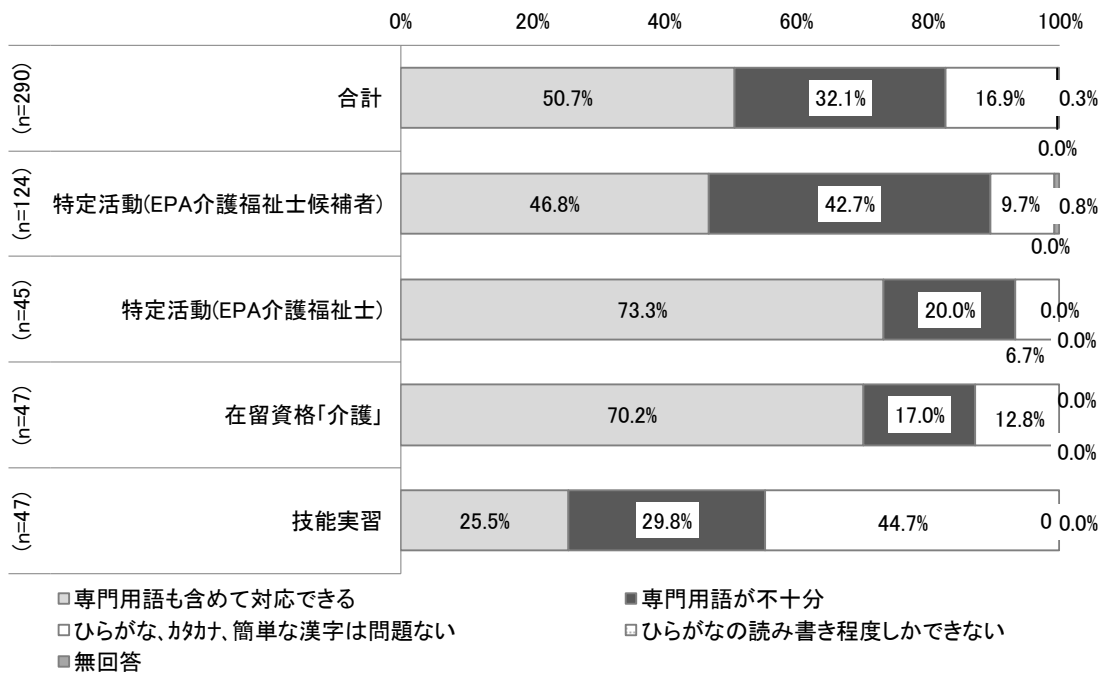
図表 2-45 介護記録等、業務上の文書を読む能力(問2)

<在留資格別>

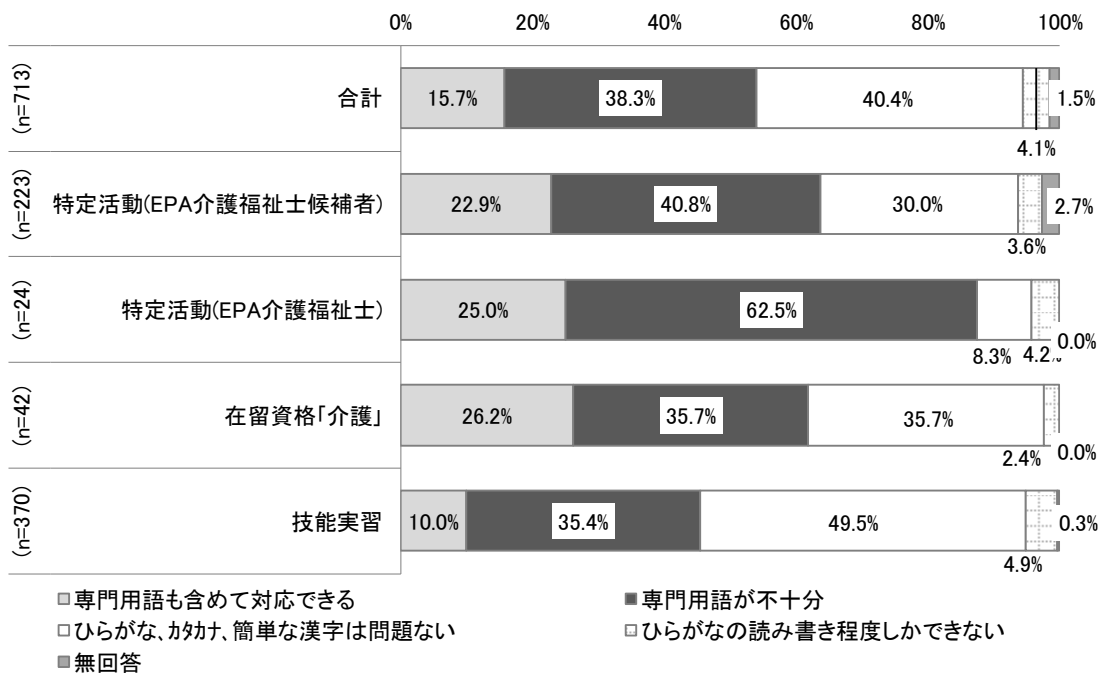




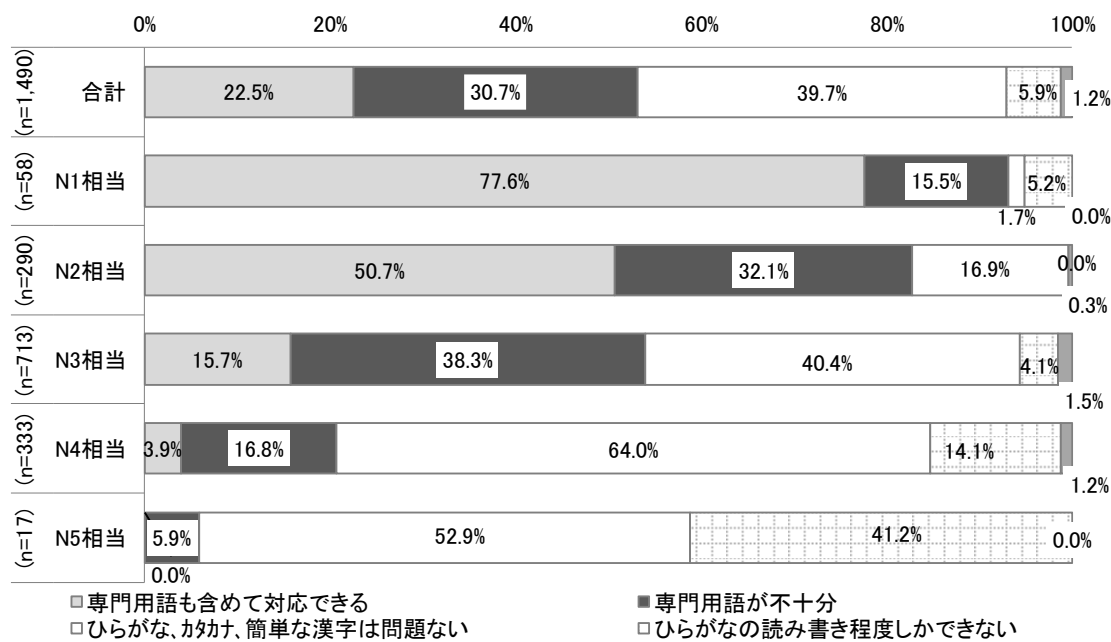
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



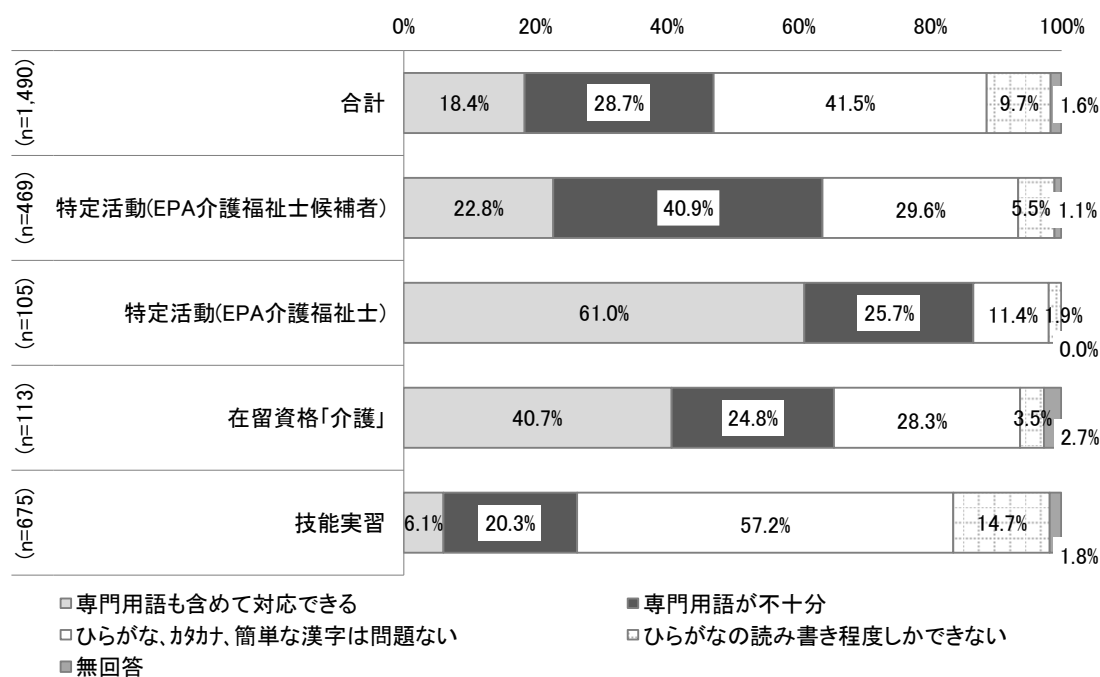
能力・スキル等：介護記録等、業務上の文書を書く能力は、全体として「ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない」が41.5%と最も高く、次いで「専門用語が不十分」が28.7%、「専門用語も含めて対応できる」が18.4%であった。

在留資格別にみたところ、「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の61.0%であった。日本語能力N2相当だけでみても同じ傾向であった。一方で、日本語能力N3相当だけでみると「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「在留資格「介護」」が23.8%であった。

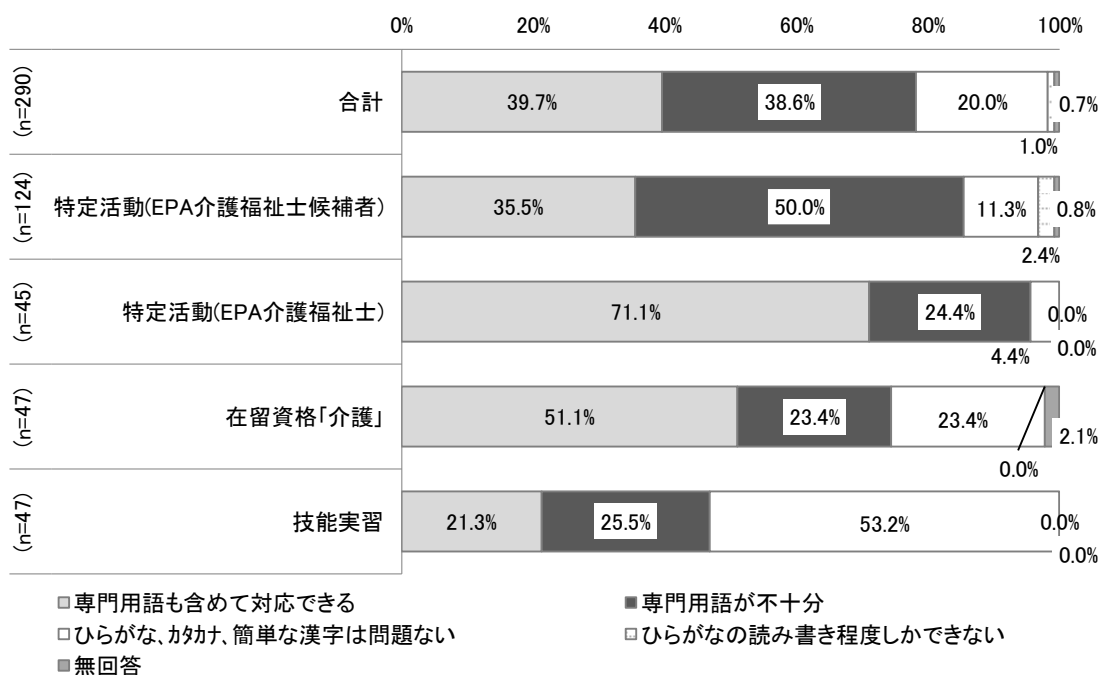
また、日本語能力別にみたところ、「専門用語も含めて対応できる」割合が最も高いのは「N1相当」の72.4%であった。

図表 2-46 介護記録等、業務上の文書を書く能力(問2)

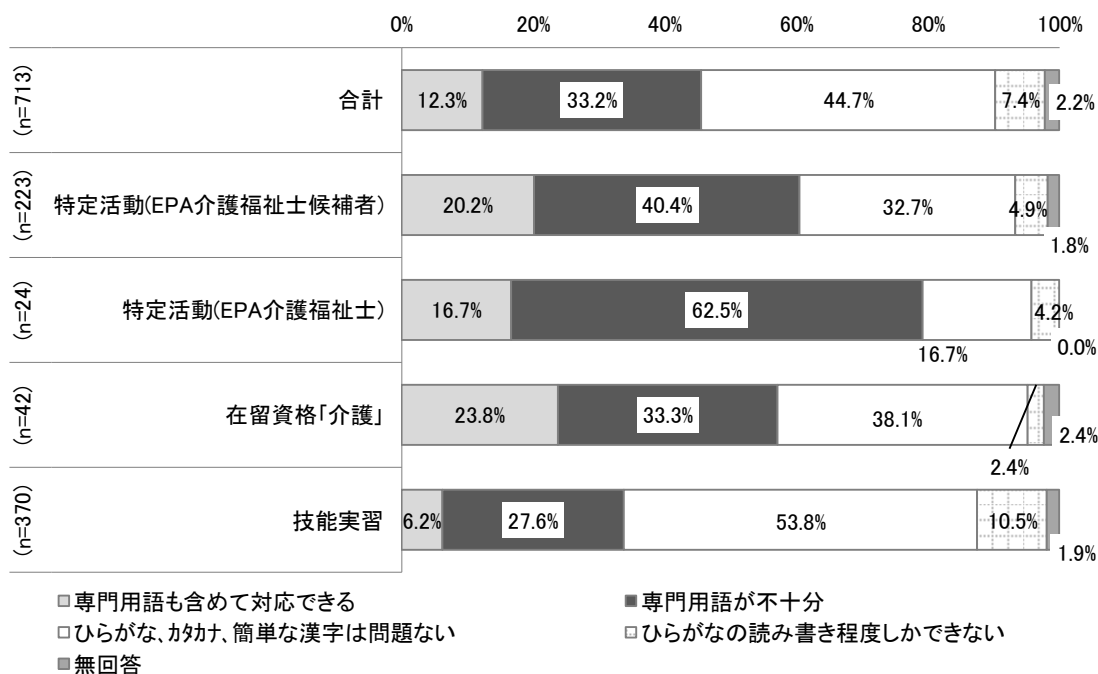
<在留資格別>



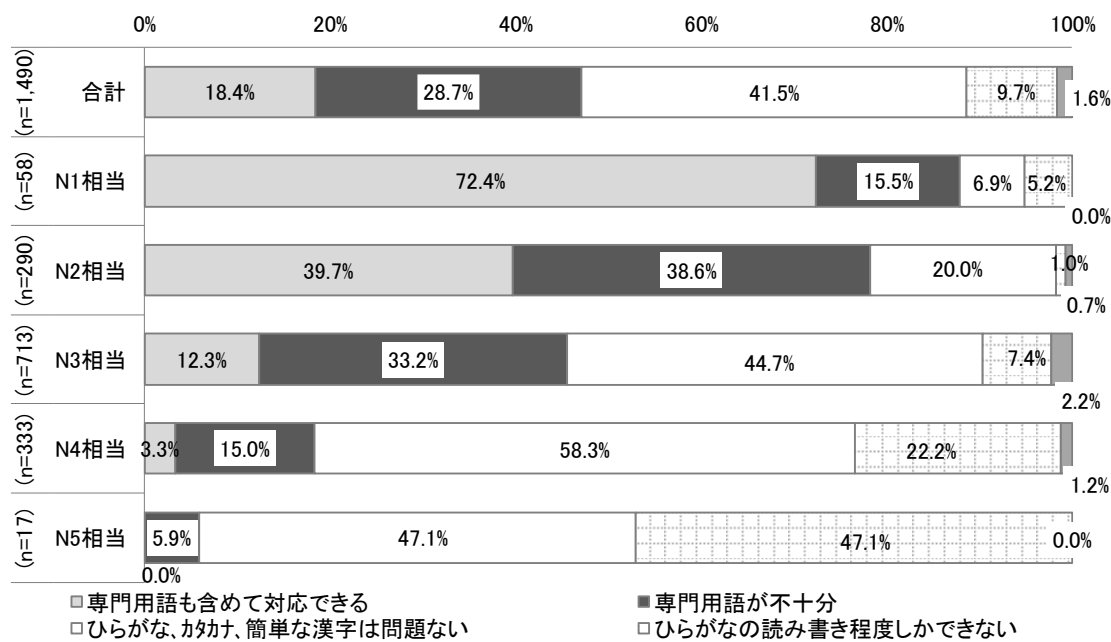
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



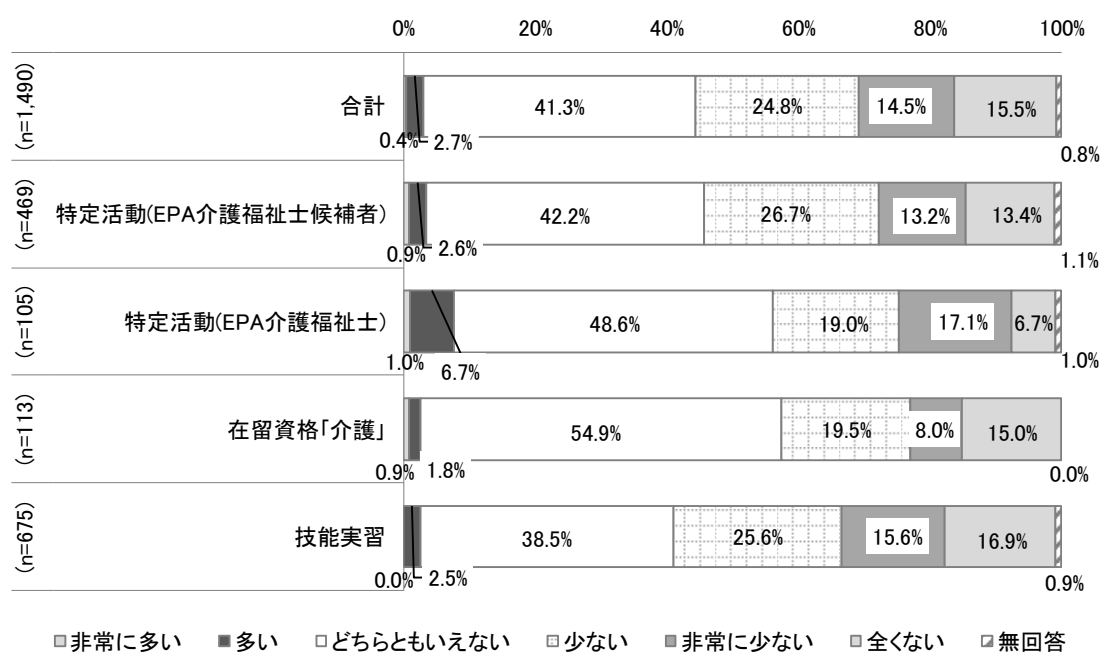
能力・スキル等：ヒヤリハットの数は、全体として「どちらともいえない」が41.3%と最も高く、次いで「少ない」が24.8%、「全くない」が15.5%であった。

在留資格別にみたところ、「全くない」割合が最も高いのは「技能実習」の16.9%であった。これは日本語能力N2相当だけでみても同じ傾向であった。一方で、日本語能力N3相当だけでみると、「在留資格「介護」」が19.0%であった。

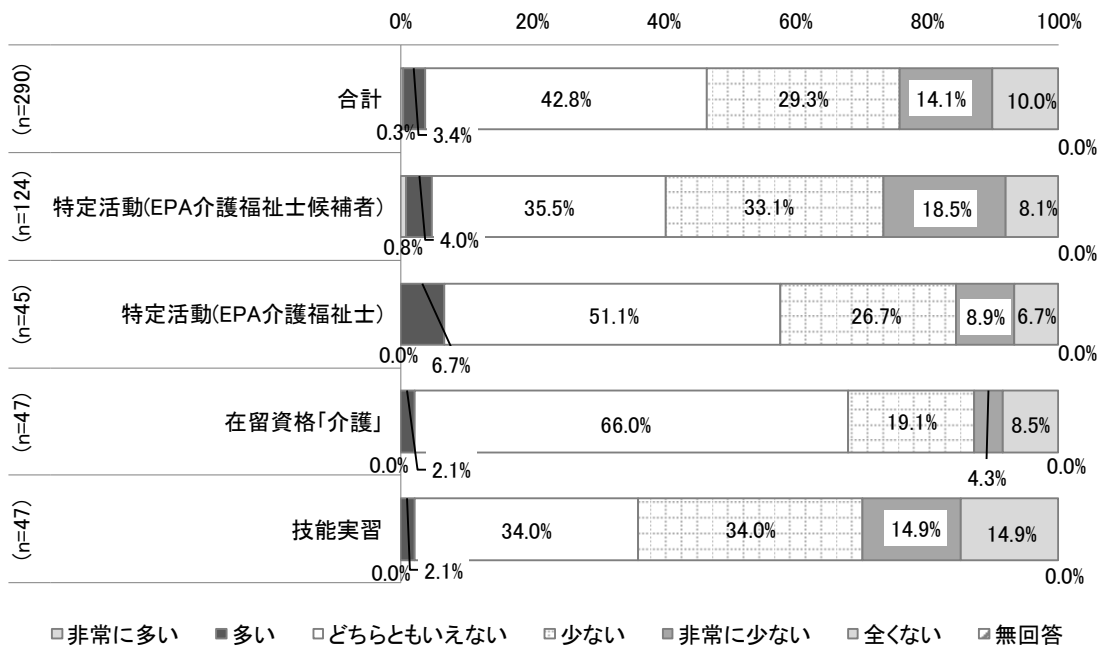
また、日本語能力別にみたところ、「全くない」割合が最も高いのは「N5相当」の76.5%であった。

図表 2-47 ヒヤリハットの数(問2)

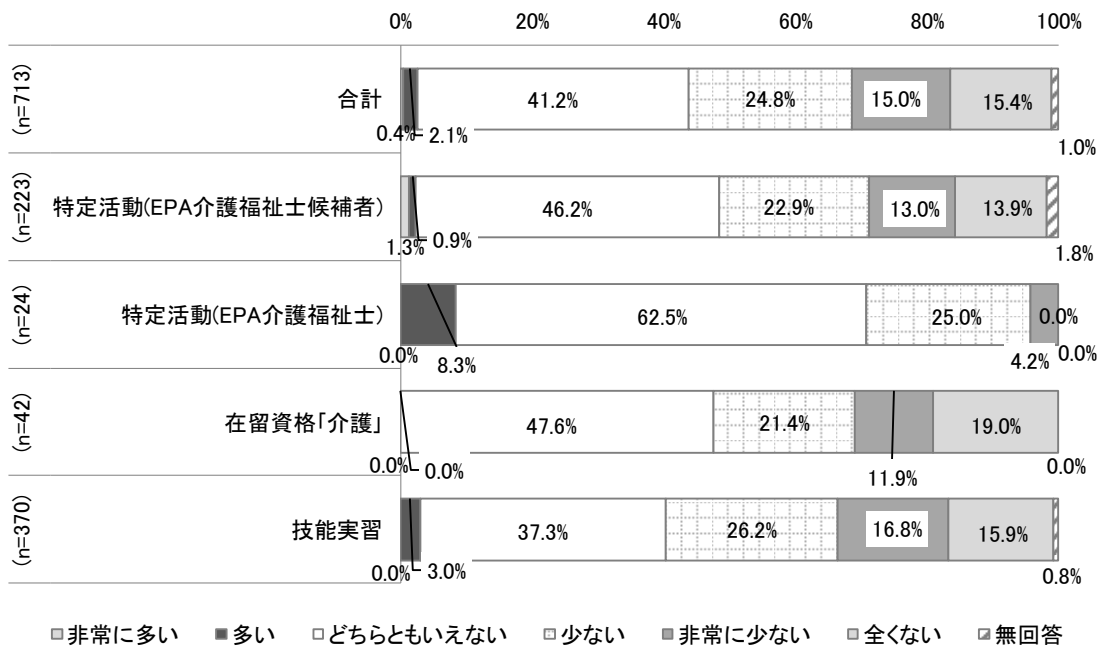
<在留資格別>



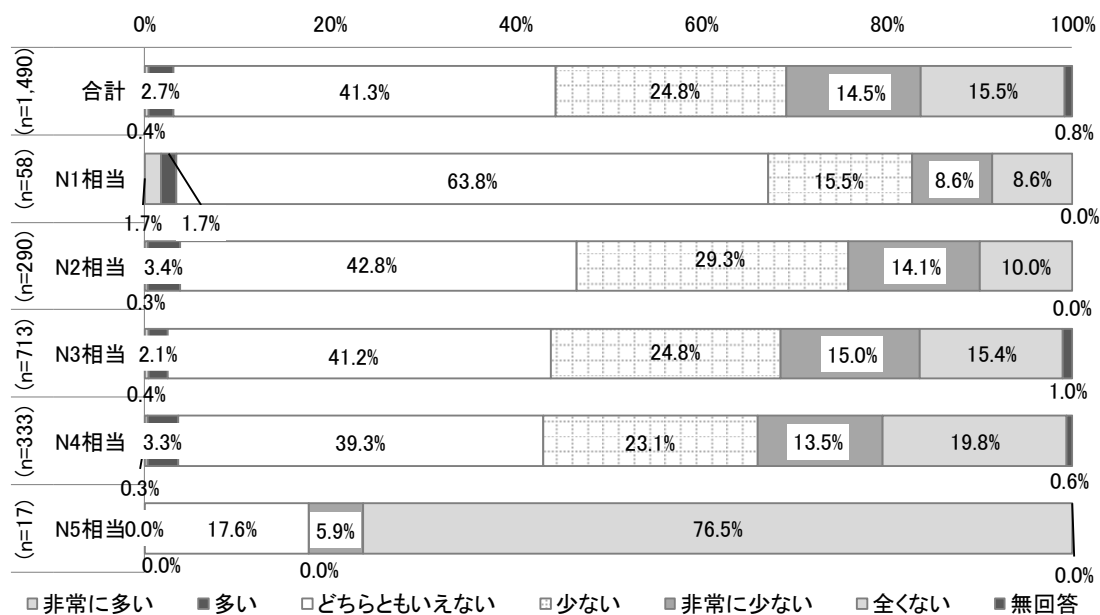
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>





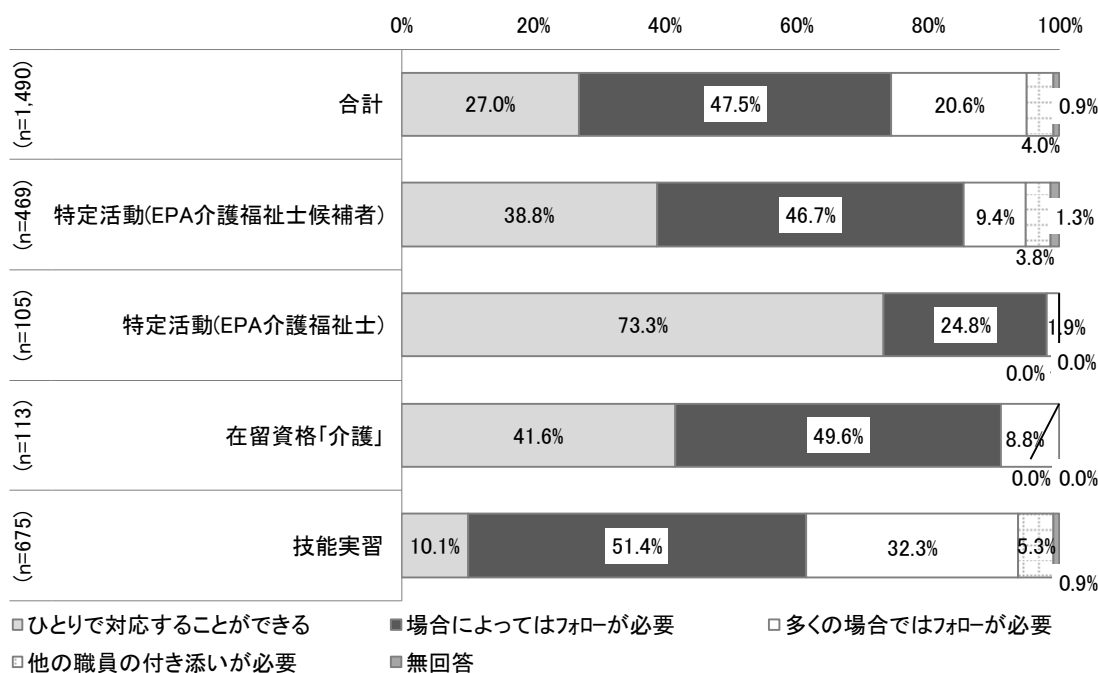
能力・スキル等：現在の直接介助のスキルは、全体として「場合によってはフォローが必要」が47.5%と最も高く、次いで「ひとりで対応することができる」が27.0%、「多くの場合ではフォローが必要」が20.6%であった。

在留資格別にみたところ、「ひとりで対応することができる」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の73.3%であった。これは日本語能力N2相当だけでみても同じ傾向であった。一方で、日本語能力N3相当だけでみると、「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が39.0%であった。

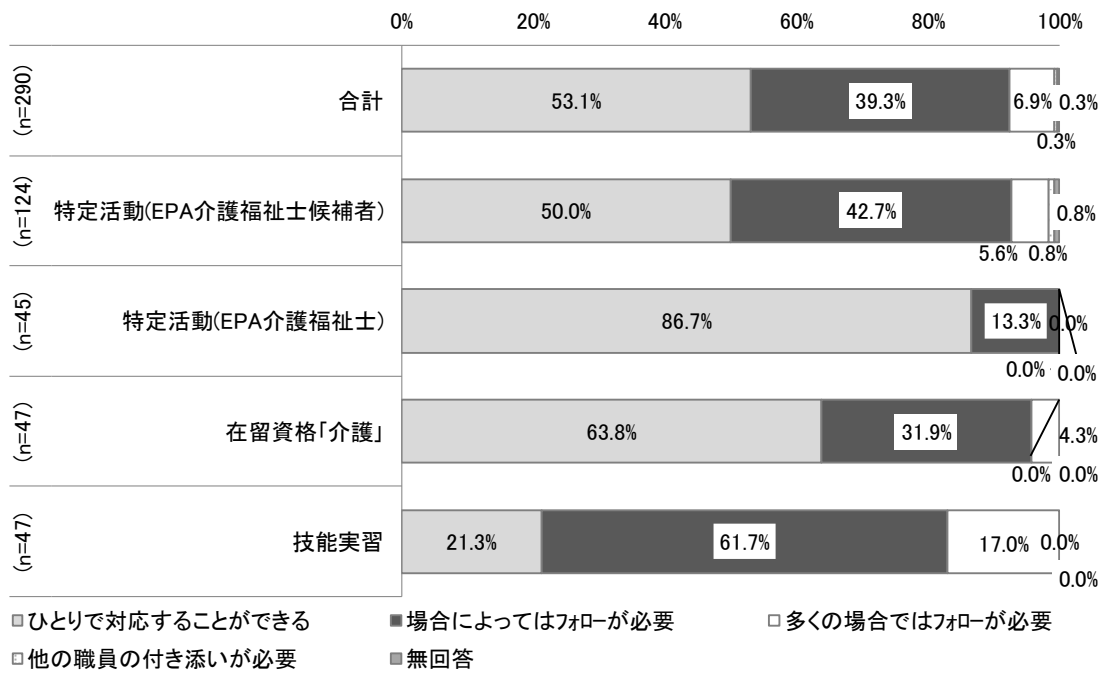
また、日本語能力別にみたところ、「ひとりで対応することができる」割合が最も高いのは「N1相当」の63.8%であった。

図表 2-48 現在の直接介助のスキル(問2)

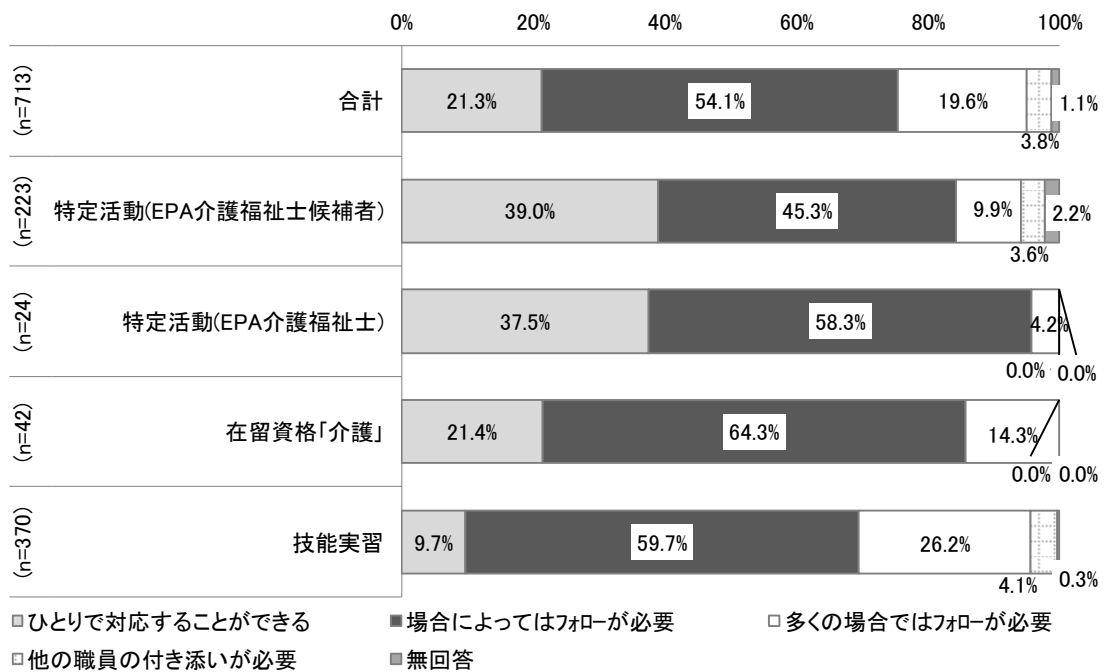
<在留資格別>



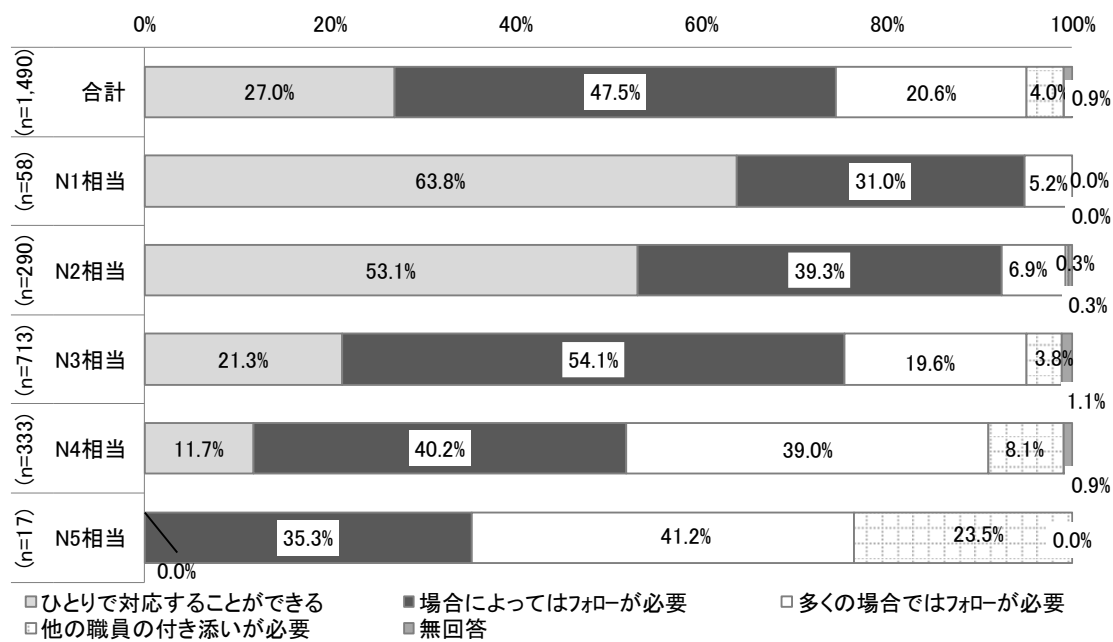
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



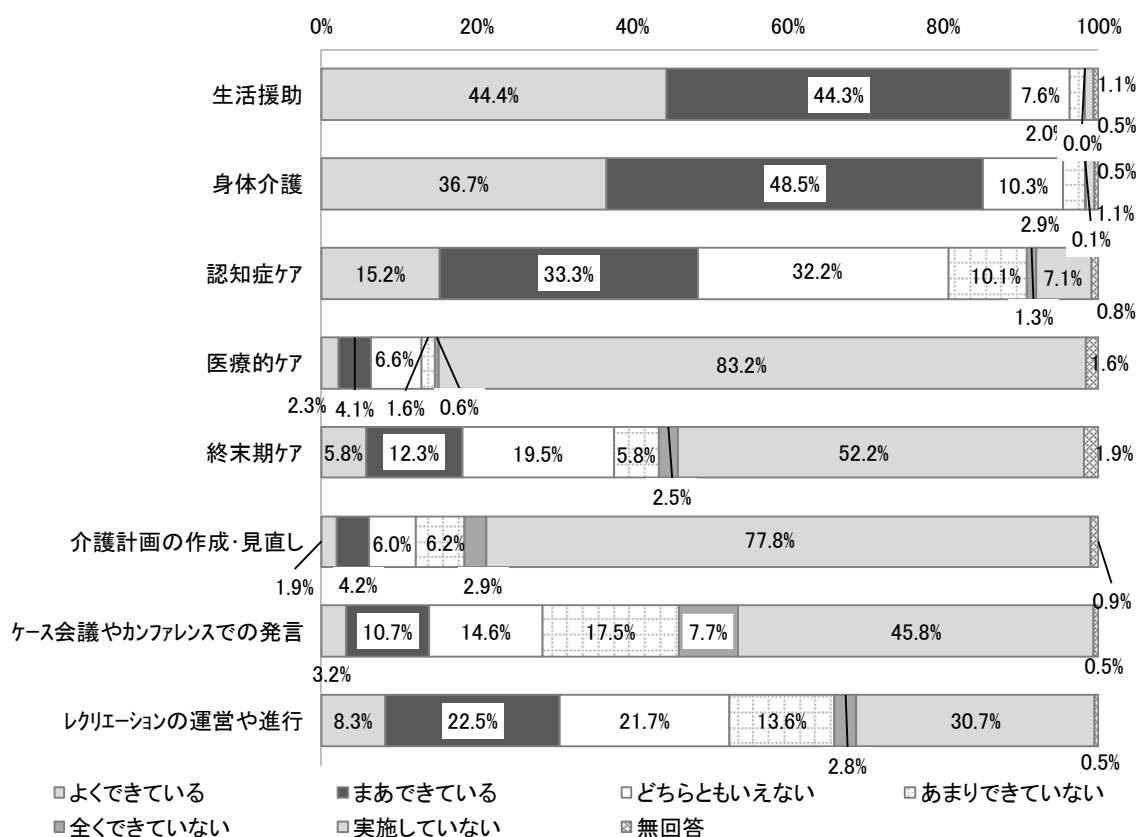
### ⑤ 個別業務についての評価

個別の業務についての評価において「よくできている」と評価された業務は、「生活援助」が44.2%と最も多く、次いで「身体介護」が36.7%、「認知症ケア」が15.2%であった。

一方で、「医療的ケア」、「終末期ケア」、「介護計画の作成・見直し」、「ケース会議やカンファレンスでの発言」については、「よくできている」の評価された割合が少なかった。

また、個別の業務についての評価において「実施していない」業務は、「医療的ケア」が83.2%と最も多く、次いで「介護計画の作成・見直し」が77.8%、「終末期ケア」が52.2%であった。

図表 2-49 個別の業務についての評価(問3)



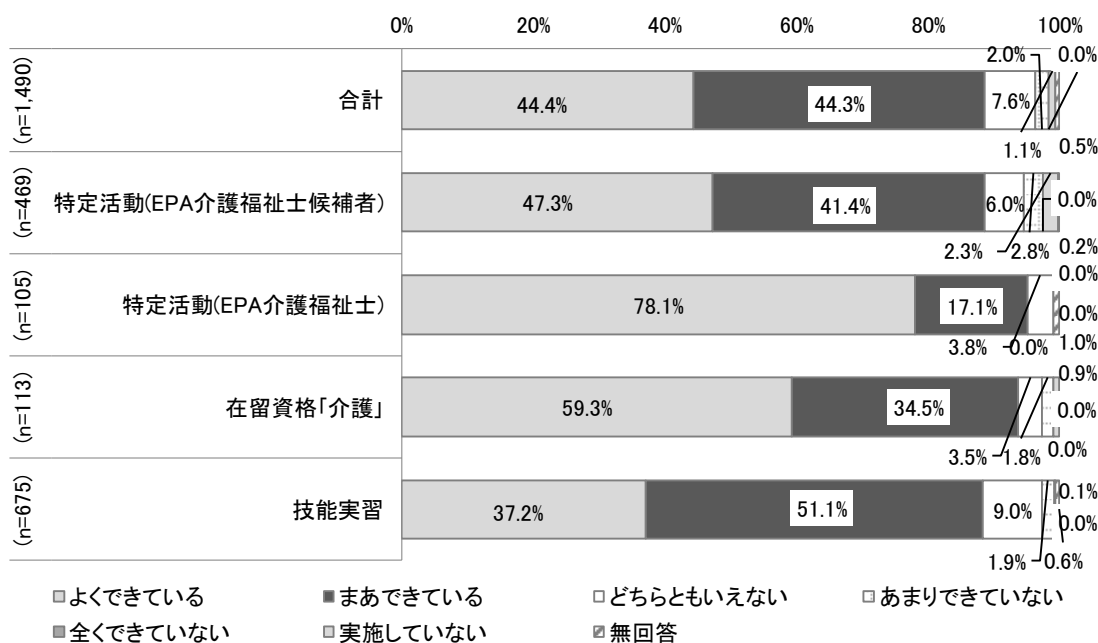
個別の業務についての評価：生活援助は、全体として「よくできている」が44.4%と最も高く、次いで「まあできている」が44.3%、「どちらともいえない」が7.6%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の78.1%であった。日本語能力N2相当、N3相当だけで見ても同じ傾向であった。

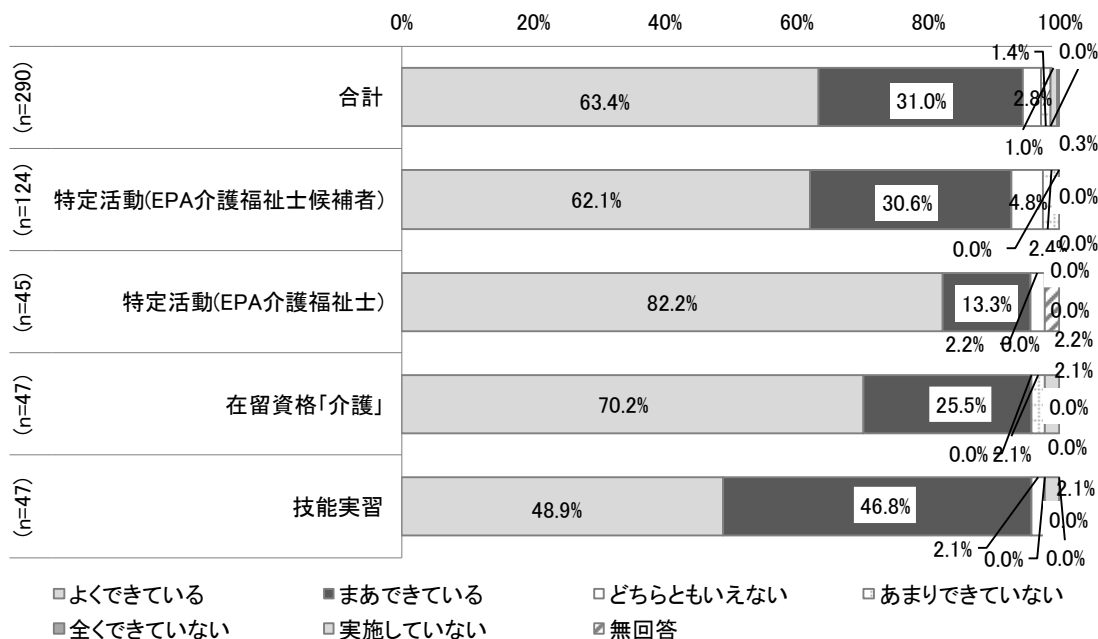
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の75.9%であった。

図表 2-50 生活援助(問3)

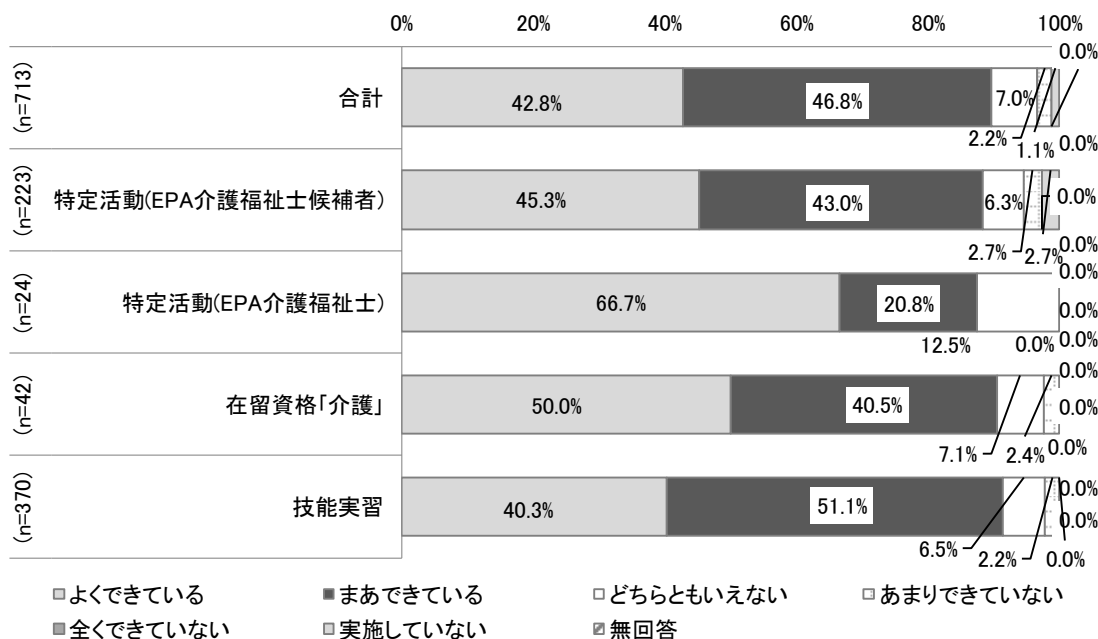
<在留資格別>



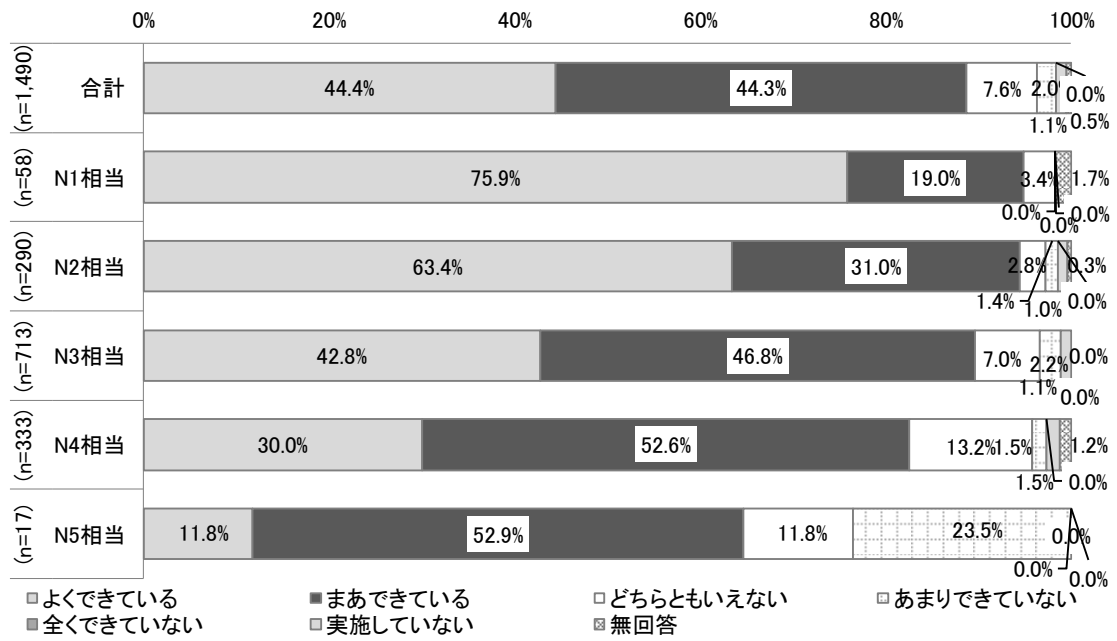
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



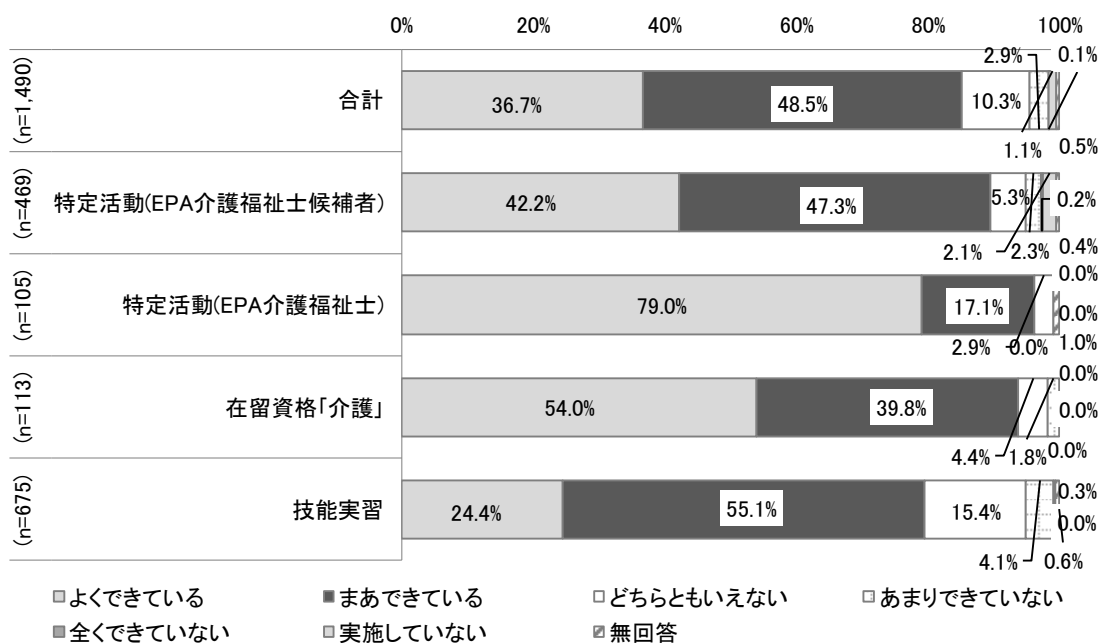
個別の業務についての評価：身体介護は、全体として「まあできている」が48.5%と最も高く、次いで「よくできている」が36.7%、「どちらともいえない」が10.3%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の79.0%であった。日本語能力N2相当、N3相当だけで見ても同じ傾向であった。

また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の69.0%であった。

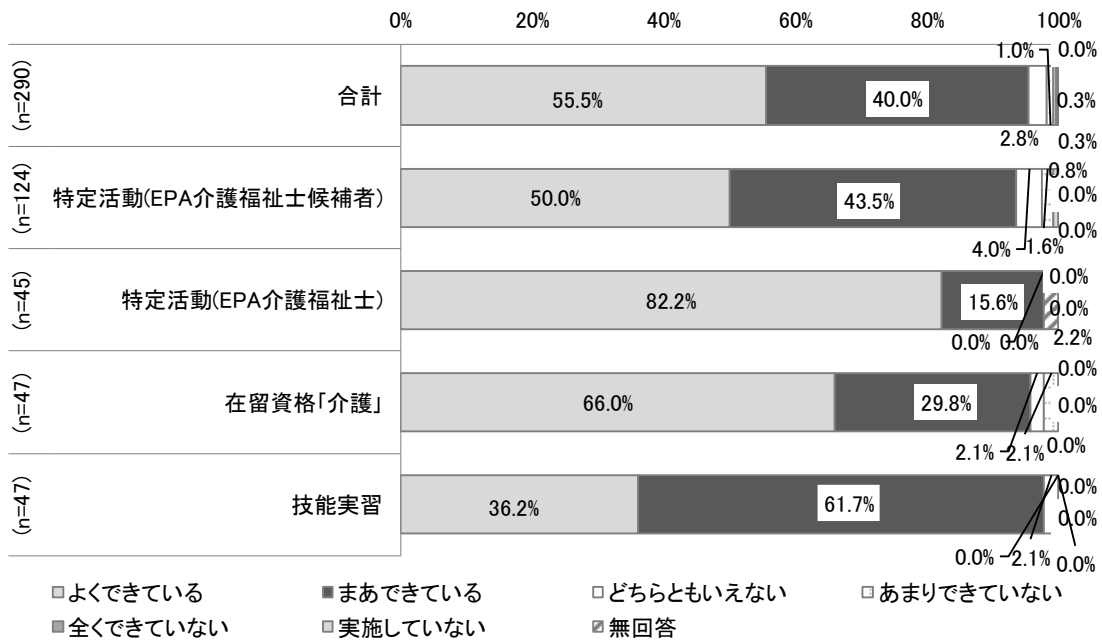
図表 2-51 身体介護(問3)

<在留資格別>

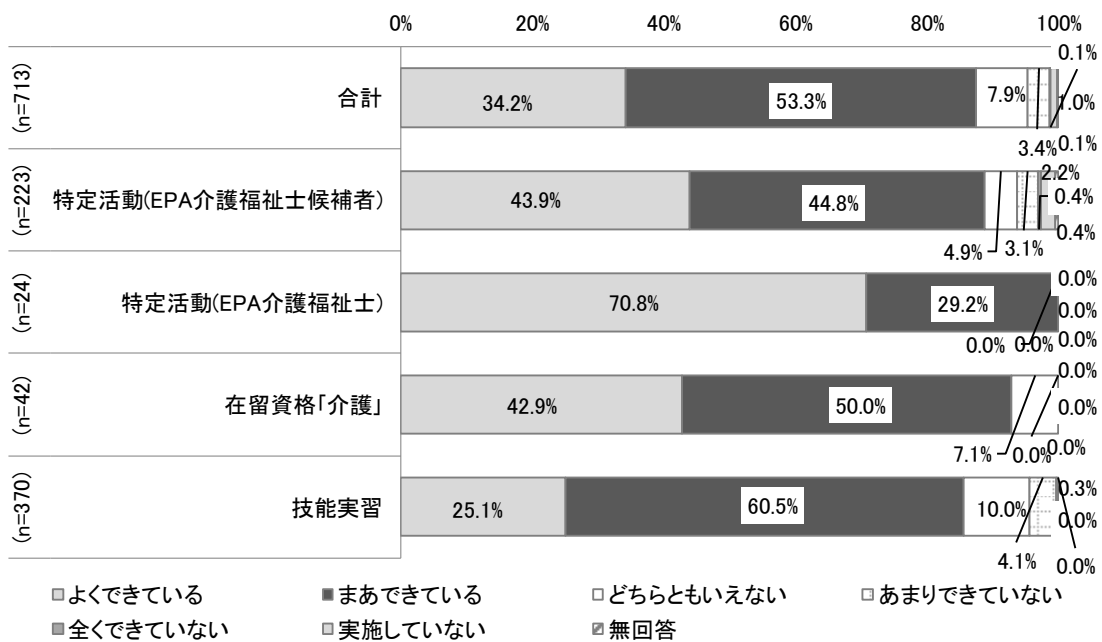




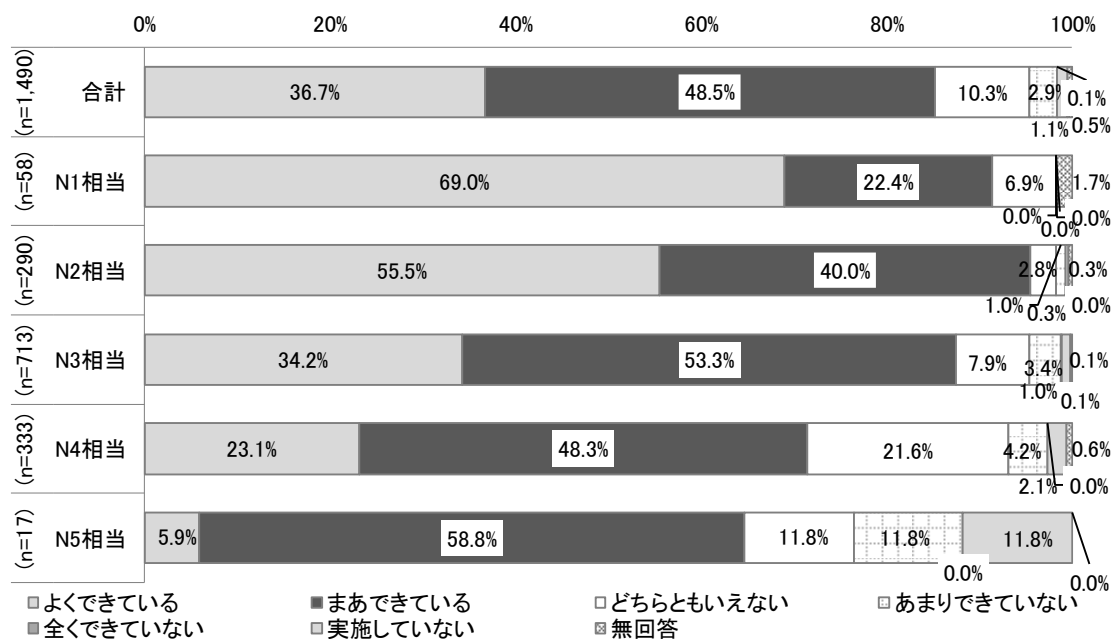
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



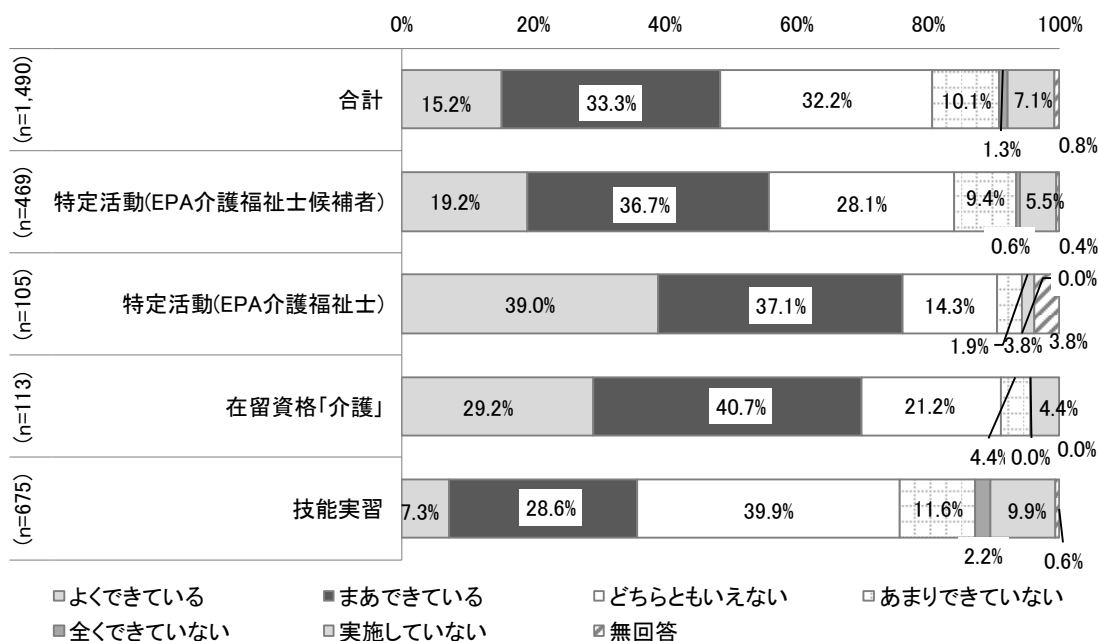
個別の業務についての評価：認知症ケアは、全体として「まあできている」が33.3%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が32.2%、「よくできている」が15.2%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の39.0%であった。日本語能力N2相当だけでみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは44.7%の「在留資格「介護」」であった。一方で、N3相当だけでみると「特定活動（EPA介護福祉士）」が20.8%と最も高かった。

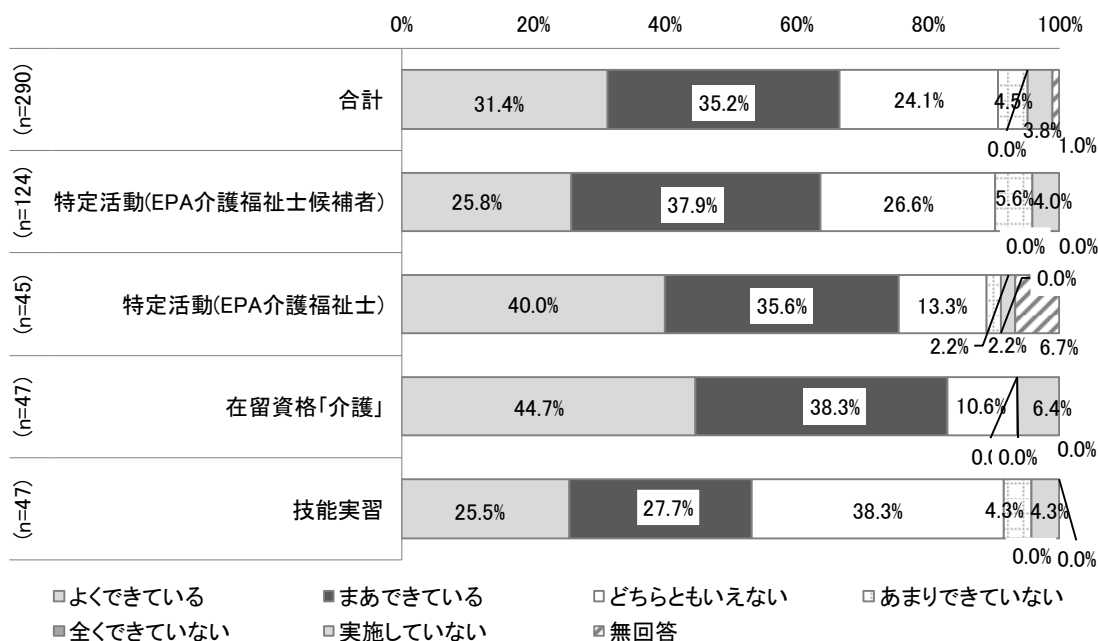
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の34.5%であった。

図表 2-52 認知症ケア(問3)

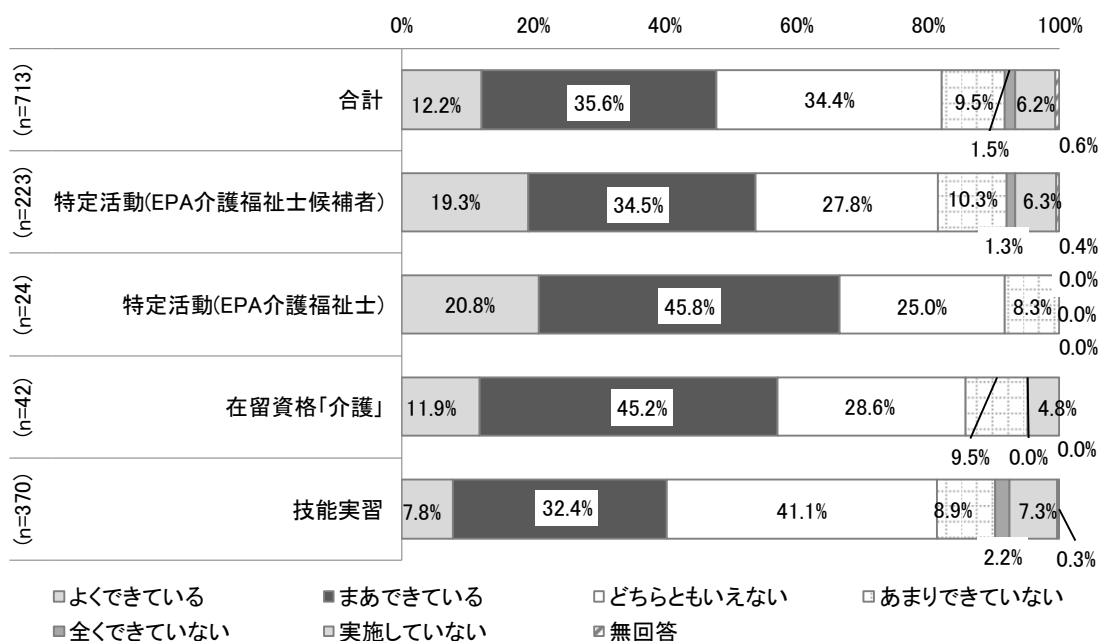
<在留資格別>



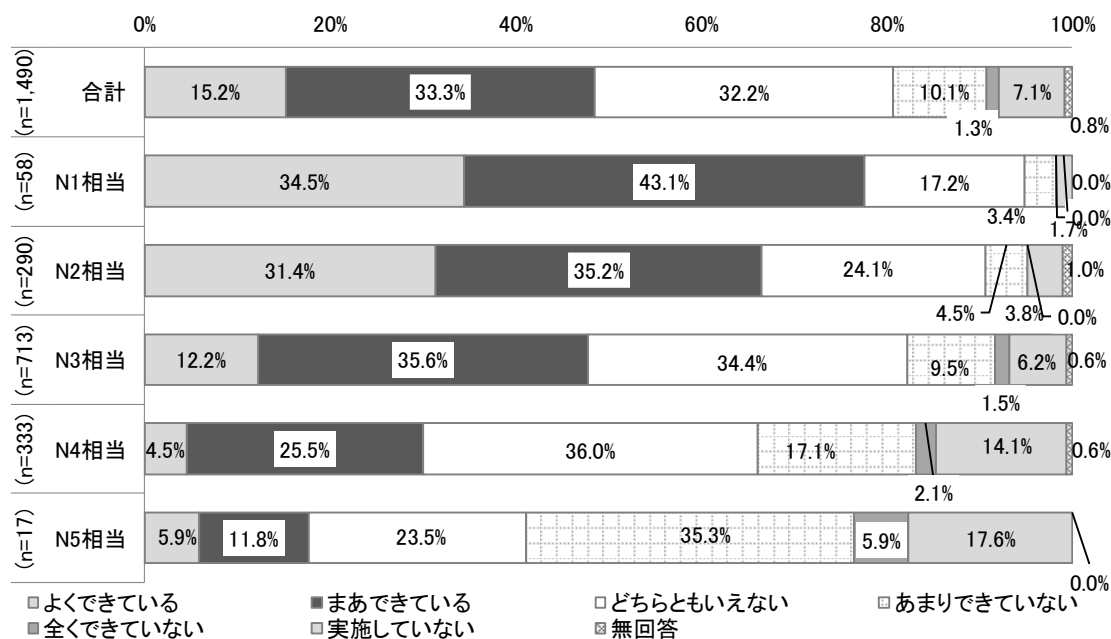
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



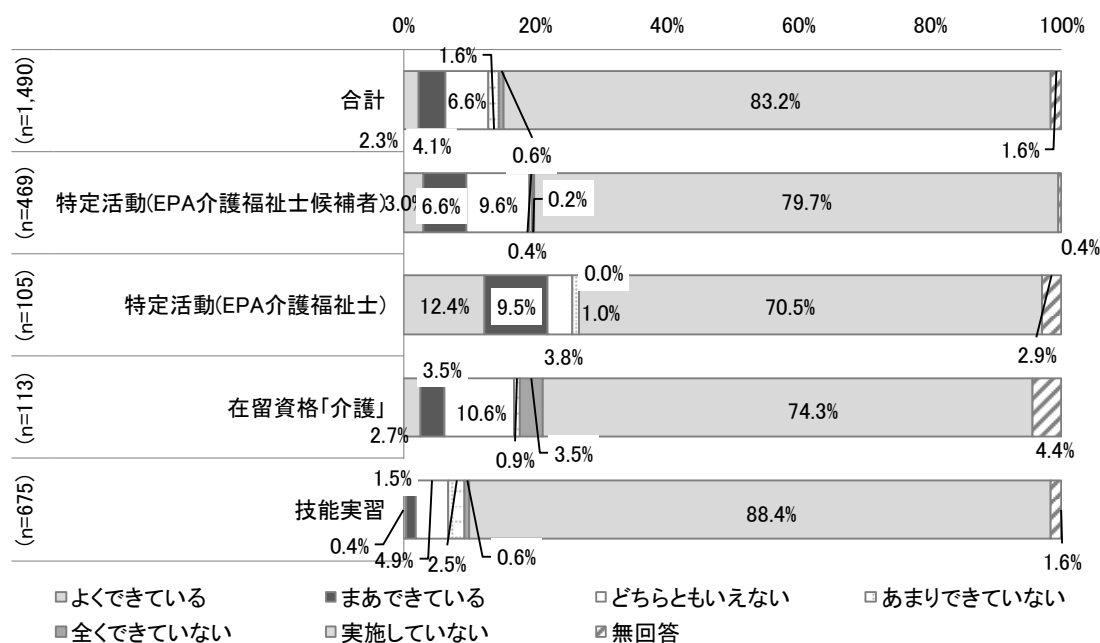
個別の業務についての評価：医療的ケア（喀痰吸引、経管栄養）は、全体として「実施していない」が83.2%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が6.6%、「まあできている」が4.1%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の12.4%であった。日本語能力N2相当だけでみたところ、同じ傾向であった。一方で、N3相当だけでみると「在留資格「介護」」が2.4%と最も高かった。

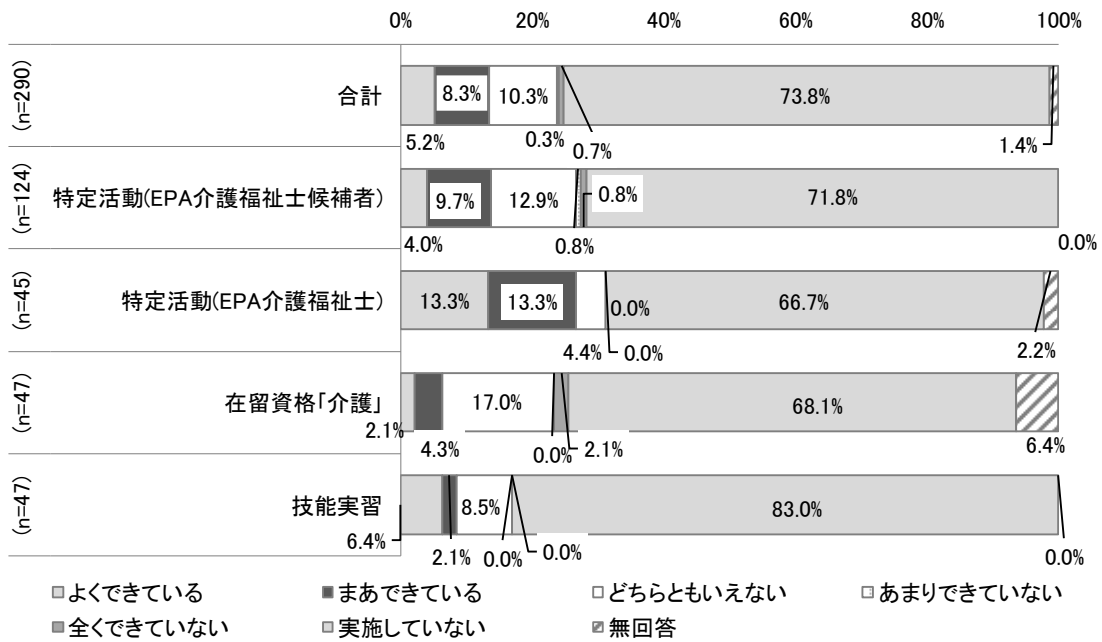
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の17.2%であった。

図表 2-53 医療的ケア(喀痰吸引、経管栄養)(問3)

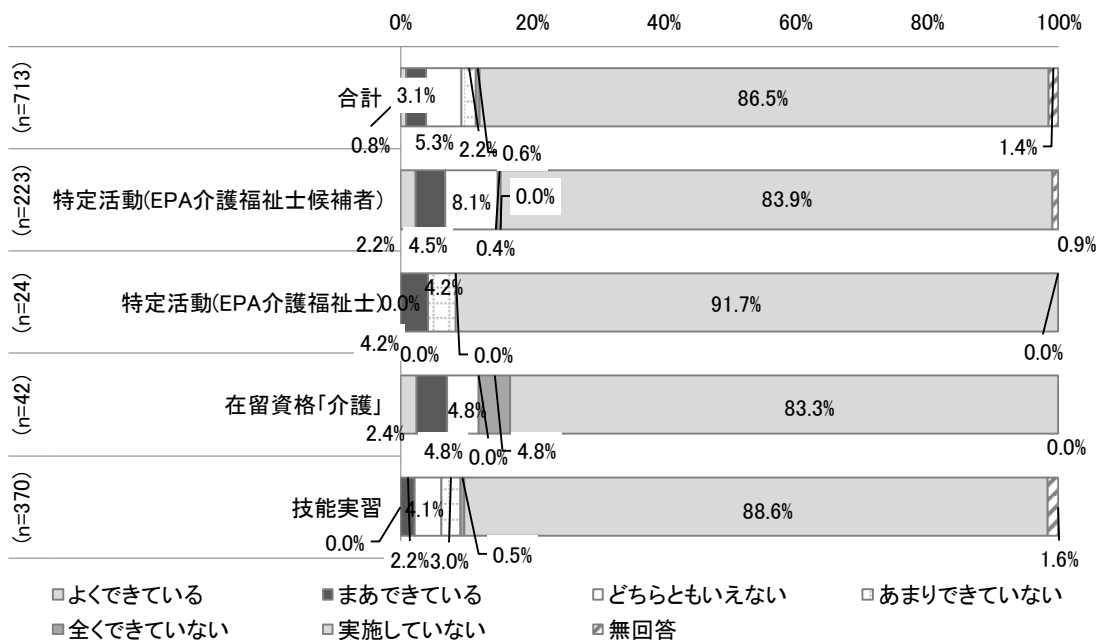
<在留資格別>



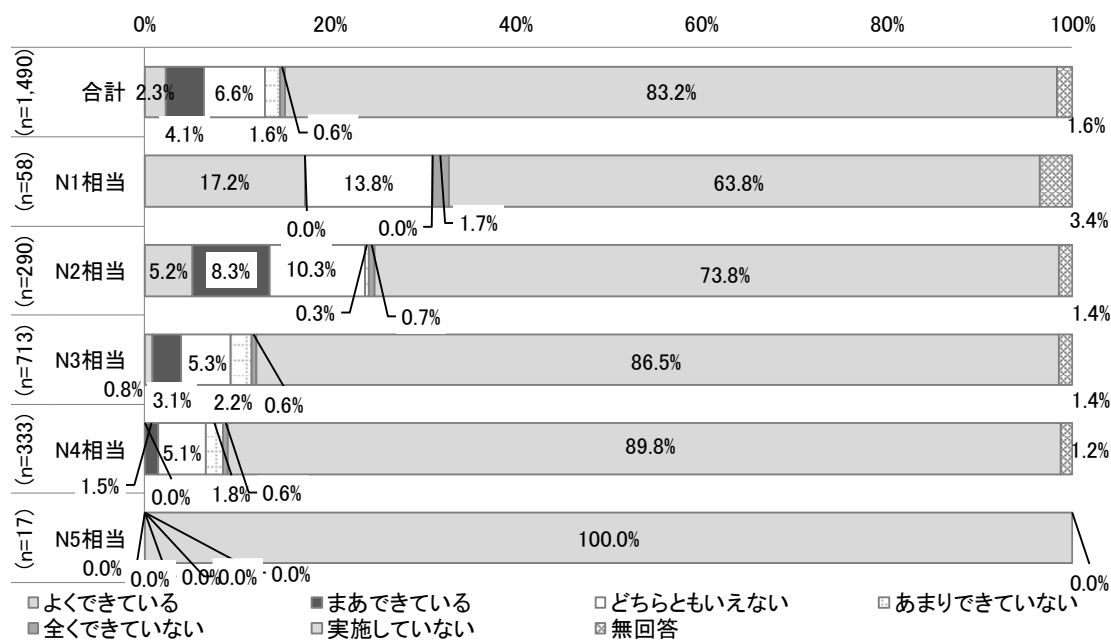
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>





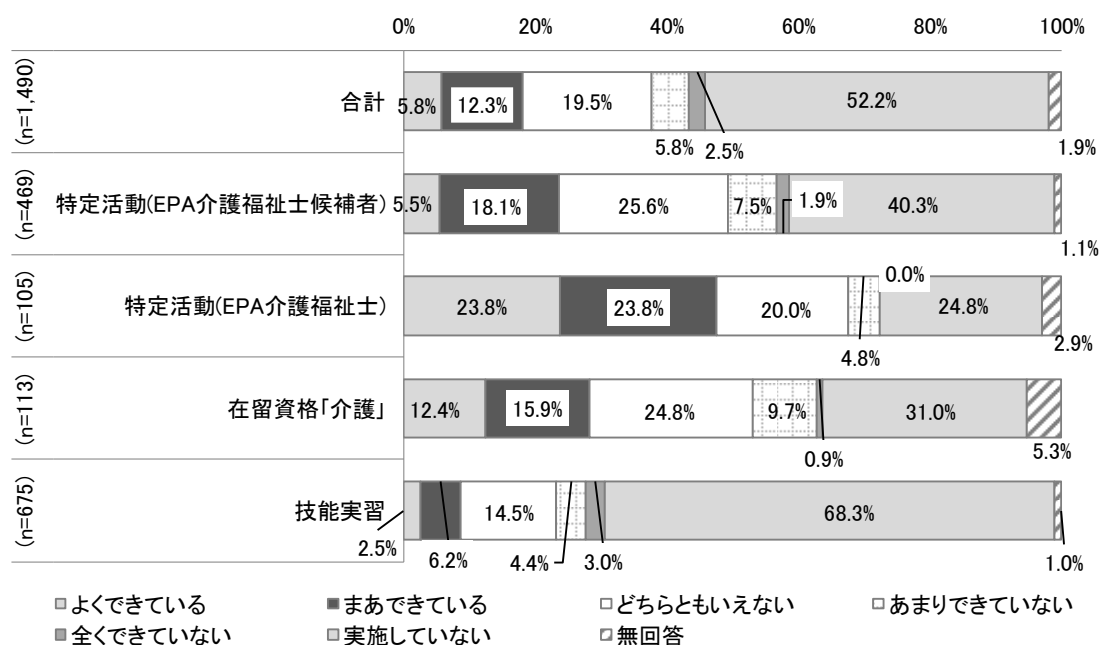
個別の業務についての評価：終末期ケアは、全体として「実施していない」が52.2%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が19.5%、「まあできている」が12.3%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の23.8%であった。日本語能力N2相当だけでみたところ、同じ傾向であった。一方で、N3相当だけでみると「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が4.5%と最も高かった。

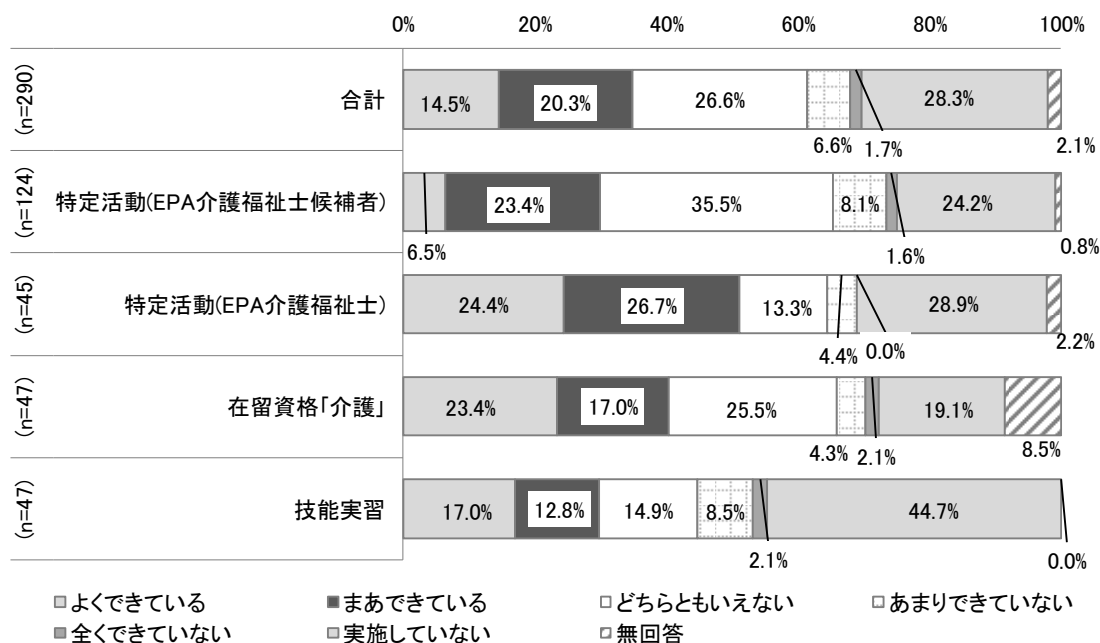
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の24.1%であった。

図表 2-54 終末期ケア(問3)

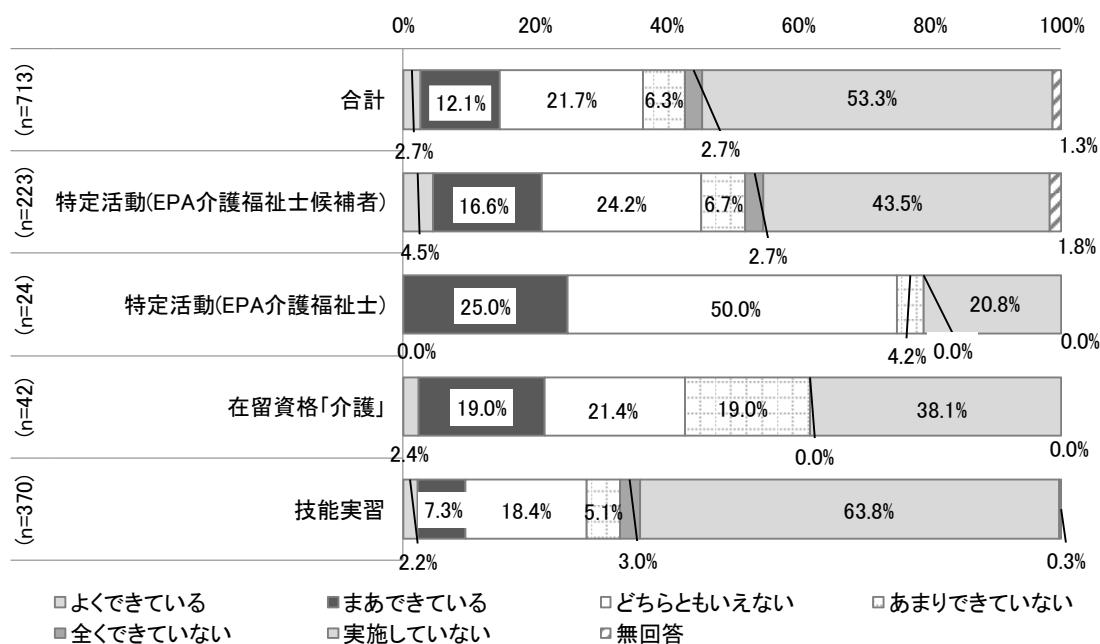
<在留資格別>



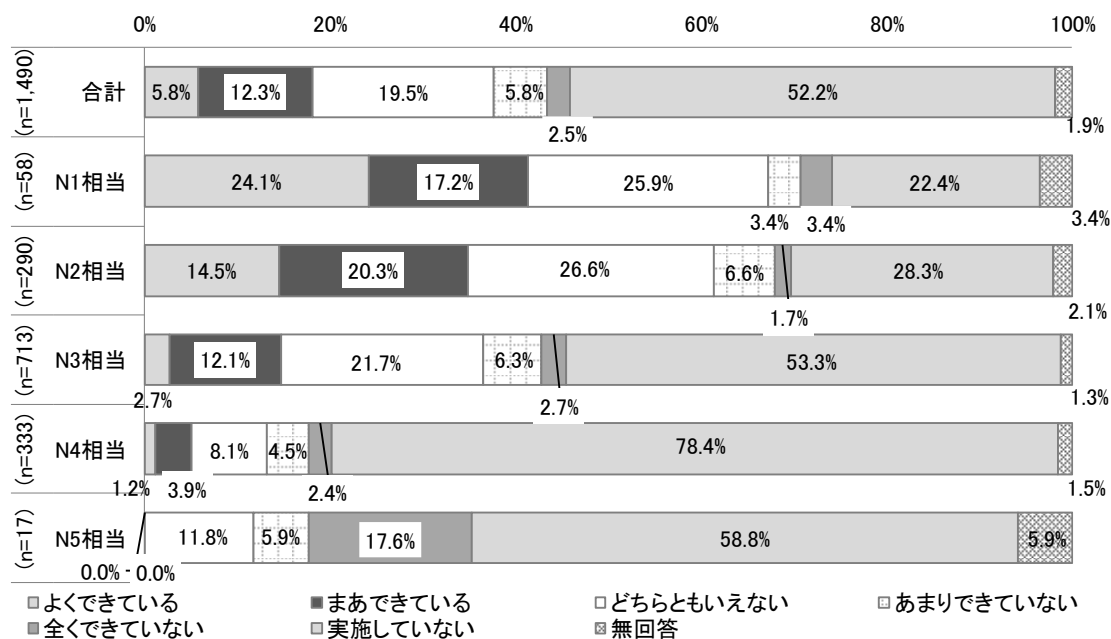
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



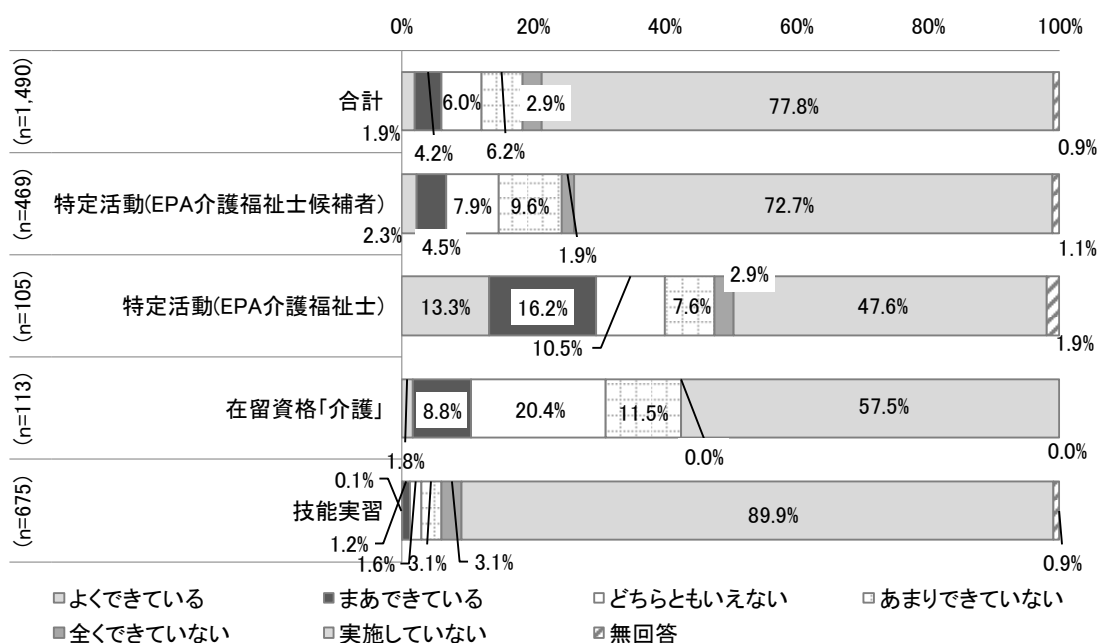
個別の業務についての評価：介護計画の作成・見直しは、全体として「実施していない」が77.8%と最も高く、次いで「あまりできていない」が6.2%、「どちらともいえない」が6.0%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の13.3%であった。日本語能力N2相当だけでみたところ、同じ傾向であった。一方で、N3相当だけでみると「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が1.8%と最も高かった。

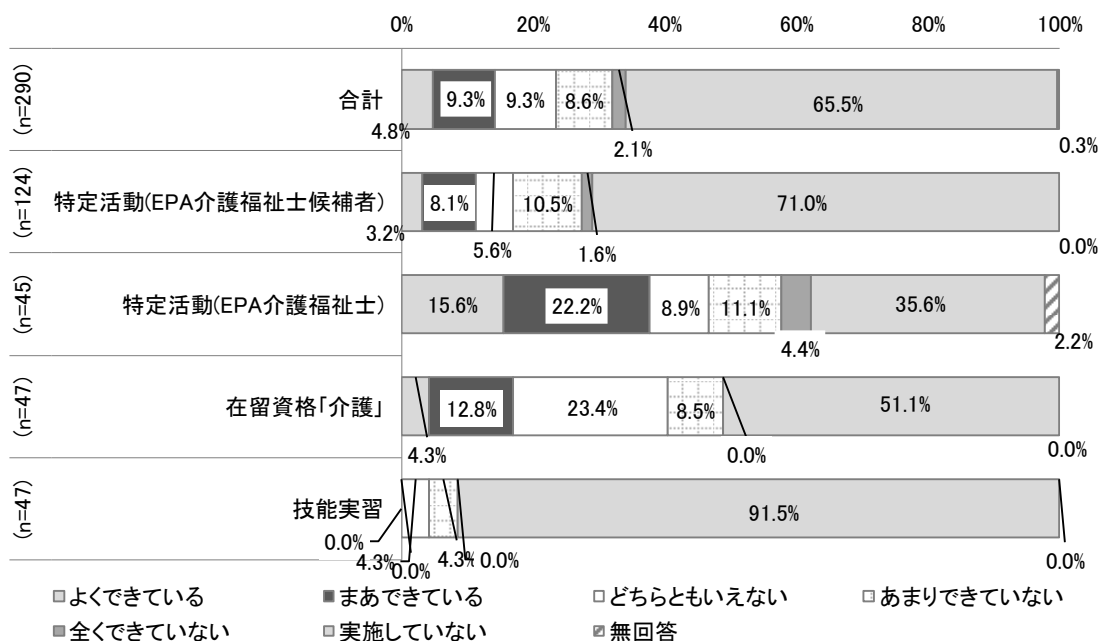
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の17.2%であった。

図表 2-55 介護計画の作成・見直し(問3)

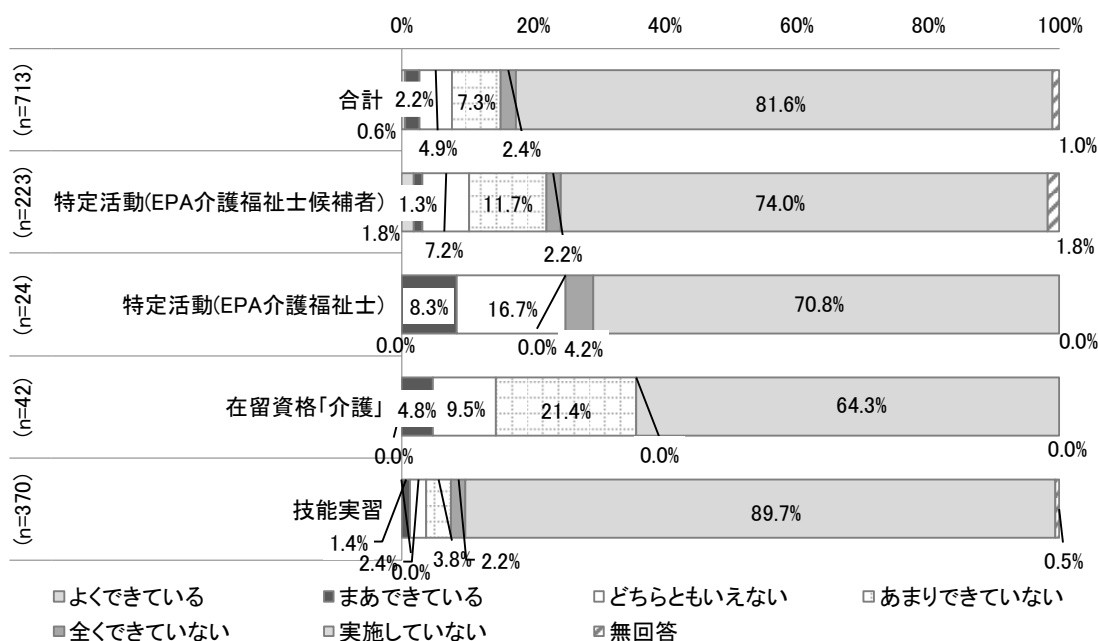
<在留資格別>



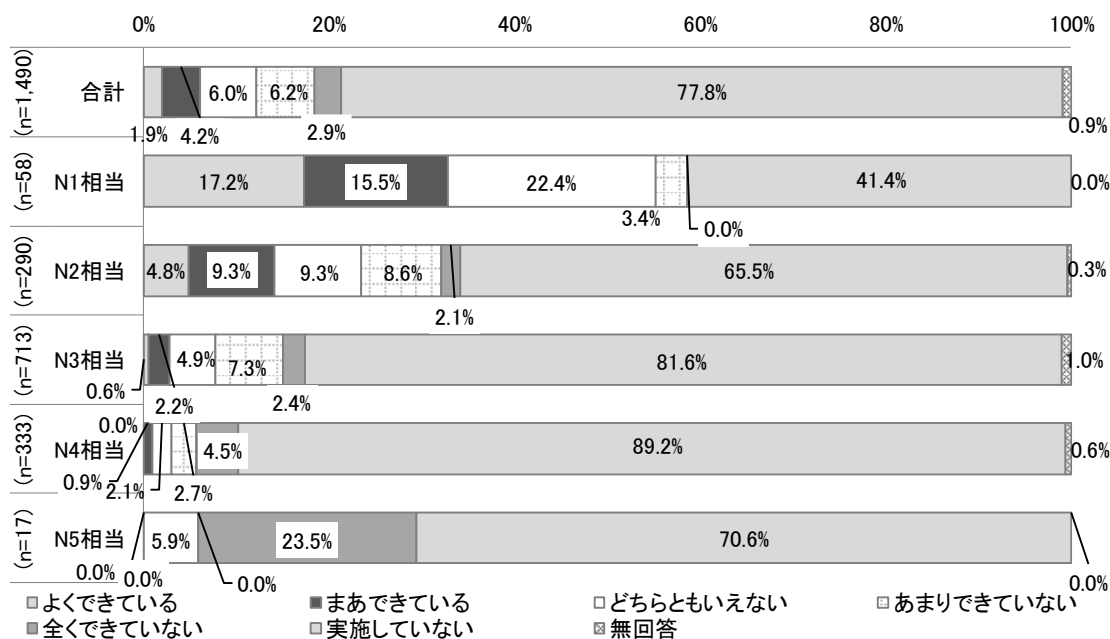
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>



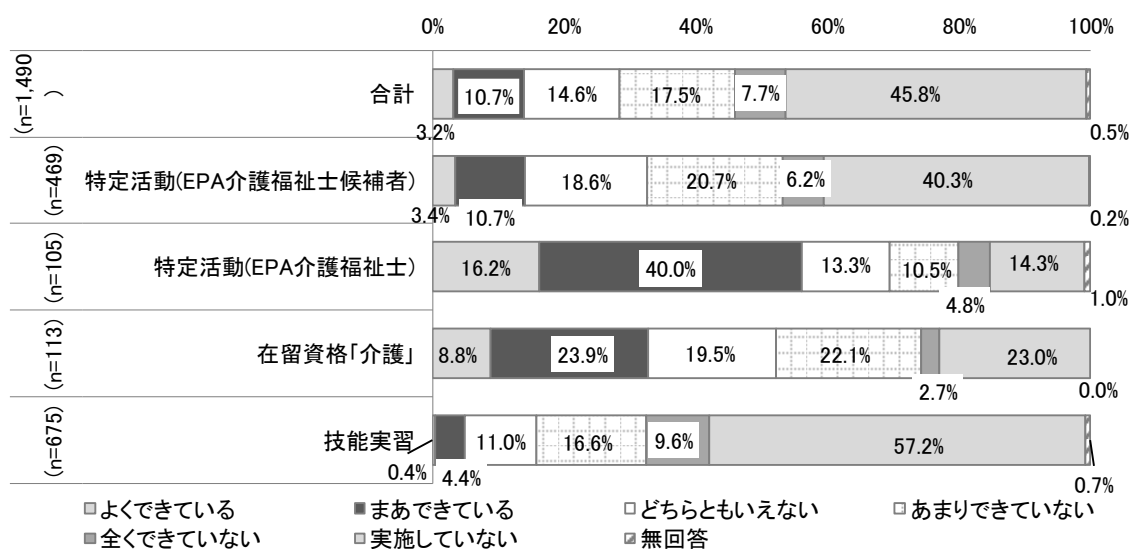
個別の業務についての評価：ケース会議やカンファレンスでの発言は、全体として「実施していない」が45.8%と最も高く、次いで「あまりできていない」が17.5%、「どちらともいえない」が14.6%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の16.2%であった。日本語能力N2相当だけでみたところ「在留資格「介護」」が14.9%と最も高かった。一方で、N3相当だけでみると「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が2.7%と最も高かった。

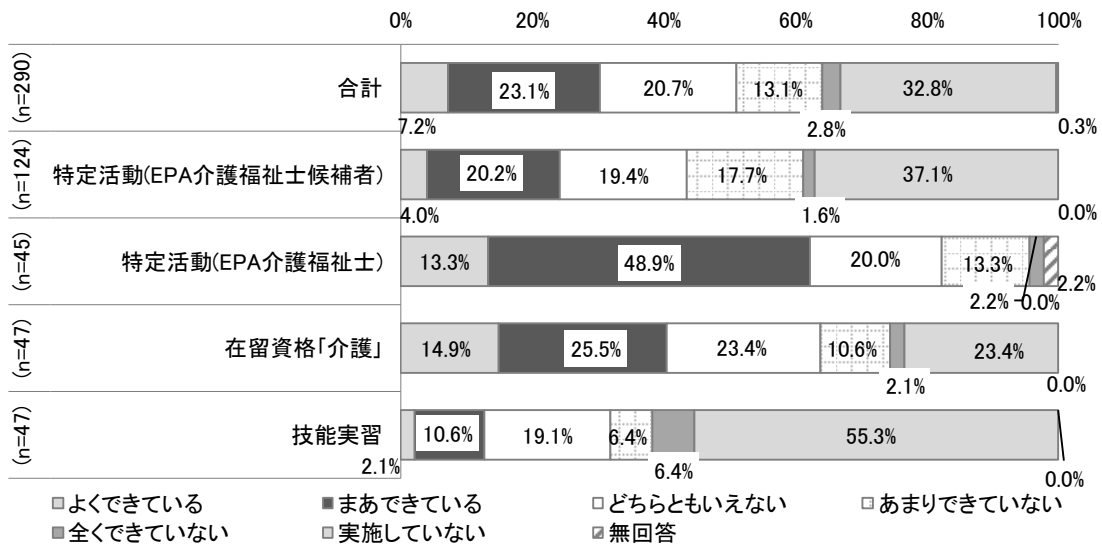
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の22.4%であった。

図表 2-56 ケース会議やカンファレンスでの発言(問3)

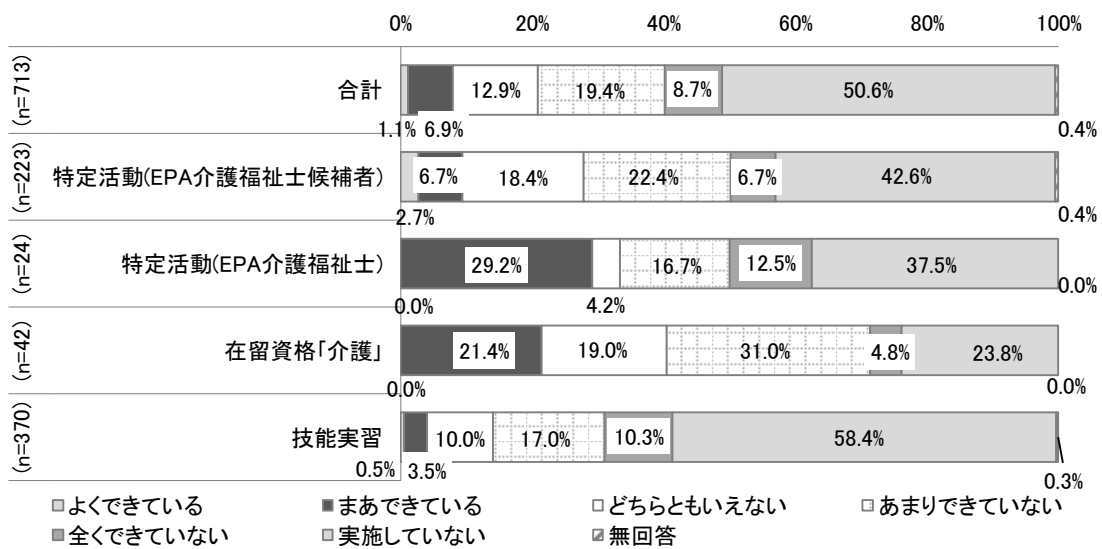
<在留資格別>



<在留資格別(N2のみ)>

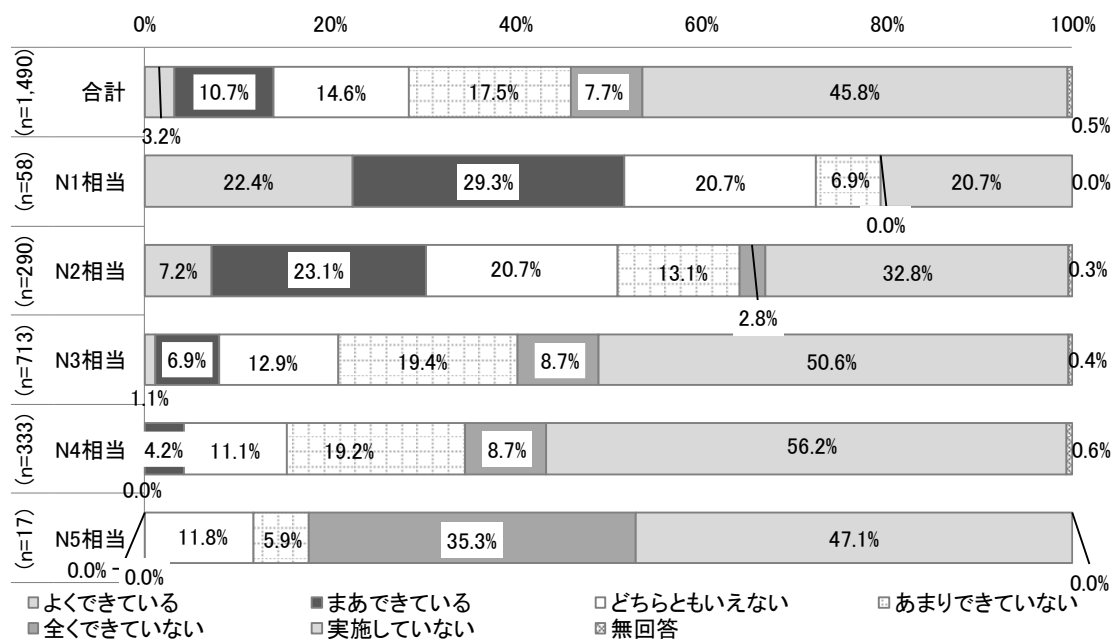


<在留資格別(N3のみ)>





<日本語能力別>



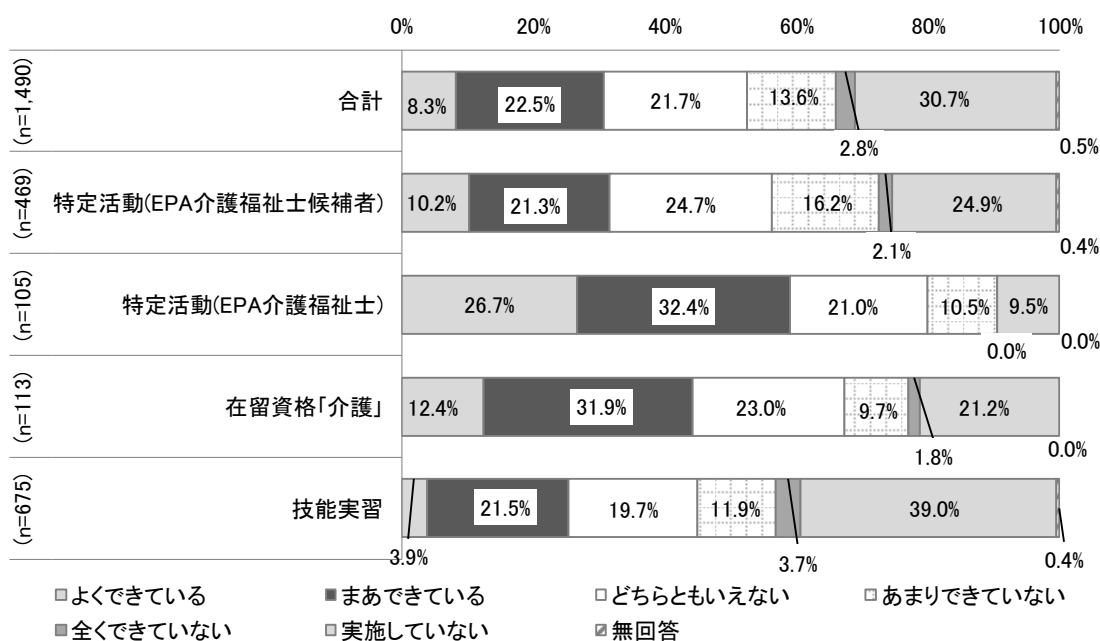
個別の業務についての評価：レクリエーションの運営や進行は、全体として「実施していない」が30.7%と最も高く、次いで「まあできている」が22.5%、「どちらともいえない」が21.7%であった。

在留資格別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「特定活動（EPA介護福祉士）」の26.7%であった。日本語能力N2相当だけでみたところ同じ傾向であった。一方で、N3相当だけでみると「特定活動（EPA介護福祉士候補者）」が8.5%と最も高かった。

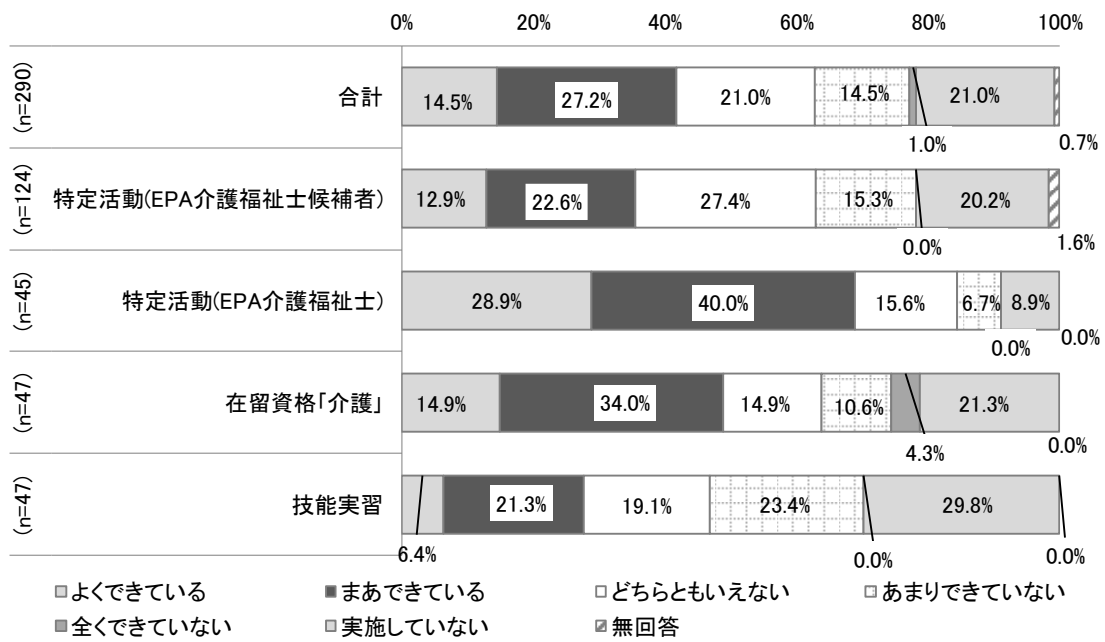
また、日本語能力別にみたところ、「よくできている」割合が最も高いのは「N1相当」の36.2%であった。

図表 2-57 レクリエーションの運営や進行（問3）

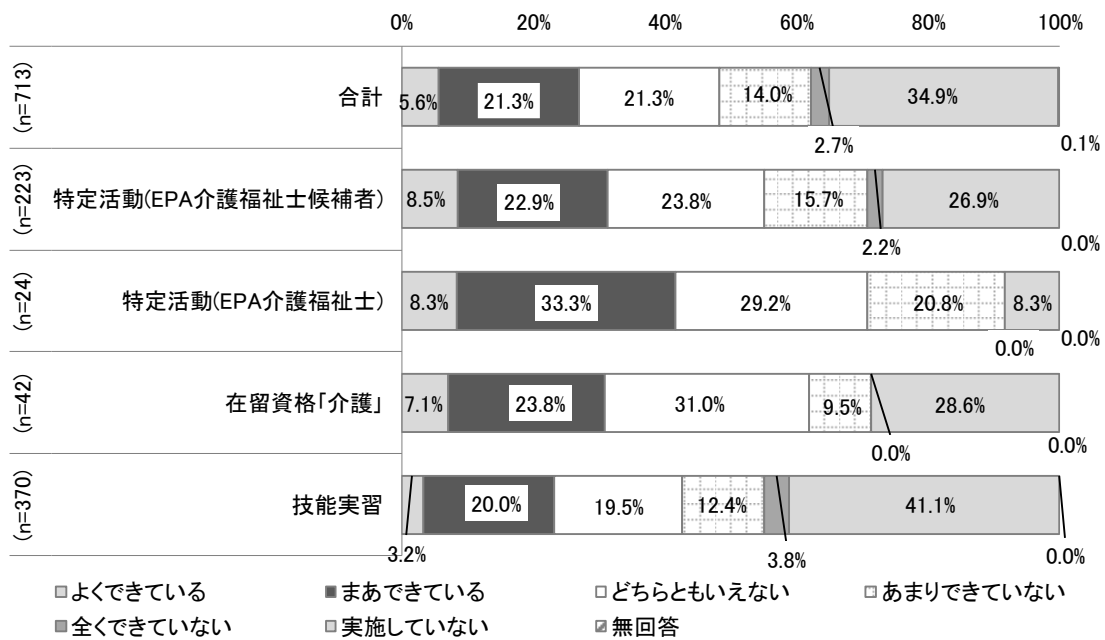
<在留資格別>



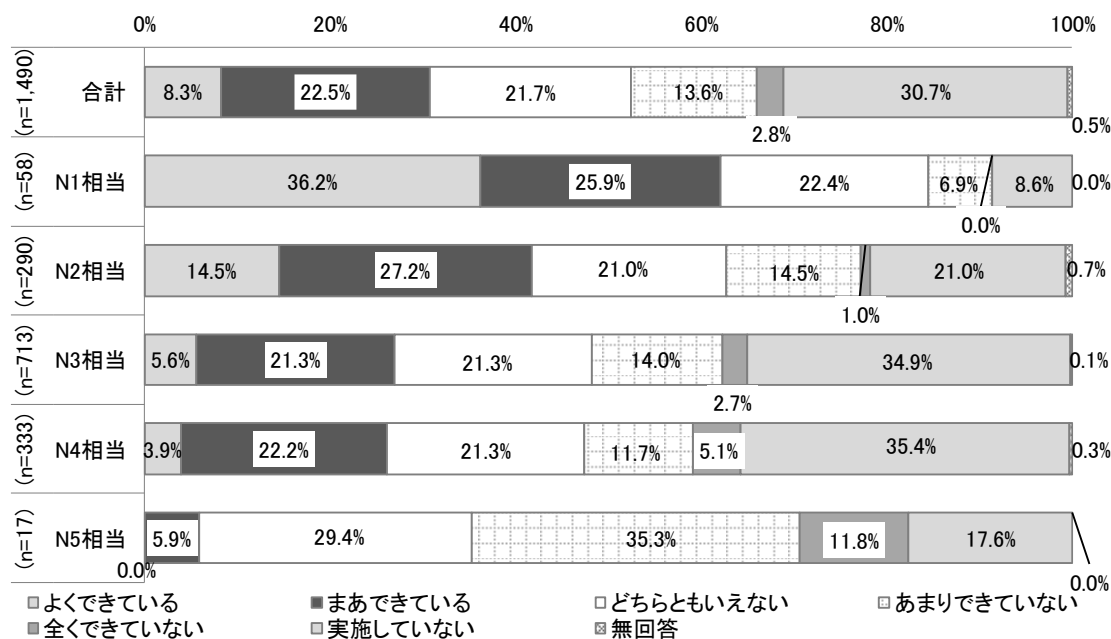
<在留資格別(N2のみ)>



<在留資格別(N3のみ)>



<日本語能力別>

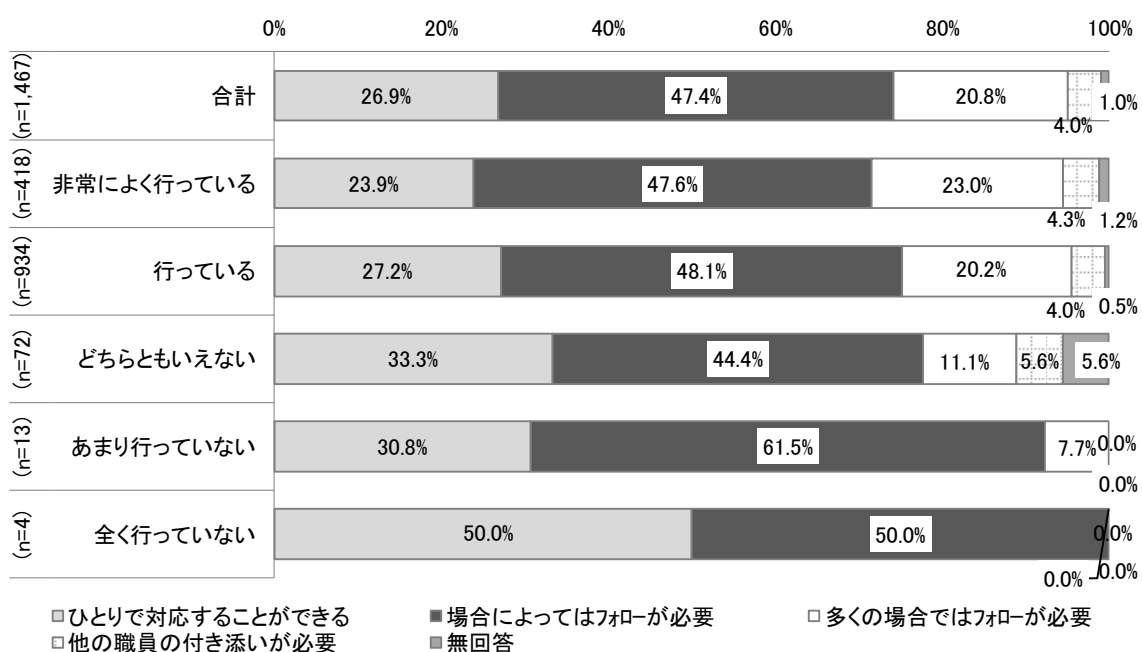


### (3) 事業所調査票①×事業所調査票②

#### ① 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援×評価：現在の直接介助のスキル

介護知識技能の習得のための支援の実施状況別に、現在の直接介助のスキルの評価をみたところ、支援を実施しているほど「ひとりで対応することができる」割合が高くなるといった傾向はみられなかった。

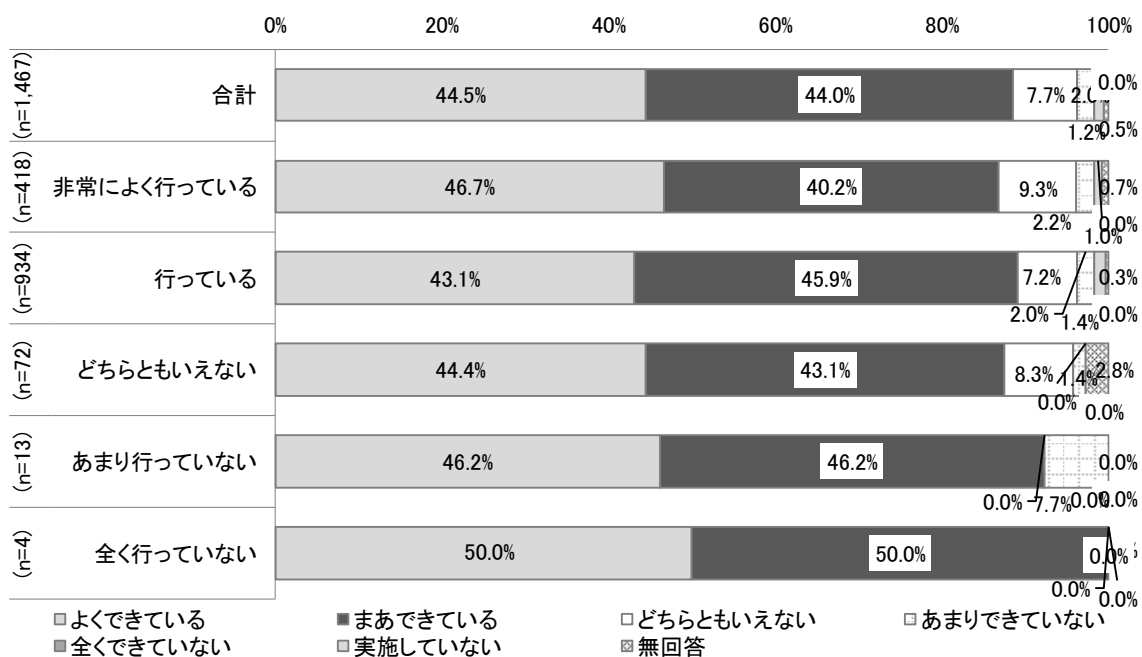
図表 2-58 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援(事業所調査票①問 21)×評価：現在の直接介助のスキル(事業所調査票②-2)



② 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援×評価：生活援助

介護知識技能の習得のための支援の実施状況別に、生活援助の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなるという傾向はみられなかった。

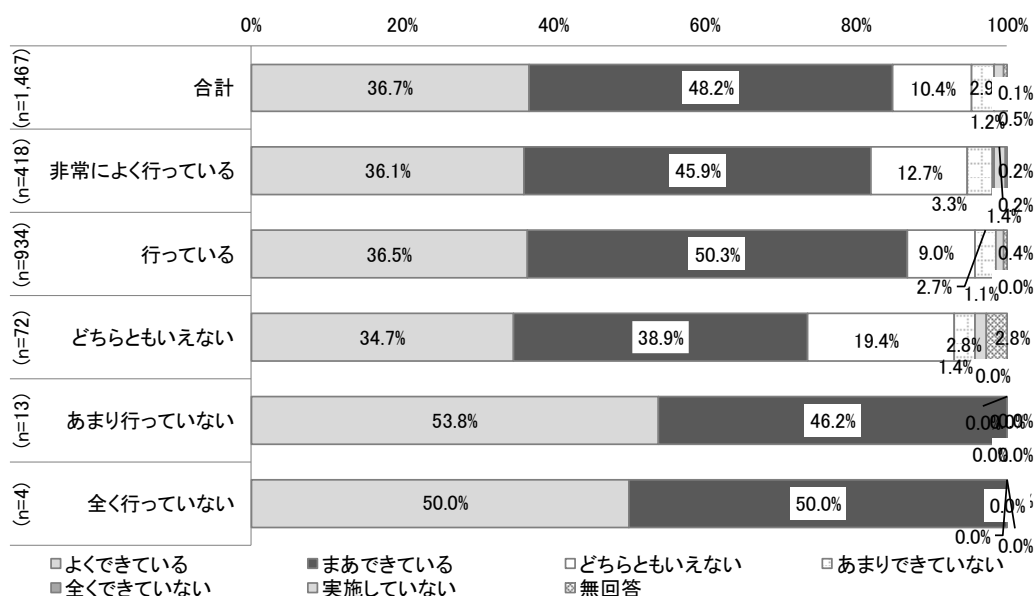
図表 2-59 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援(事業所調査票①問 21)×評価：生活援助(事業所調査票②-3)



③ 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援×評価：身体介護

介護知識技能の習得のための支援の実施状況別に、身体介護の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなるといった傾向はみられなかった。

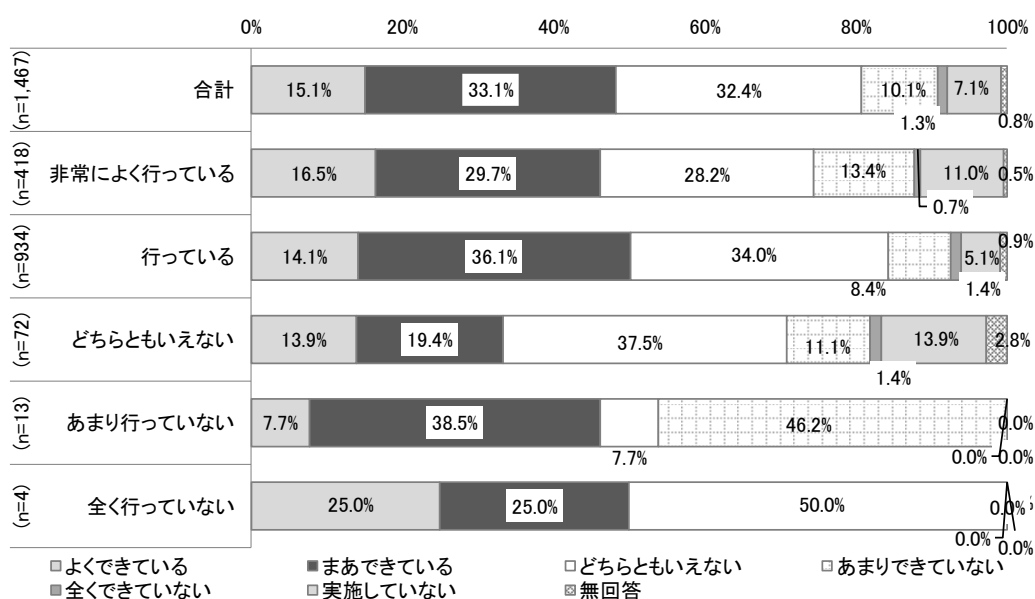
図表 2-60 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援(事業所調査票①問 21)×評価：身体介護(事業所調査票②-3)



④ 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援×評価：認知症ケア

介護知識技能の習得のための支援の実施状況別に、認知症ケアの評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなるといった傾向はみられなかった。

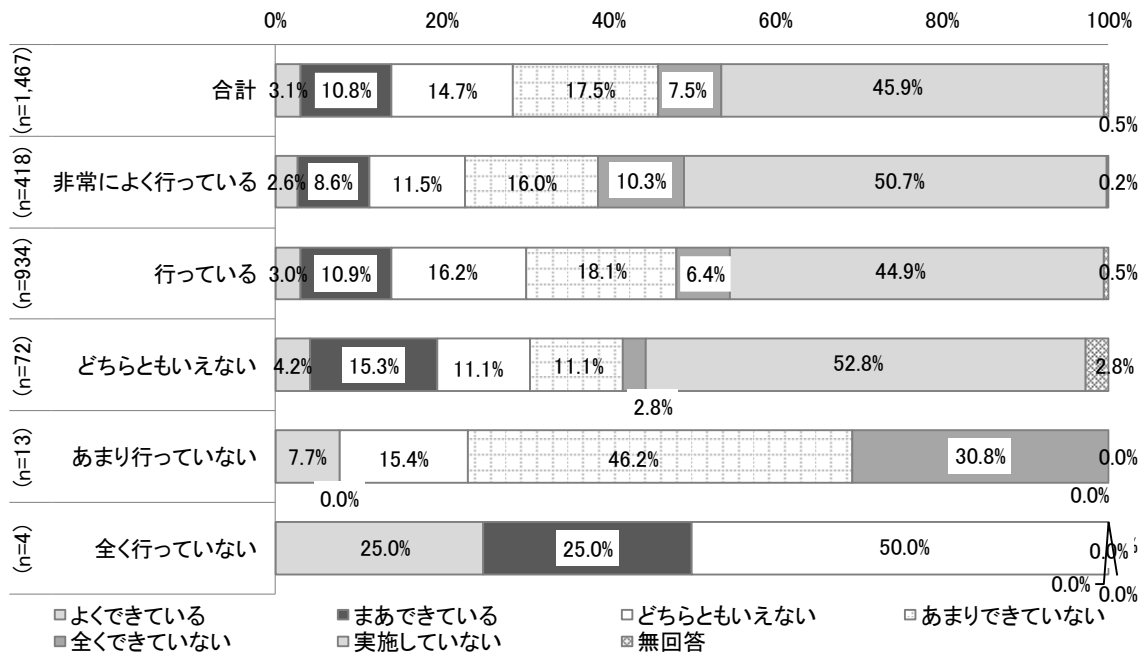
図表 2-61 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援(事業所調査票①問 21)×評価：認知症ケア(事業所調査票②-3)



⑤ 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援×評価：ケース会議やカンファレンスでの発言

介護知識技能の習得のための支援の実施状況別に、ケース会議やカンファレンスでの発言の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなるといった傾向はみられなかった。

図表 2-62 施設・事業所の支援：介護知識技能の習得のための支援(事業所調査票①問 21) × 評価：ケース会議やカンファレンスでの発言 (事業所調査票②-3)

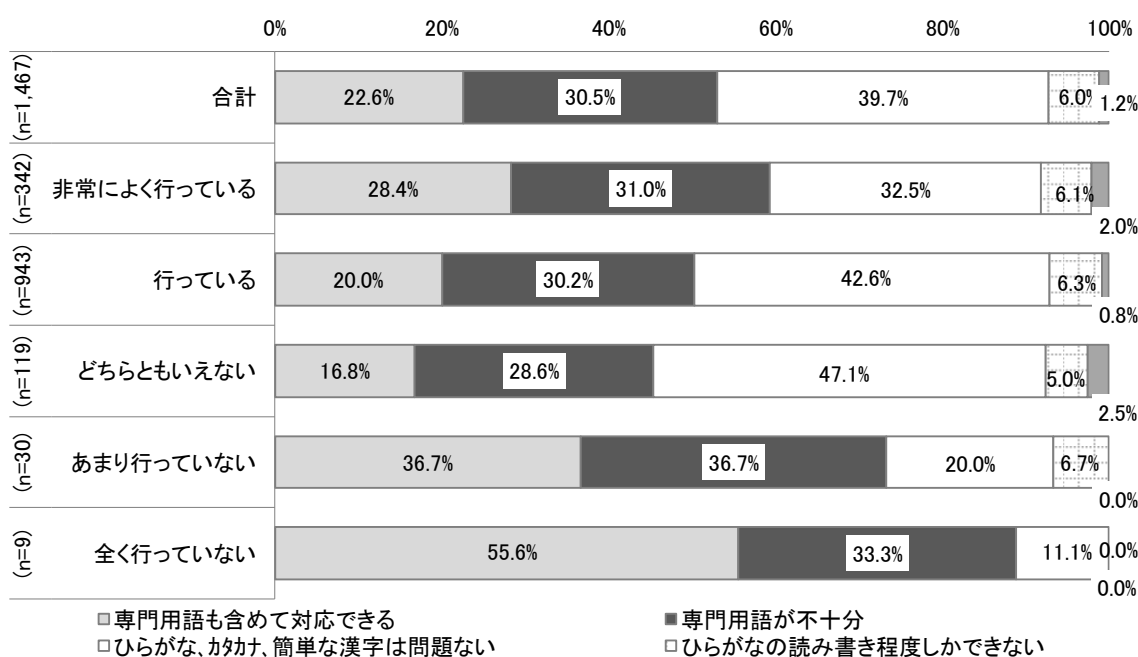




⑥ 施設・事業所の支援：介護現場に必要な日本語習得のための支援×評価：介護記録等、業務上の文書を読む能力

介護現場に必要な日本語習得のための支援の実施状況別に、介護記録等、業務上の文書を読む能力の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなるという傾向はみられなかった。

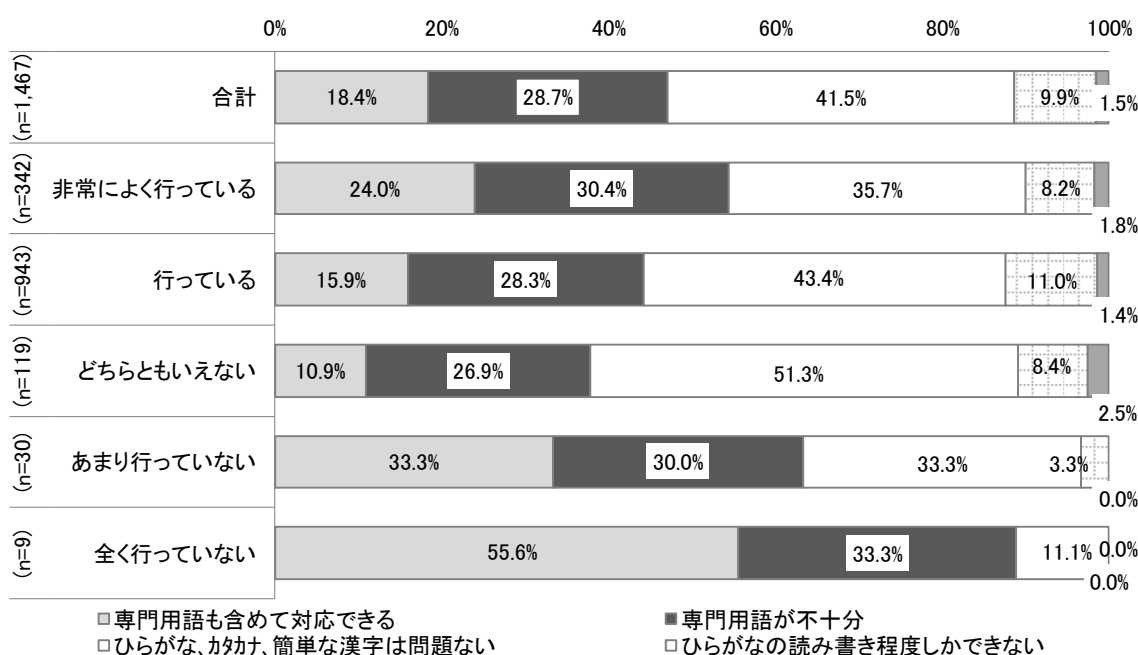
図表 2-63 施設・事業所の支援：介護現場に必要な日本語習得のための支援  
 (事業所調査票①問 21)×評価：介護記録等、業務上の文書を読む能力 (事業所調査票②-2)



⑦ 施設・事業所の支援：介護現場に必要な日本語習得のための支援×評価：介護記録等、業務上の文書を書く能力

介護現場に必要な日本語習得のための支援の実施状況別に、介護記録等、業務上の文書を書く能力の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなるという傾向はみられなかった。

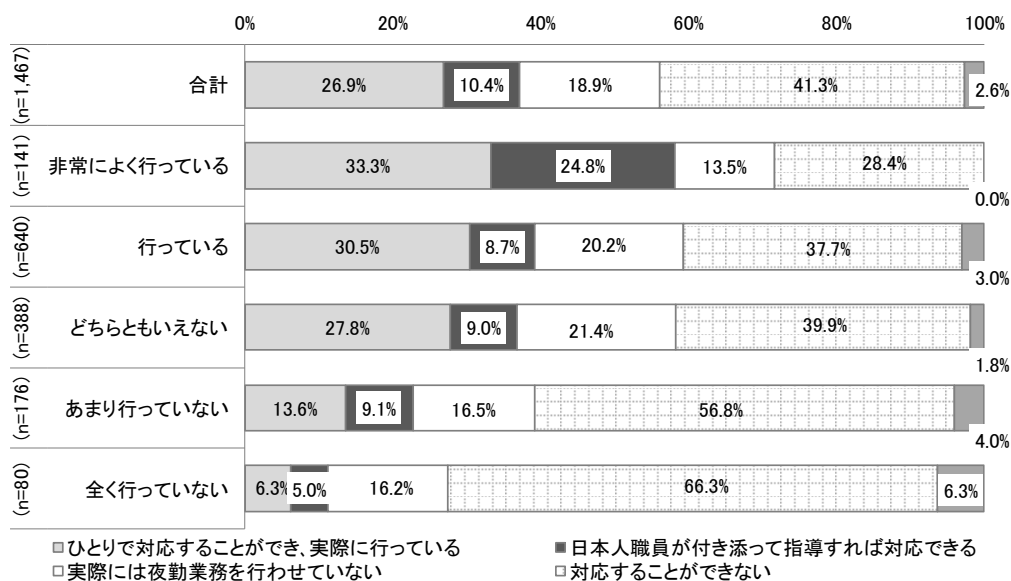
図表 2-64 施設・事業所の支援：介護現場に必要な日本語習得のための支援  
(事業所調査票①問 21)×評価：介護記録等、業務上の文書を書く能力 (事業所調査票②-2)



⑧ 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫×評価：夜勤業務

介護記録の方法の工夫の実施状況別に、夜勤業務の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなる傾向がみられた。

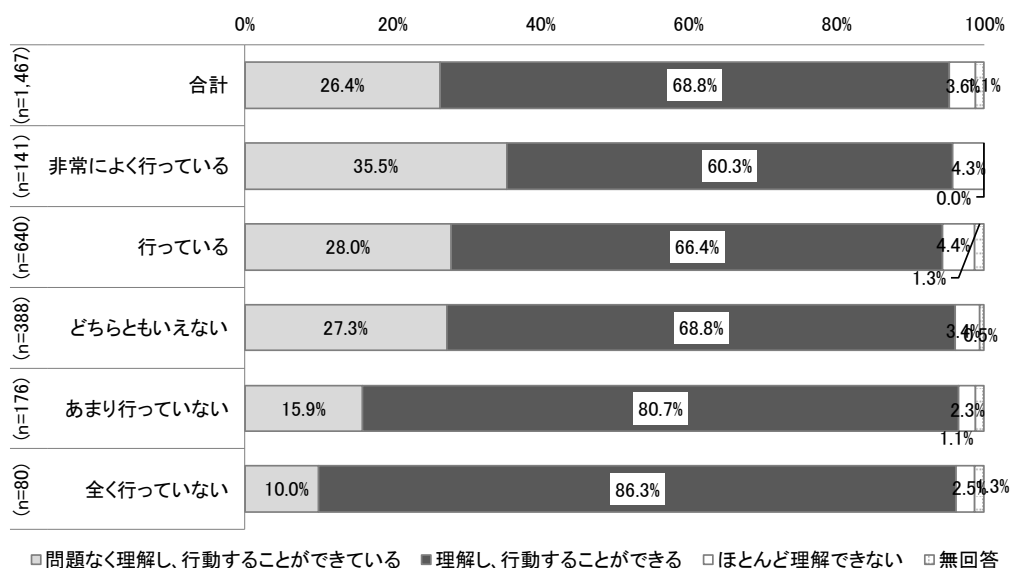
図表 2-65 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫(事業所調査票①問 21) × 評価：夜勤業務(事業所調査票②-2)



⑨ 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫×評価：引継ぎ・申し送りの理解

介護記録の方法の工夫の実施状況別に、引継ぎ・申し送りの理解の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなる傾向がみられた。

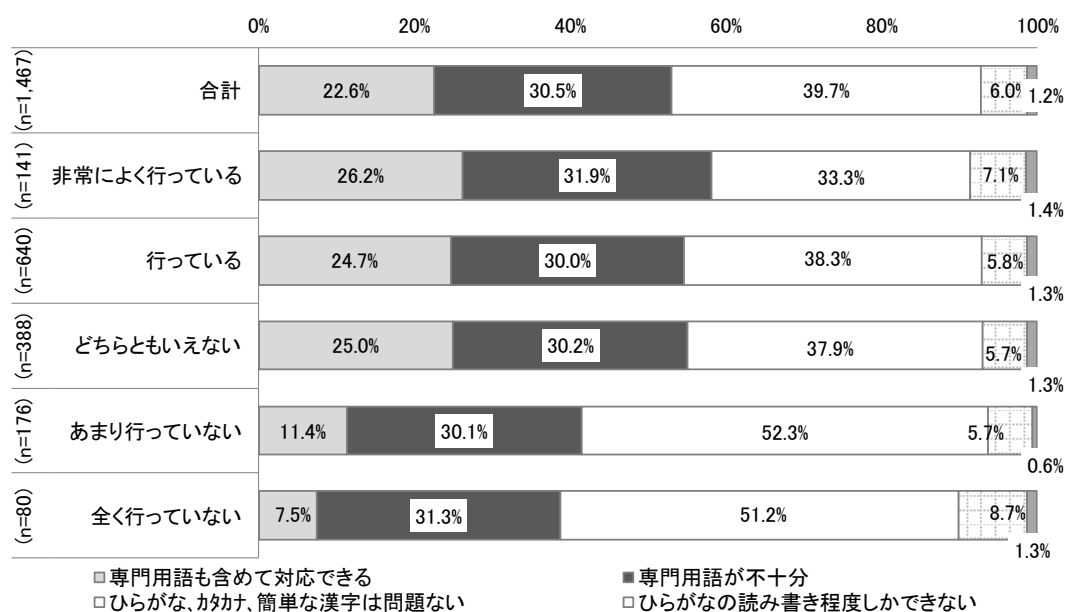
図表 2-66 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫(事業所調査票①問 21) × 評価：引継ぎ・申し送りの理解(事業所調査票②-2)



⑩ 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫×評価：介護記録等、業務上の文書を読む能力

介護記録の方法の工夫の実施状況別に、介護記録等、業務上の文書を読む能力の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなる傾向がみられた。

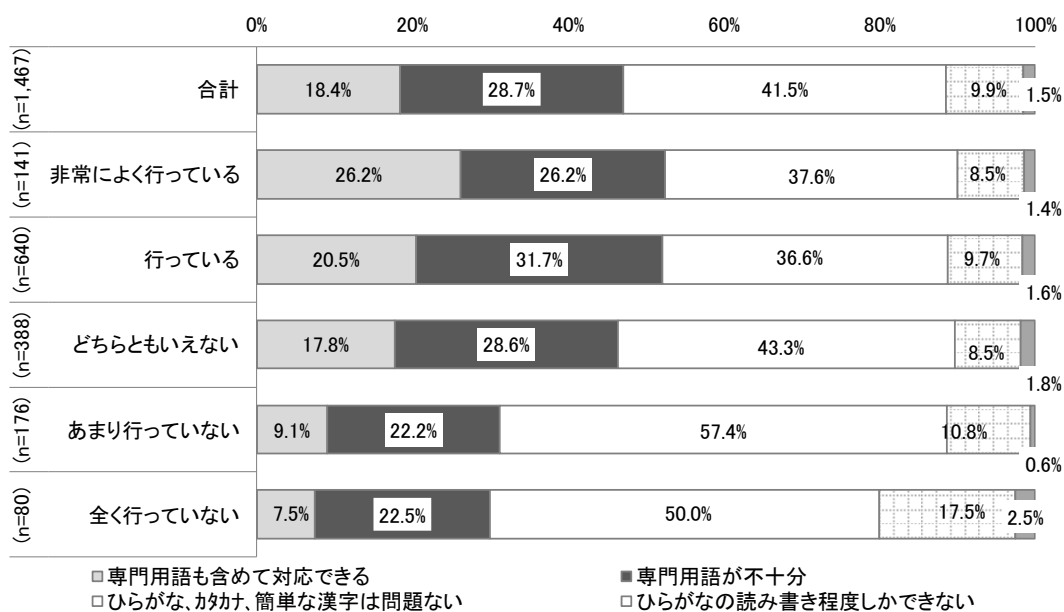
図表 2-67 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫(事業所調査票①問 21) × 評価：介護記録等、業務上の文書を読む能力(事業所調査票②-2)



⑪ 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫×評価：介護記録等、業務上の文書を書く能力

介護記録の方法の工夫の実施状況別に、介護記録等、業務上の文書を書く能力の評価をみたところ、支援を実施しているほど「よくできている」割合が高くなる傾向がみられた。

図表 2-68 施設・事業所の支援：介護記録の方法の工夫(事業所調査票①問 21) × 評価：介護記録等、業務上の文書を書く能力(事業所調査票②-2)



## 第3章 外国人介護職員向けアンケート調査

### 1. 調査実施概要

#### (1) 調査の目的

外国人介護職員の4つの受入れルートのうち、特定技能1号を除く3つの受入れルートで入国・在留している外国人介護職員本人に対して、従事する職務内容、介護知識・技能及び日本語能力の実態、育成や支援の取組み、今後の働き方やキャリア形成の考え等について実態を把握することを目的に実施した。

なお、調査にあたっては、先行研究を踏まえて、外国人介護職員が日本において介護職でキャリアを築いていきたいと希望する要因に関わり、仮説を設定した。

#### (2) 調査対象

EPA介護職員、在留資格「介護」を取得した外国人介護職員、介護職種で技能実習を行う技能実習生。

#### (3) 調査方法

事業所調査とともに、外国人職員本人調査票（以下、本人調査票という。）を同封し、上記の調査対象に該当する外国人介護職員に対して調査票を配布してもらった。言語は、日本語版のみで実施した。日本語での回答が難しい外国人介護職員は日本語がわかる他の職員からフォローしてもらい回答するケースを想定し、調査票では、どのように回答したかを回答方法も尋ねた。なお、回収は、原則本人から直接返送してもらった。

#### (4) 調査実施期間

令和元年12月6日～令和2年1月14日

## (5) 調査項目

- ・ 本人の属性（性別、国籍、日本における滞在期間、来日前の状況）
- ・ 職歴やこれまでのキャリア（来日前の状況の整理）
- ・ 現在通っている学校を選んだ理由、情報の入手先
- ・ 来日時及び現在の日本語能力
- ・ 学校や普段の生活状況（勉強時間、入学金や授業料の調達方法、アルバイトの就労状況）
- ・ 最近1年間で困ったこと
- ・ 今後の進路（学校を卒業した後の予定） など

## (6) 回収結果

合計 566 施設、1,437 人の有効回答があった。事業所別回答人数が 4 人以下の施設で、88%を占める。

なお、事業所調査票配付数が 2,224 件のため、事業所基準の回収率は 25.0%。

事業所別回答人数	事業所数	人数
1人	157事業所	157
2人	204事業所	408
3人	78事業所	234
4人	61事業所	244
5人	42事業所	210
6人	11事業所	66
7人	3事業所	21
8人	2事業所	16
9人	4事業所	36
10人	0事業所	0
11人	3事業所	33
12人	1事業所	12
合計	566事業所	1,437人

## 2. 調査結果概要

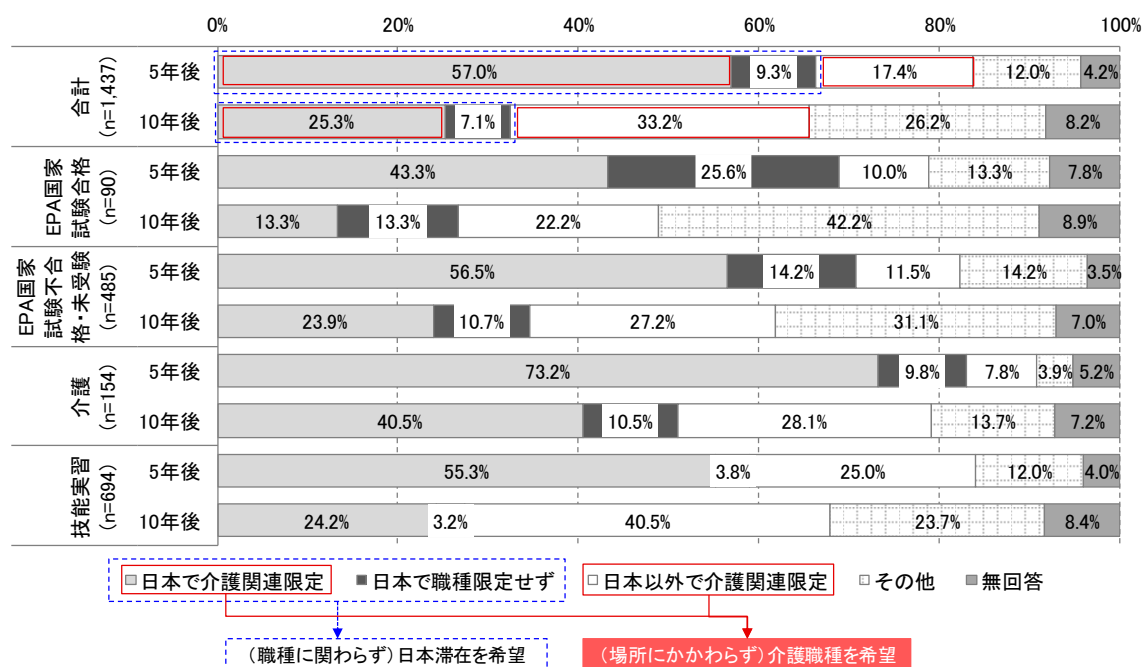
### (1) 将来展望と要因分析

※問番号は、調査票の番号（調査票上では、「問」を「Q」と表記）

#### ① 将来自分が住む場所と希望する仕事内容の関係

- 5年後は、「日本で介護関連の仕事をしていきたい」と考えている割合が、全体で57.0%と最も高い割合となっている。
- 10年後は、「日本以外で介護関連の仕事をしていきたい」と考えている割合が、全体で33.2%と最も高い割合になっている。

図表 3-1 自分が住む場所と希望する仕事内容の関係





## ② 職場満足度と将来の希望

### 仮説

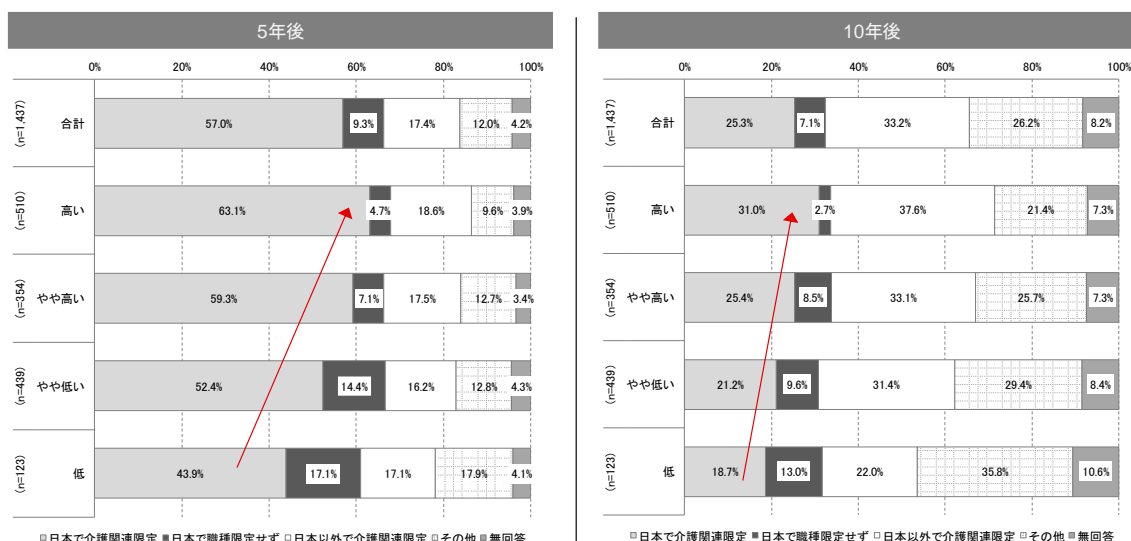
- ・ 就労先の満足度が高いほど、日本国内で介護職としてキャリア形成する意向が強い  
— 就労条件への満足度

### 仮説設定の背景

- ・ 就労先において、賃金や労働時間等の就労条件について満足度が高ければ、継続して就労を希望する人が多いのではないかと考えたため。

- ・ 5年後、10年後ともに、就労条件の満足度が高いほど、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が高くなる傾向がみられる。
- ・ また、就労条件の満足度が高いほど、「日本で職種を限定せずに働きたい」と考える割合や、「その他」の割合が低くなる傾向がみられる。

図表 3-2 就労条件満足度と将来の希望



(注) 就労条件満足度 (問 17)

①給料、②休日の取りやすさ、③労働時間、④利用者との関係、⑤施設の職員との関係 の5項目について、「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点として換算した後、5項目の点数を合計し、集計した(20点満点)。分布を勘案し、19点以上:高い(n=510)、17-18点:やや高い(n=354)、14-16点:やや低い(n=439)、13点以下:低い(n=123)とした。

### ③ 施設からの各種支援満足度と将来の希望

#### 仮説

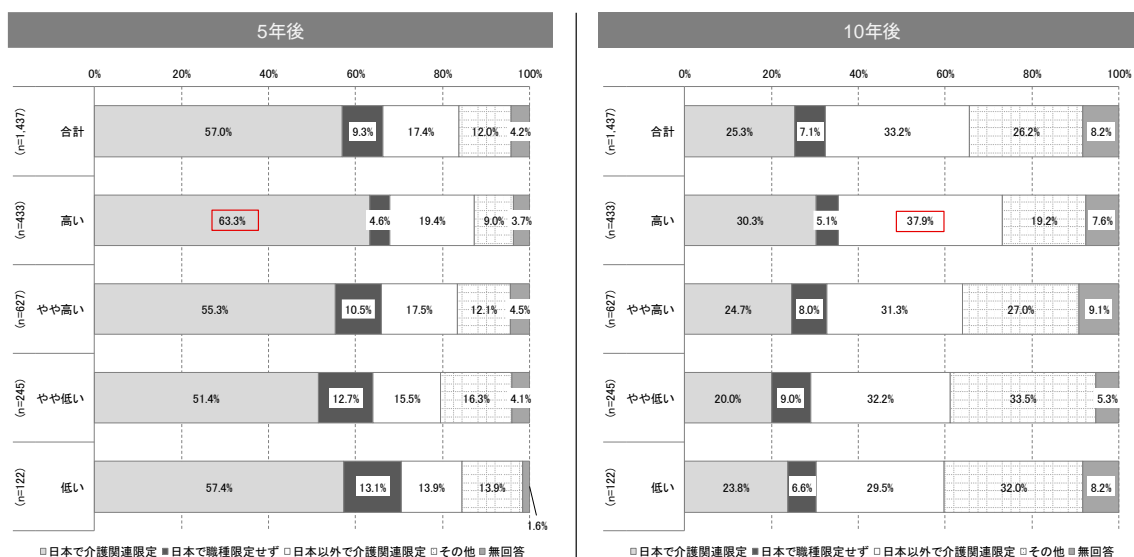
- ・ 就労先の満足度が高いほど、日本国内で介護職としてキャリア形成する意向が強い  
—施設からの各種支援への満足度

#### 仮説設定の背景

- ・ 就労先において、賃金や労働時間等の就労条件以外の各種支援に対する満足度も高ければ、継続して就労を希望する人が多いのではないかと考えたため。

- ・ 5年後では、各種支援満足度が「高い」層は、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が最も高い（63.3%）。
- ・ 10年後では、「日本以外で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が最も高い（37.9%）。

図表 3-3 施設からの各種支援満足度と将来の希望



(注) 施設からの各種支援満足度 (問 17)

⑥日本語の勉強への支援、⑦介護の技術・能力を高める研修・支援、⑧将来のキャリアに関する説明・支援、⑨家族への支援、⑩まわりの日本人と交流する機会、⑪自分の国や文化を教える機会 の6項目について、「満足」を4点、「やや満足」を3点、「やや不満」を2点、「不満」を1点、「受けていない、機会がない」を0点として換算した後、6項目の点数を合計し、集計した(24点満点)。分布を勘案し、21点以上:高い(n=433)、16-20点:やや高い(n=627)、15-11点:やや低い(n=245)、10点以下:低い(n=122)とした。

#### ④ 地域の関わりと将来の希望

##### 仮説

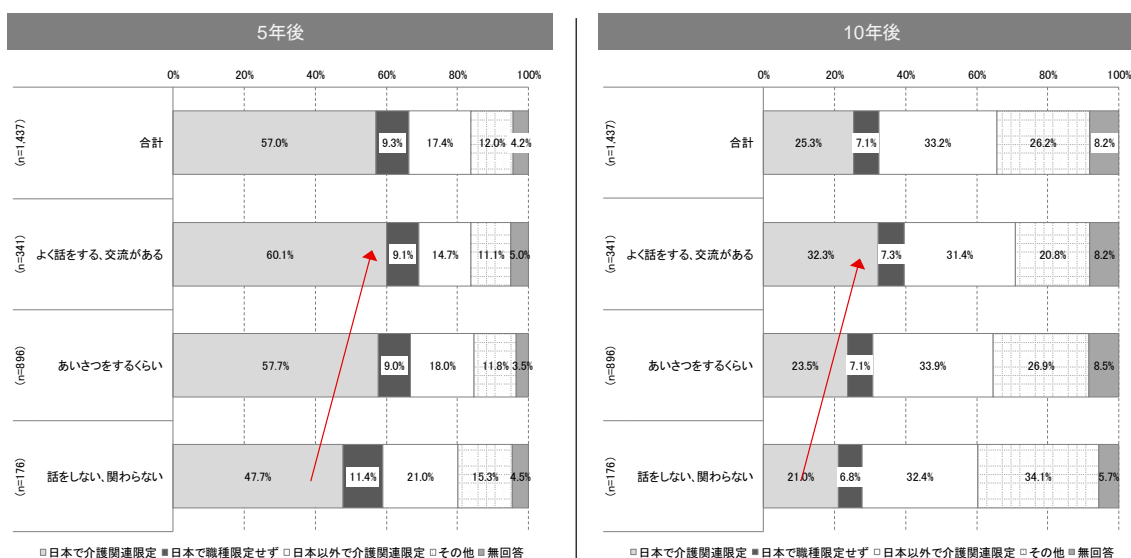
- ・ 就労先である介護施設外（地域社会）との関わりがあるほど、日本国内でのキャリア形成意向が強い

##### 仮説設定の背景

- ・ 他分野の受入れ事例や先行研究を踏まえると、就労先以外の地域住民等との関わりがあることで、生活基盤が安定し、長期的な就労にも繋がると考えたため。

- ・ 5年後、10年後ともに、地域の日本人住民との交流度合いが高いほど、日本に残りたいと考えている割合（「日本で介護関連限定」と「日本で職種限定せず」を足した割合）が高まる傾向がある。
- ・ 特に、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合について、「よく話をする、交流がある」層は、5年後：60.1%、10年後：32.3%となっている。

図表 3-4 地域の日本人との関わり度合いと将来の希望



## ⑤ 生活の安定と将来の希望

### 仮説

- 生活の基盤が安定しているほど、日本国内でのキャリア形成意向が強い

### 仮説設定の背景

- 先行研究ではしばしば、外国人労働者は言語面での困難に直面していることが指摘されているが、日常生活において困りごとがない、または困ったことがあっても自らで解決できていれば、言語面にも不安が無く、周囲とのコミュニケーションもとれ、継続した就労にも繋がると考えたため。

- 最近1年間、日本において困ったことが少ないほど（生活が安定している）ほど、「日本で介護関連に限って就労したい」と考えている割合が高まる傾向にある。
- （困ったことは）「特にない」をみると、5年後・10年後ともに、「日本で介護関連に限って就労したい」が最も高く（それぞれ、67.9%、28.2%）、「日本で職種限定せずに就労したい」（それぞれ、5.9%、5.2%）が最も低くなっている。

図表 3-5 最近1年間、日本において困ったこと(困り度合い)と将来の希望



(注) 最近1年間、日本において困ったこと(困り度合い) (問23)

困ったことについて、選択された数が多いほど、困りごとが多い(困り度合いが高い)として集計した。

分布を勘案し、0個：特にない(n=305)、1-2個：少ない(n=632)、3-4個：やや少ない(n=344)、5個以上：多い(n=136)とした。

## (2) 項目別集計

### ① 回答者の基本情報

- 在留資格は、「特定活動」(EPA)が40.2%、「介護」が10.6%、「技能実習」が48.2%だった。(問1)
- 出身国・地域は、「ベトナム」が33.1%、「インドネシア」22.8%、「フィリピン」が20.5%で、上位3カ国で76.4%を占めている。(問3)

### ② 母国における状況、入学経路・動機

- 母国で最後に通った学校は、EPAでは「大学・大学院」が78.3%で最多、介護と技能実習は、高校が15%程度、専門学校が30%程度と、それぞれ同程度の割合である。(問8)
- 日本で介護の仕事をしたいと思った理由は、介護と技能実習では、「日本の介護を学びたいから」が最多(それぞれ68.0%、79.1%)。EPAでは「日本の介護福祉士の国家資格を取りたいから」が68.1%で最多となっている。(問9)

### ③ 来日のための資金準備・日本語能力・学習状況

- 来日のための費用準備方法は、「家族や自分で準備した」が全体では59.4%と最多となっている。(問10)
- 日本語能力について、すべての在留資格において入国前と現在を比較すると、現在の方が能力が高まっている。(問11)
- 日本語学習に関わる「施設からの支援」について、介護と技能実習では「施設で日本人の職員に教えてもらっている」が最多(それぞれ68.0%、83.4%)となっている。EPAでは、「施設で日本語の先生に教えてもらっている」が最多の66.9%となっている。(問12)

### ④ 勤務期間・施設の満足度・給料・送金の状況

- 現在の施設における勤務期間は、「技能実習」、「介護」、「EPA 国家試験合格」、「EPA 国家試験不合格、未受験」の順に長期化していく傾向がある。介護と技能実習では、「1年未満」が最多(それぞれ55.6%、83.0%)となっている。(問15①)
- 働いている施設の就労条件面に対する満足度は、各項目概ね高い結果が得られており、各項目8割以上の満足度となっている。施設からの各種支援面における満足度も、全体としては7割から8割程度の満足度となっている。(問17)
- 給与は、全体で見ると「10万円～15万円」が最多の46.0%となっているが、EPAと介護では「15万円～20万円」が最多である。技能実習では、「10万円～15万円」が54.3%と最多になっている。(問18)
- 送金は、在留資格問わず8割前後が「送金をしている」と回答している。(問19①)
- 送金金額は、「5万円～10万円」が最多の54.9%であり、この割合は特に技能実習では、63.8%と高くなっている。(問19②)

#### ⑤ 地域との関わり・日常生活での困りごと

- 現在の地域の日本人との関わりは、在留資格問わず「あいさつをするくらい」が最多で、全体では62.4%となっている。(問20)
- 地域の活動・イベントへの参加状況について、「何度も参加した」「たまに参加した」を足した割合は、全体で52.7%となり、EPA、介護、技能実習の順に割合が高まる。(問21)
- 地域の活動・イベントへの参加意向は、在留資格問わず、9割程度が参加に前向きな回答となっている。(問22)
- 最近1年間、日本で困ったことは、介護と技能実習は「日本語の勉強」(それぞれ43.1%、47.2%)が最多、EPAは「介護の勉強」(45.2%)が最多となっている。(問23)

#### ⑥ 今後の展望

- 自分が住む場所の希望について、「日本」を希望する割合は、全体では5年後68.3%、10年後32.4%となっている。在留資格別では、5年後・10年後ともに、技能実習、EPA、介護の順に、日本を希望する割合が高まっている。(問25)
- 仕事の内容に関する希望について、5年後・10年後ともに、「介護の技術や能力を高めたい」が最多(それぞれ71.7%、40.8%)となっているが、10年後は、(介護以外の)「ほかの仕事をしたい」という割合が33.5%と、3番目に高い割合になっている。(問25)

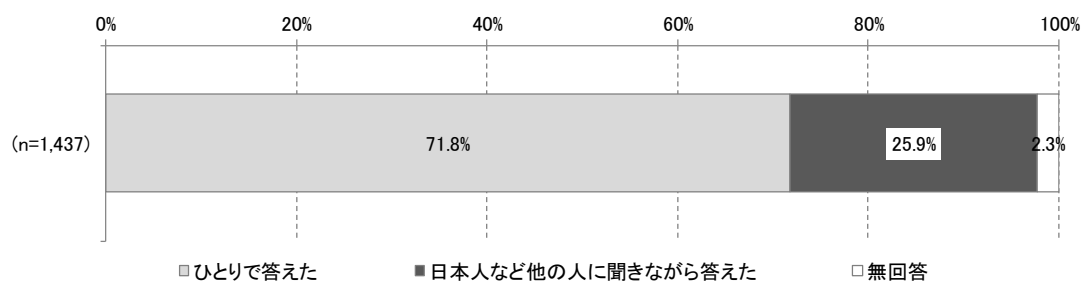
### 3. 調査結果

#### (1) 回答者の基本属性

##### ① 回答方法

回答方法は、「ひとりで答えた」が71.8%、「日本人など他の人に聞きながら答えた」が25.9%だった。

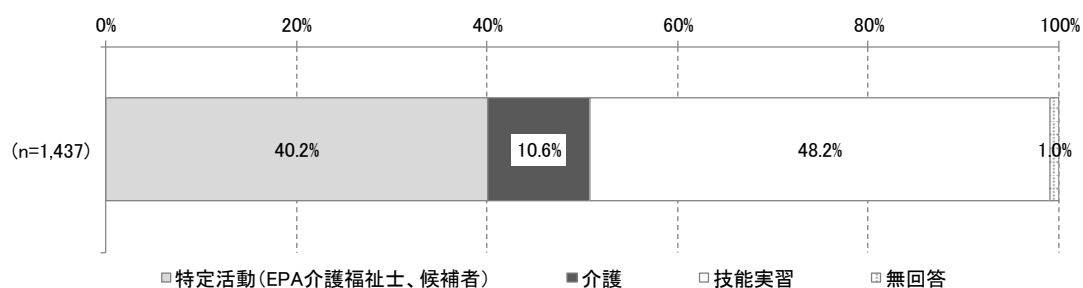
図表 3-6 回答方法



##### ② 在留資格

在留資格は、「特定活動」(EPA介護福祉士、候補者)が40.2%、「介護」が10.6%、「技能実習」が48.2%だった。

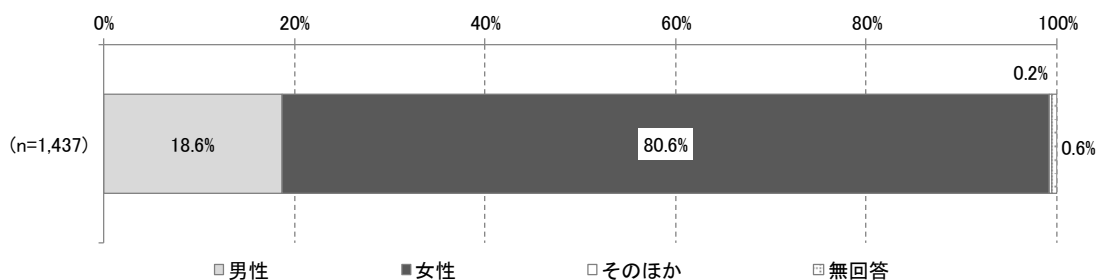
図表 3-7 在留資格(問1)



### ③ 性別

性別は、「女性」が80.6%だった。

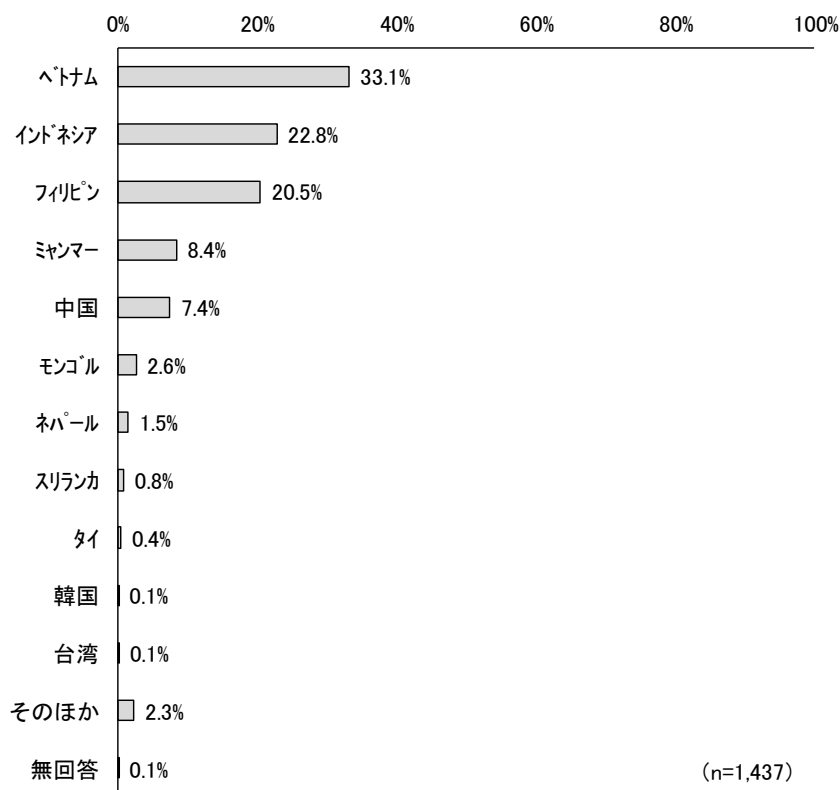
図表 3-8 性別(問2)



### ④ 国・地域別の人数割合

出身国・地域は、「ベトナム」が33.1%、「インドネシア」22.8%、「フィリピン」が20.5%で、上位3カ国で76.4%を占めている。

図表 3-9 国・地域別の人数割合(問3)



※ 調査票上、選択肢として設けたバングラデシュ、マレーシア、ブラジル、ペルーの回答は0名のため上記集計から削除

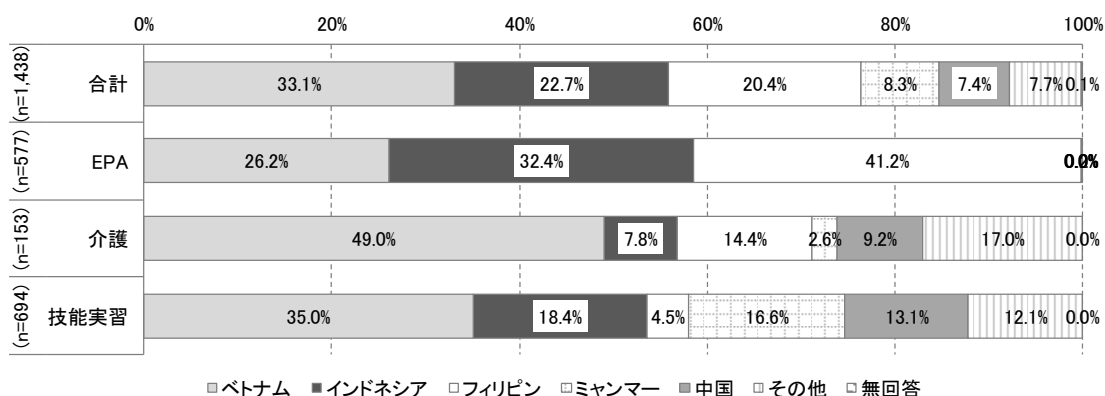
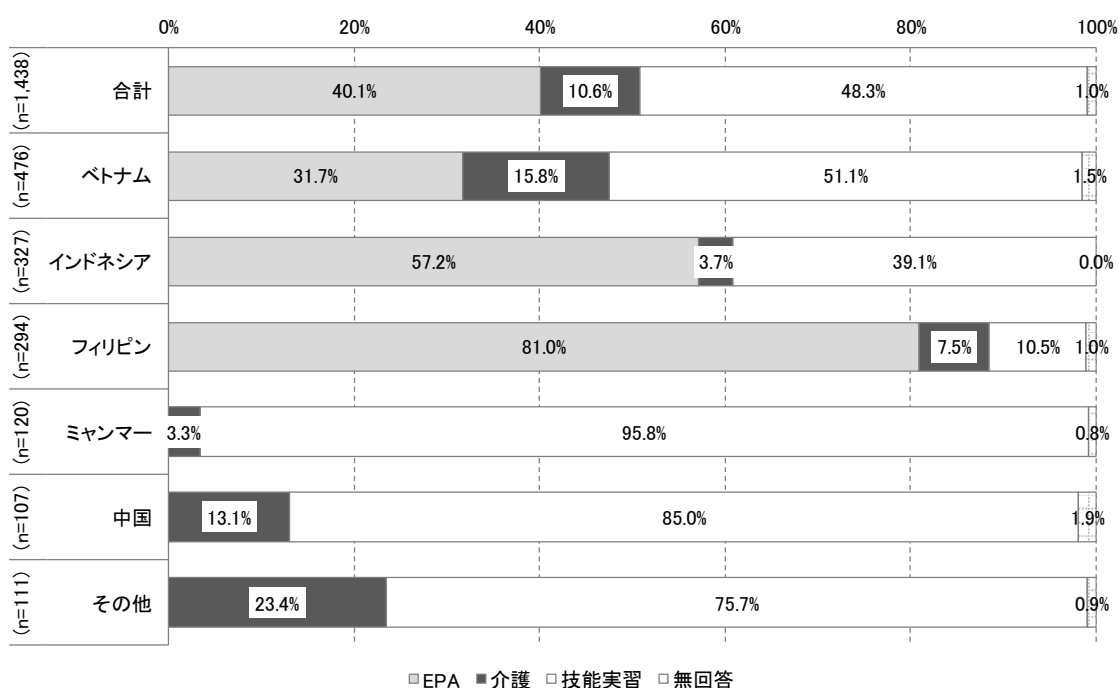


⑤ 出身国・地域（上位5カ国）と在留資格の関係

出身国・地域別にみると、人数規模で最大のベトナムでは、「技能実習」が最も多い51.1%だった。インドネシア、フィリピンでは、EPA（在留資格は特定活動）が最も多かった。ミャンマー、中国は、「技能実習」8割以上を占めている。

在留資格別にみると、EPAでは、フィリピン出身者が41.2%で最も多く、介護はベトナムが49.0%と約半数を占めている。技能実習も、ベトナムが最も多く、35.0%となっている。

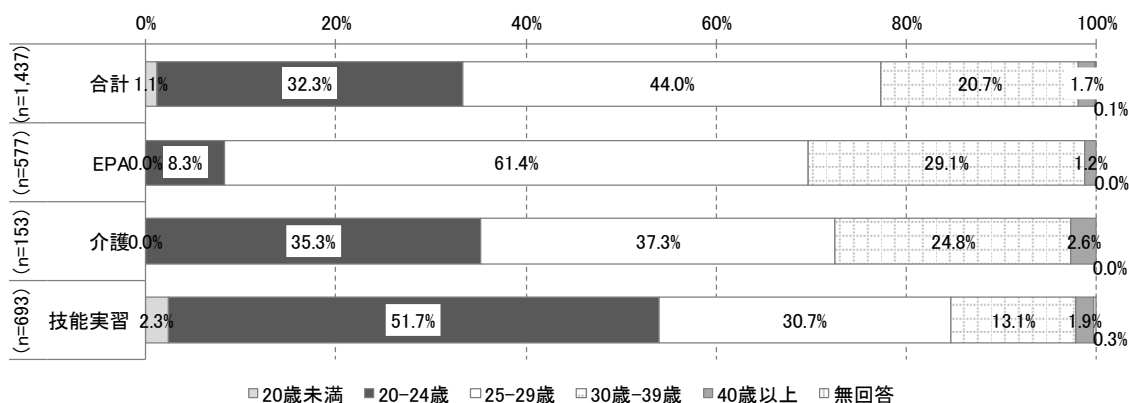
図表 3-10 出身国・地域(上位5カ国)と在留資格の関係(問3)



## ⑥ 年齢

年齢は、EPA、介護、技能実習の順に若年化する傾向があった。技能実習では、51.7%が「20-24歳」であった。

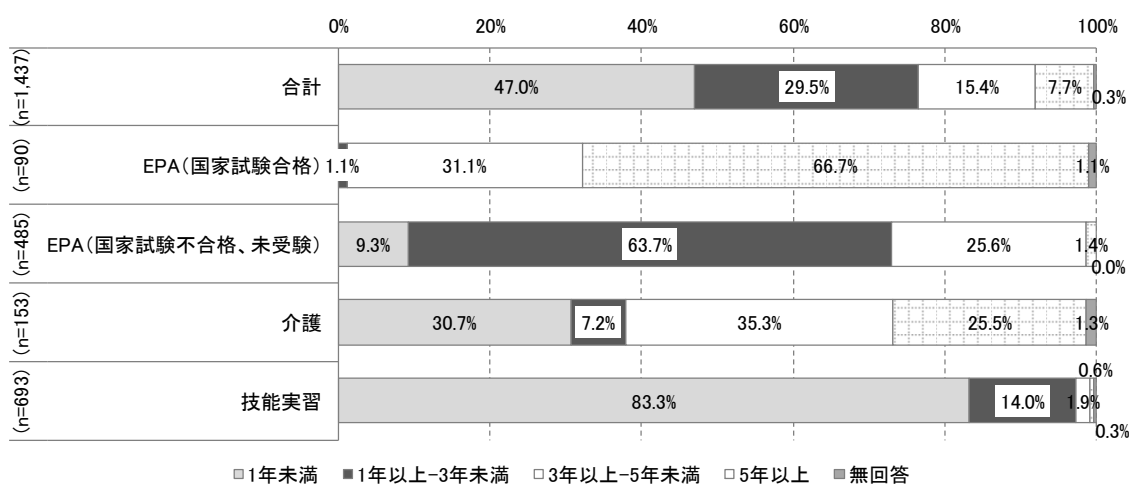
図表 3-11 年齢(問4)



## ⑦ 日本の居住年数

日本の居住年数は、EPA（国家試験合格）では「5年以上」が最多の66.7%、EPA（国家試験不合格、未受験）では、「1年以上～3年未満」が最多の63.7%、介護では「1年未満」（30.7%）と「3年以上-5年未満」（35.3%）が同程度の割合、技能実習では、「1年未満」が最多の83.3%となっている。

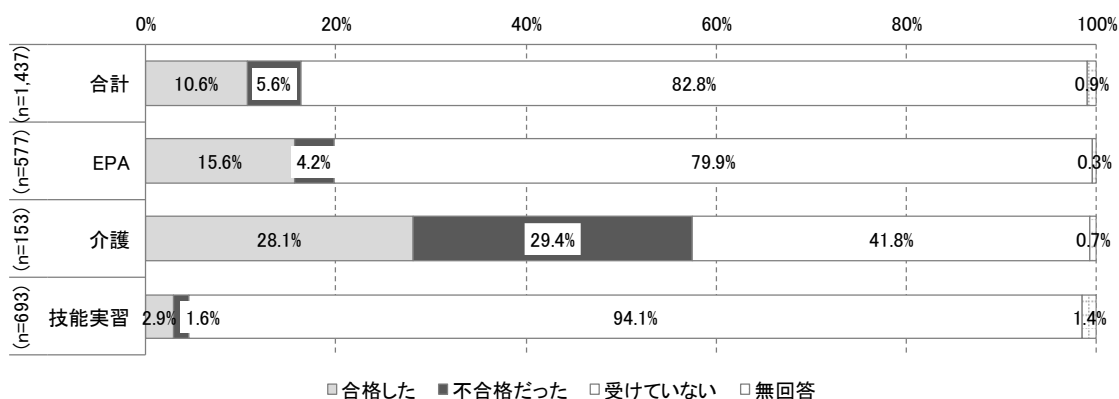
図表 3-12 日本の居住年数(問5)



### ⑧ 介護福祉士国家試験の受験状況

介護福祉士国家試験の受験状況は、全体では「受けていない」が82.8%で最多である。在留資格「介護」で「不合格だった」は29.4%である。

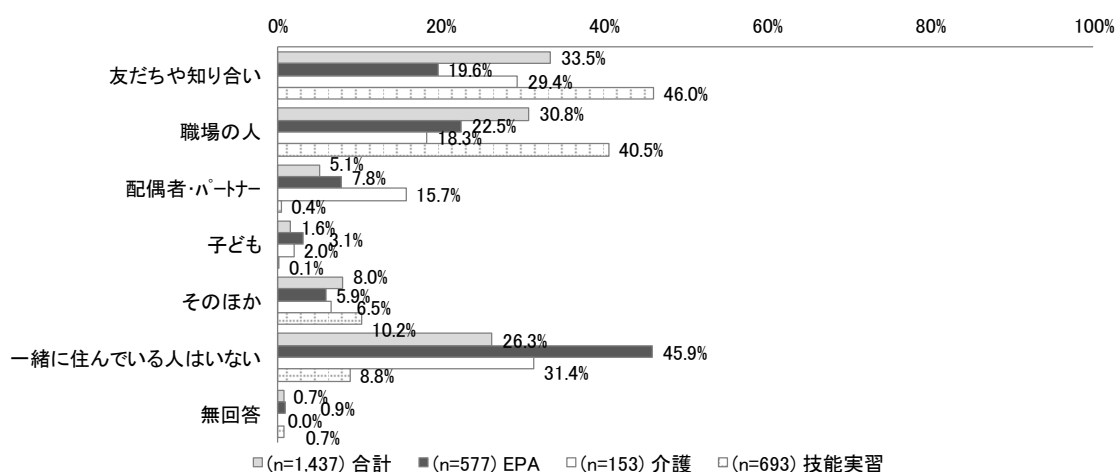
図表 3-13 介護福祉士国家試験の受験状況(問6)



### ⑨ 同居者

同居者は、EPA、介護では「一緒に住んでいる人はいない」が最多（それぞれ45.9%、31.4%）である。一方で、技能実習は、「友だちや知り合い」が46.0%で最多となっている。

図表 3-14 同居者(問7)

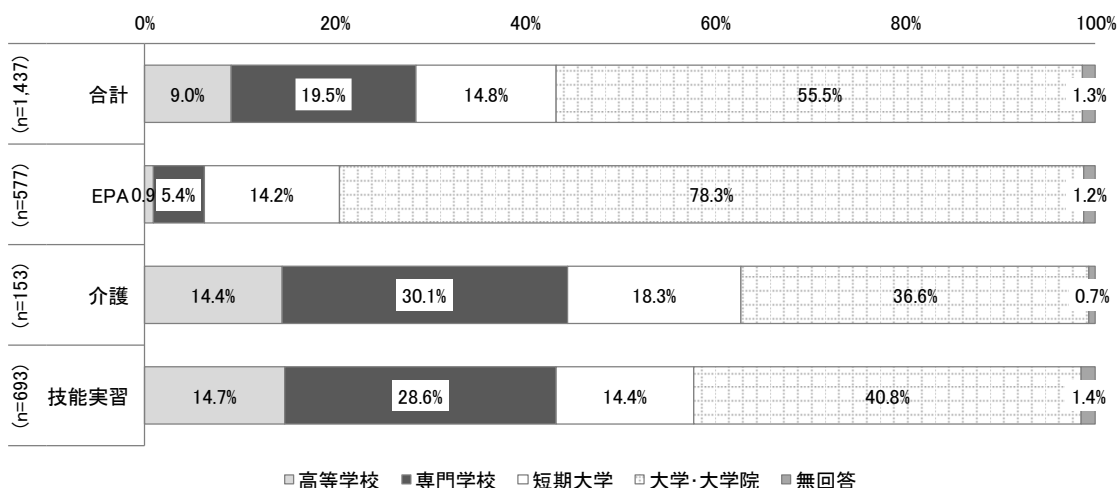


## (2) (来日前の) 母国における状況

### ① 母国で最後に通った学校

母国で最後に通った学校は、EPA では「大学・大学院」が78.3%で最多、介護と技能実習は、それぞれ同程度の割合である。

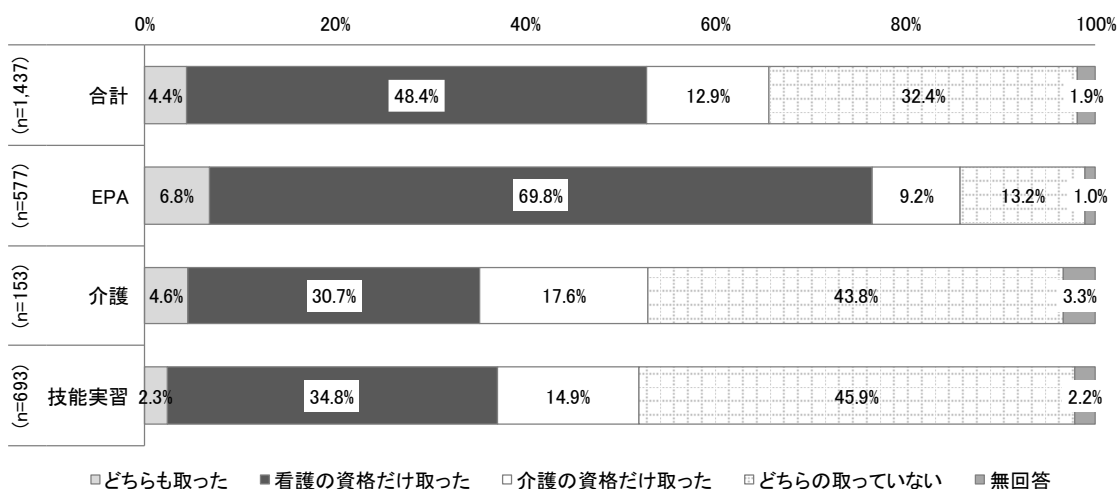
図表 3-15 母国で最後に通った学校(問8①)



### ② 介護や看護の資格の有無

看護や介護の資格の有無は、EPA では「看護の資格だけ取った」が69.8%で最多、介護と技能実習は、それぞれ同程度の割合である。

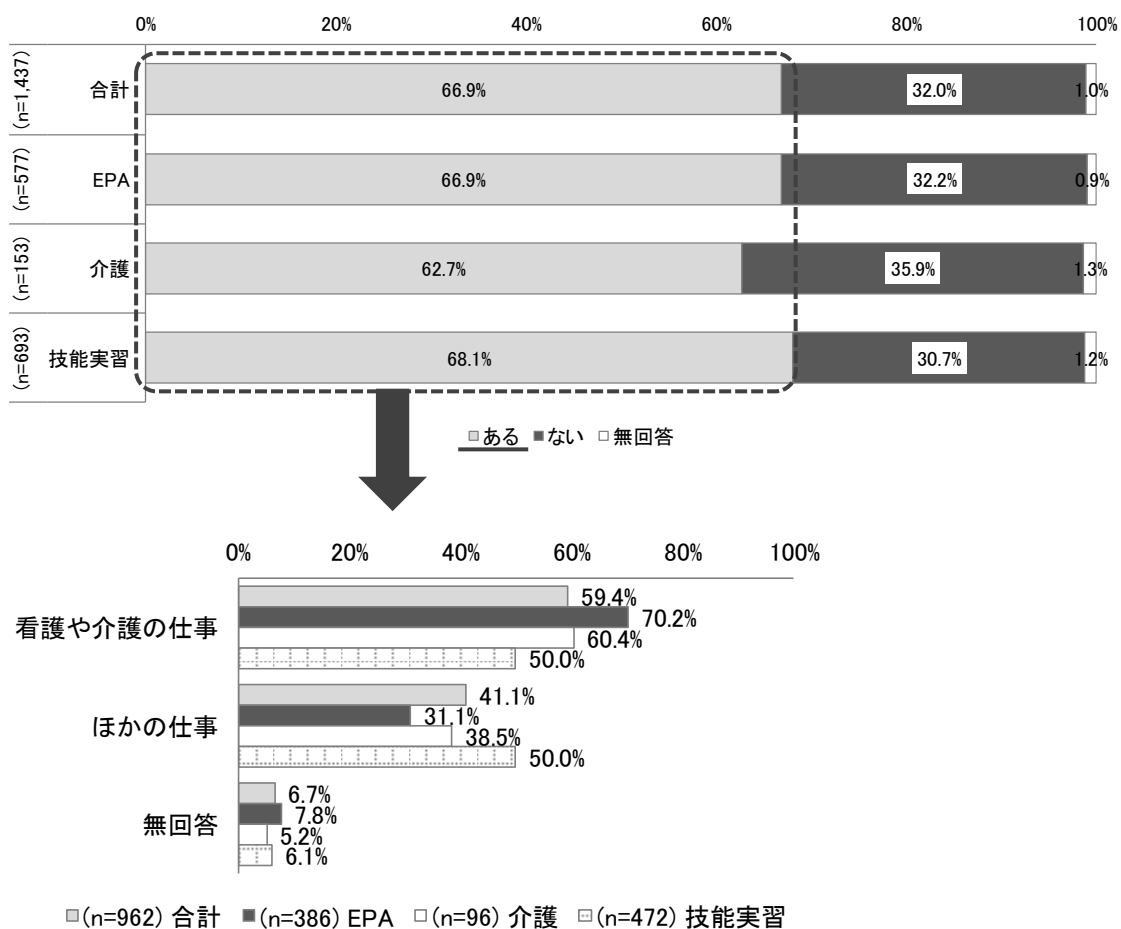
図表 3-16 介護や看護の資格の有無(問8②)



### ③ 母国で働いた経験の有無、有る場合の仕事内容

母国で働いた経験の有無は、在留資格別で大きな違いはなく、「ある」が6-7割程度、具体的には看護や介護の仕事の従事の割合が5割を超えている。

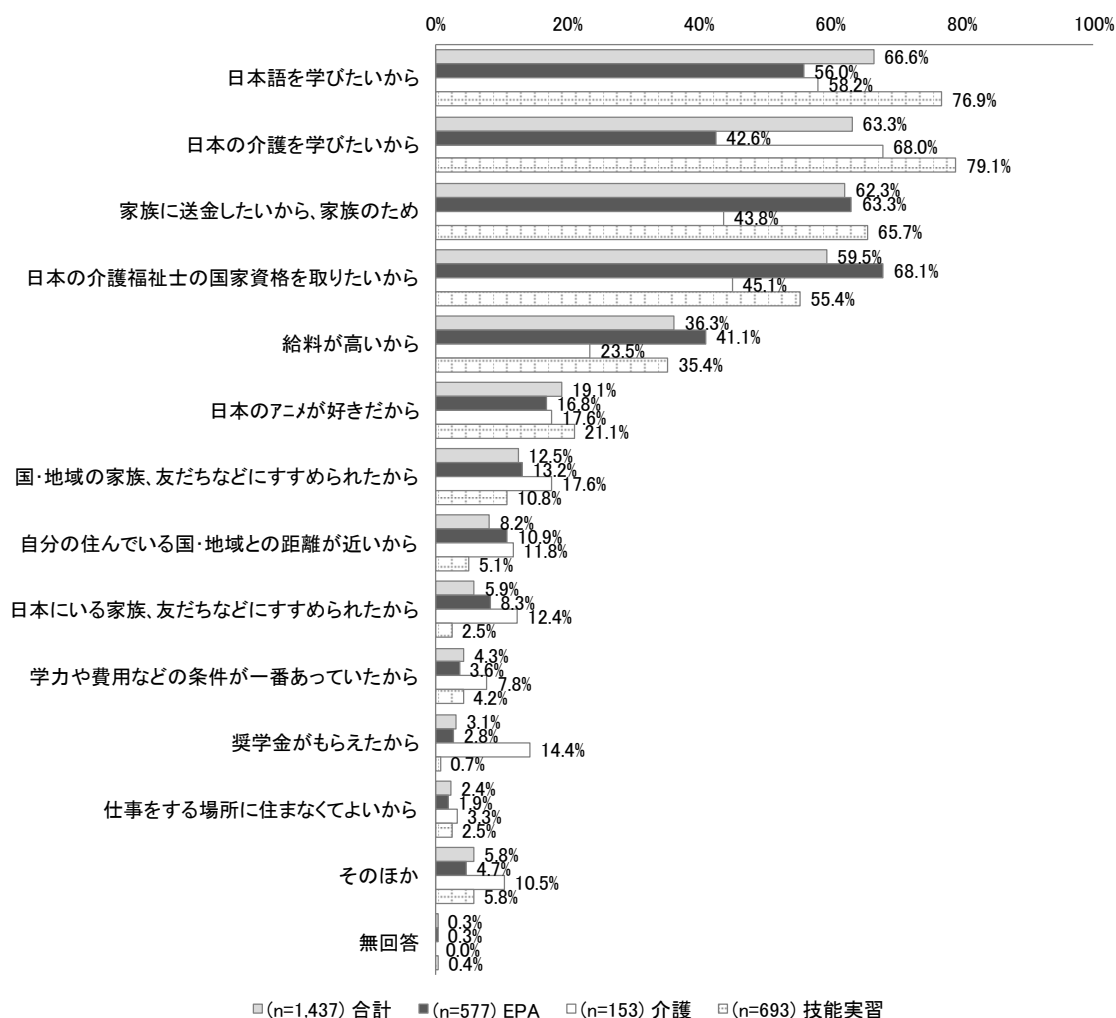
図表 3-17 母国で働いた経験の有無、有る場合の仕事内容(問8③)



#### ④ 日本で介護の仕事をしたと思った理由

日本で介護の仕事をしたと思った理由は、介護と技能実習では、「日本の介護を学びたいから」が最多（それぞれ68.0%、79.1%）となっている。EPAでは「日本の介護福祉士の国家資格を取りたいから」が68.1%で最多となっている。

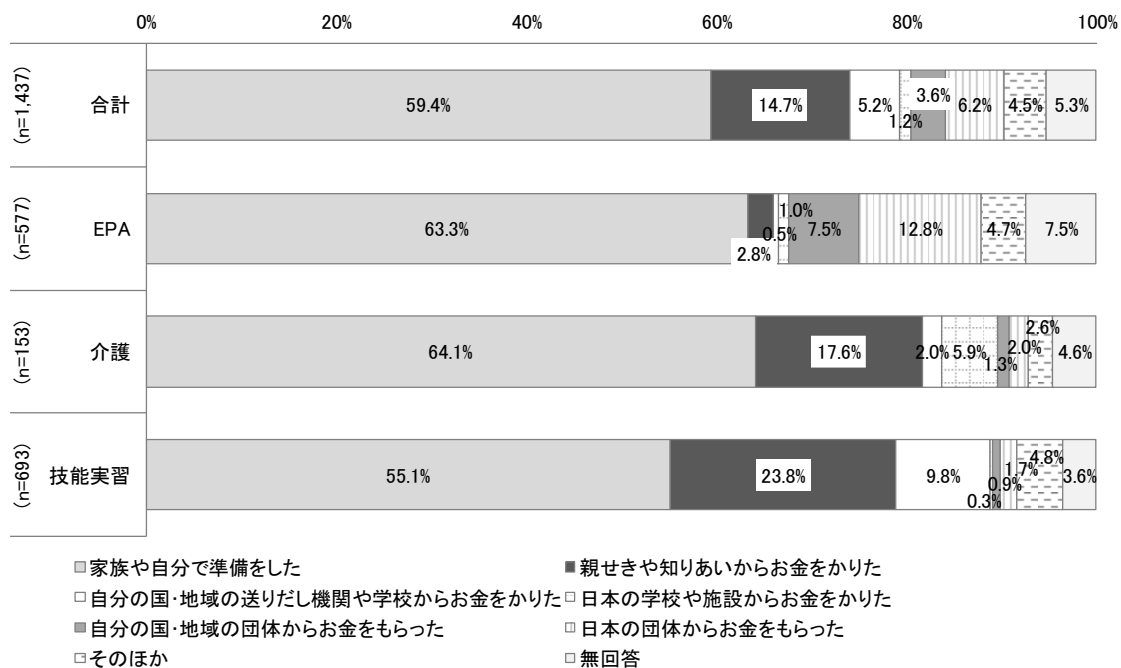
図表 3-18 日本で介護の仕事をしたと思った理由(問9)



⑤ 来日のための費用準備方法

来日のための費用準備方法は、「家族や自分で準備した」が全体では59.4%と最多となっている。「親せきや知りあいからお金をかりた」は、全体では14.7%だが、EPA、介護、技能実習の順に割合が高まり、技能実習では、23.8%を占めている。

図表 3-19 来日のための費用準備方法(問10)



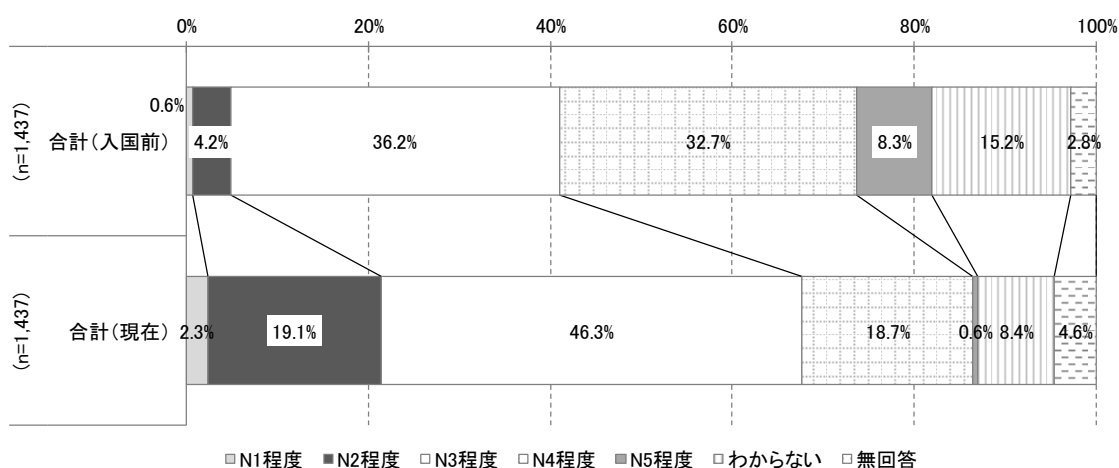
### (3) 日本語能力・日本語学習の状況

※ ここでは、日本語能力を測る最も一般的な試験である、国際交流基金「日本語能力試験 (JLPT)」のレベルを参考とした。

#### ① 日本語能力：入国（来日）前と現在の比較

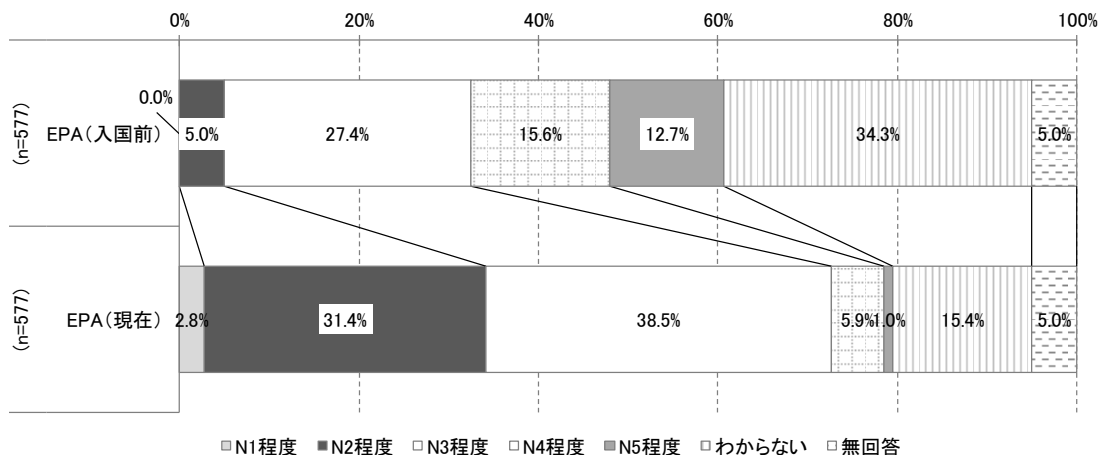
日本語能力について、入国前と現在を比較すると、すべての在留資格において現在の方が能力が高まっている。

図表 3-20 日本語能力:入国(来日)前と現在の比較(問11 全体)



EPA の日本語能力について、入国前と現在を比較すると、N2 程度が入国前は5.0%だったのに対し、現在は31.4%まで上昇している。同様に、N3 程度が入国は27.4%だったのに対し、現在は38.5%まで上昇している。

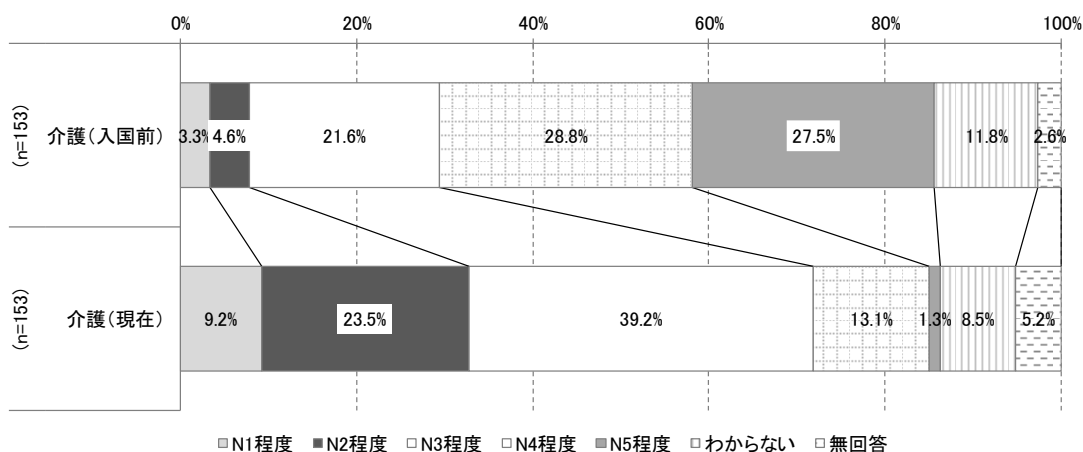
図表 3-21 日本語能力:入国(来日)前と現在の比較(問11 EPA)





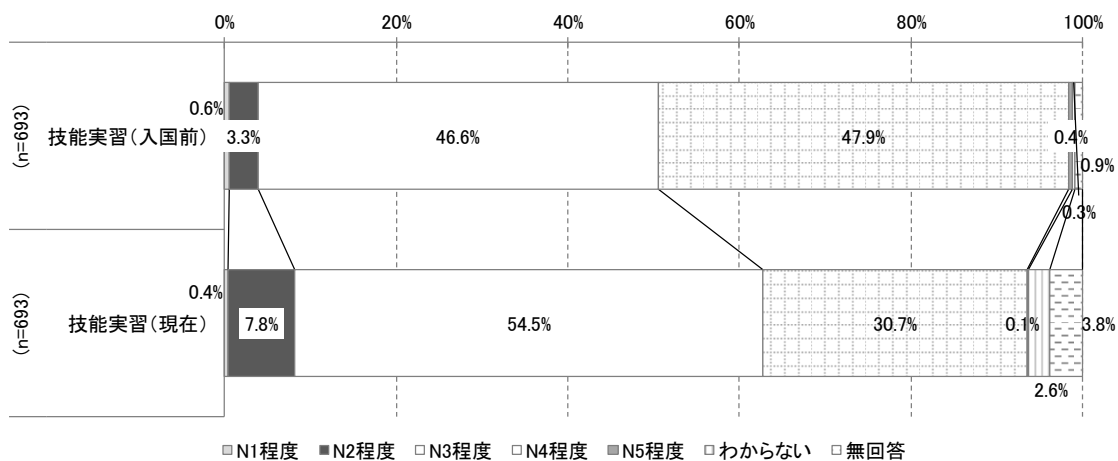
介護の日本語能力について、入国前はN4程度が28.8%と最多になっていたのに対し、現在はN3程度が39.2%となり、最多となっている。

図表 3-22 日本語能力:入国(来日)前と現在の比較(問11 介護)



技能実習の日本語能力について、入国前はN4程度が47.9%で最多だったのに対し、現在はN3が54.5%で、最多となっている。

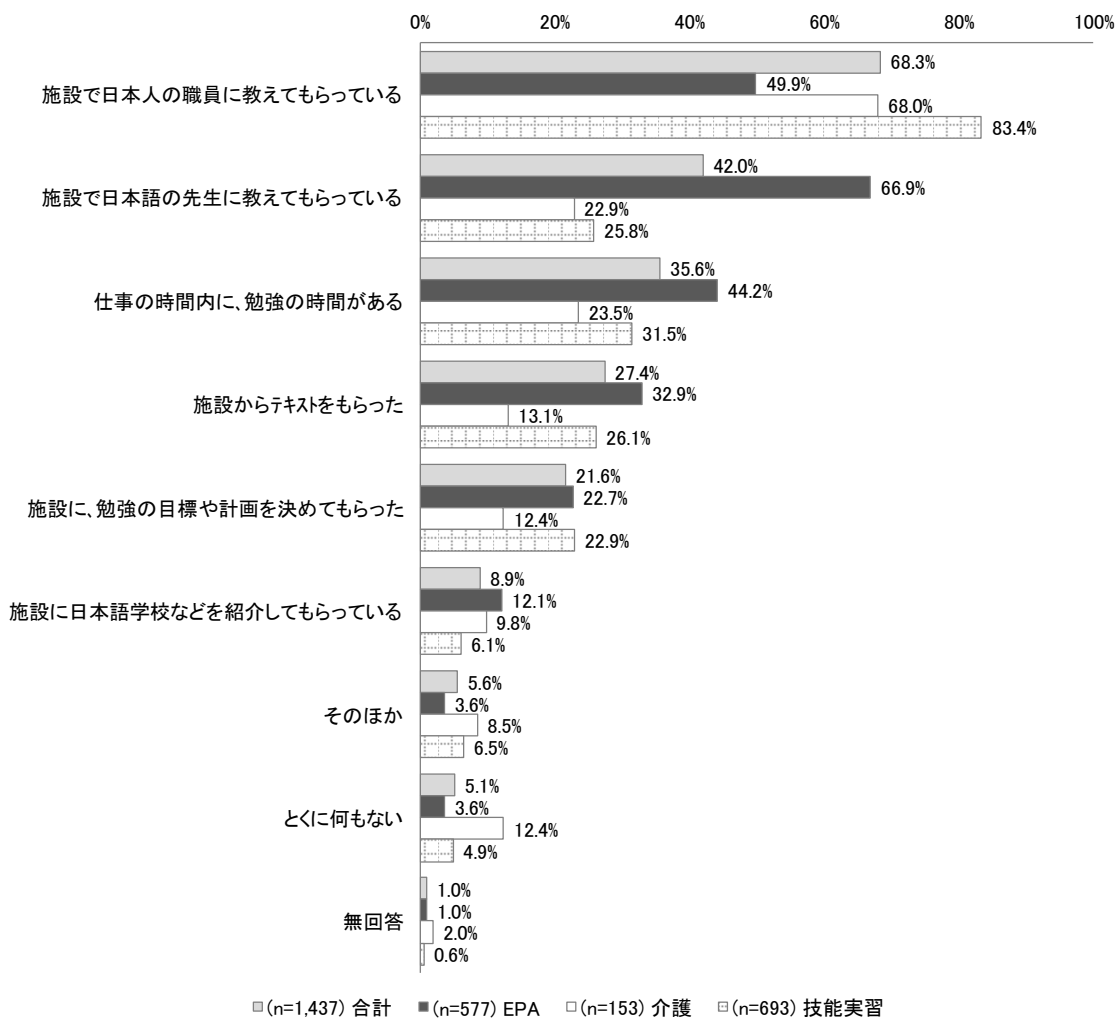
図表 3-23 日本語能力:入国(来日)前と現在の比較(問11 技能実習)



② 日本語学習状況（施設からの支援）

日本語学習に関わる「施設からの支援」について、介護と技能実習では「施設で日本人の職員に教えてもらっている」が最多（それぞれ68.0%、83.4%）となっている。EPAでは、「施設で日本語の先生に教えてもらっている」が最多の66.9%となっている。

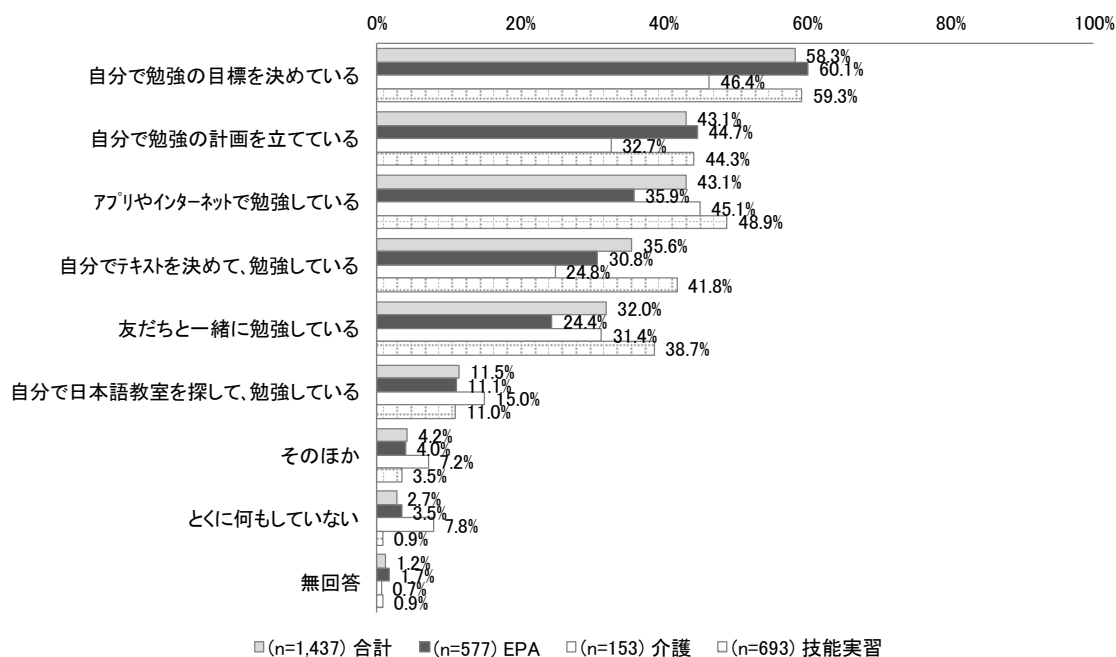
図表 3-24 日本語学習状況（施設からの支援）（問12）



### ③ 日本語学習状況（自主学習）

日本語学習の「自学自習」の方法について、「自分で勉強の目標を決めている」が全体で58.3%で、すべての在留資格で最多の割合となっている。次いで、「自分で勉強の計画を立てている」が43.1%となっている。

図表 3-25 日本語学習状況(自主学習)(問13)

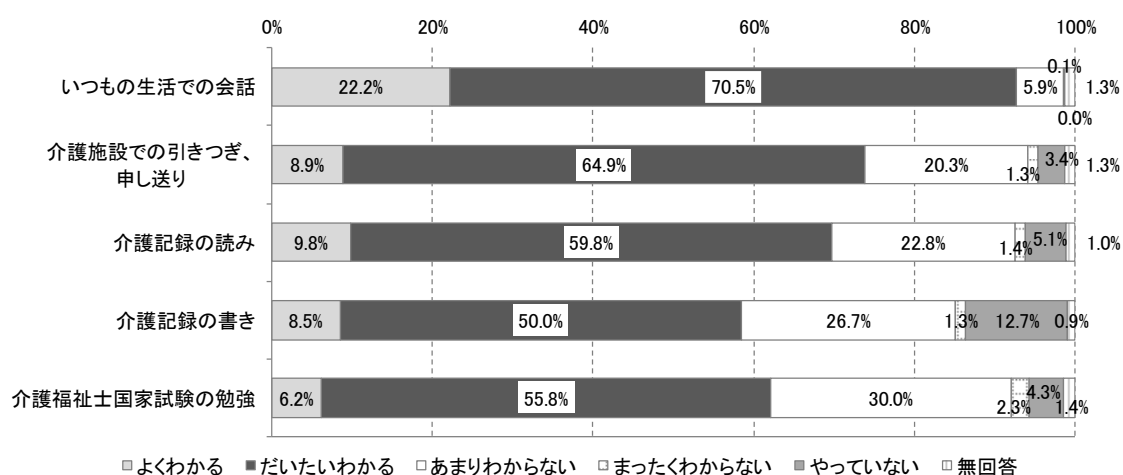


(自由回答抜粋)	
<p>■利用しているテキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>JICWELS からもらったテキスト</li> <li>『耳から覚える日本語能力試験』シリーズ</li> <li>『日本語総まとめ問題集』シリーズ</li> <li>gakushudo (イト 初A出版社) のテキスト</li> <li>『TRY!』シリーズ</li> <li>『みんなの日本語』シリーズ など</li> </ul>	<p>■利用しているアプリ・ウェブサイト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>kanjiQ</li> <li>imiwa? / Yomiwa</li> <li>Mazii</li> <li>EASY JAPANESE</li> <li>bikae.net</li> <li>Kakomon.com など</li> </ul>

#### ④ 介護に関わる場面別の日本語の理解度（在留資格別集計）

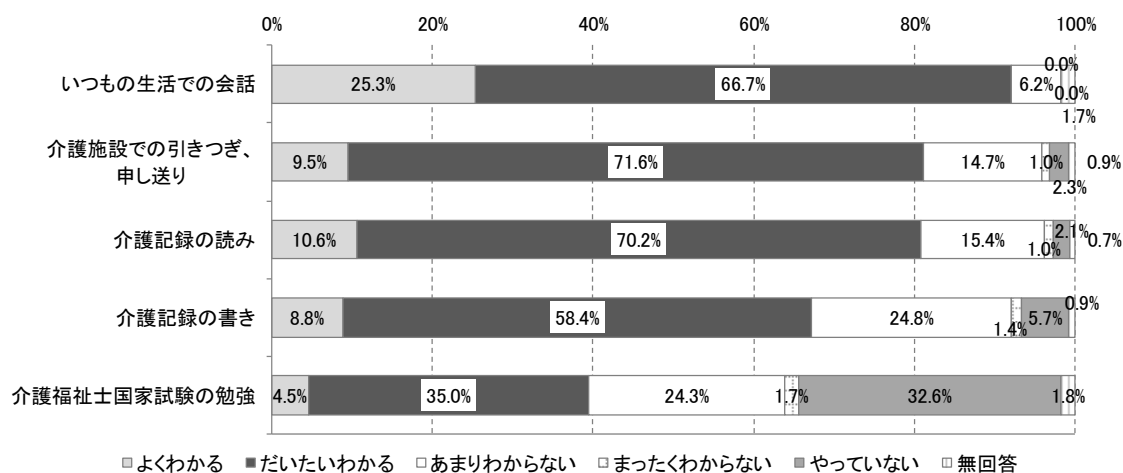
介護に関わる場面別の日本語理解度は、全体をみると「いつもの生活での会話」は、92.7%（よくわかる・だいたいわかるの合計、以下同様）で最も高い。「介護施設での引きつぎ、申し送り」が73.8%、「介護記録の読み」が69.6%、「介護記録の書き」が58.5%、「介護福祉士国家試験の勉強」が62.0%と、割合が低下する傾向にある。

図表 3-26 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 全体)



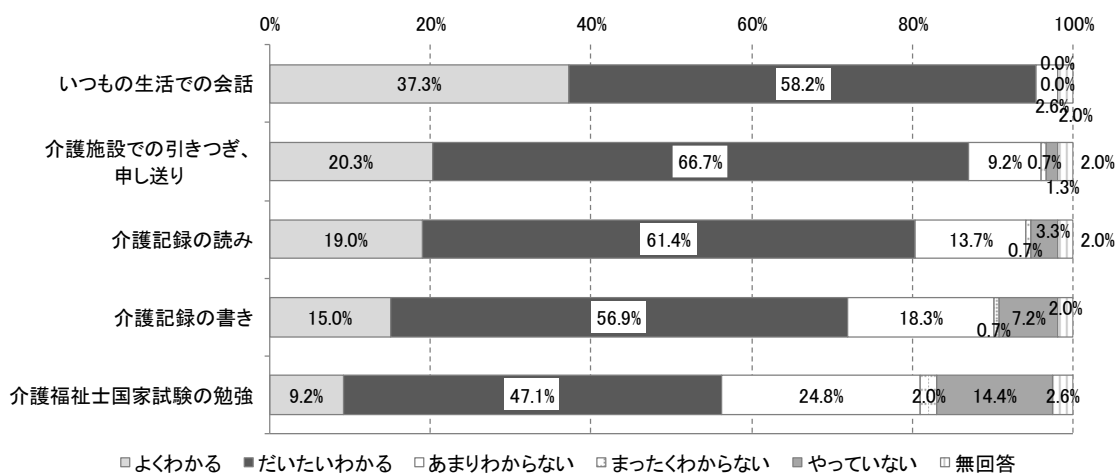
EPA における介護に関わる場面別の日本語理解度は、「いつもの生活での会話」は、92.0%（よくわかる・だいたいわかるの合計、以下同様）で最も高い。以下、順に「介護施設での引きつぎ、申し送り」が81.1%、「介護記録の読み」が80.8%、「介護記録の書き」が67.2%、「介護福祉士国家試験の勉強」が39.5%となっている。

図表 3-27 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 EPA)



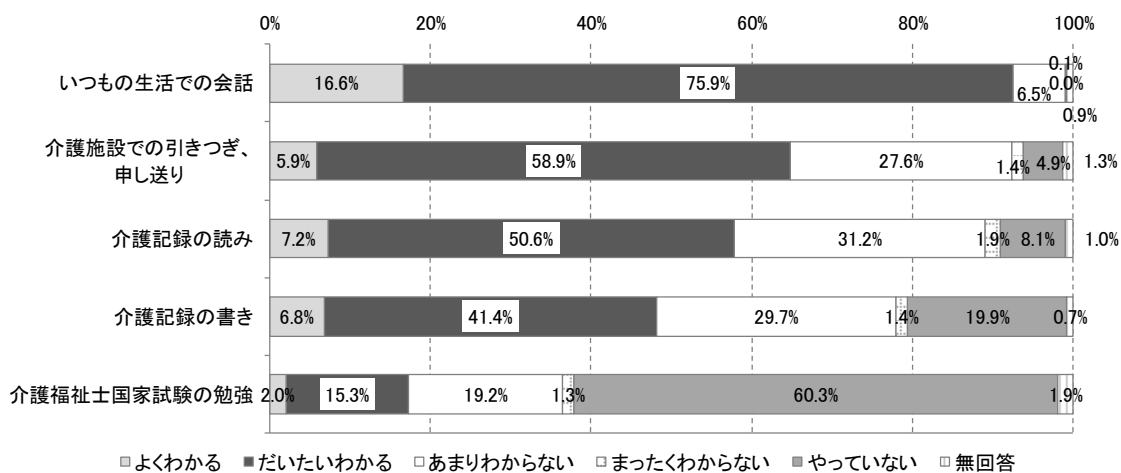
在留資格「介護」における介護に関わる場面別の日本語理解度は、「いつもの生活での会話」は95.5%（よくわかる・だいたいわかるの合計、以下同様）で最も高い。以下、順に「介護施設での引きつぎ、申し送り」が87.0%、「介護記録の読み」が80.4%、「介護記録の書き」が71.9%、「介護福祉士国家試験の勉強」が56.3%となっている。

図表 3-28 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 介護)



技能実習の介護に関わる場面別の日本語理解度は、「いつもの生活での会話」は、92.5%（よくわかる・だいたいわかるの合計、以下同様）で最も高い。以下、順に「介護施設での引きつぎ、申し送り」が64.8%、「介護記録の読み」が57.8%、「介護記録の書き」が48.2%となっている。

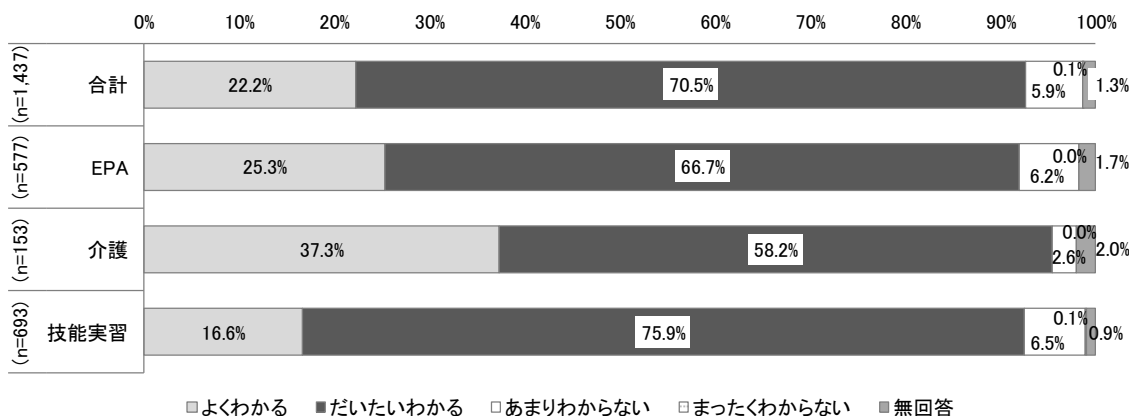
図表 3-29 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 技能実習)



⑤ 介護に関わる場面別の日本語の理解度（場面別集計）（問14）

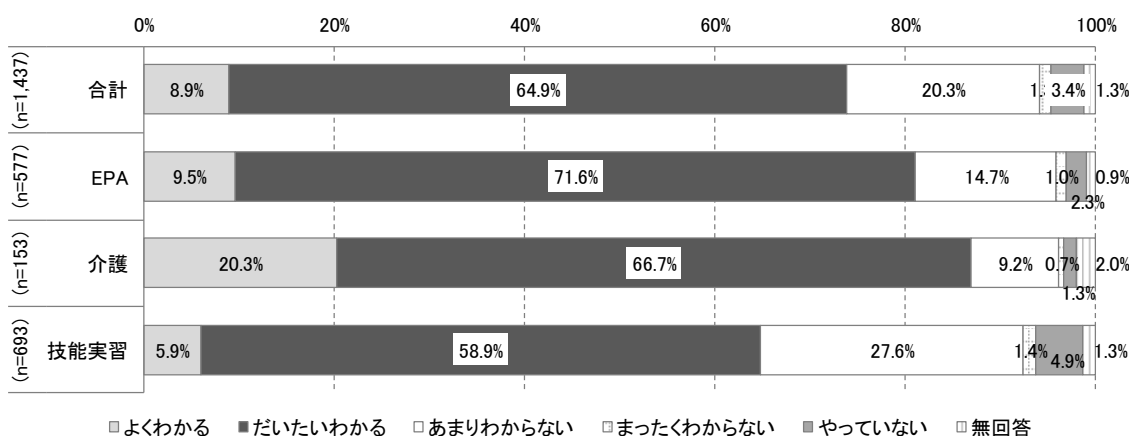
「いつもの生活での会話」について、すべての在留資格において「よくわかる」「だいたいわかる」の合計が9割を超えている。

図表 3-30 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 いつもの生活での会話)



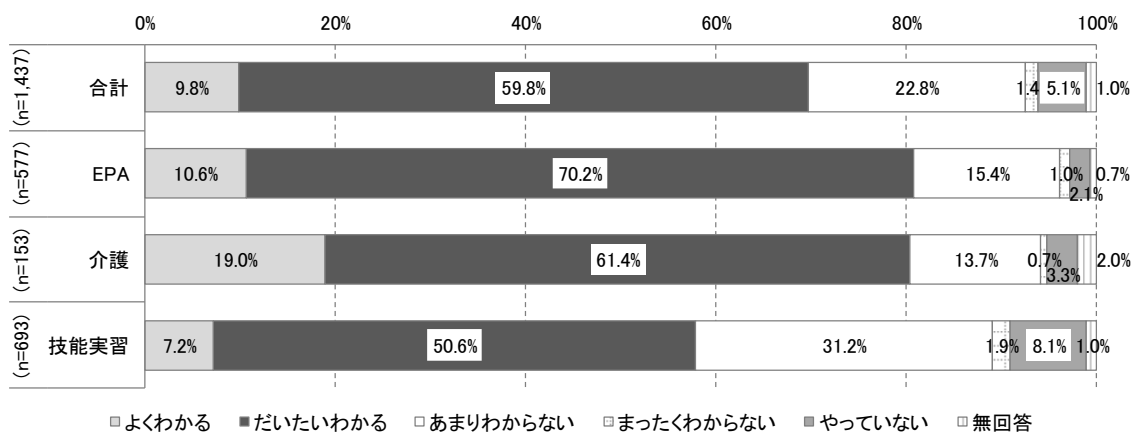
「介護施設での引きつぎ・申し送り」について、「よくわかる」「だいたいわかる」の合計は、介護が最も高く、87.0%となっている。

図表 3-31 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 介護施設での引きつぎ・申し送り)



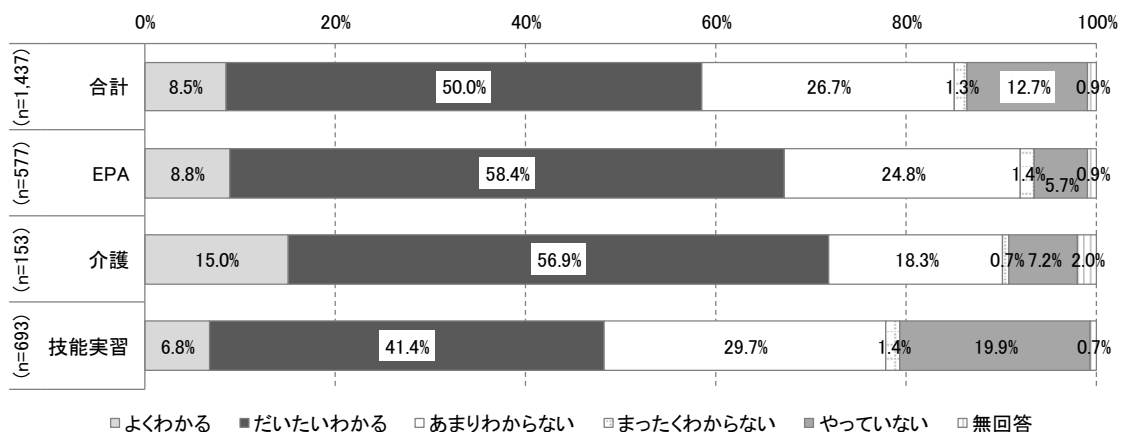
「介護記録の読み」について、EPAが最も高く、80.8%（「よくわかる」「だいたいわかる」の合計、以下同様）、次いで介護が80.4%となっている。

図表 3-32 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 介護記録の読み)



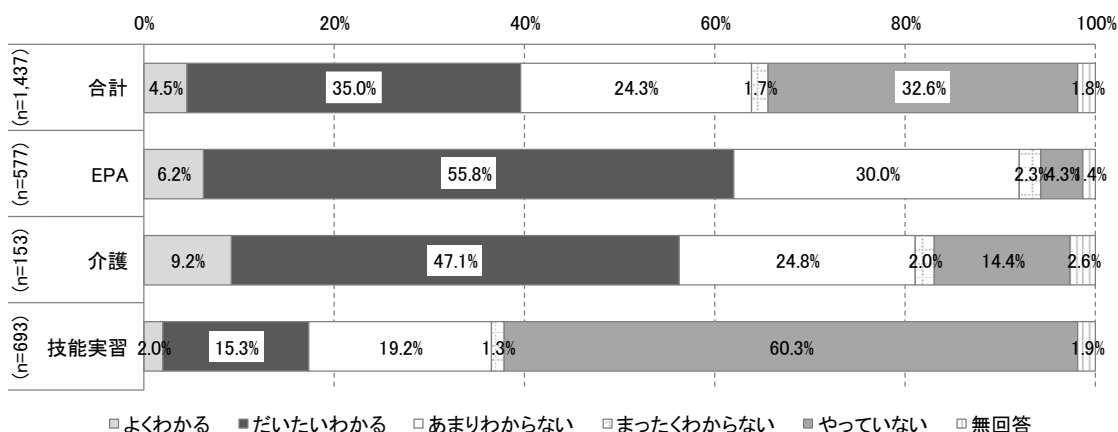
「介護記録の書き」について、介護が最も高く、71.9%（「よくわかる」「だいたいわかる」の合計、以下同様）、次いでEPAが67.2%となっている。

図表 3-33 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 介護記録の書き)



「介護福祉士国家試験の勉強」について、EPA が最も高く、62.0%（「よくわかる」「だいたいわかる」の合計、以下同様）、次いで介護が56.3%となっている。

図表 3-34 介護に関わる場面別の日本語の理解度(問14 介護福祉士国家資格の勉強)

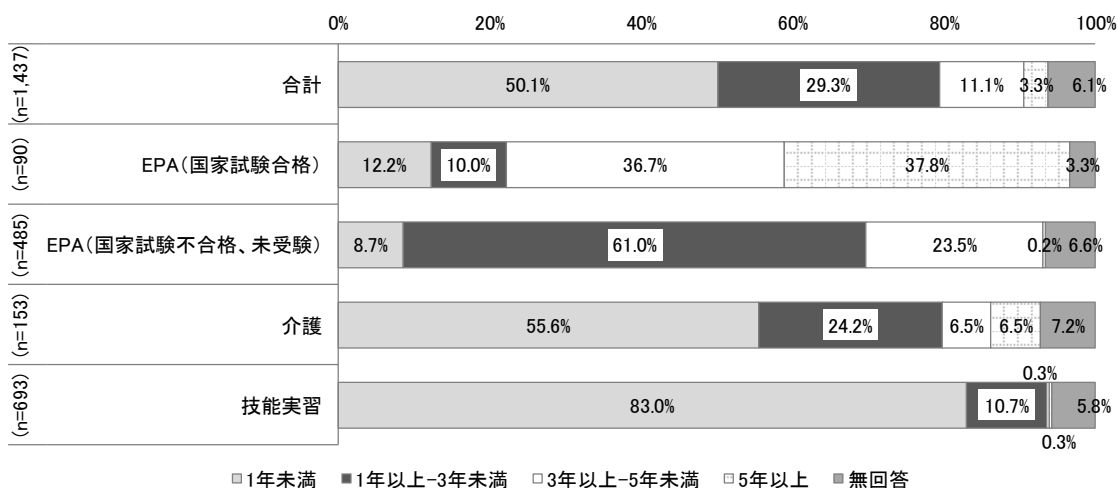


#### (4) 仕事について

##### ① 施設における勤務期間（在留資格）

現在の施設における勤務期間は、「技能実習」、「介護」、「EPA 国家試験合格」、「EPA 国家試験不合格、未受験」の順に長期化していく傾向がある。介護と技能実習では、「1 年未満」が最多（それぞれ55.6%、83.0%）となっている。

図表 3-35 施設における勤務期間(在留資格)(問15①)



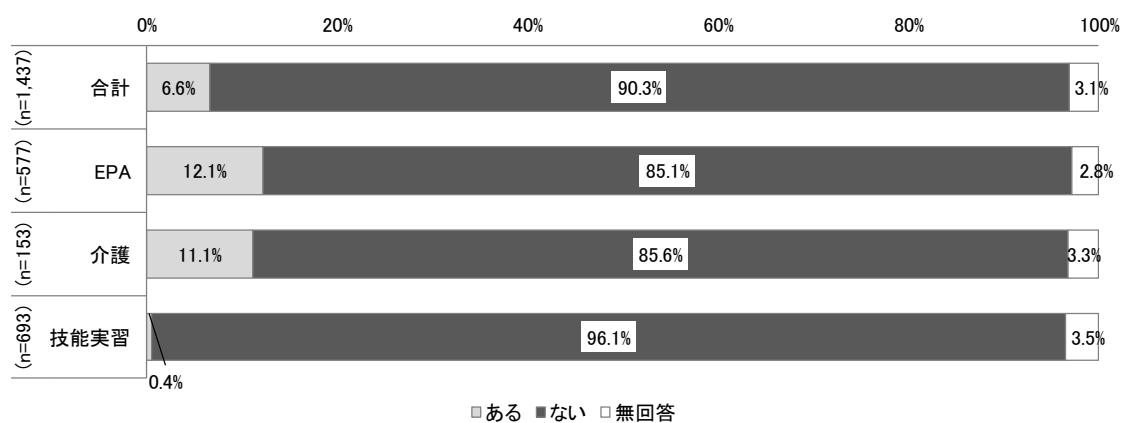


② 役職（在留資格）

役職は、「ある」が6.6%、「ない」が90.3%となっている。

在留資格別にみると、「役職あり」は、EPAが12.1%、介護が11.1%となっている。

図表 3-36 役職(問15②)

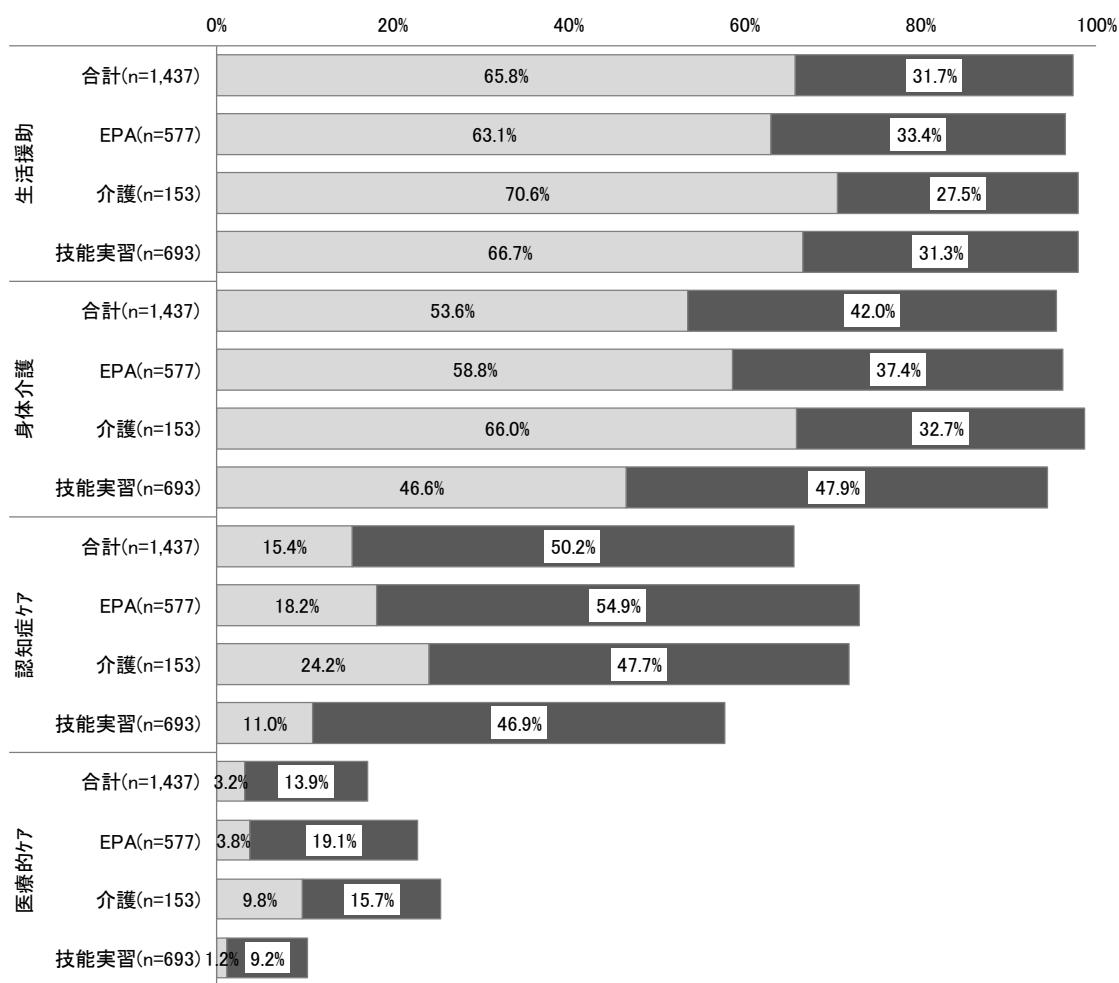


### ③ 介護関連の業務遂行の自己評価

介護関連の業務遂行について、「生活援助」、「身体介護」は在留資格問わず、「よくできる」、もしくは「だいたいできる」と回答する割合が9割を超えているが、「認知症ケア」、「医療的ケア」は、EPA・介護と技能実習には開きがある。

また、「医療的ケア」は、合計でも17.1%となっている。

図表 3-37 介護関連の業務遂行の自己評価(在留資格別)(問16)  
(「よくできる」と「だいたいできる」を足した割合を集計)

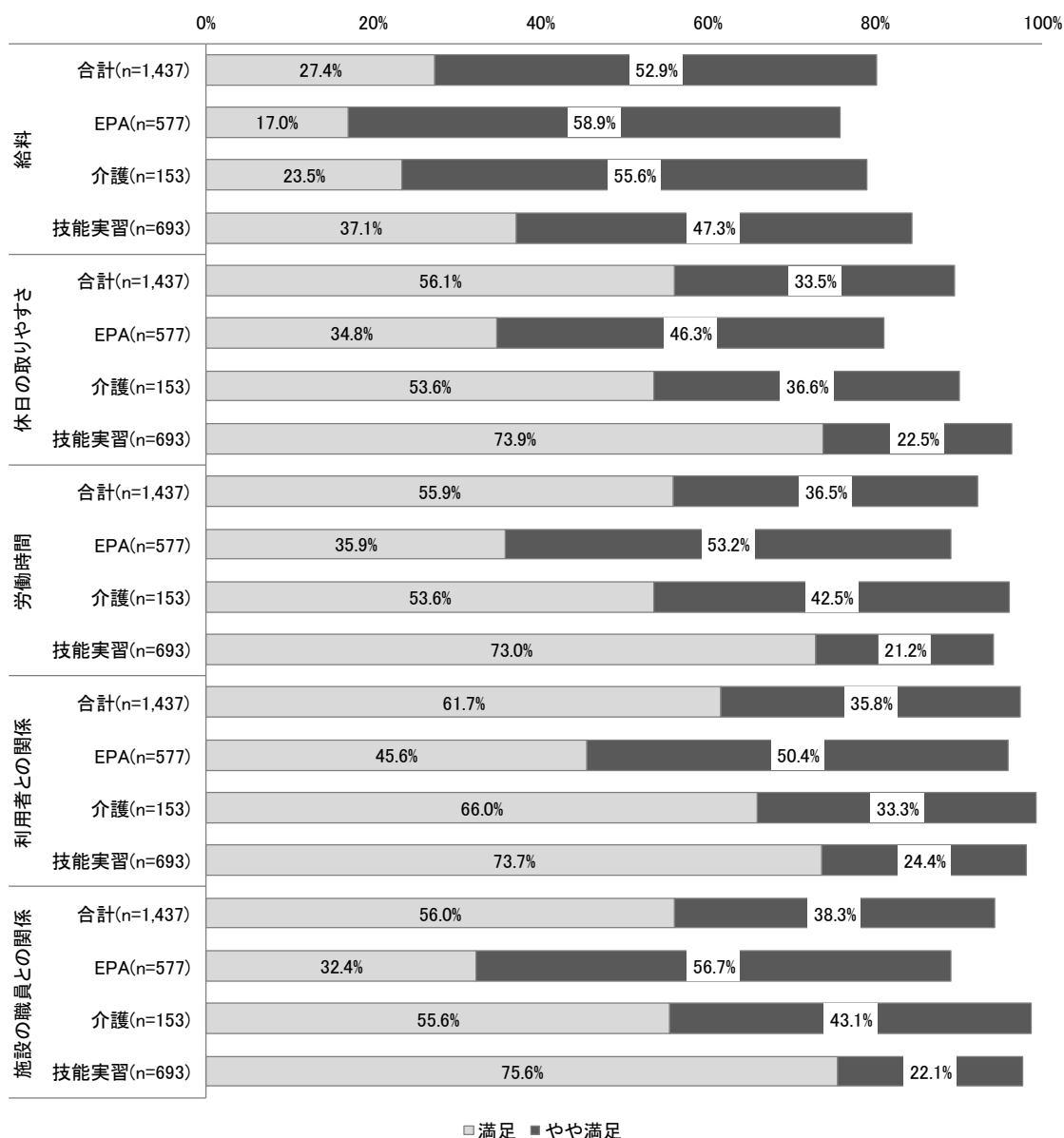


□ よくできる ■ だいたいできる

④ 働いている施設の満足度（就労条件面）

働いている施設の就労条件面に対する満足度は、各項目概ね高い結果が得られており、各項目 8 割以上の満足度となっている。「給料」が最も満足度が低く 80.3%となっている。

図表 3-38 働いている施設の満足度(就労条件面)(問17)  
(「満足」と「やや満足」を足した割合を集計)

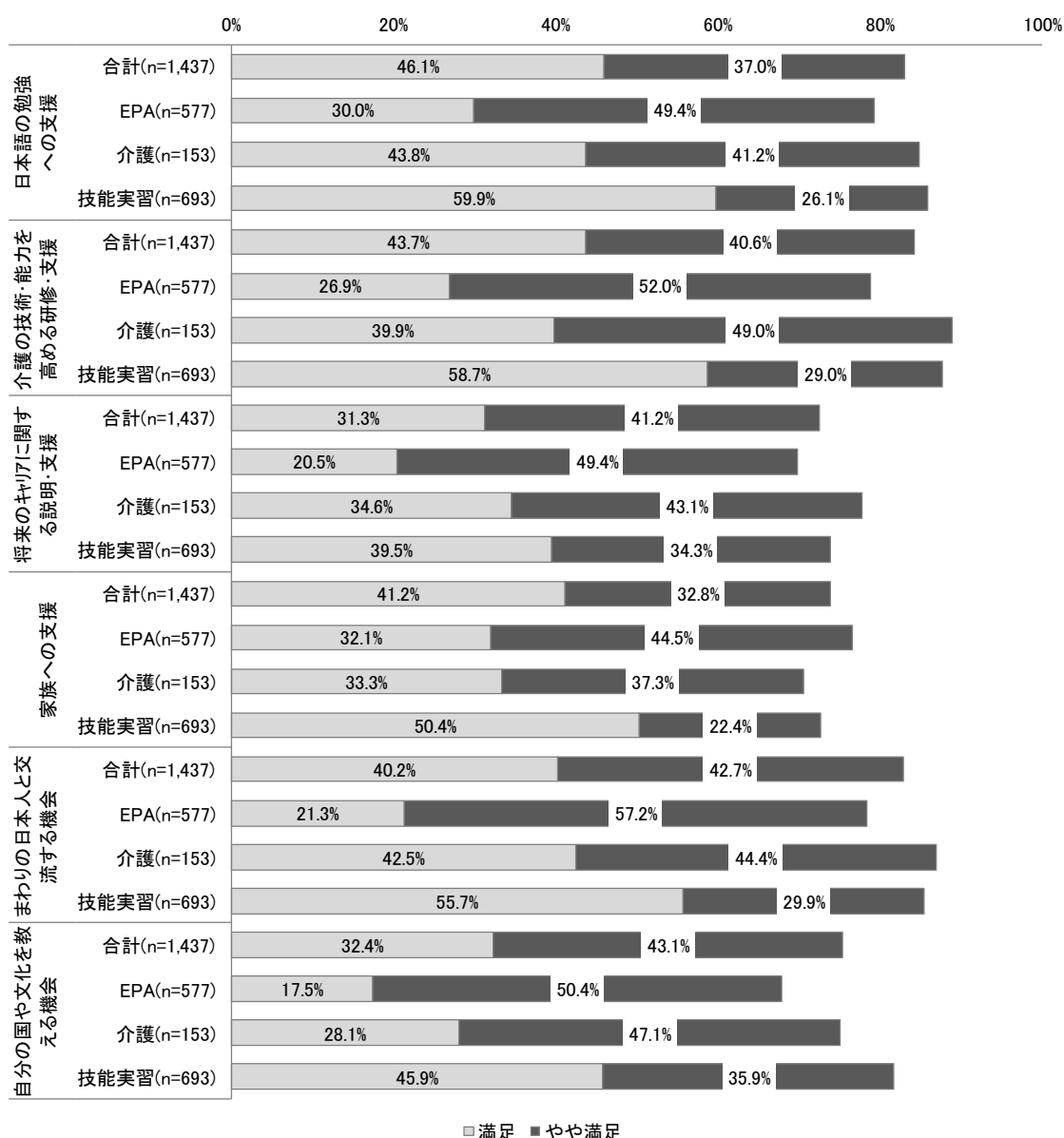


⑤ 働いている施設の満足度（施設からの各種支援面）

施設からの各種支援面における満足度は、全体としては 7 割から 8 割程度の満足度となっている。

「将来のキャリアに関する説明・支援」72.5%、「家族への支援」74.0%、「自分の国や文化を教える機会」75.5%と、それぞれ80%前後にとどまる項目となっている。

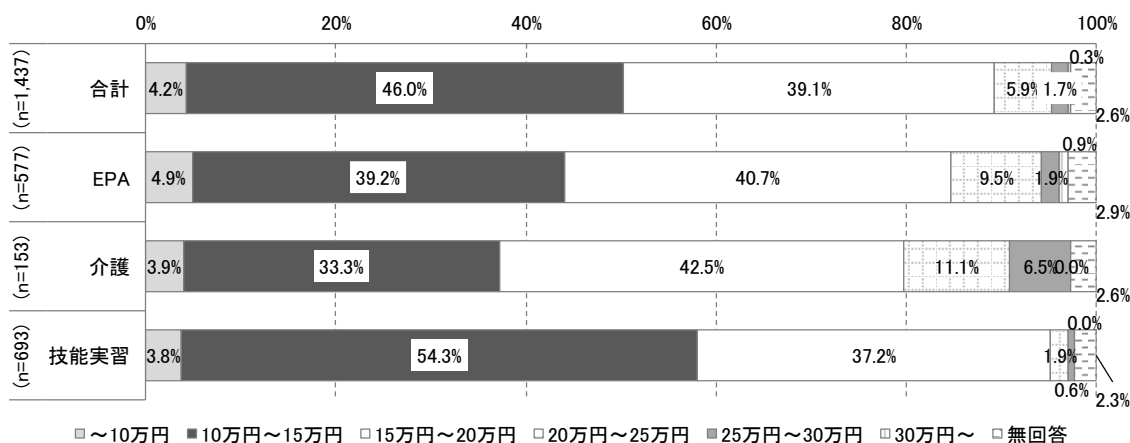
図表 3-39 働いている施設の満足度(施設からの各種支援面)(問17)  
(「満足」と「やや満足」を足した割合を集計)



## ⑥ 給与

給与は、全体で見ると「10万円～15万円」が最多の46.0%となっているが、EPAと介護では「15万円～20万円」が最多である。技能実習では、「10万円～15万円」が54.3%と最多になっている。

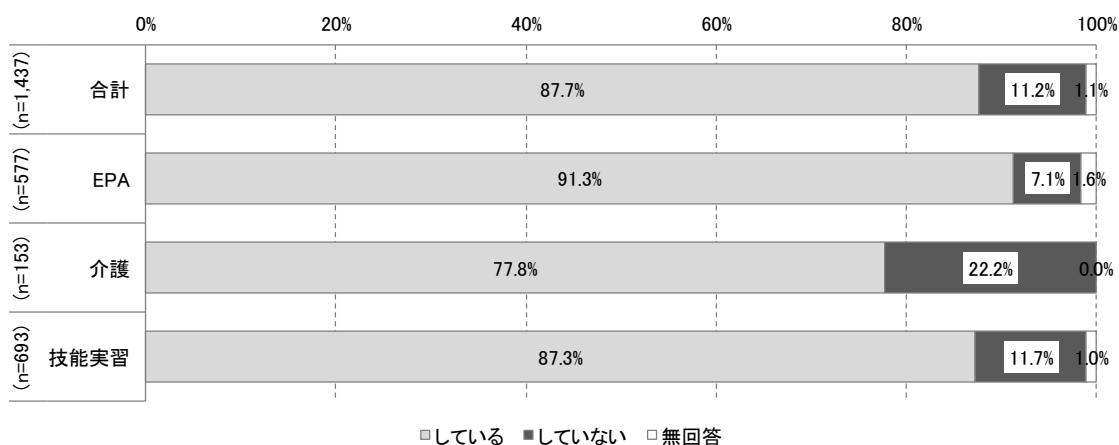
図表 3-40 給与(問18)



## ⑦ 送金状況

送金は、在留資格問わず8割前後が「送金をしている」と回答している。

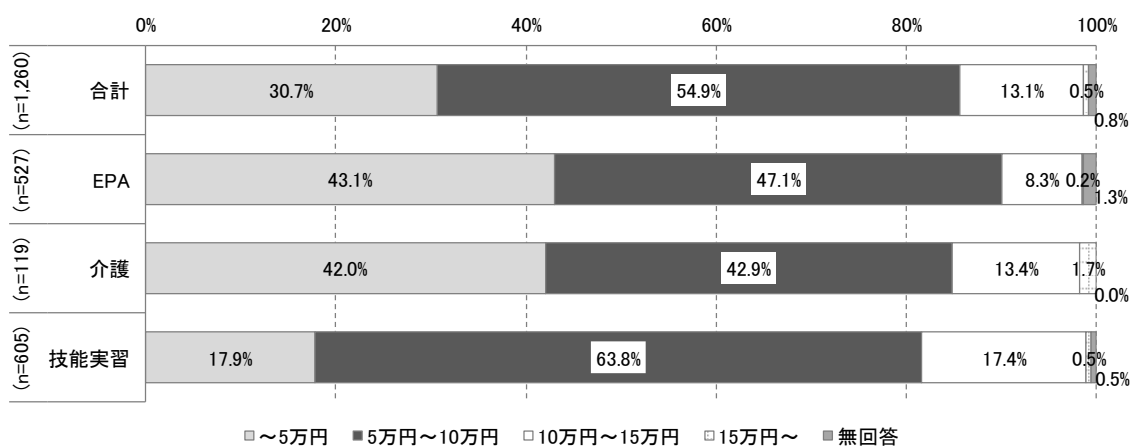
図表 3-41 送金状況(問19①)



⑧ 送金金額（1ヵ月あたり）

送金金額は、「5万円～10万円」が最多の54.9%であり、この割合は特に技能実習では、63.8%と高くなっている。

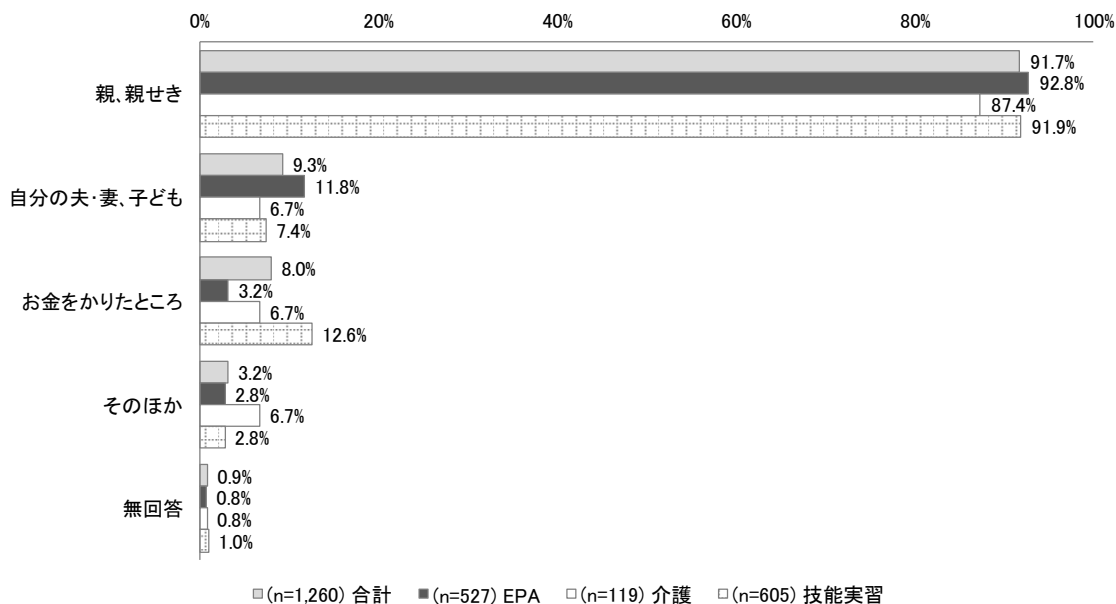
図表 3-42 送金金額(1ヵ月あたり)(問19②)



⑨ 送金先

送金先は、親、親戚が9割前後と、突出して高い割合となっている。

図表 3-43 送金先(問19③)

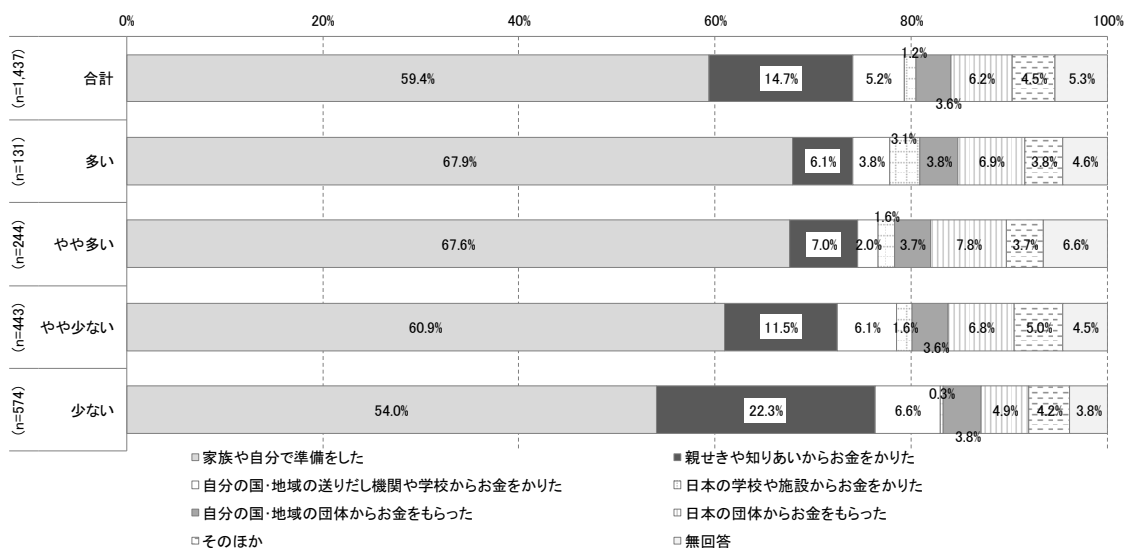


⑩ (参考) 給与—送金額(手元に残るお金)と日本就労・実習の資金準備方法

毎月の給与から、送金額を引いたお金を、手元に残るお金として、そのお金と、日本への就労や実習に関わる資金の準備方法との関係を見た。

手元に残るお金が少ないほど、「親せきや知りあいからお金を借りた」や、「自分の国・地域の送りだし機関や学校からお金を借りた」割合が高まる傾向がある。

図表 3-44 給与—送金額(手元に残るお金)と日本就労・実習の資金準備方法



(注) 手元に残るお金(給料から送金額を引いた額)について

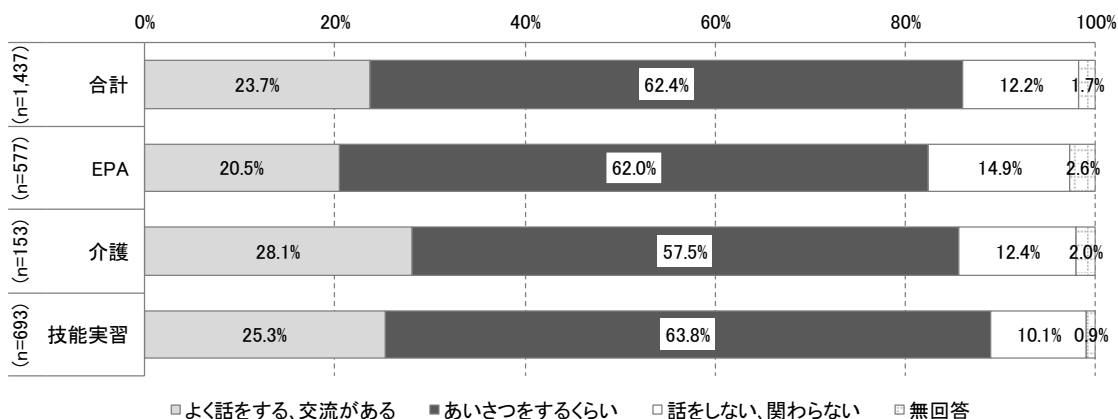
- Q18(毎月の給料)から、Q19-2(送金額)を引いた数字が大きいほど、手元に残るお金が多いとして集計した(送金していない人は、送金額を0として扱った)。
- 分布を勘案し、3以上:多い(n=131)、2:やや多い(n=244)、1:やや低い(n=443)、0以下:低い(n=574)とした。
- おおよその目安として、3以上:15万円以上は手元に残っている、2:10万円~15万円は手元に残っている、1:5万円~10万円は手元に残っている、0:手元に残るのは5万円以下と想定(ただし、実数を回答してもらったわけではないため概算であることは留意)。

## (5) 日常生活について

### ① 地域の日本人との関わり

現在の地域の日本人との関わりは、在留資格問わず「あいさつをするくらい」が最多で、全体では62.4%となっている。

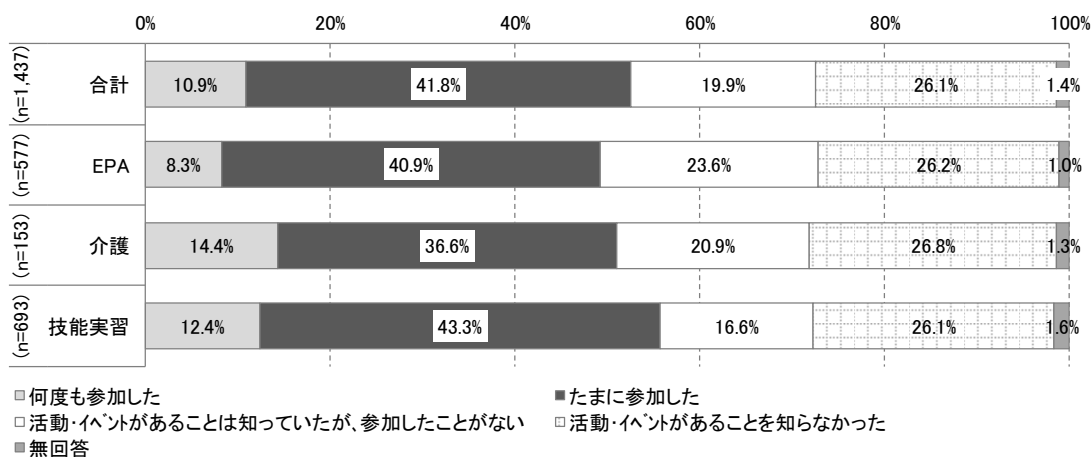
図表 3-45 地域の日本人との関わり(問20)



### ② 地域の活動・イベントへの参加状況

地域の活動・イベントへの参加状況について、「何度も参加した」、「たまに参加した」を足した割合は、全体で52.7%となり、EPA、介護、技能実習の順に割合が高まる。

図表 3-46 地域の活動・イベントへの参加状況(問21)

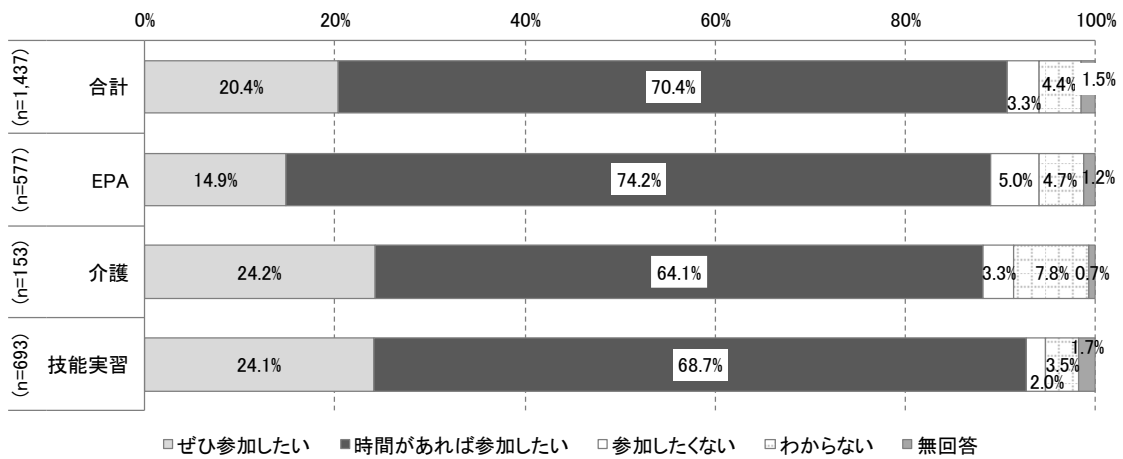




### ③ 地域の活動・イベントへの参加意向

地域の活動・イベントへの参加意向は、在留資格問わず、9割程度が参加に前向きな回答となっている。

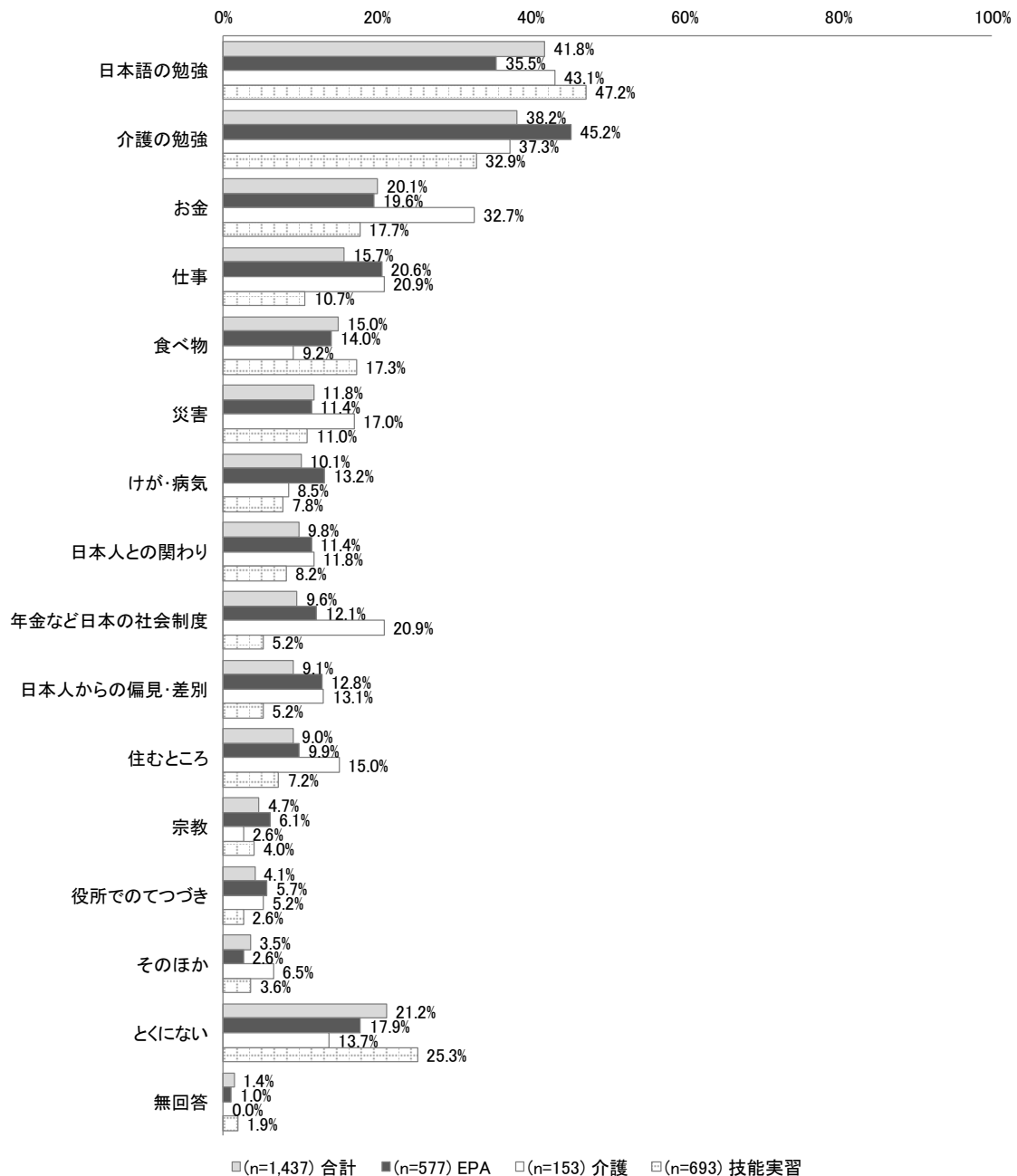
図表 3-47 地域の活動・イベントへの参加意向(問22)



④ 最近1年間、日本で困ったこと

最近1年間、日本で困ったことは、介護と技能実習は「日本語の勉強」(それぞれ43.1%、47.2%)が最多、EPAは「介護の勉強」(45.2%)が最多となっている。

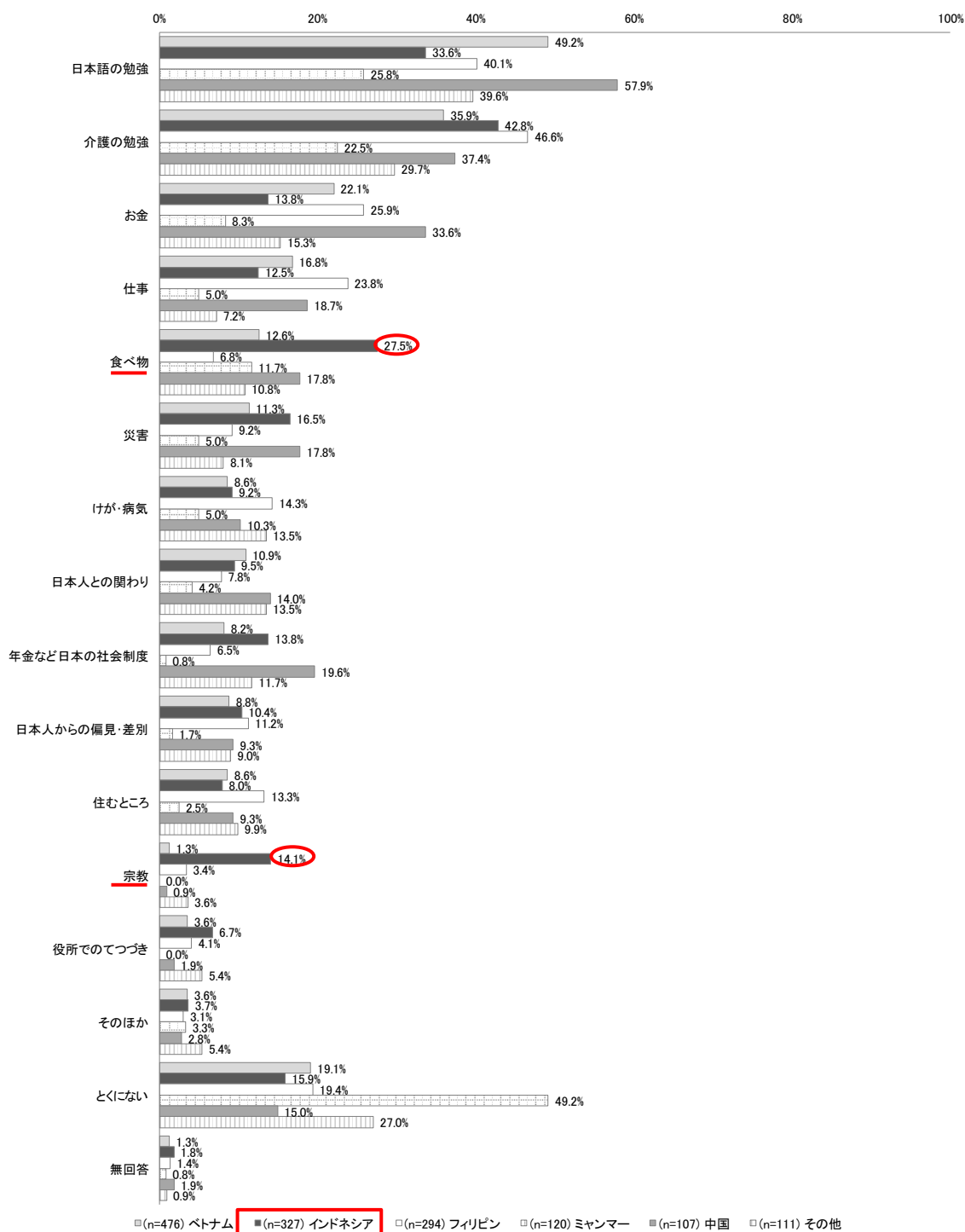
図表 3-48 最近1年間、日本で困ったこと(問23)



⑤ 出身国・地域と困りごととの関係

特にインドネシア出身者で、食べ物（27.5%）や、宗教（14.1%）に困っている割合が高い。

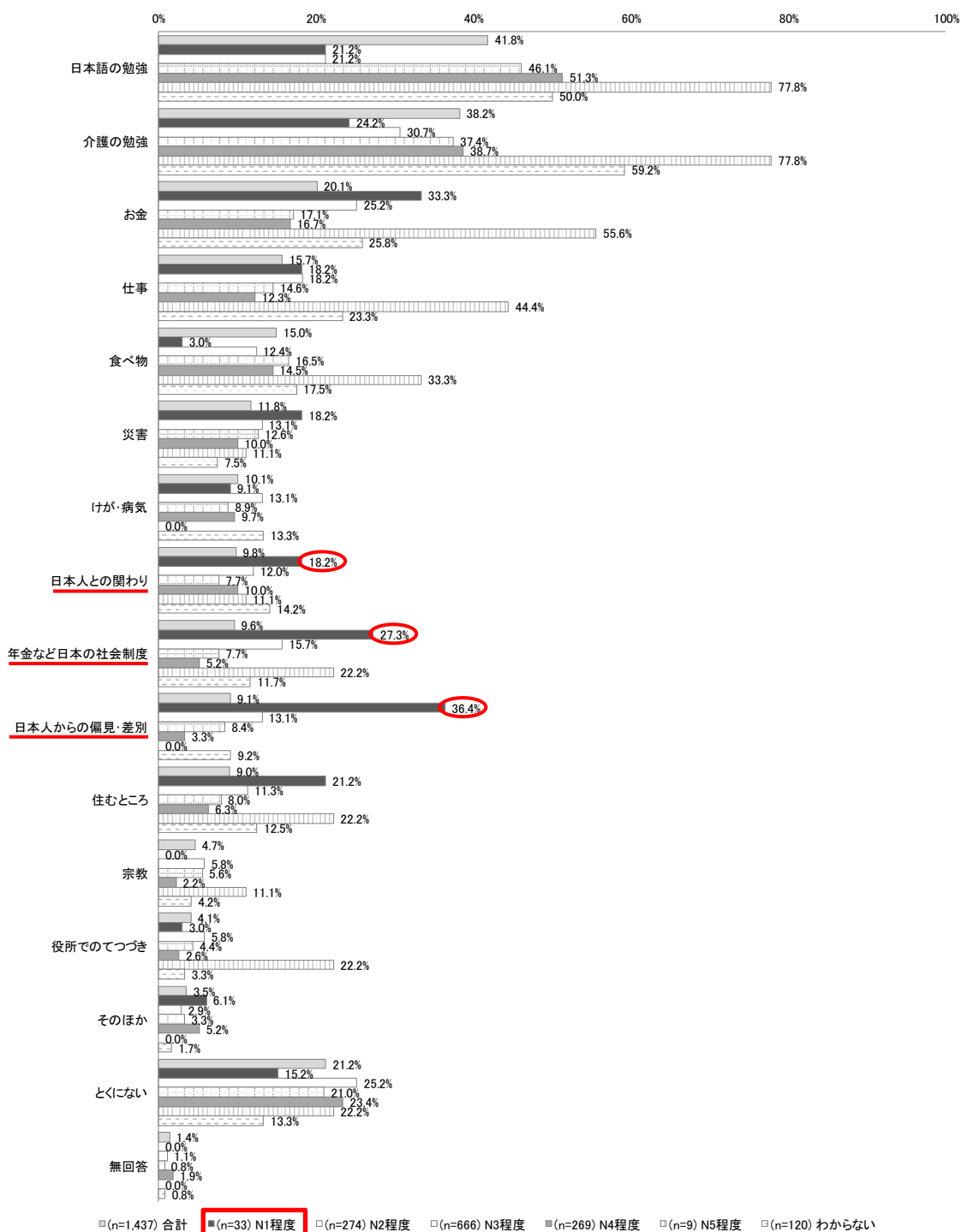
図表 3-49 出身国・地域と困りごととの関係(問23)



⑥ 現在の日本語能力と困りごととの関係

日本語能力が高いほど困っている項目（例えば、「日本人からの偏見・差別」は36.4%）もある。

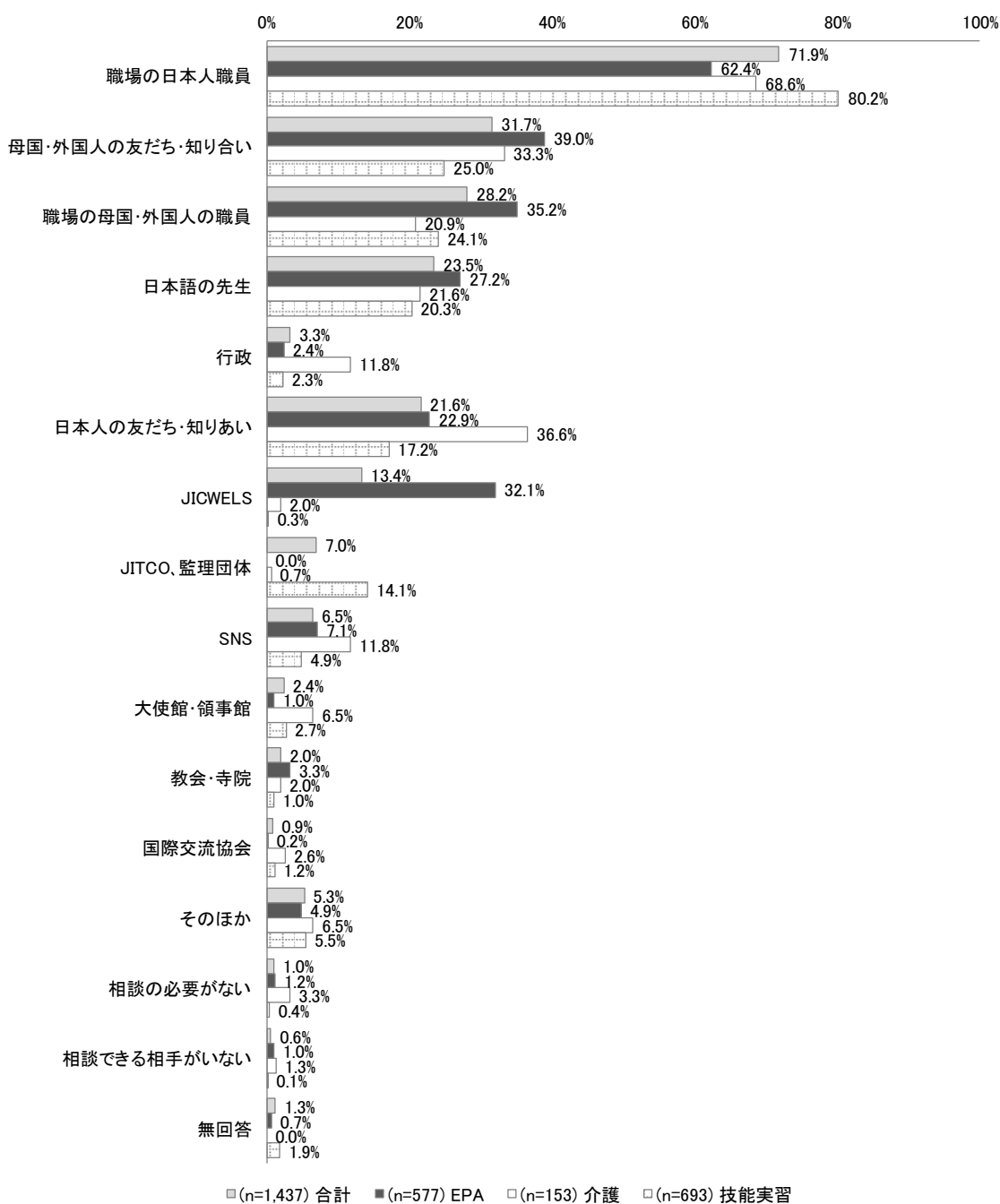
図表 3-50 現在の日本語能力と困りごととの関係(問23)



⑦ 困ったときの相談先

困ったときの相談先は、在留資格問わず、「職場の日本人職員」が最多で、全体では71.9%となっている。特に技能実習では、80.2%と8割を超えている。

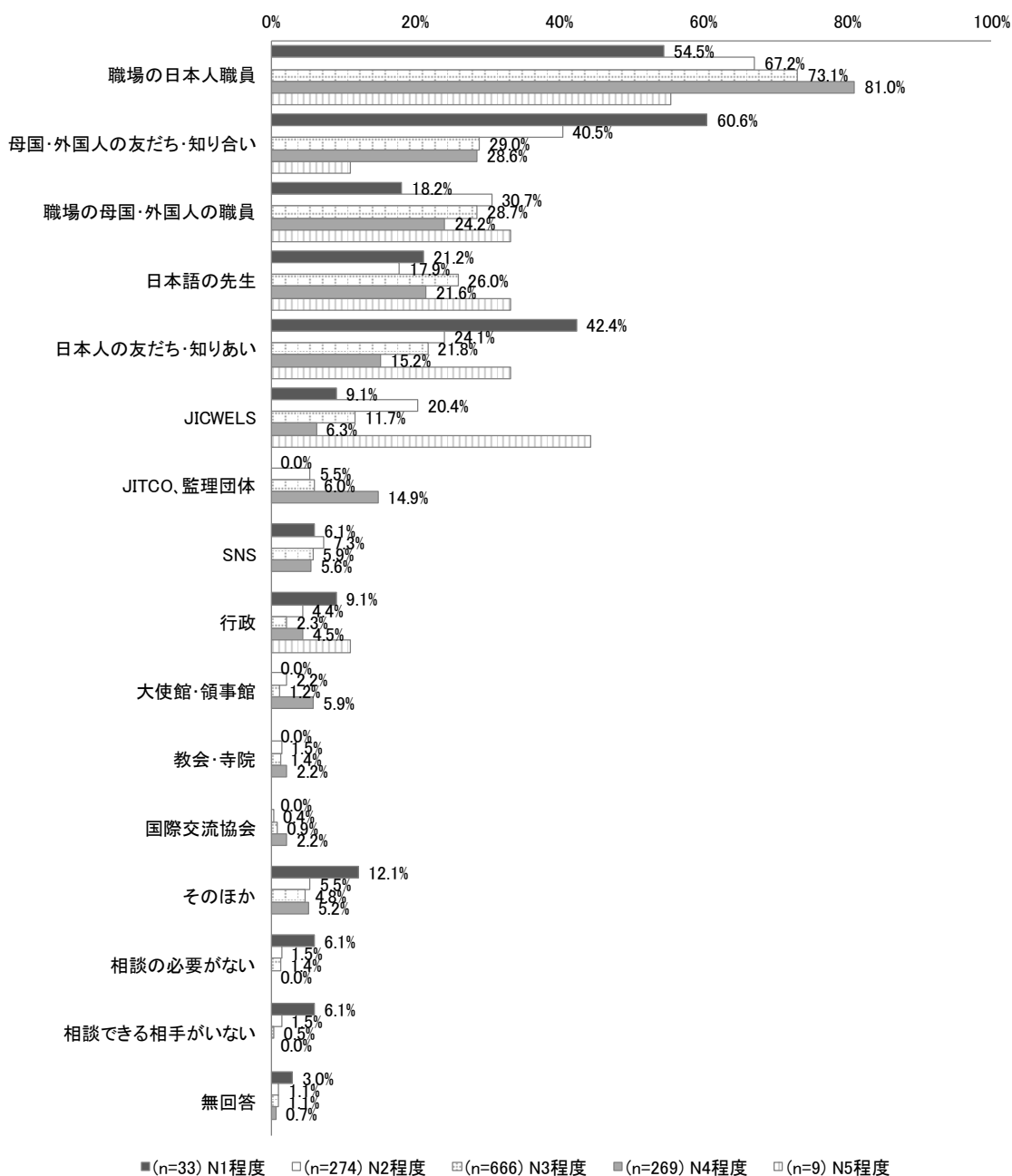
図表 3-51 困ったときの相談先(問24)



⑧ 現在の日本語能力と相談先との関係

特に、日本語能力が低いほど、職場の日本人職員を頼りにしている傾向がある（N5程度は、有効回答が9件のため解釈には留意）。

図表 3-52 現在の日本語能力と相談先との関係(問24 項目抜粋)

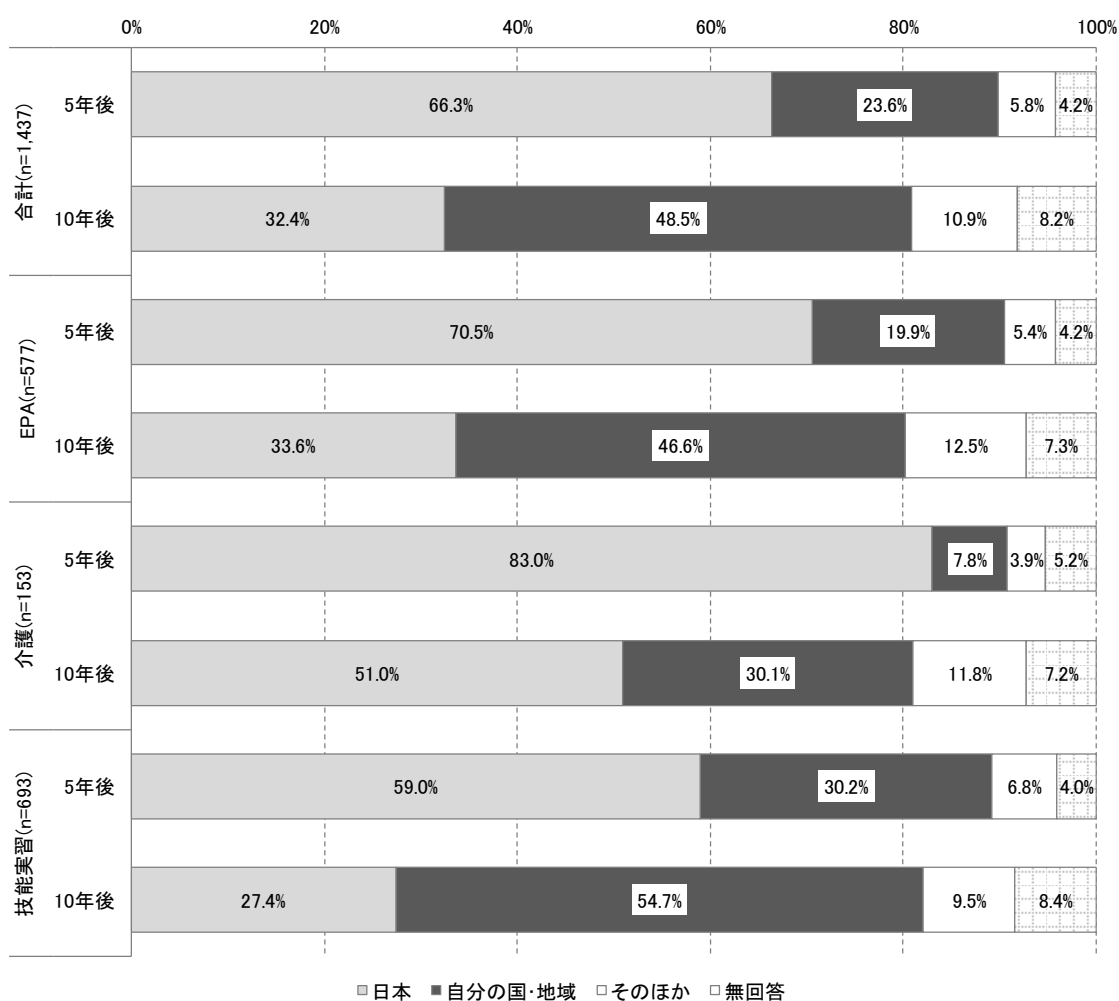


## (6) 将来について

### ① 自分が住む場所の希望（在留資格別）

自分が住む場所の希望について、「日本」を希望する割合は、全体では5年後66.3%、10年後32.4%となっている。在留資格別では、5年後、10年後ともに、技能実習、EPA、介護の順に、日本を希望する割合が高まっている。

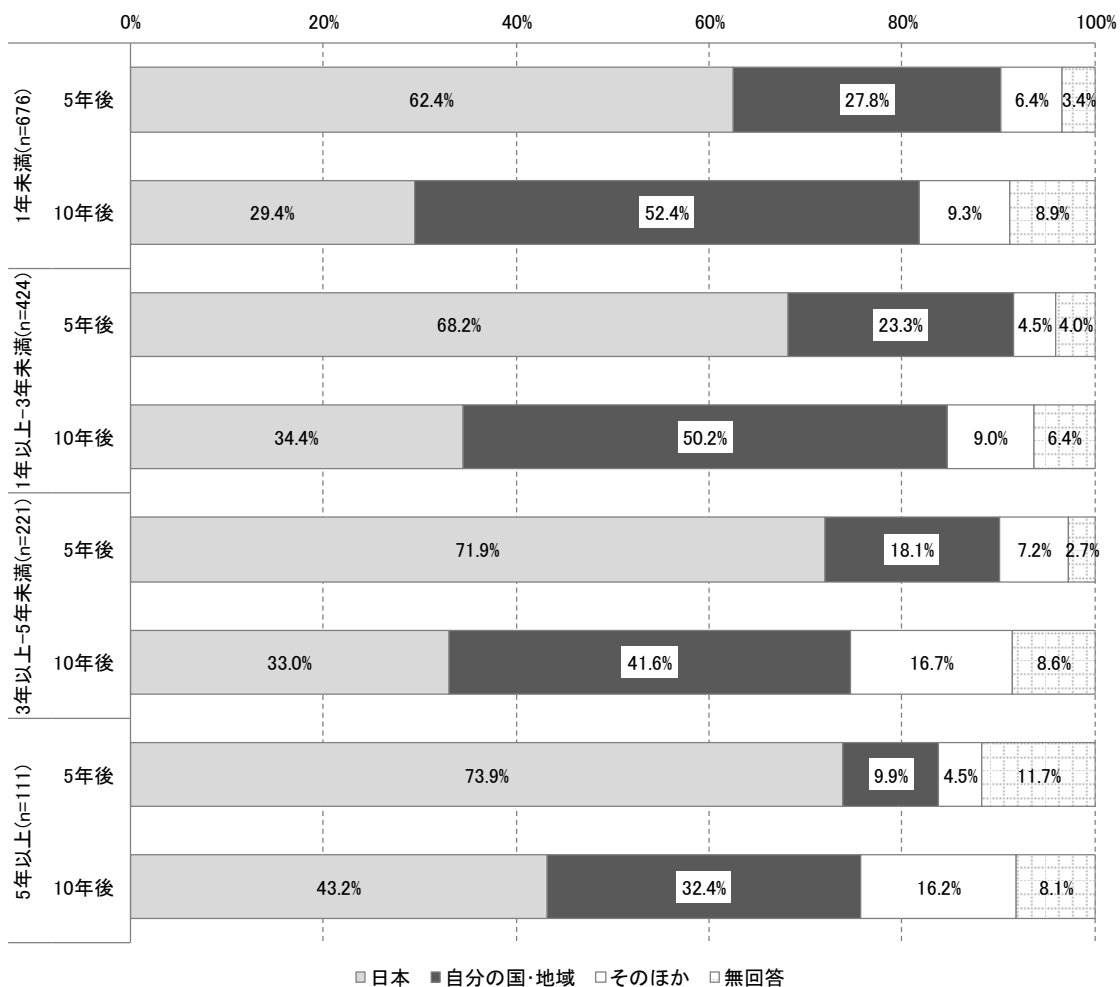
図表 3-53 自分が住む場所の希望(問25 在留資格別)



② 自分が住む場所の希望（日本居住年数別）

日本居住年数別で「日本」を希望する割合をみると、5年後の希望はほとんど同じ割合だが、10年後は、「（日本居住年数が）5年以上」において、43.2%と高くなっている。

図表 3-54 自分が住む場所の希望（問25 日本居住年数別）

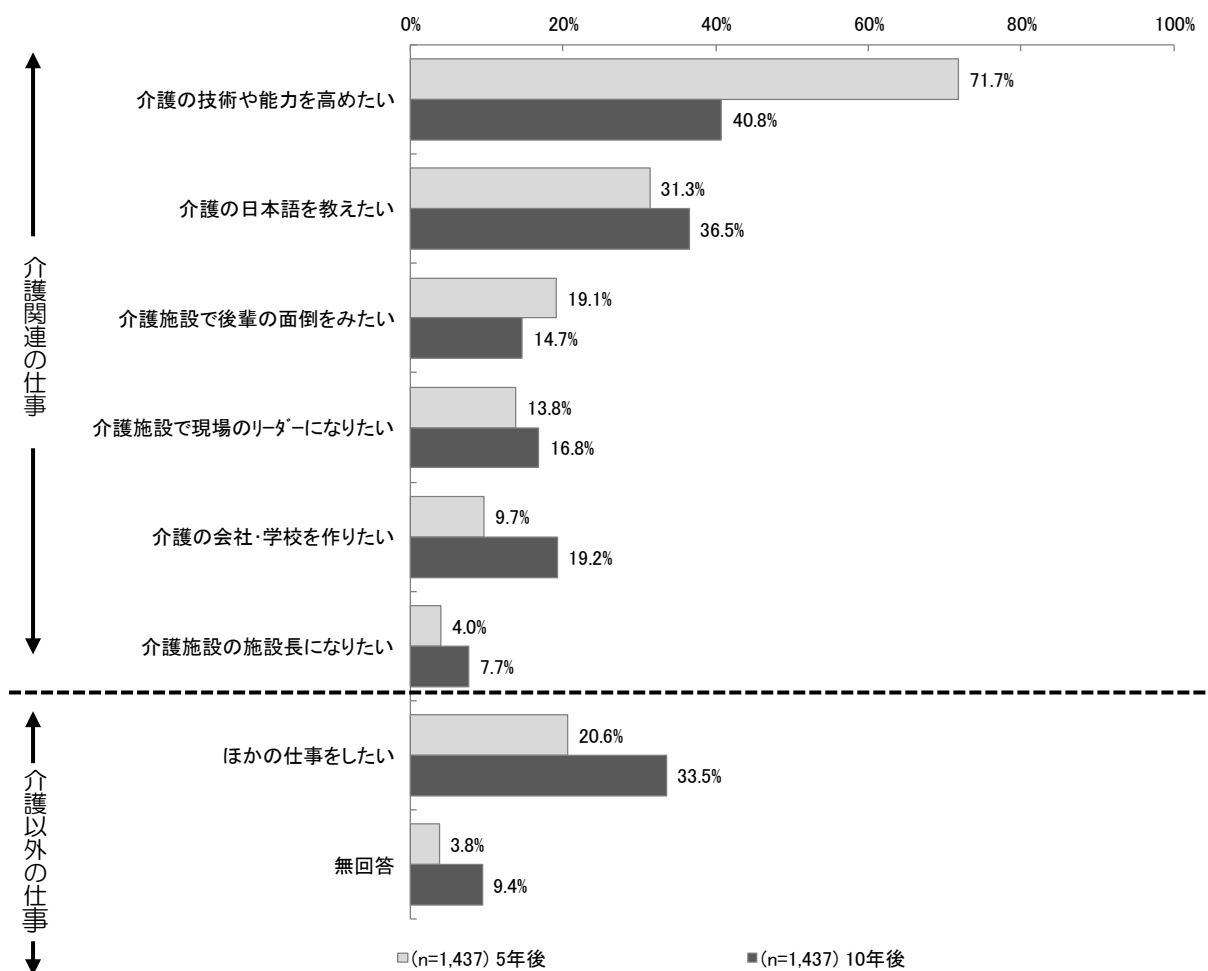




### ③ 仕事の希望

仕事の内容に関する希望について、5年後、10年後ともに、「介護の技術や能力を高めたい」が最多（それぞれ71.7%、40.8%）となっているが、10年後は、（介護以外の）「ほかの仕事をしたい」という割合が33.5%と、3番目に高い割合になっている。

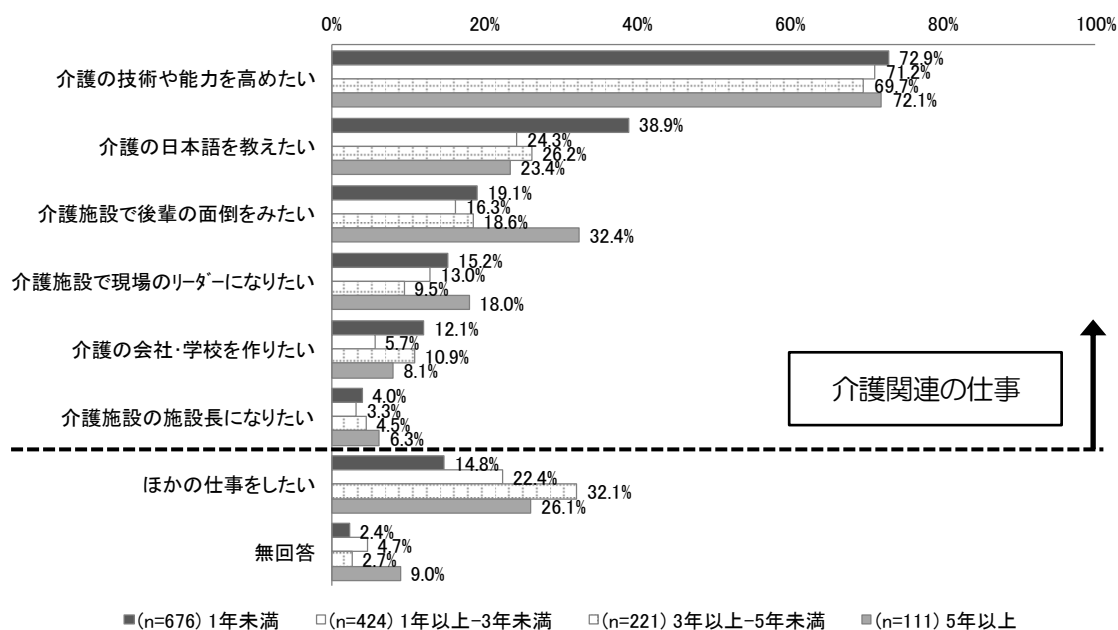
図表 3-55 仕事の希望(問25)



#### ④ 日本居住年数と仕事の希望との関係

日本居住年数が5年以上について、「介護施設で後輩の面倒をみたい」が32.4%、「介護施設で現場のリーダーになりたい」が18.0%と、居住年数が短いと比較して割合が高くなっている。

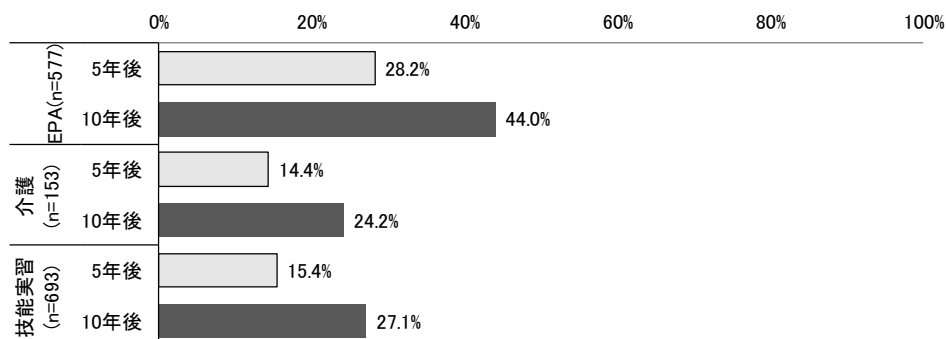
図表 3-56 日本居住年数と仕事の希望との関係(問25)



#### ⑤ 在留資格と「ほかの仕事をしたい」の関係

在留資格別では、EPAが「ほかの仕事をしたい」割合が高く、5年後28.2%、10年後44.0%となっている。

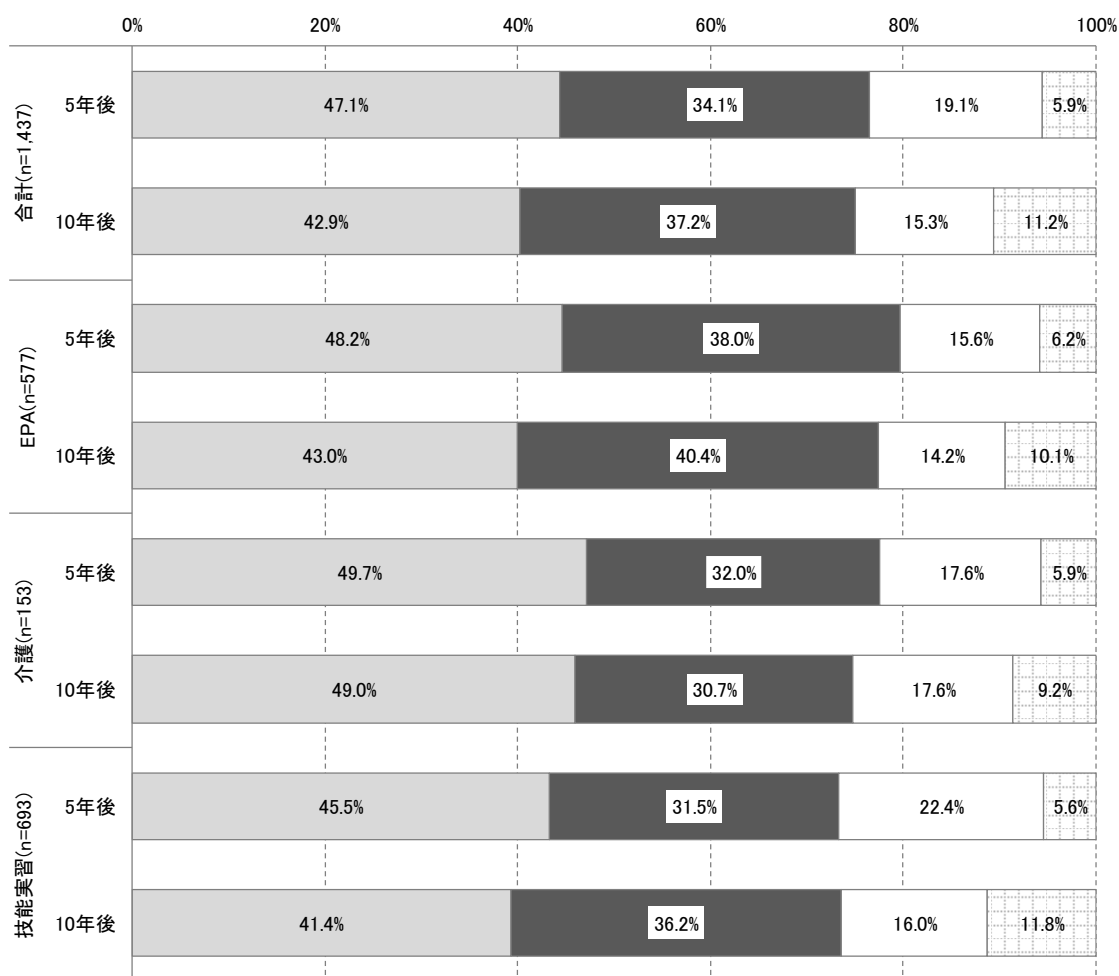
図表 3-57 在留資格と「ほかの仕事をしたい」の関係(問25)



⑥ 家族についての希望（在留資格別）

家族についての希望は、在留資格問わず、「自分の国・地域にいる家族を呼んで一緒に住みたい」が最も高くなっており、全体では、5年後47.1%、10年後42.9%となっている。

図表 3-58 家族についての希望(問25 在留資格別)

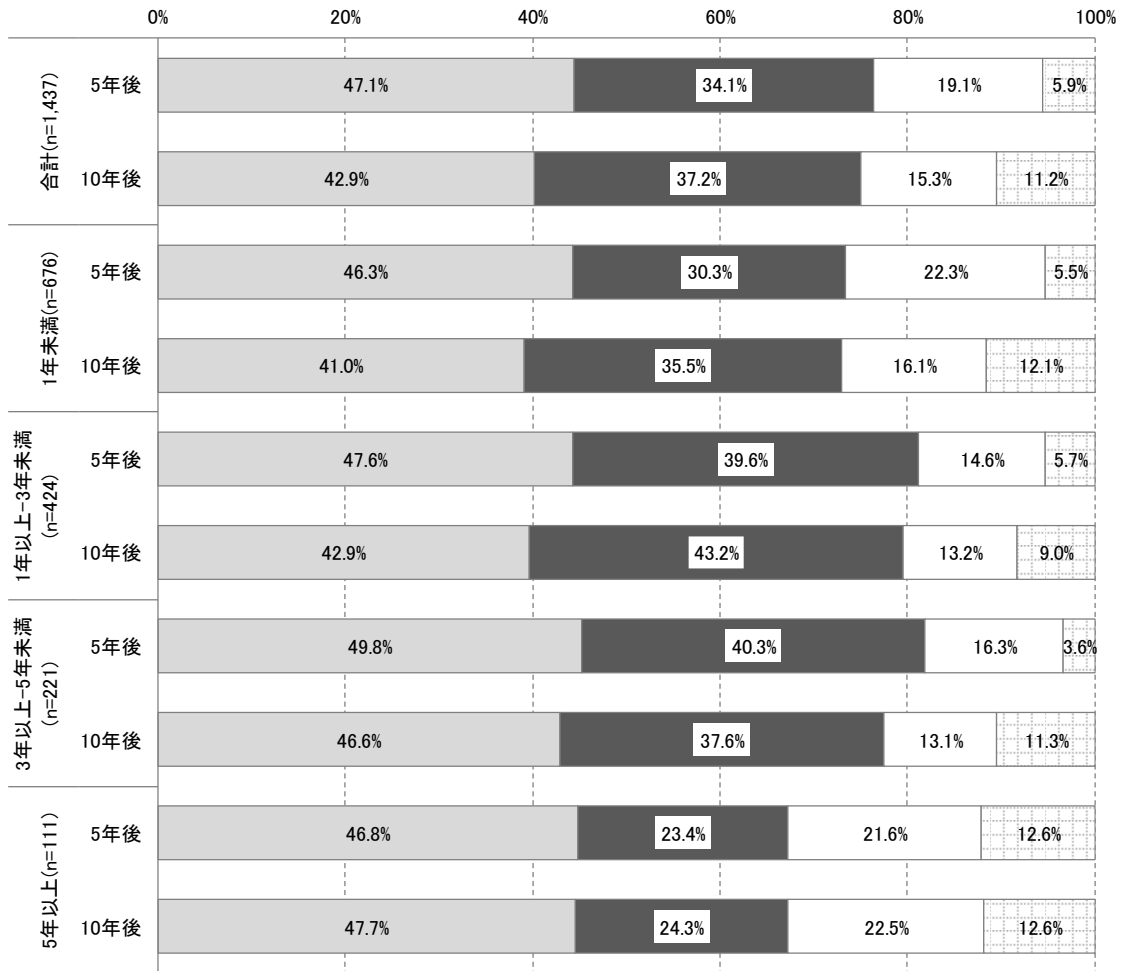


■ 自分の国・地域にいる家族を呼んで一緒に住みたい ■ 自分が住む国で新しく家族をつくりたい □ そのほか □ 無回答

⑦ 家族についての希望（日本居住年数別）

日本居住年数別でみて、全体と大きな違いはみられない。

図表 3-59 家族についての希望(問25 日本居住年数別)

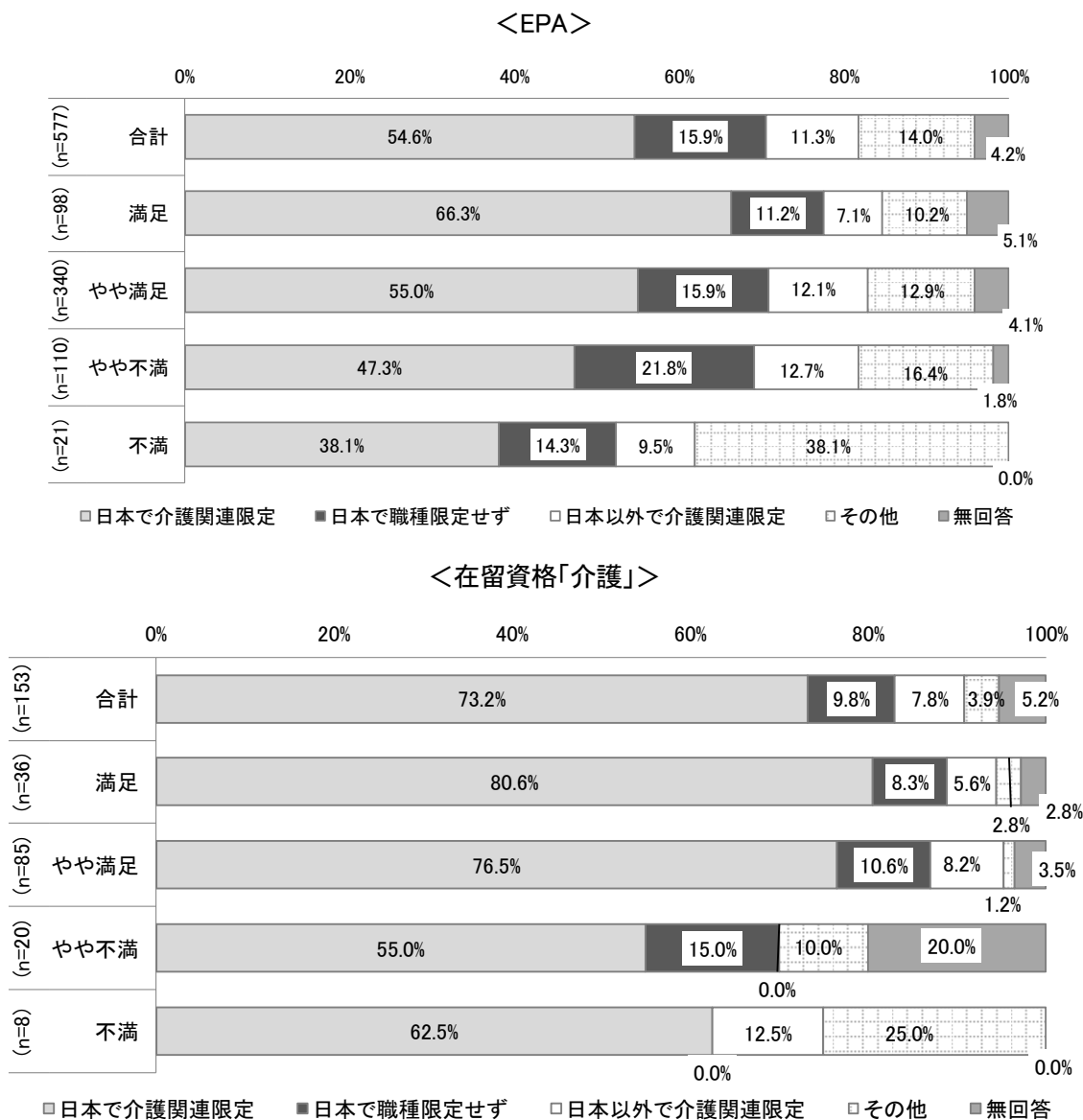


□ 自分の国・地域にいる家族を呼んで一緒に住みたい ■ 自分が住む国で新しく家族をつくりたい □ そのほか □ 無回答

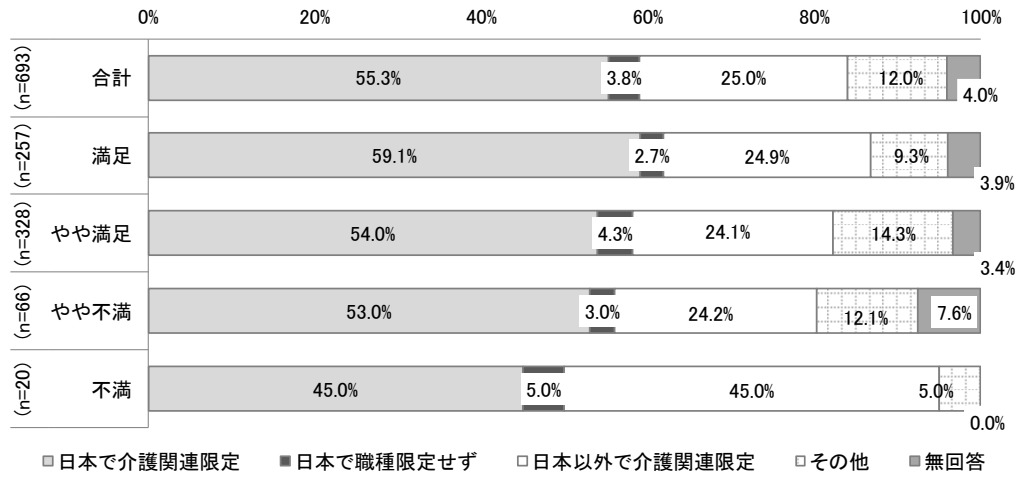
⑧ 在留資格別・施設の満足度×将来展望

在留資格別の施設満足度と将来展望の関係をみると、在留資格によって将来の展望を「日本で介護関連限定」に影響する項目は異なっていた。

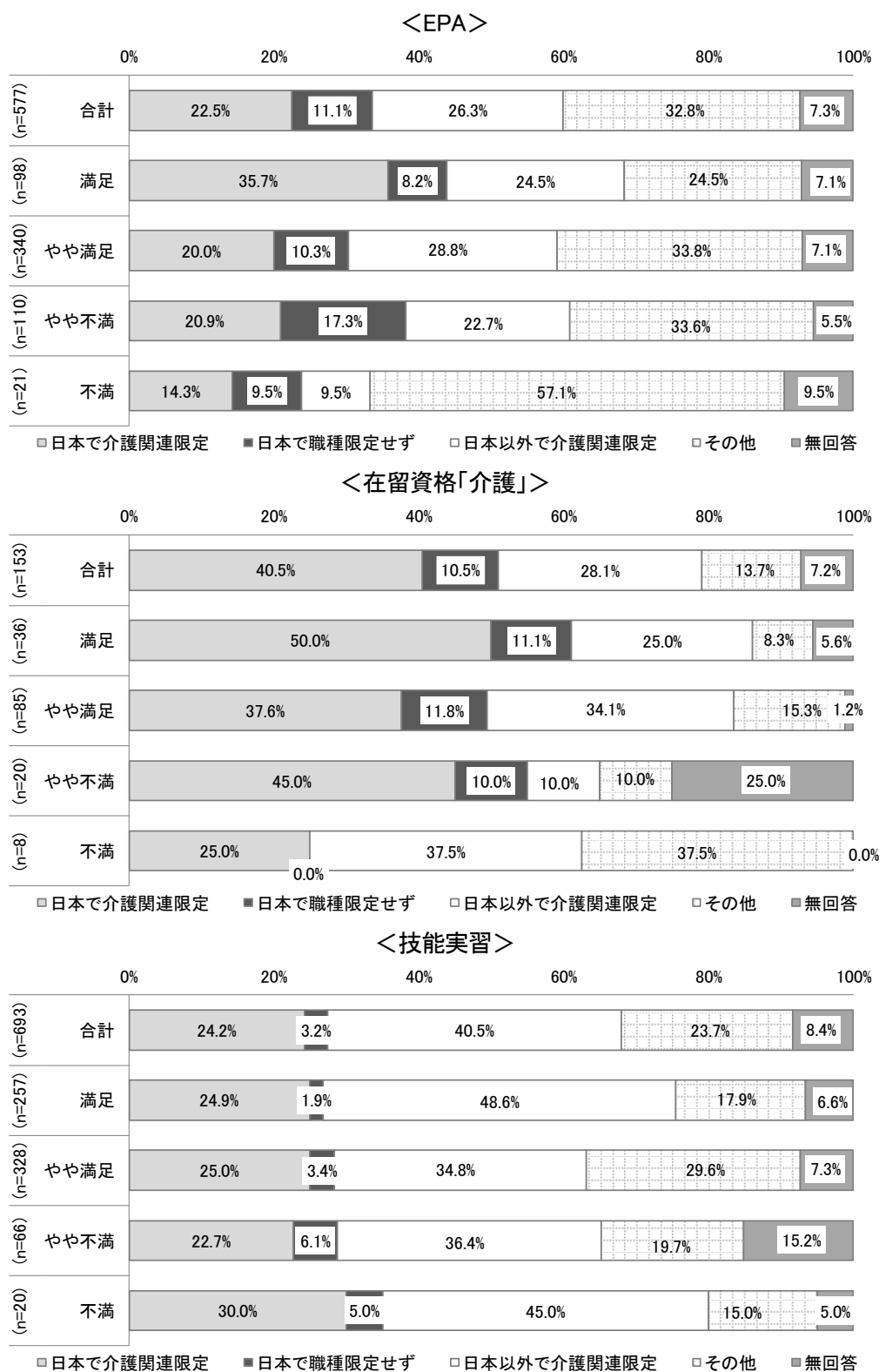
図表 3-60 在留資格別・施設の満足度:給料(問 17)×将来展望(5年後)(問 25)



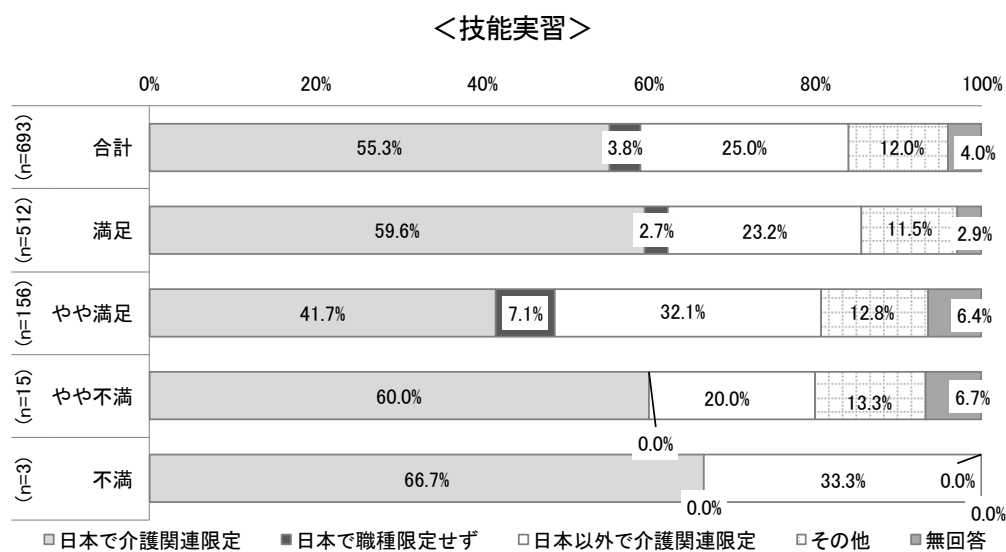
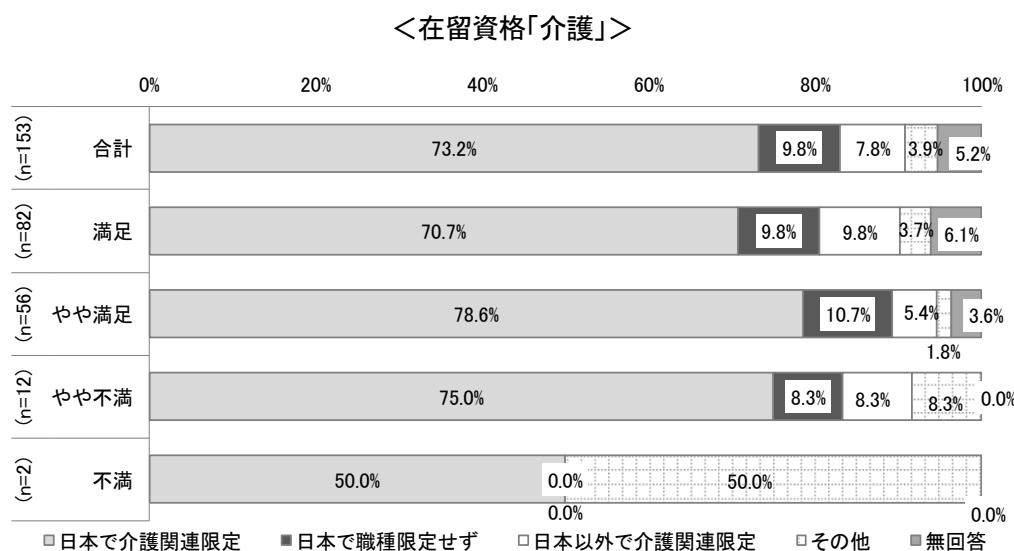
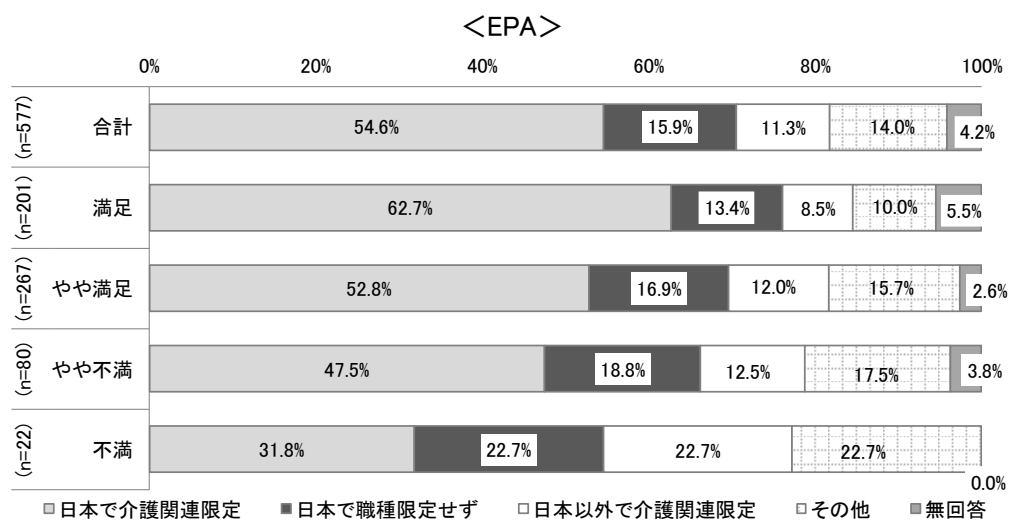
<技能実習>



図表 3-61 在留資格別・施設の満足度：(問 17) × × 将来展望(10 年後)(問 25)

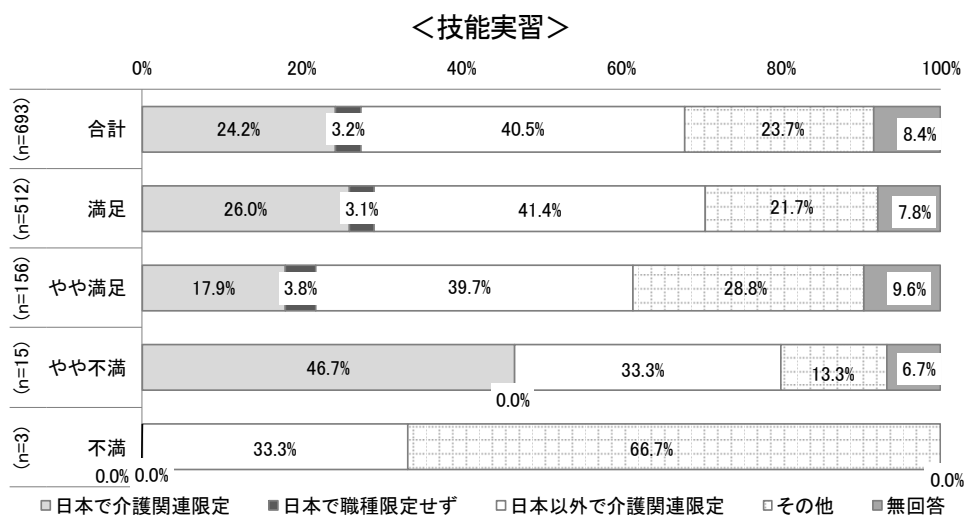
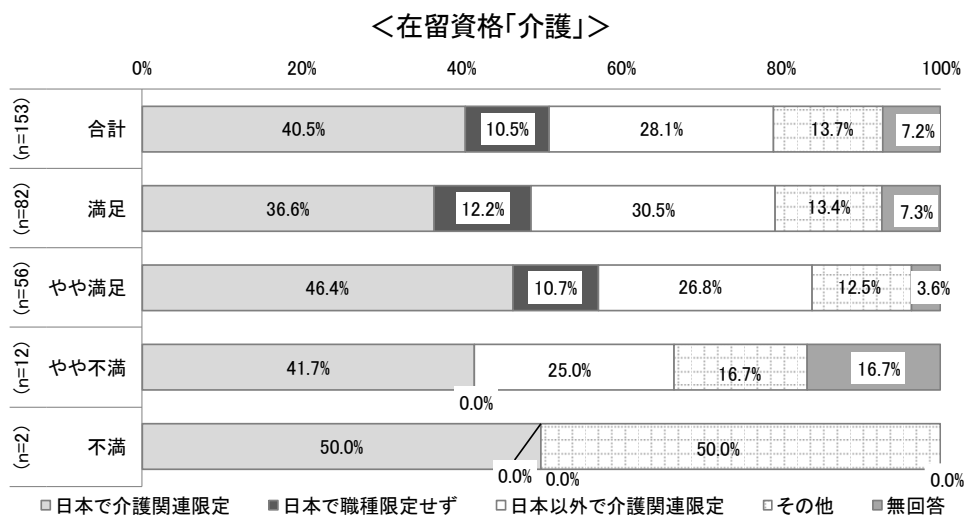
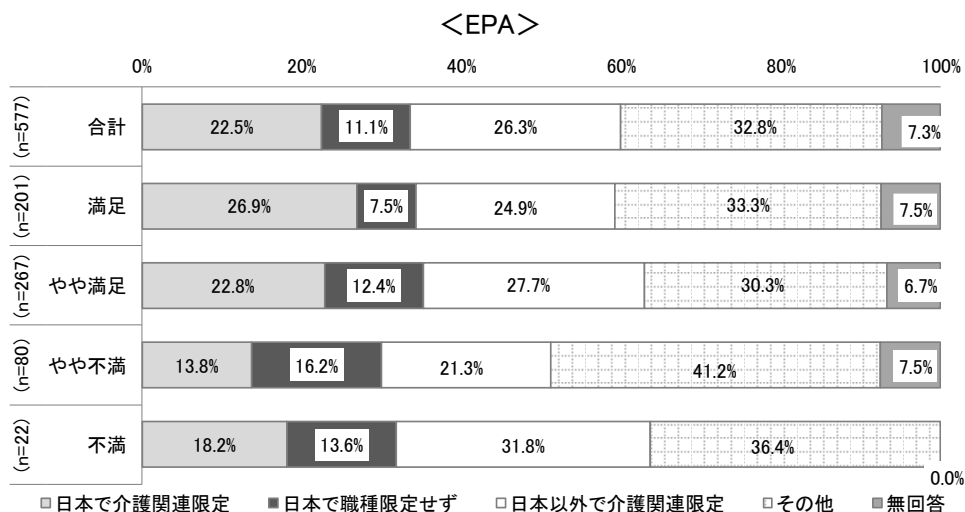


図表 3-62 在留資格別・施設の満足度:休みやすさ(問 17) × 将来展望(5年後)(問 25)

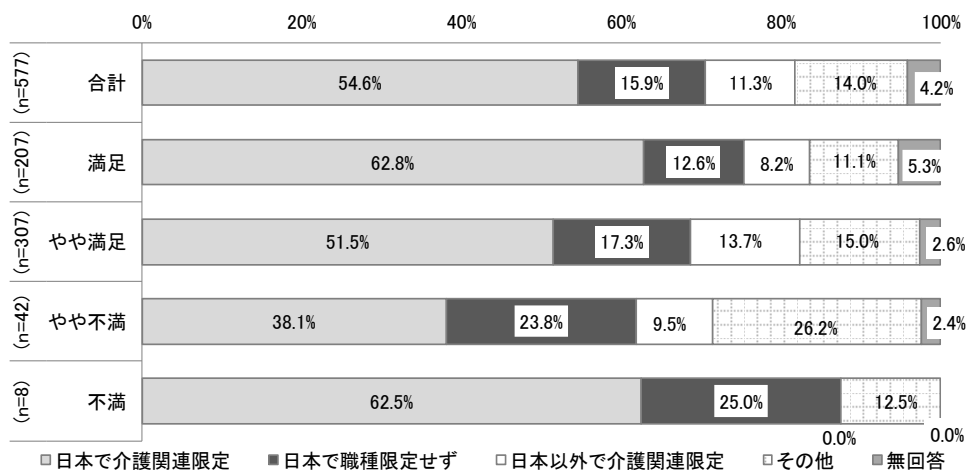




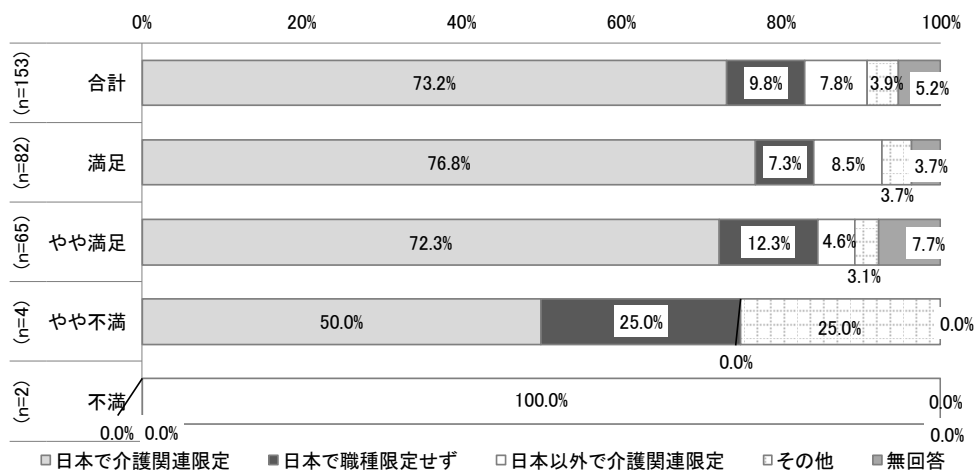
図表 3-63 在留資格別・施設の満足度:休みやすさ(問 17)×将来展望(10年後)(問 25)



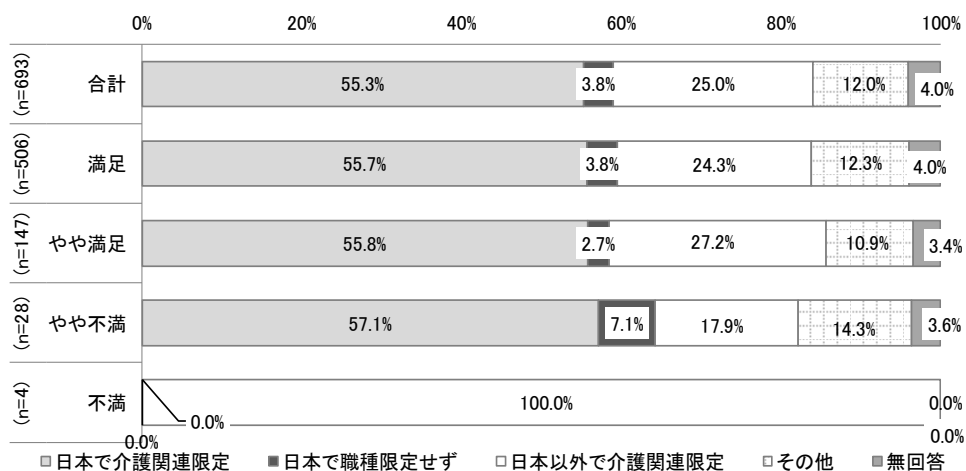
図表 3-64 在留資格別・施設の満足度:労働時間(問 17)×将来展望(5年後)(問 25)〈EPA〉



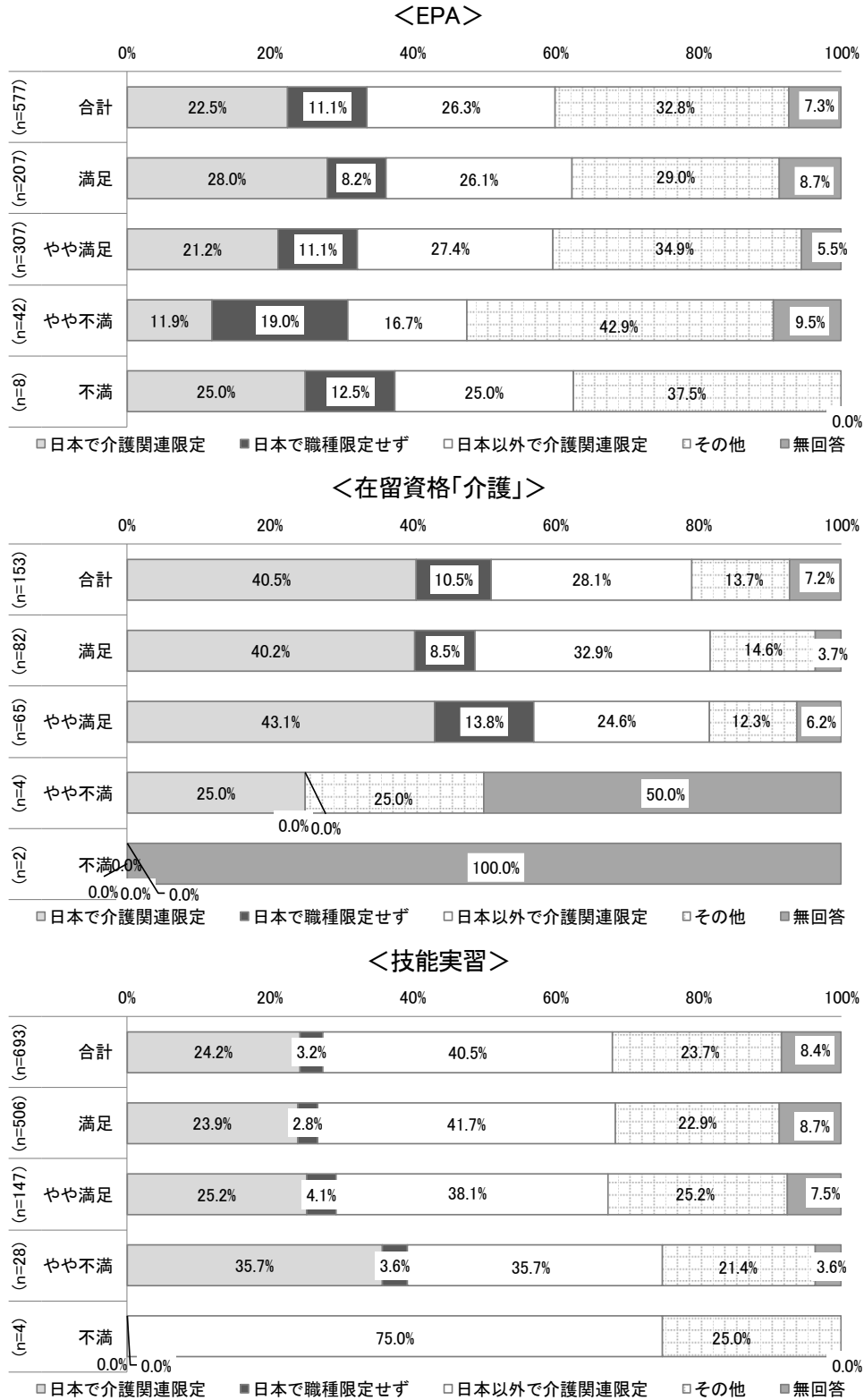
〈在留資格「介護」〉



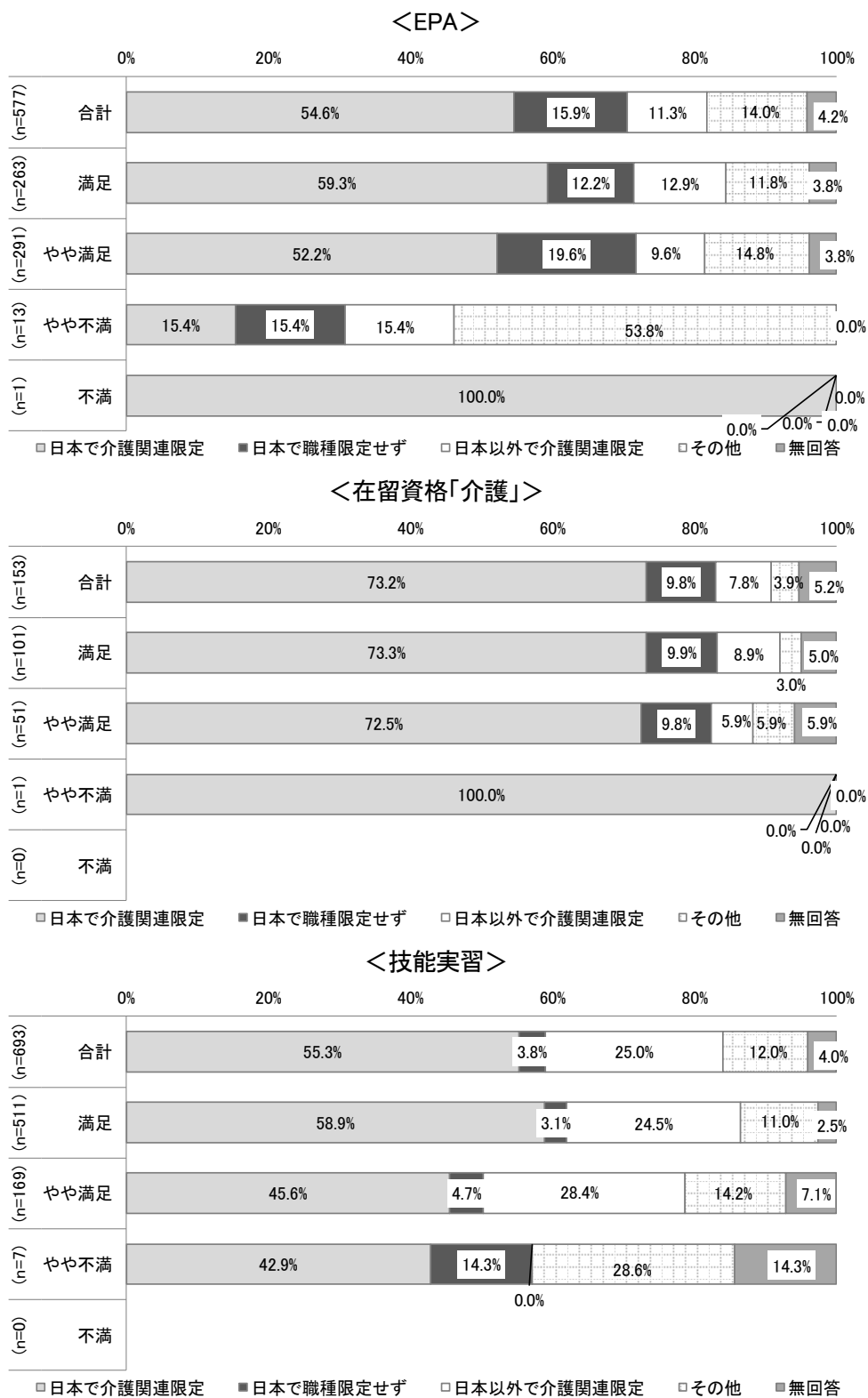
〈技能実習〉



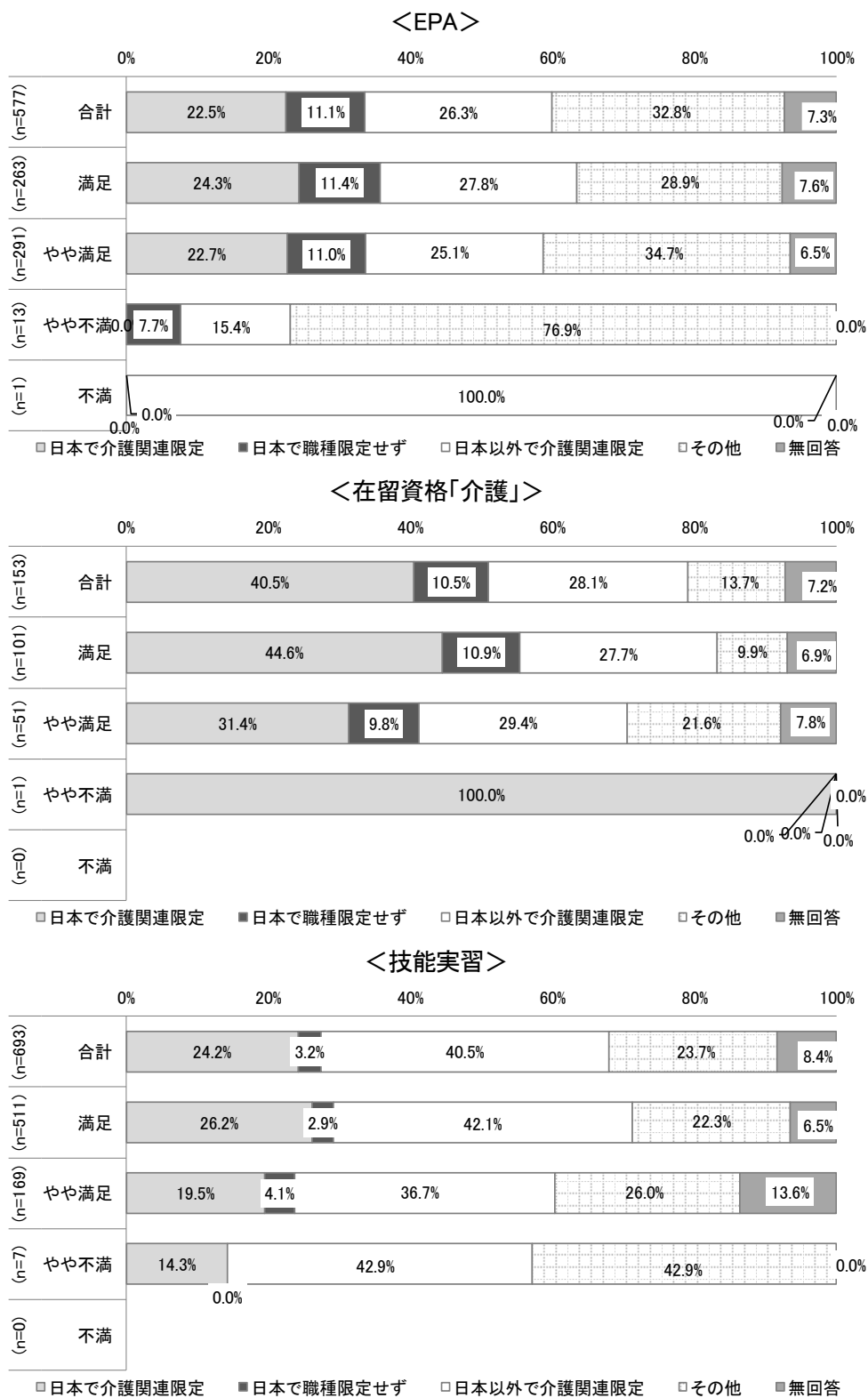
図表 3-65 在留資格別・施設の満足度:労働時間(問 17)×将来展望(10年後)(問 25)



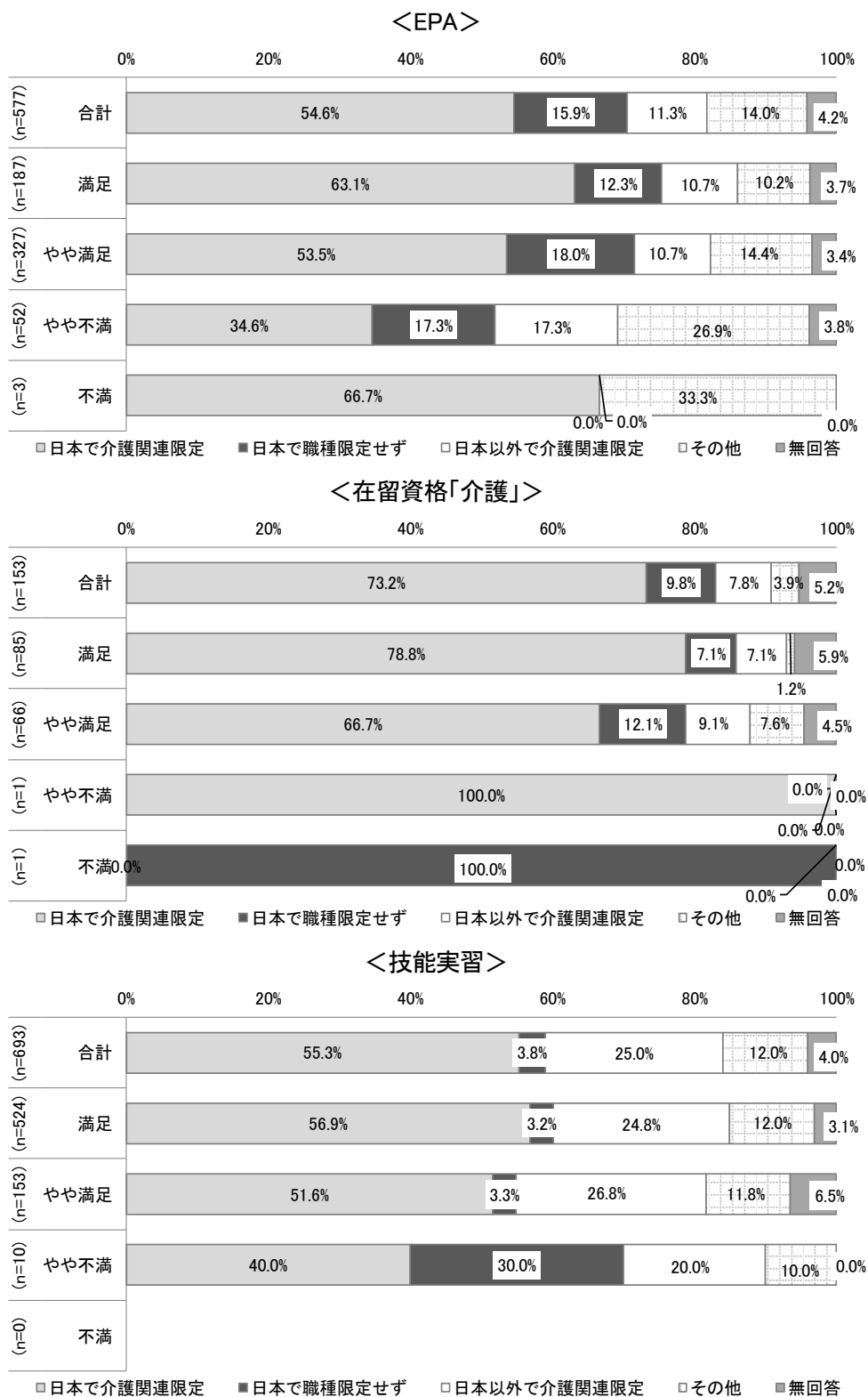
図表 3-66 在留資格別・施設の満足度:利用者との関係(問 17) × 将来展望(5 年後)(問 25)



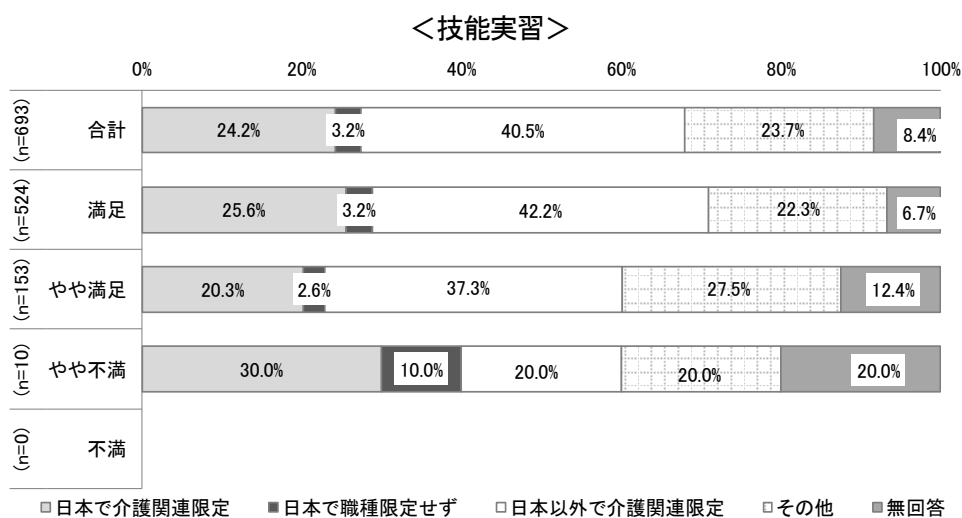
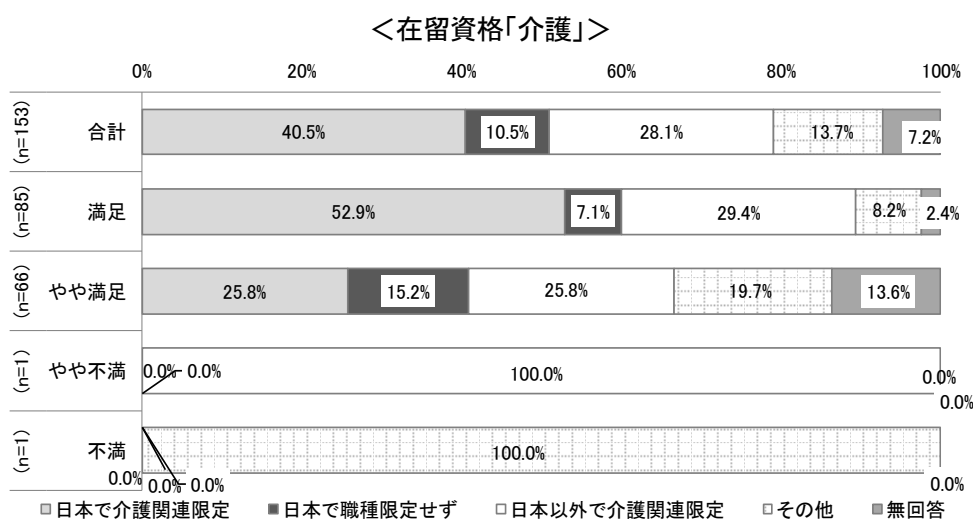
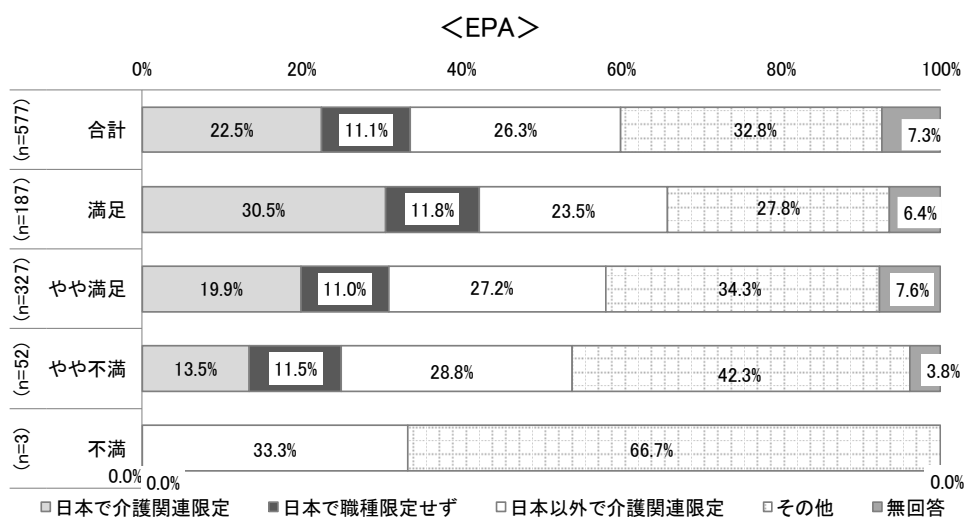
図表 3-67 在留資格別・施設の満足度:利用者との関係(問 17) × 将来展望(10 年後)(問 25)



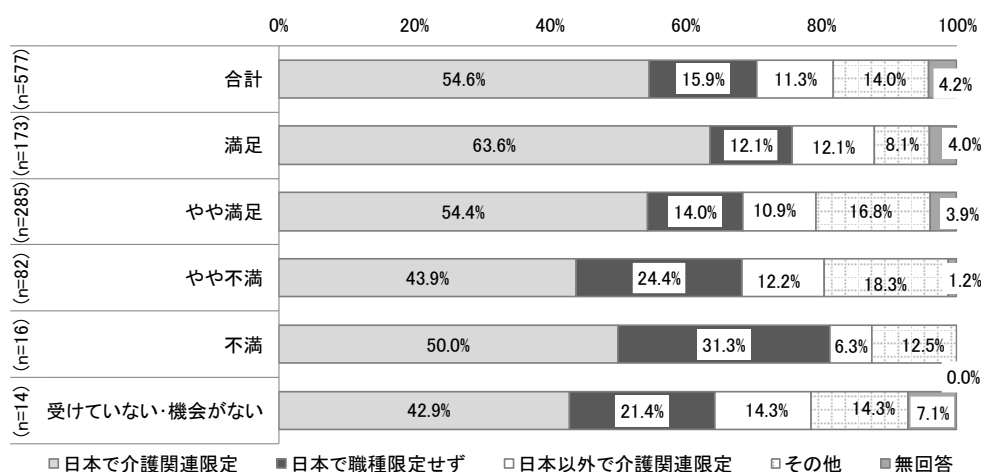
図表 3-68 在留資格別・施設の満足度：施設の職員との関係(問 17) × 将来展望(5 年後)(問 25)



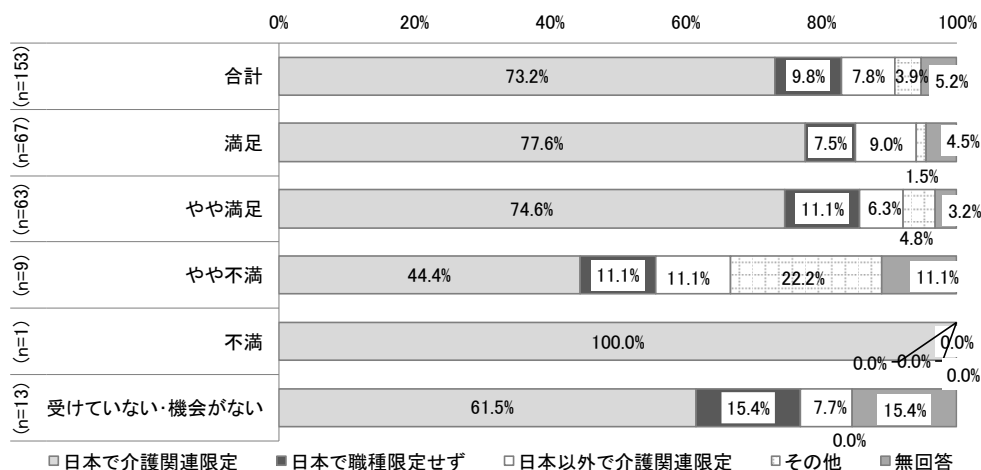
図表 3-69 在留資格別・施設の満足度：施設の職員との関係(問17)×  
将来展望(10年後)(問25)



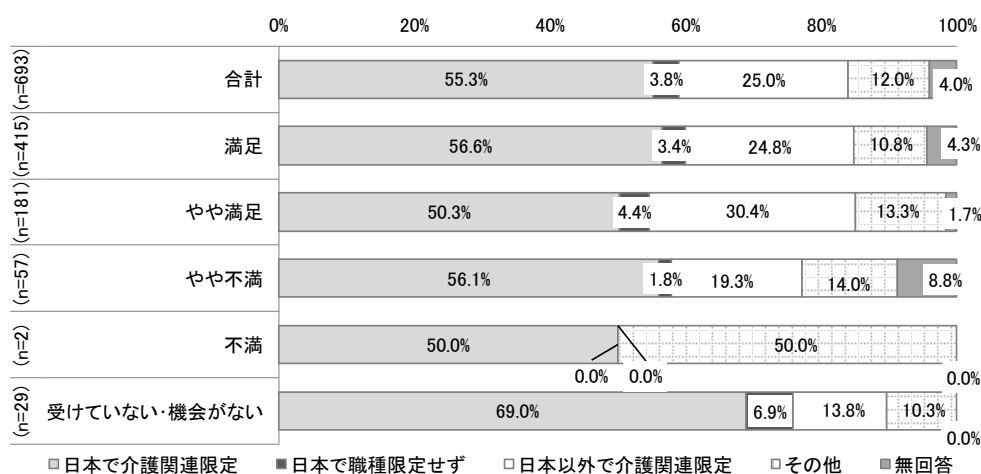
図表 3-70 在留資格別・施設の満足度：日本語の勉強への支援(問 17) ×  
将来展望(5年後)(問 25) <EPA>



<在留資格「介護」>

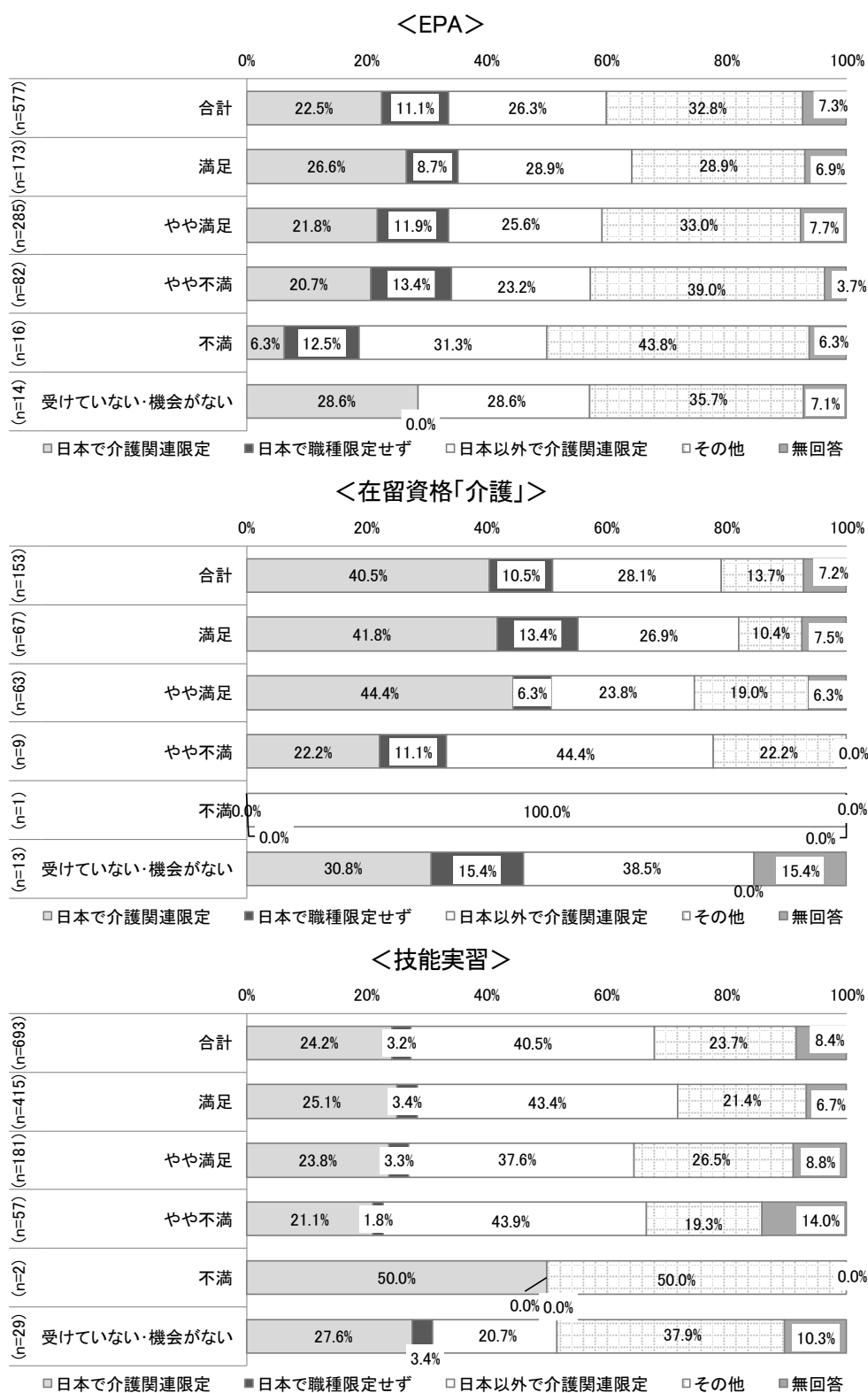


<技能実習>

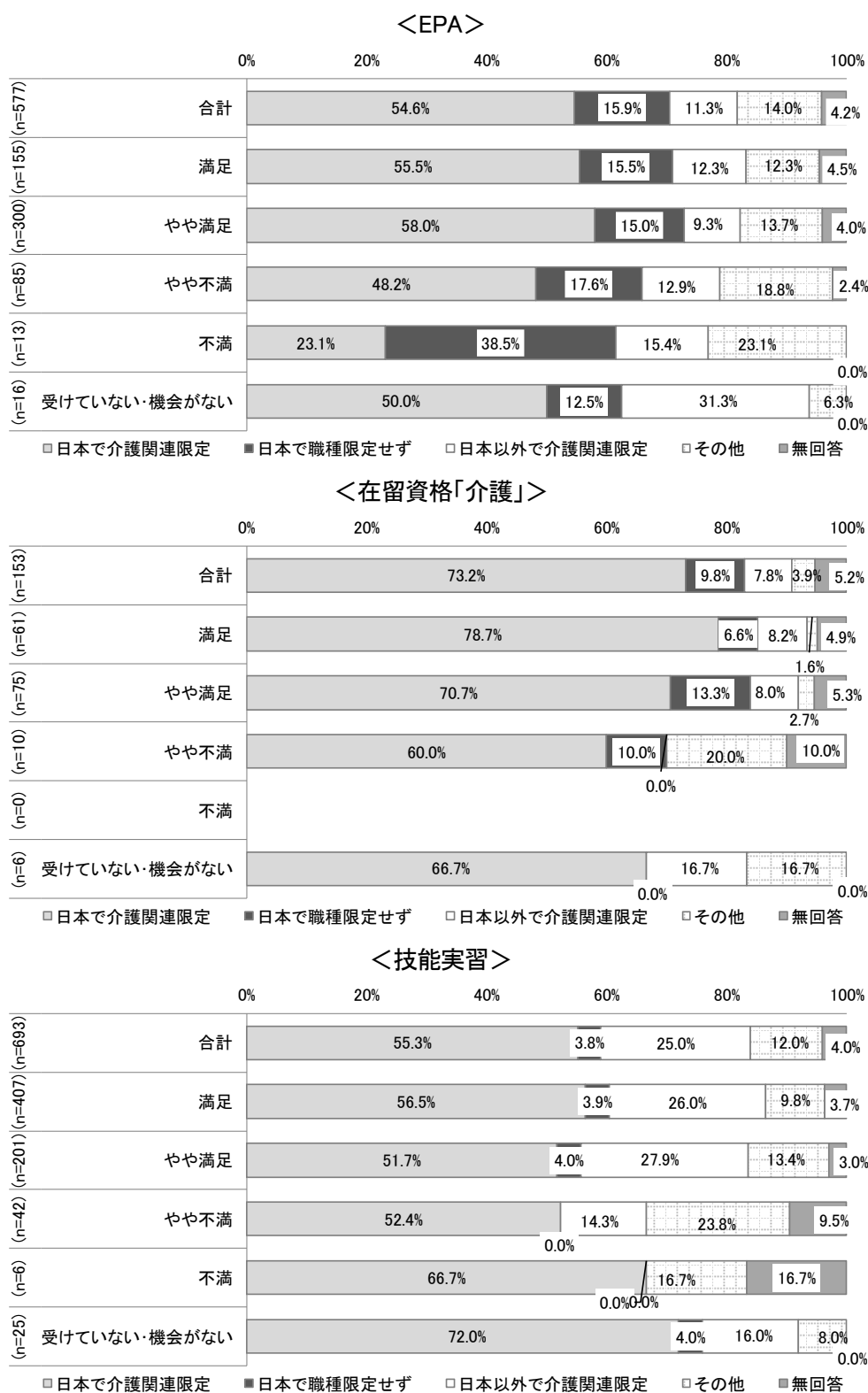




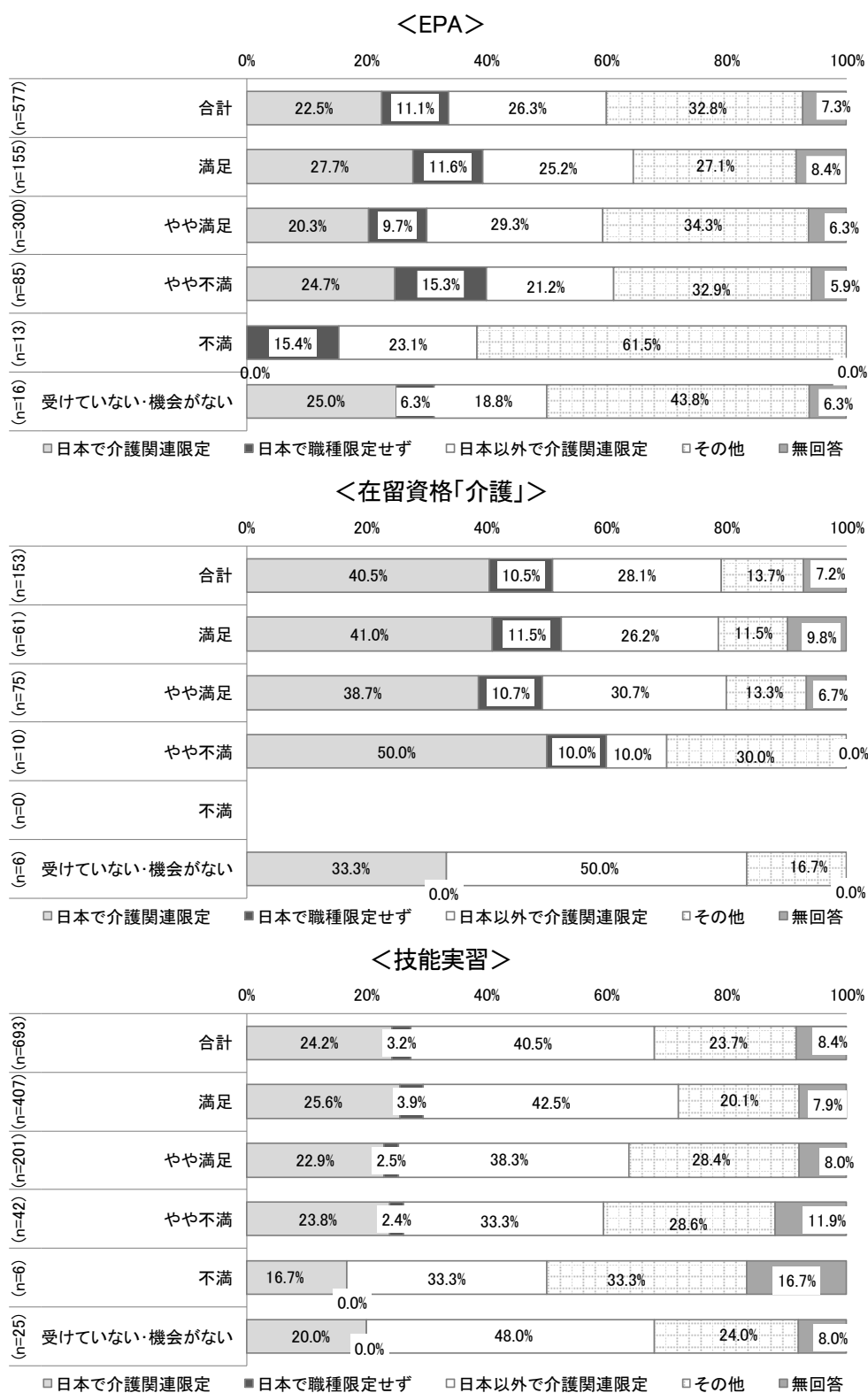
図表 3-71 在留資格別・施設の満足度：日本語の勉強への支援(問 17) × 将来展望(10年後)(問 25)



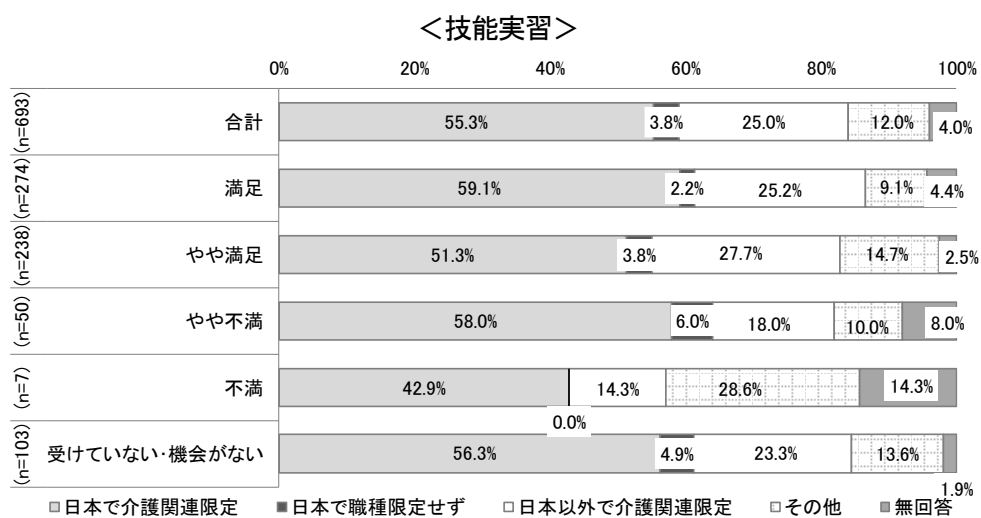
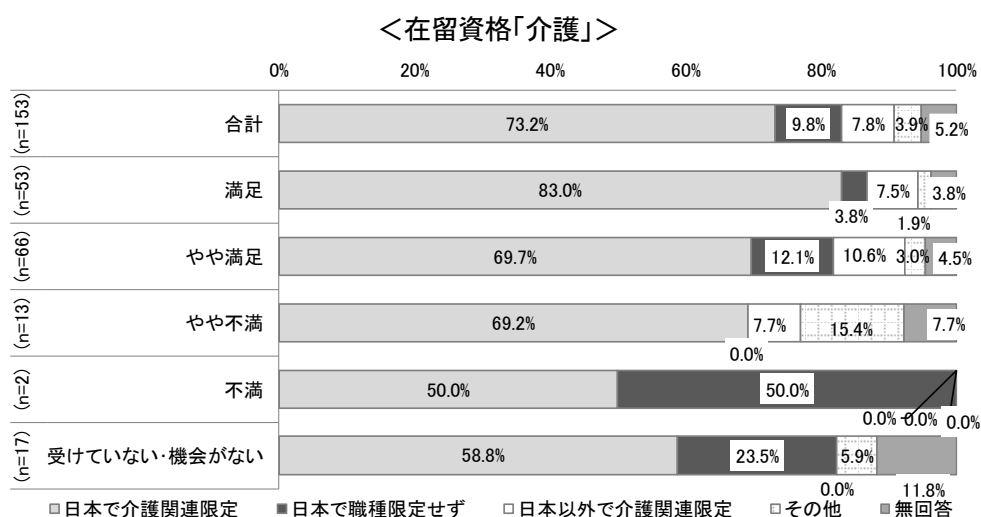
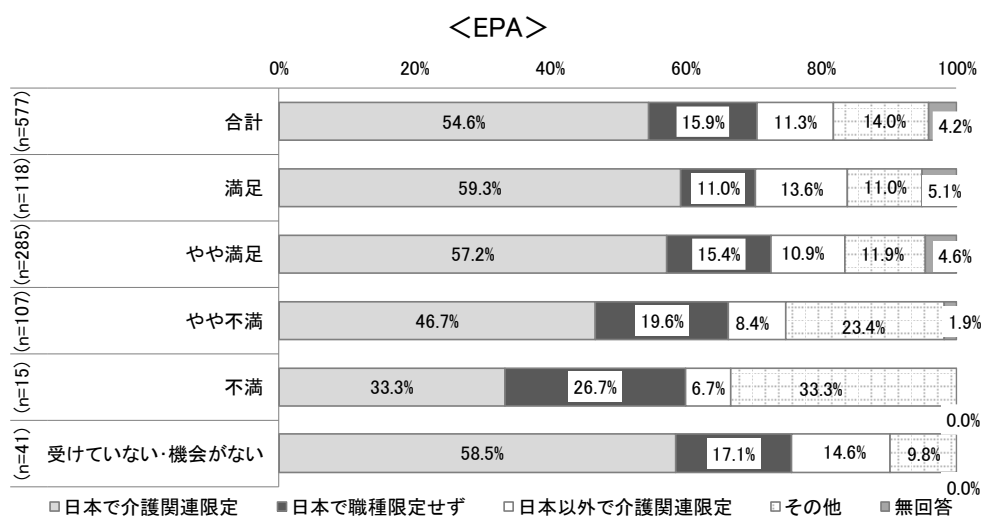
図表 3-72 在留資格別・施設の満足度:介護の技術・能力を高める研修・支援(問 17) × 将来展望(5年後)(問 25)



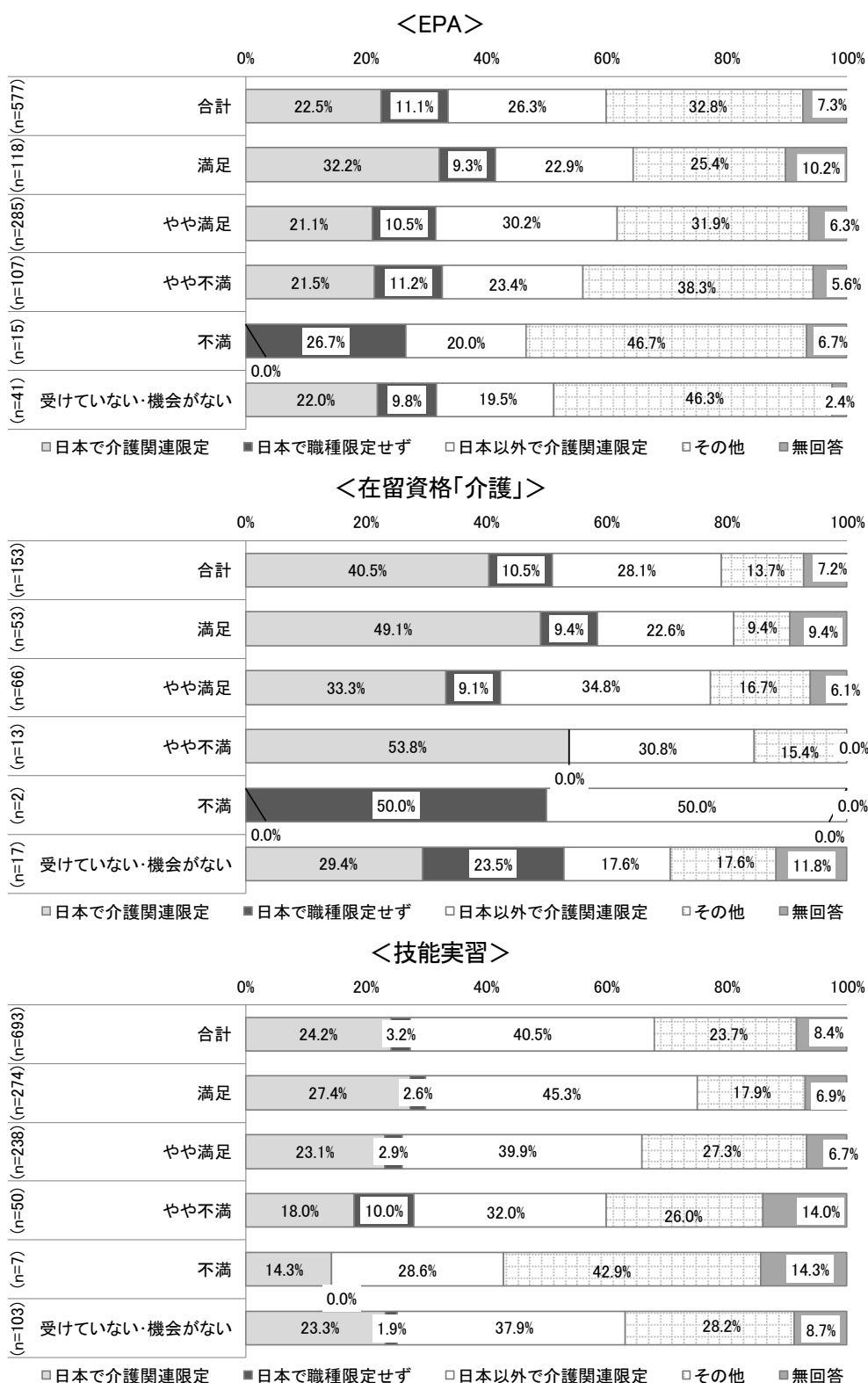
図表 3-73 在留資格別・施設の満足度:介護の技術・能力を高める研修・支援(問 17) × 将来展望(10年後)(問 25)



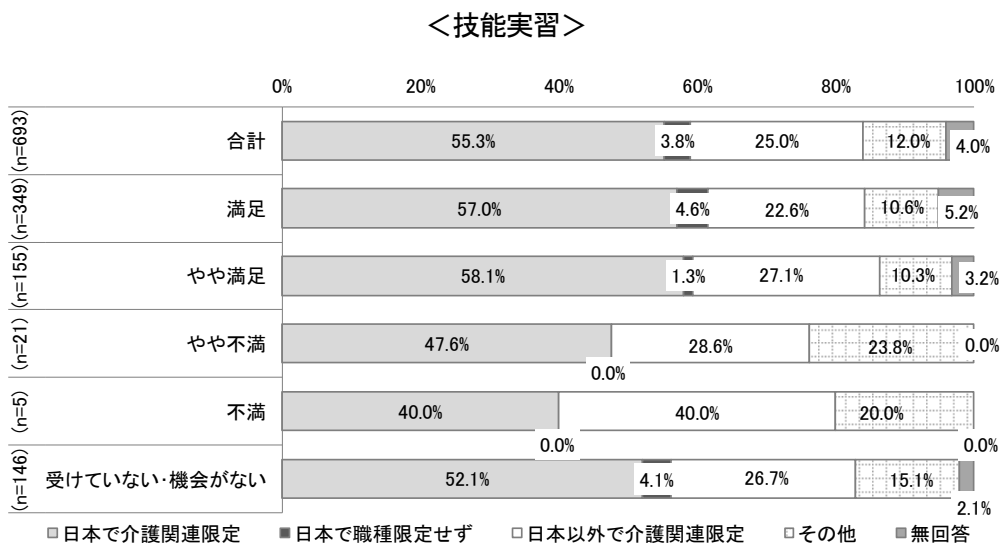
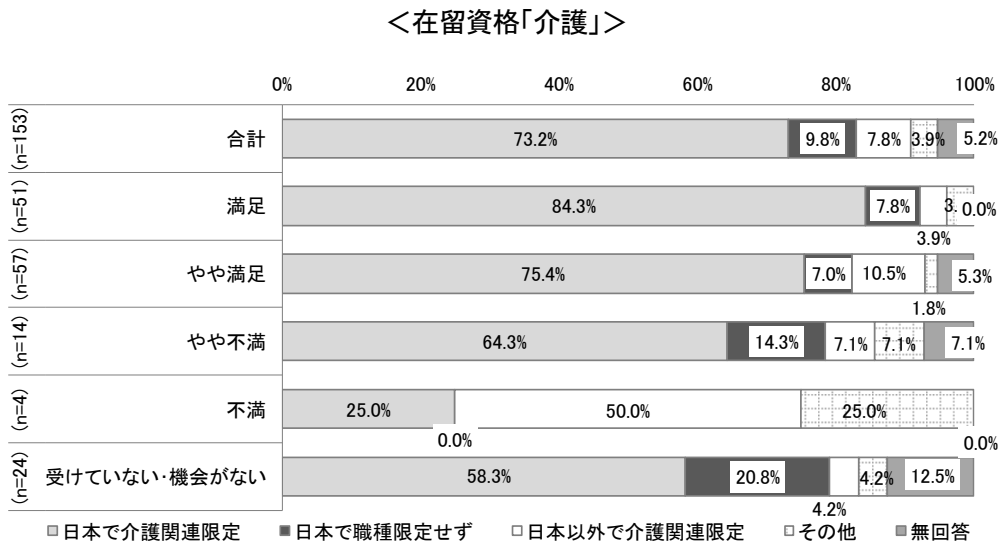
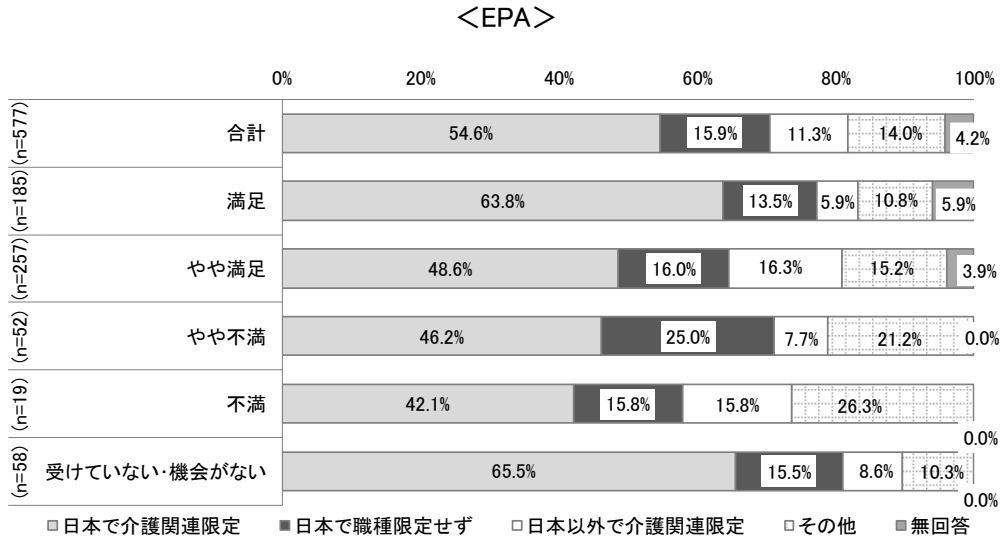
図表 3-74 在留資格別・施設の満足度: 将来のキャリアに関する説明・支援(問 17) × 将来展望(5 年後)(問 25)



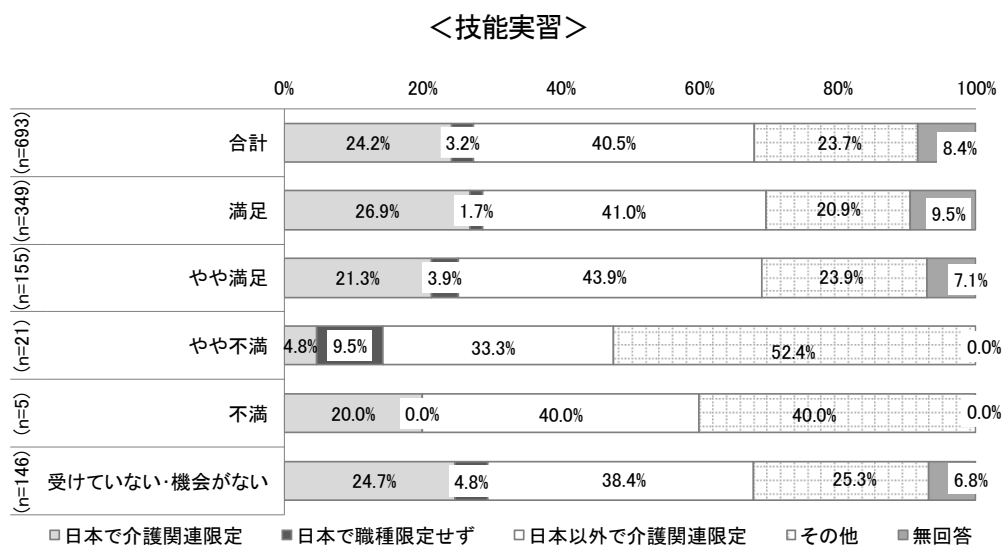
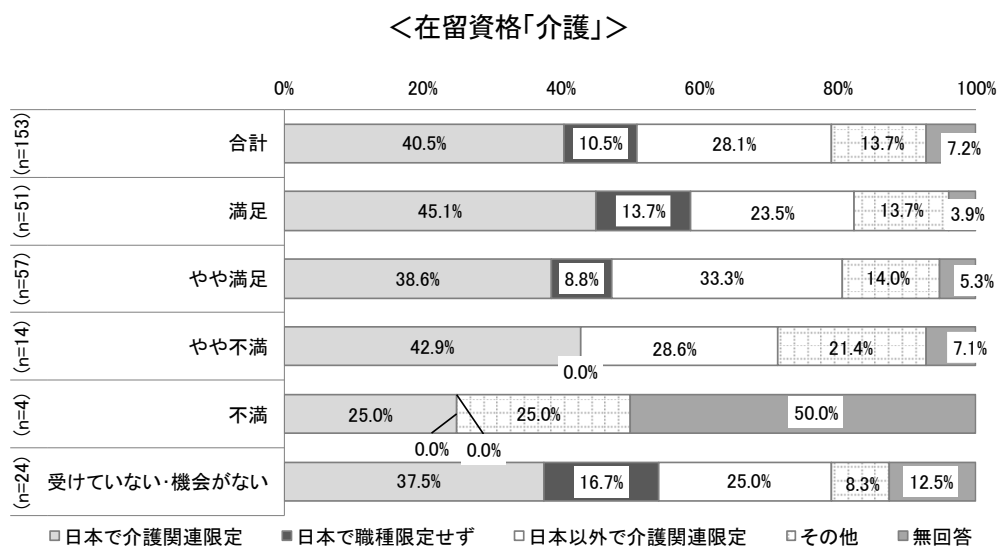
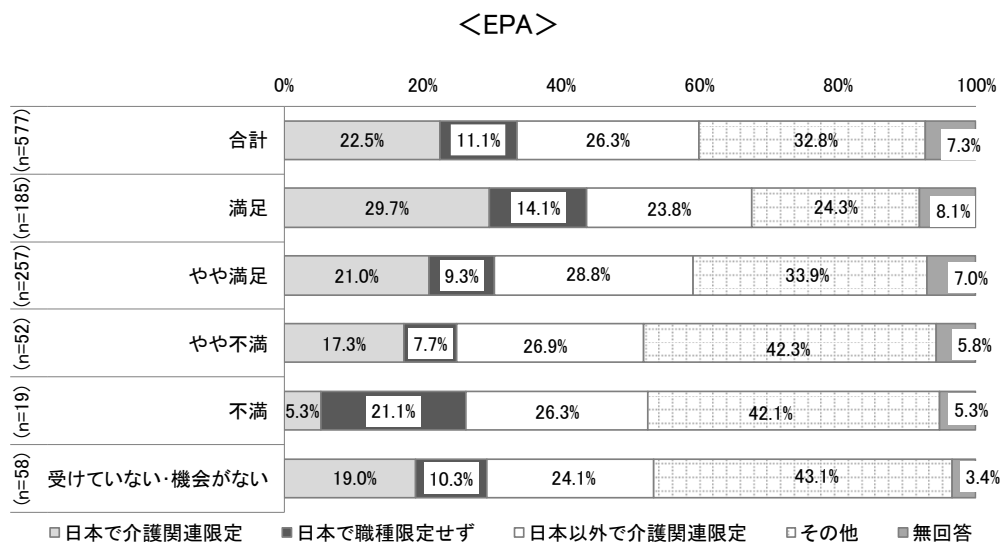
図表 3-75 在留資格別・施設の満足度: 将来のキャリアに関する説明・支援(問 17) × 将来展望(10 年後)(問 25)



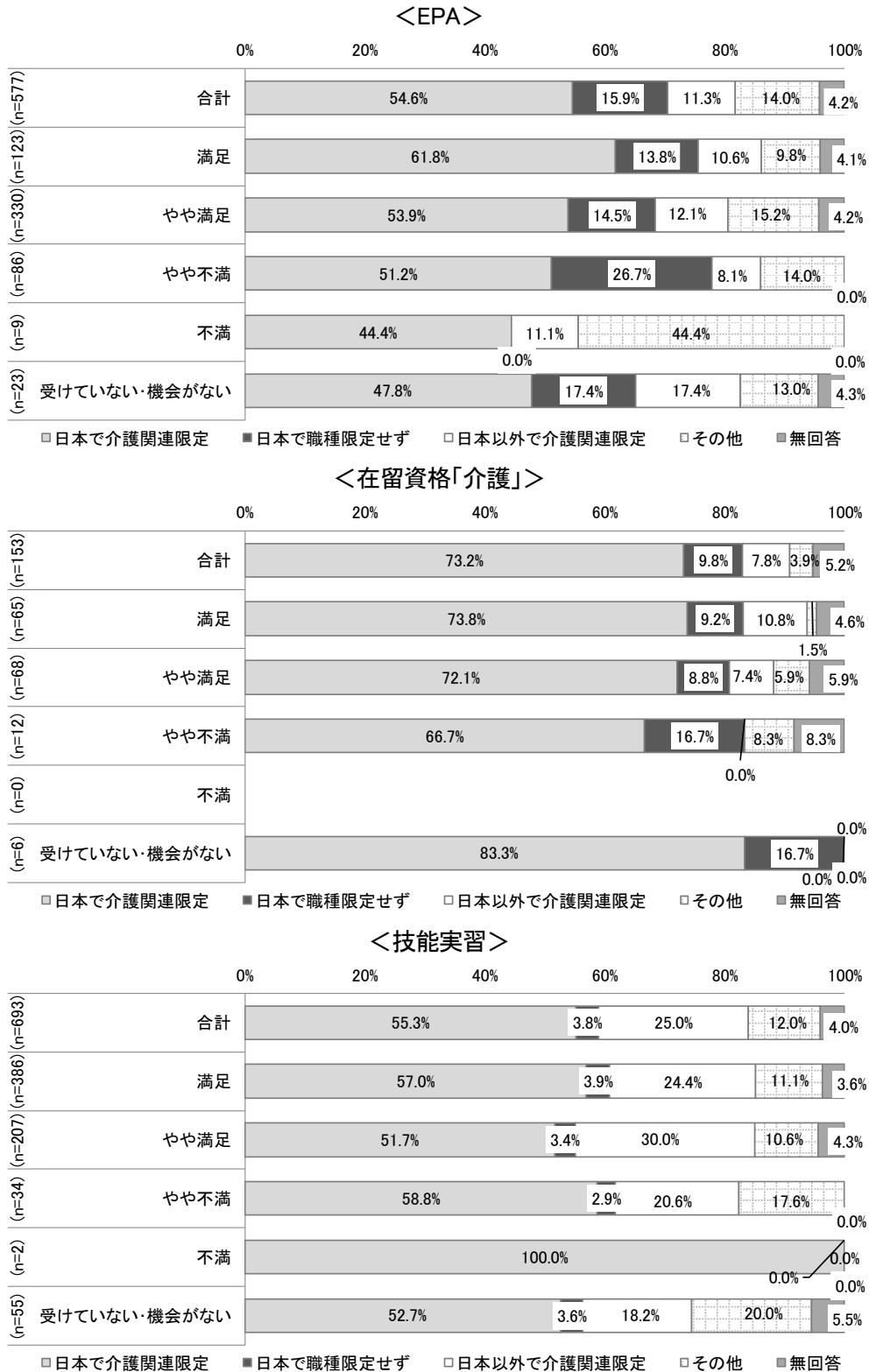
図表 3-76 在留資格別・施設の満足度:家族への支援(問 17)×将来展望(5年後)(問 25)



図表 3-77 在留資格別・施設の満足度:家族への支援(問 17)×将来展望(10年後)(問 25)

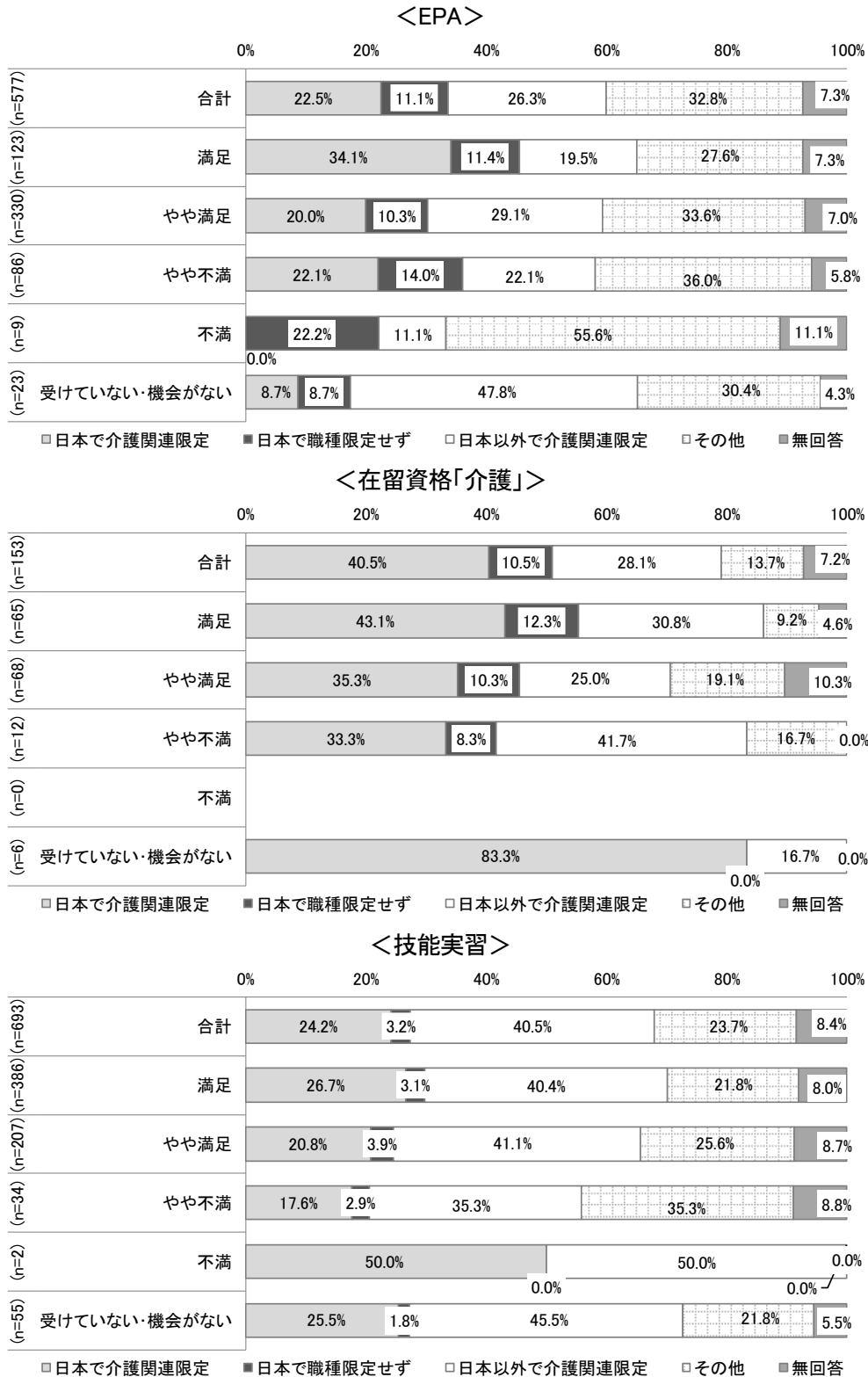


図表 3-78 在留資格別・施設の満足度:まわりの日本人と交流する機会(問17)×  
将来展望(5年後)(問25)

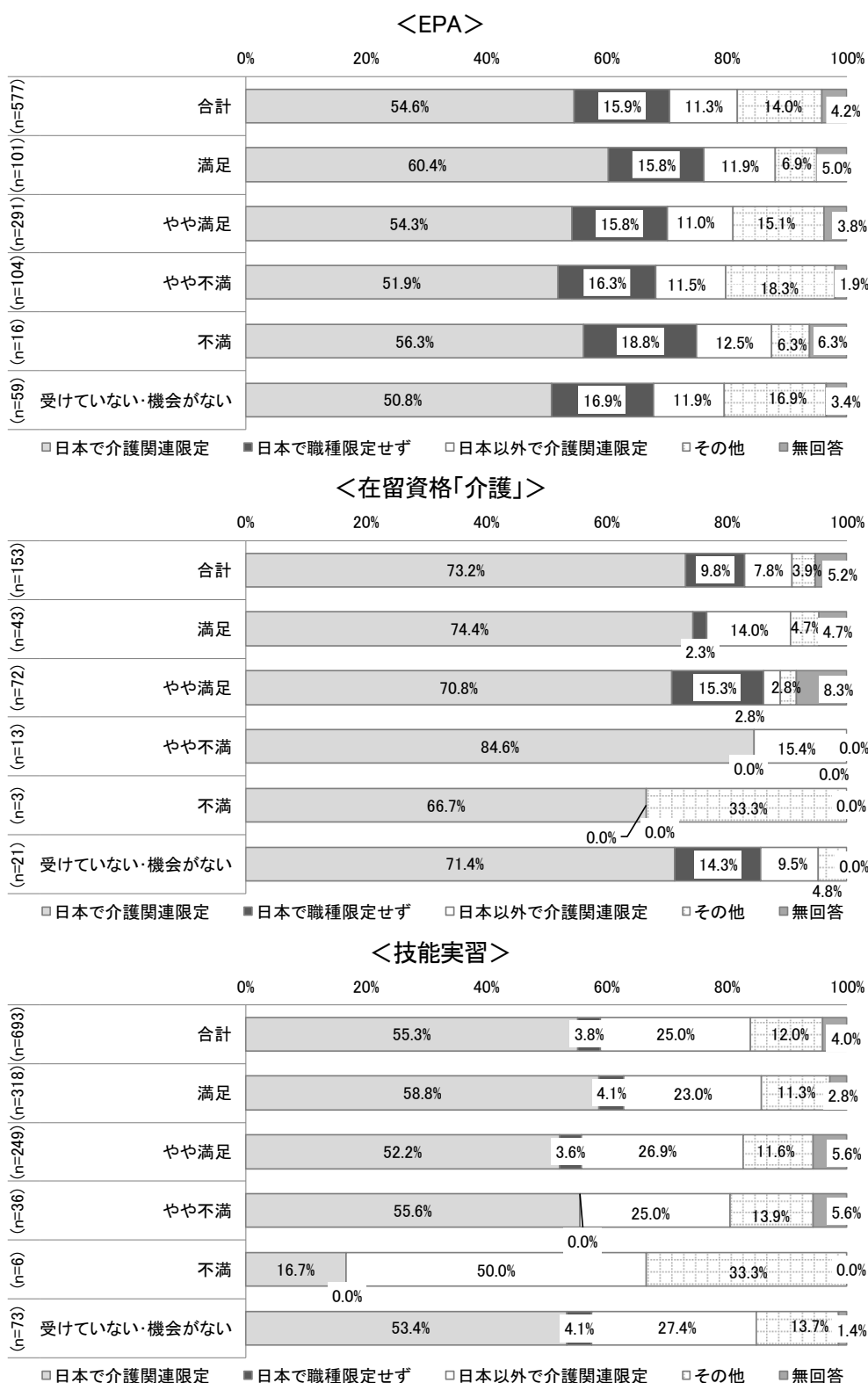




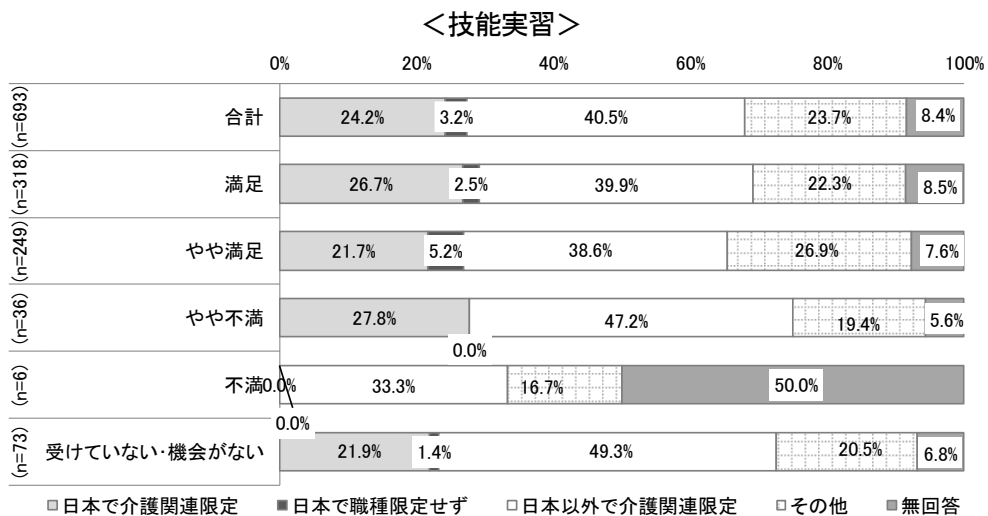
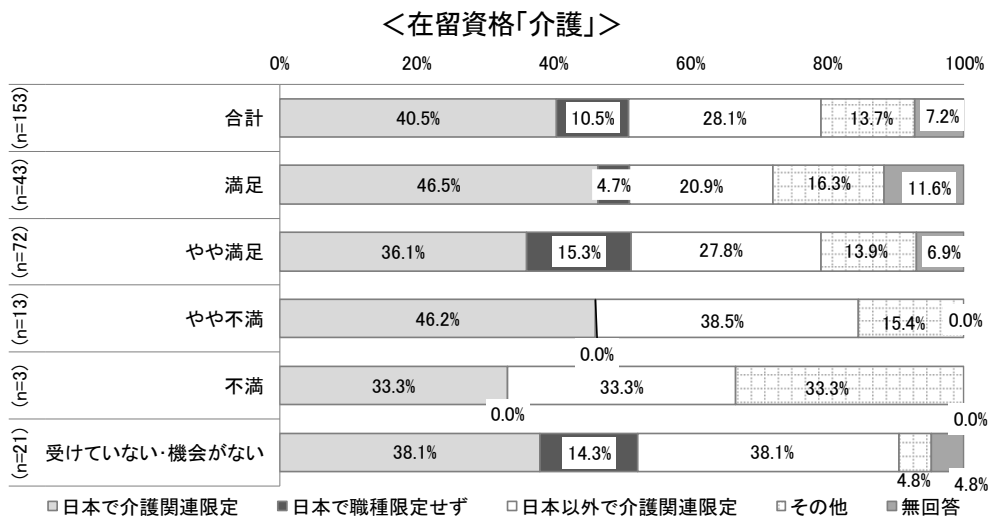
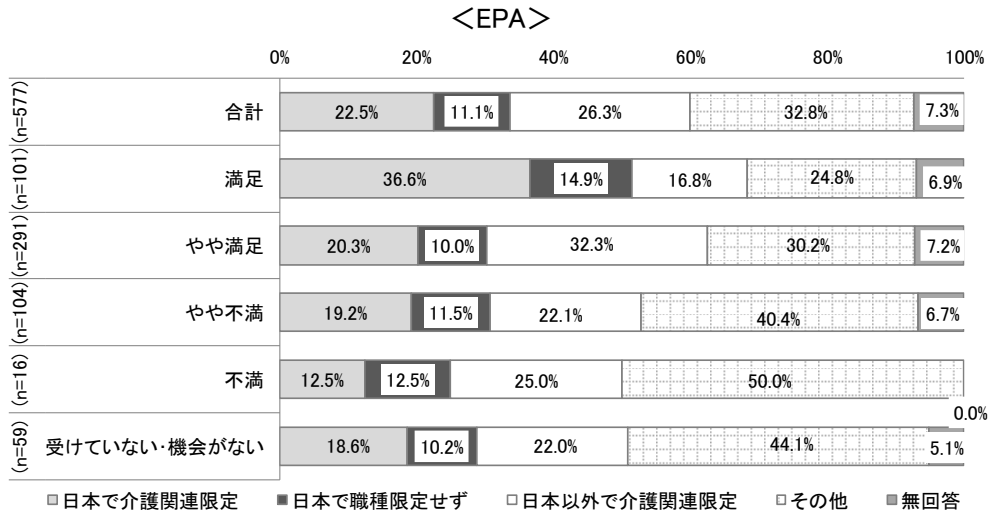
図表 3-79 在留資格別・施設の満足度:まわりの日本人と交流する機会(問17)×  
将来展望(10年後)(問25)



図表 3-80 在留資格別・施設の満足度::自分の国や文化を教える機会(問 17) × 将来展望(5年後)(問 25)



図表 3-81 在留資格別・施設の満足度::自分の国や文化を教える機会(問 17) × 将来展望(10年後)(問 25)



## 第4章 事業所の回答と外国人介護職員本人の回答との関係

本章では、第2章で示した「外国人介護職員受入れ事業所向けアンケート調査」のデータと第3章で示した「外国人介護職員向けアンケート調査」のデータを結合し、外国人介護職員受入れ事業所の回答と、外国人介護職員本人の回答の関係を集計した。

以下、(1) 施設・事業所の支援の実施状況と外国人介護職員の満足度、(2) 施設・事業所の支援の実施状況と外国人介護職員の将来展望、(3) 直属の上司の評価と外国人介護職員の自己評価の3つについて述べる。

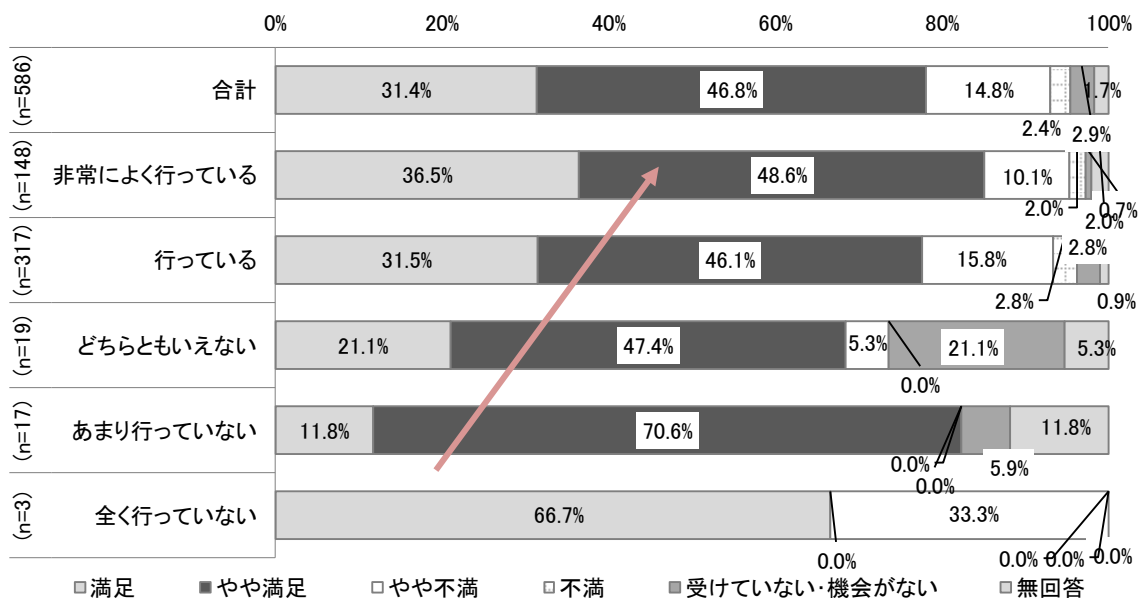
### 1. 調査結果

#### (1) 施設・事業所の支援の実施状況と外国人介護職員の満足度

##### ① 介護の日本語の支援と本人の満足度

介護現場に必要な日本語習得のための支援を実施している施設・事業所に属する外国人介護職員ほど、施設・事業所の日本語の勉強への支援に対する満足度は上がっている。

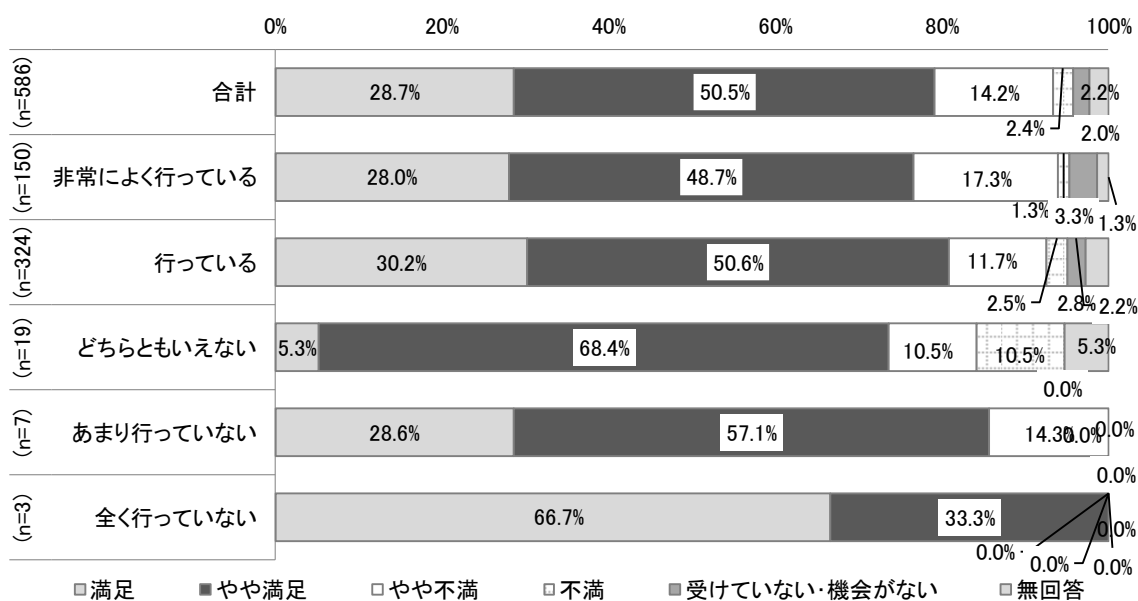
図表 4-1 介護現場に必要な日本語習得のための支援(事業所調査票①問 21-2) × 日本語の勉強への支援に対する満足度(本人調査票問 17⑥)



## ② 介護知識・技能習得のための支援と本人の満足度

介護知識技能の習得のための支援を実施している施設・事業所に属する外国人介護職員ほど、介護の技術・能力を高める研修・支援に対する満足度が上がるという傾向はみられなかった。

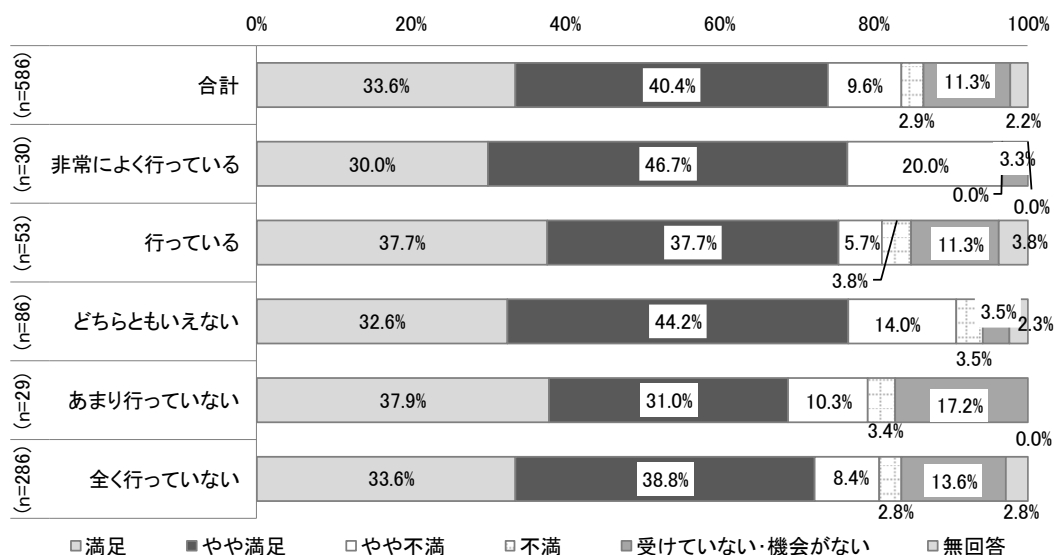
図表 4-2 介護知識技能の習得のための支援(事業所調査票①\_問 21-1) ×  
介護の技術・能力を高める研修・支援に対する満足度(本人調査票\_問 17⑦)



### ③ 同居家族に対する支援と本人の満足度

同居する外国人家族に対する支援を実施している施設・事業所に属する外国人介護職員ほど、家族への支援に対する満足度が上がるという傾向はみられなかった。

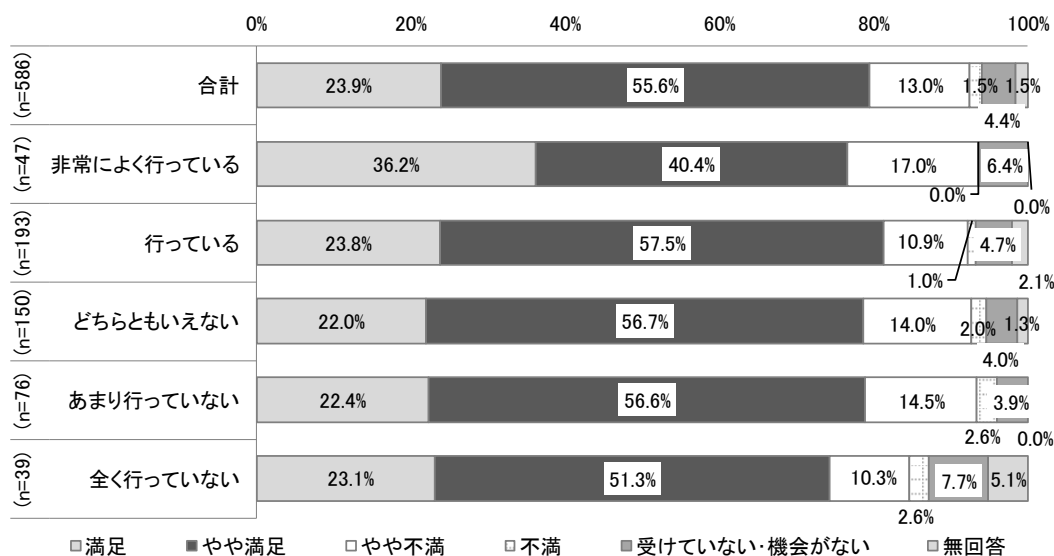
図表 4-3 同居する外国人家族に対する支援(事業所調査票①\_問 21-19)  
× 家族への支援に対する満足度(本人調査票\_問 17⑨)



### ④ 地域の日本人との交流支援と本人の満足度

地域・周りの日本人との交流の支援を実施している施設・事業所に属する外国人介護職員ほど、周りの日本人と交流する機会に対する満足度が上がるという傾向はみられなかった。

図表 4-4 地域・周りの日本人との交流の支援(事業所調査票①\_問 21-18)  
× 周りの日本人と交流する機会に対する満足度(本人調査票\_問 17⑩)

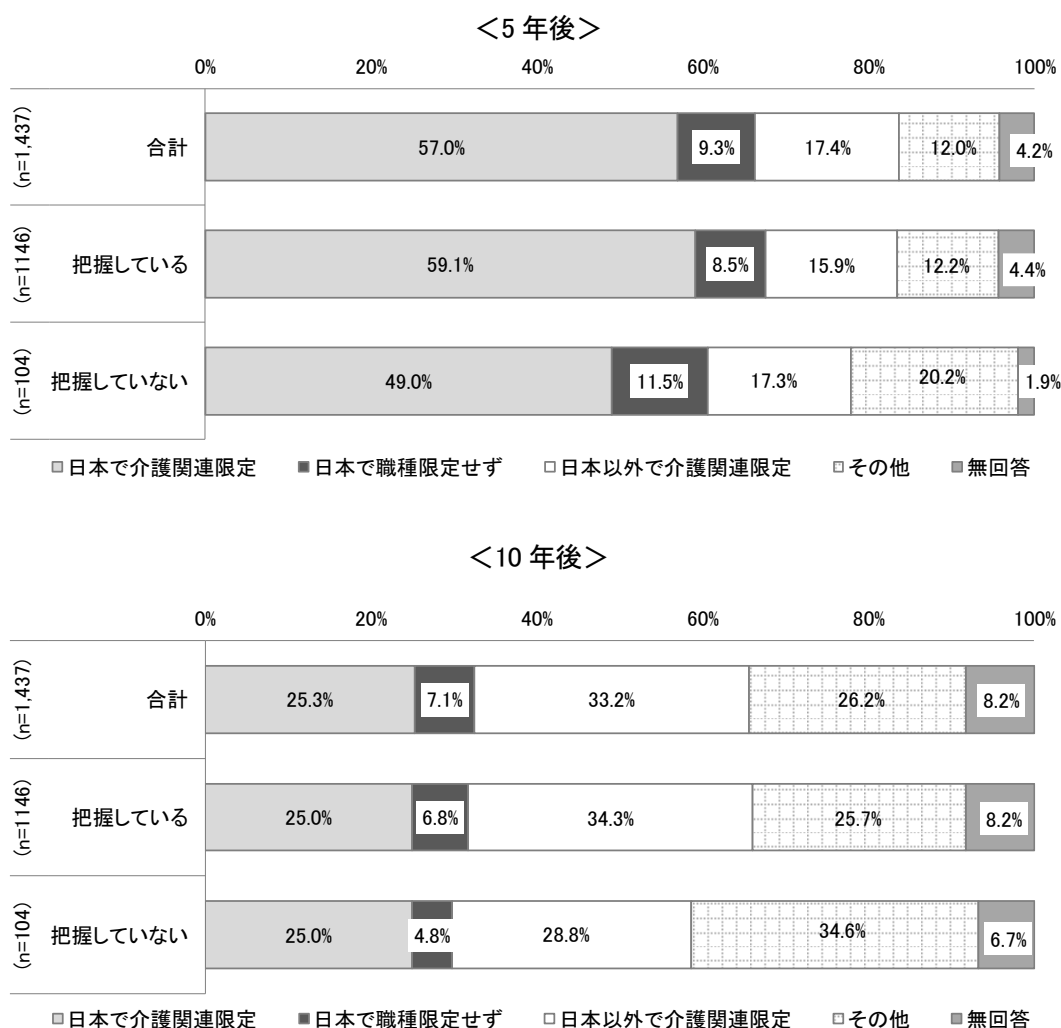


## (2) 施設・事業所の支援と外国人介護職員の将来展望

### ① 将来の目標や希望の把握の有無と本人の将来展望

外国人介護職員の将来の目標や希望を把握している（施設・事業所と外国人介護職員の距離が近い）施設・事業所に属する外国人介護職員は、5年後の希望として、「日本で介護関連限定」の割合が高くなっている。一方で、10年後の希望としては相関が見られなかった。

図表 4-5 将来の目標や希望の把握状況(事業所調査票①\_問 16) × 将来展望(本人調査票\_問 25)

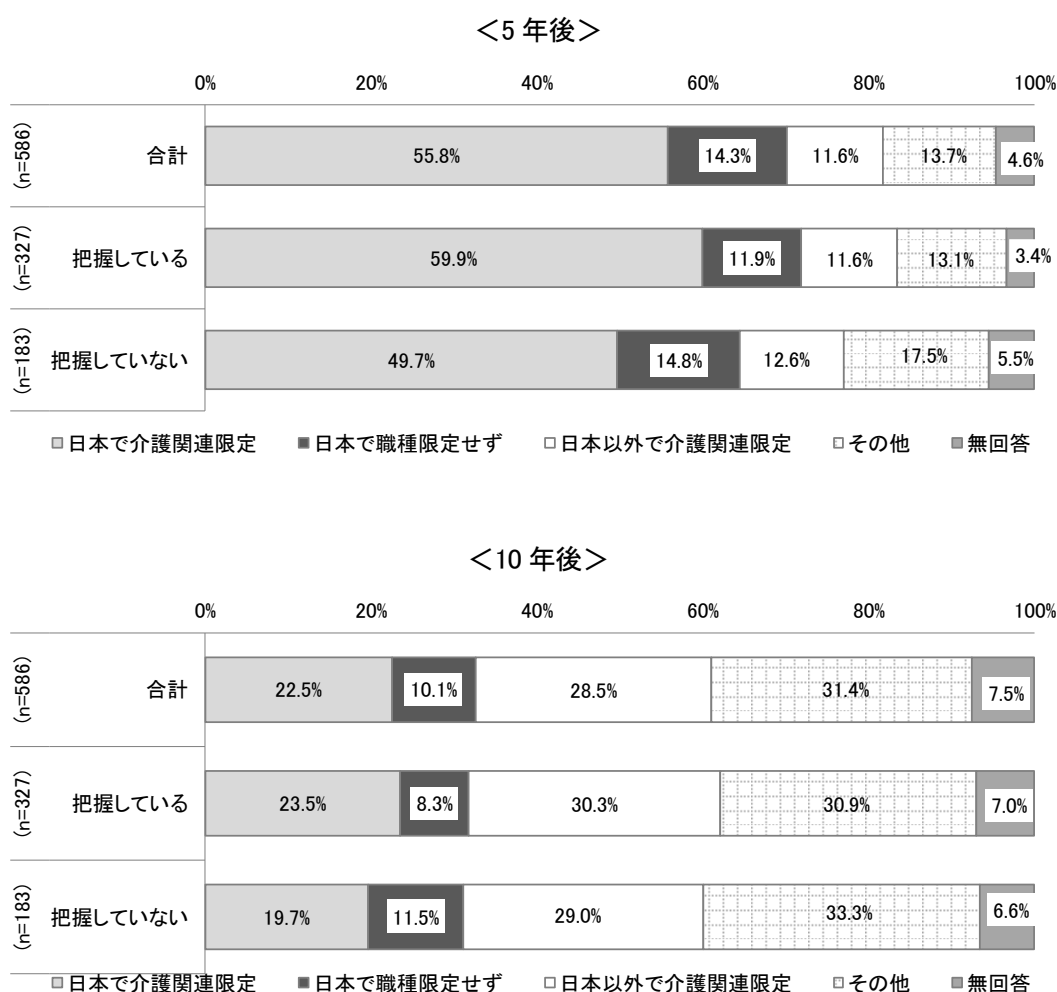


※上図の「把握している」とは、事業所調査票 問 16 の「将来の目標や希望」について「把握している」「まあ把握している」を合算して集計している  
 また、「把握していない」とは、事業所調査票 問 16 の「あまり把握していない」「把握していない」を合算して集計している

② 業務の理解度・介護技術の習得度の把握の有無と将来展望

外国人介護職員の業務の理解度・介護技術の習得状況を把握している（施設・事業所と外国人介護職員の距離が近い）施設・事業所に属する外国人介護職員は、5年後10年後の希望として、「日本で介護関連限定」の割合が高くなっている。

図表 4-6 業務の理解度・介護技術の習得状況の把握状況(事業所調査票①\_問 17)) × 将来展望(本人調査票\_問 25)



※上図の表側は、事業所調査票 問 17「外国人介護職員向けに、特に実施している支援」で選択肢8「業務の理解度や介護技術の習得状況等の把握」を選択している場合、「把握している」、選択していない場合を「把握していない」としている。

※本人調査票の結果は、今の施設での就労期間：1年超のみを集計対象としている。

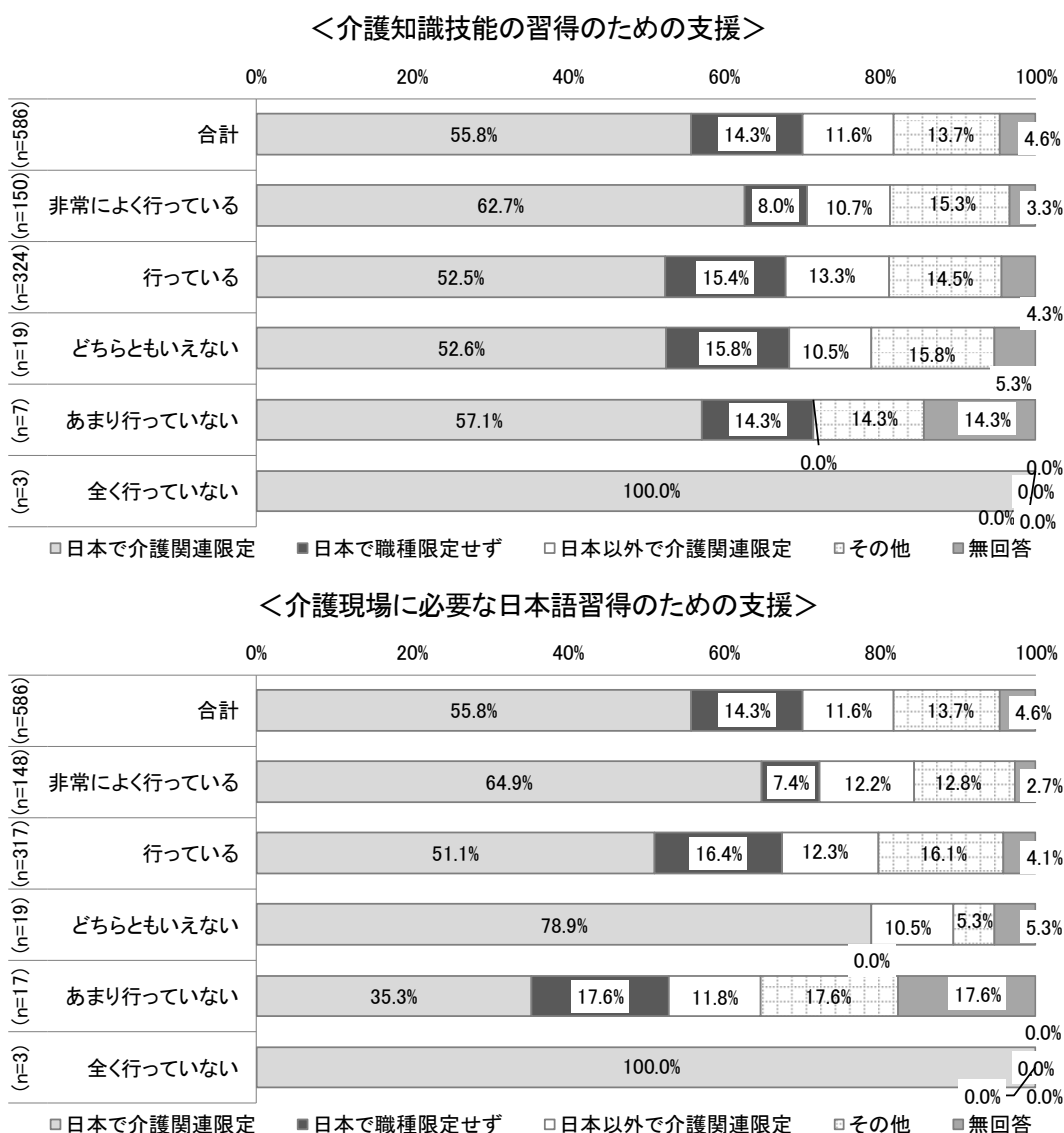


### ③ 施設・事業所の支援と本人の将来展望(5年後)

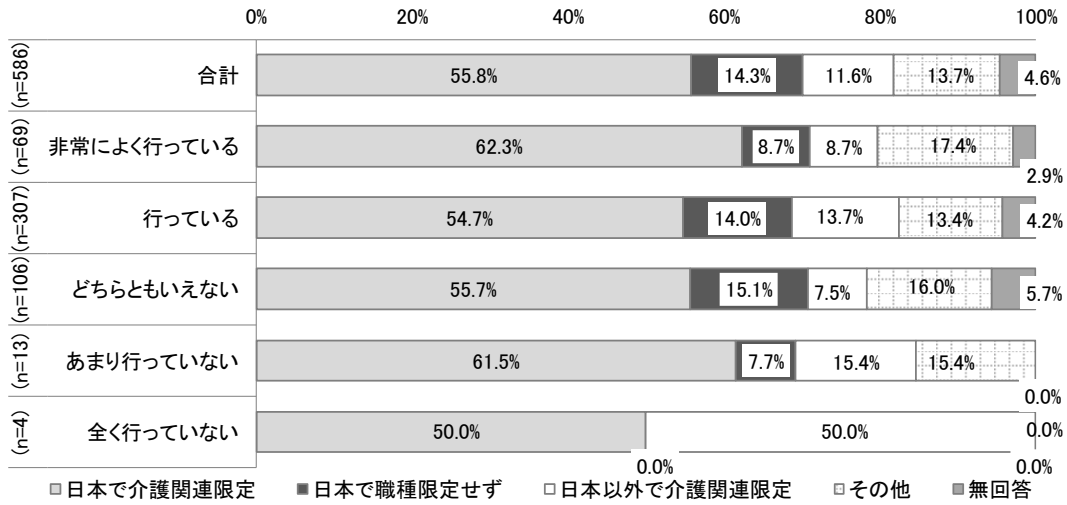
施設・事業所の支援実施状況と外国人介護職員の将来展望の関係をみたところ、施設・事業所の支援が手厚くなるほど、5年後の希望として、「日本で介護関連限定」の割合が高くなるといった傾向はみられなかった。

図表 4-7 施設・事業所の支援実施状況(事業所調査票①\_問 21) ×  
将来展望(本人調査票\_問 25)

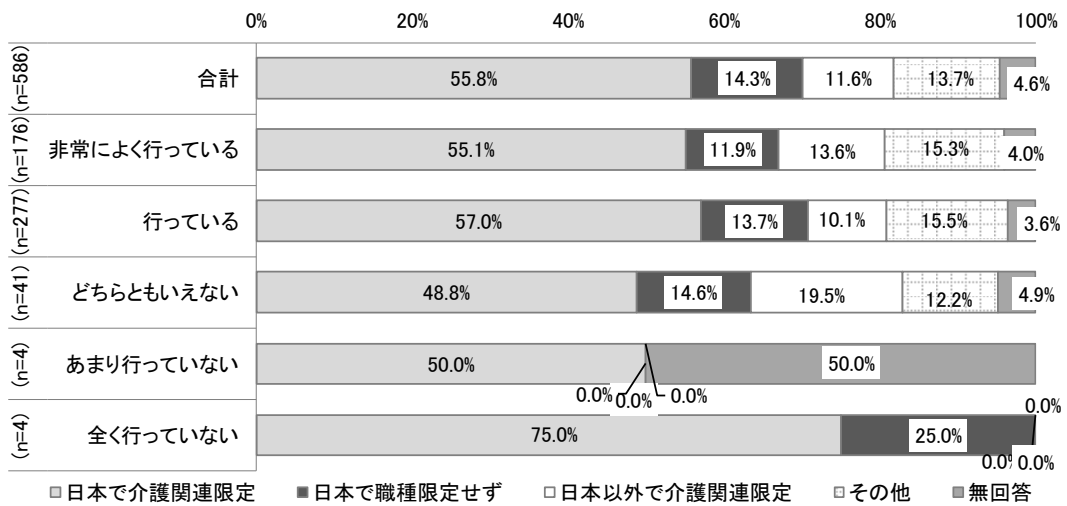
※ここで示す本人調査票の結果は、今の施設での就労期間：1年超のみを集計対象としている



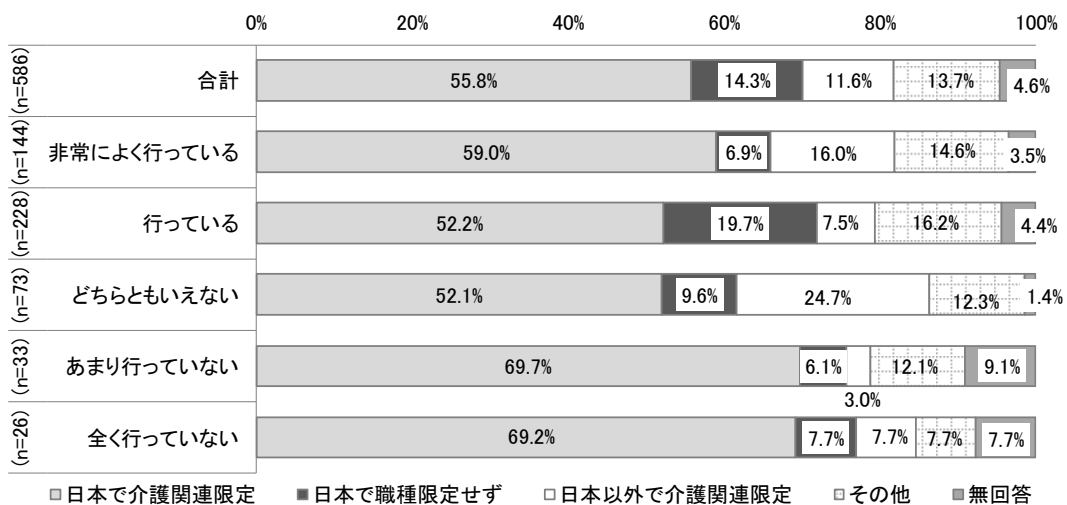
### <メンタルヘルスケア>



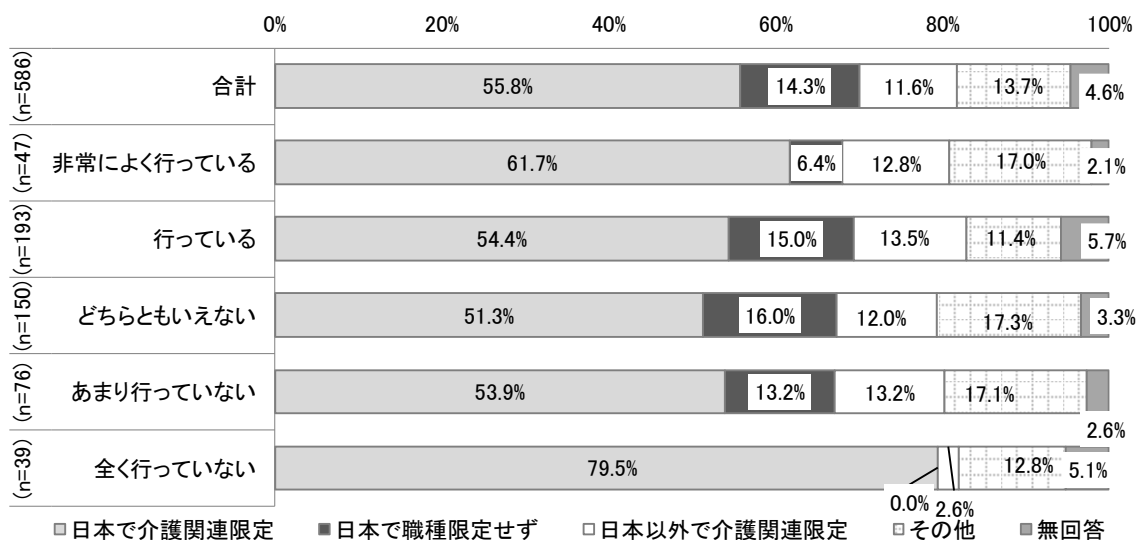
### <一時帰国・休暇取得への配慮>



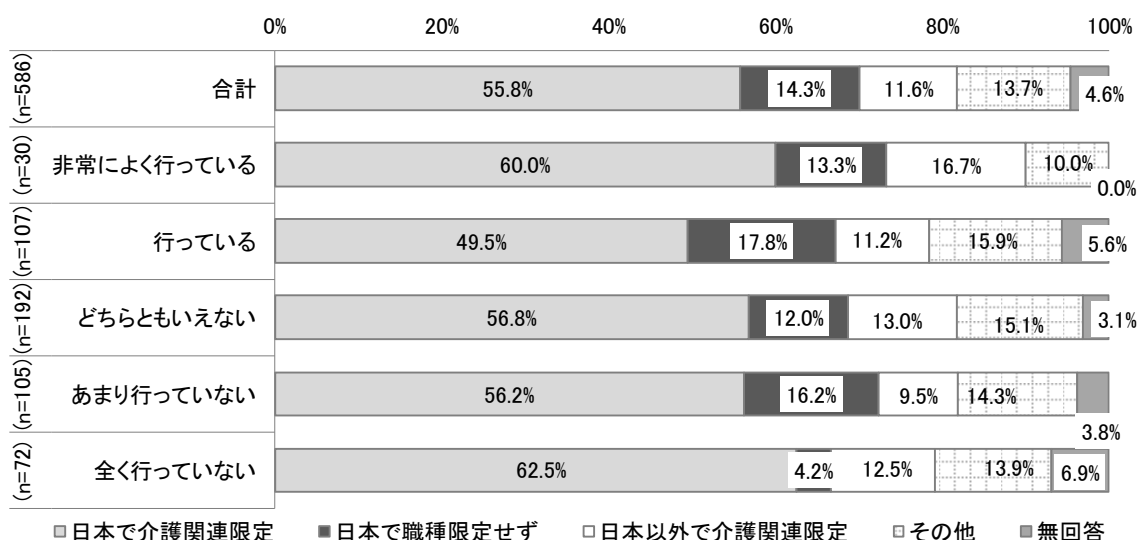
### <日本語教室等のコミュニケーション円滑化のための支援>



<地域・周りの日本人との交流の支援>



<地域・周りの同じ出身国の外国人との交流の支援>



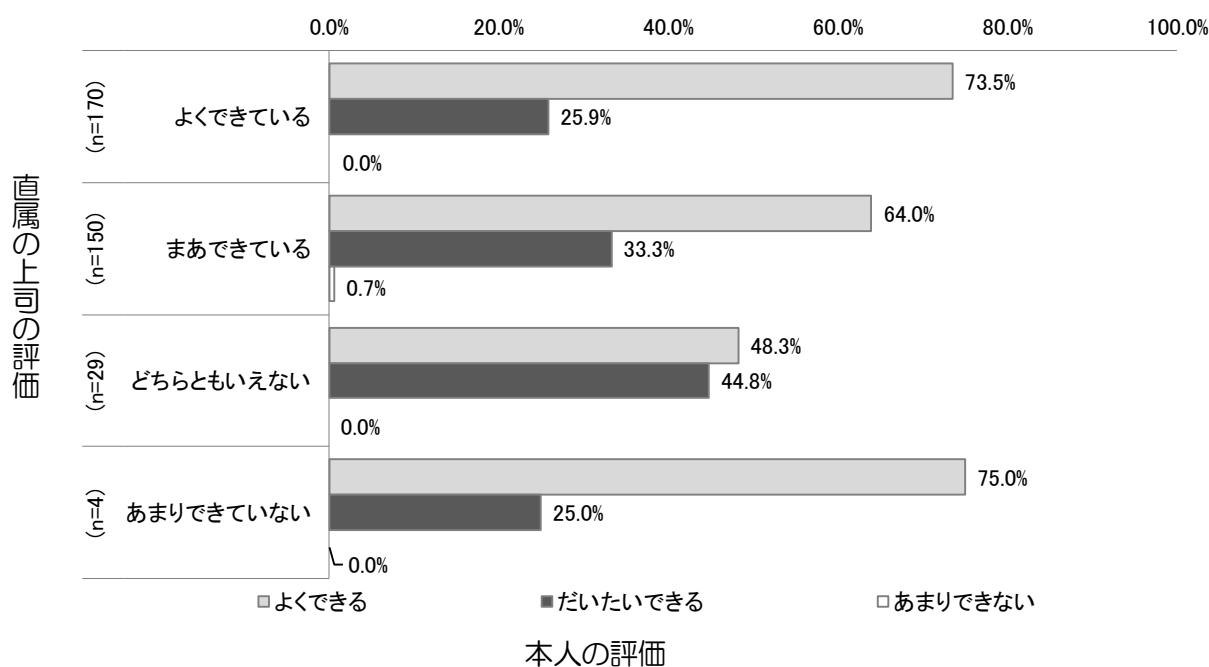
### (3) 直属の上司の評価と外国人介護職員の自己評価

#### ① 生活援助

直属の上司が「よくできている」と評価した外国人（170人）のうち、本人が「よくできる」と評価しているのは73.5%、「だいたいできる」と評価しているのは25.9%であった。

また、「まあできている」と評価した外国人（150人）では、本人の「よくできる」が64.0%、「だいたいできる」が33.3%、「どちらともいえない」と評価した外国人（29人）では、本人の「よくできる」が48.3%、「だいたいできる」が44.8%であった。

図表 4-8 生活援助



※直属の上司の評価：事業所調査票② 3「個別の業務についての評価\_生活援助」の結果。

「まったくできていない」、「実施していない」といった評価はサンプル数が少ないため掲載していない。

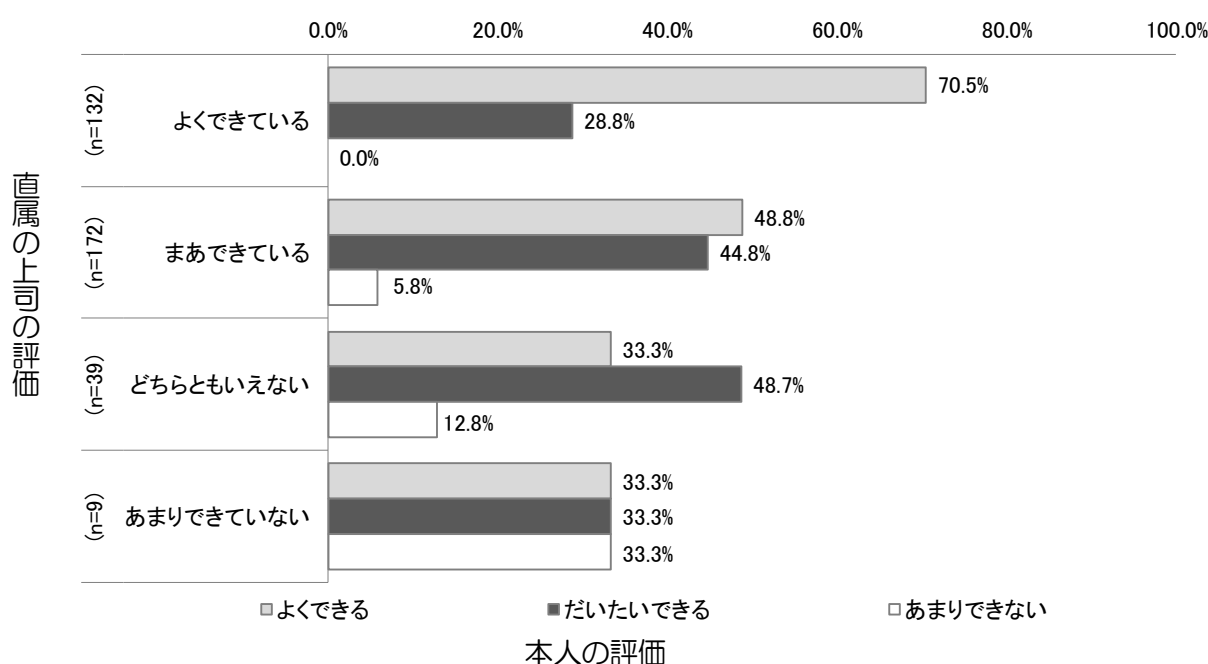
※本人の評価：本人調査票 問 16①\_生活援助の結果。「まったくできない」、「やっていない」といった評価はサンプル数が少ないため掲載していない。

## ② 身体介護

直属の上司が「よくできている」と評価した外国人（132人）のうち、本人が「よくできる」と評価しているのは70.5%、「だいたいできる」と評価しているのは28.8%であった。

また、「まあできている」と評価した外国人（172人）では、本人の「よくできる」が48.8%、「だいたいできる」が44.8%、「どちらともいえない」と評価した外国人（39人）では、本人の「よくできる」が33.3%、「だいたいできる」が48.7%であった。

図表 4-9 身体介護



※直属の上司の評価：事業所調査票② 3「個別の業務についての評価\_身体介護」の結果。

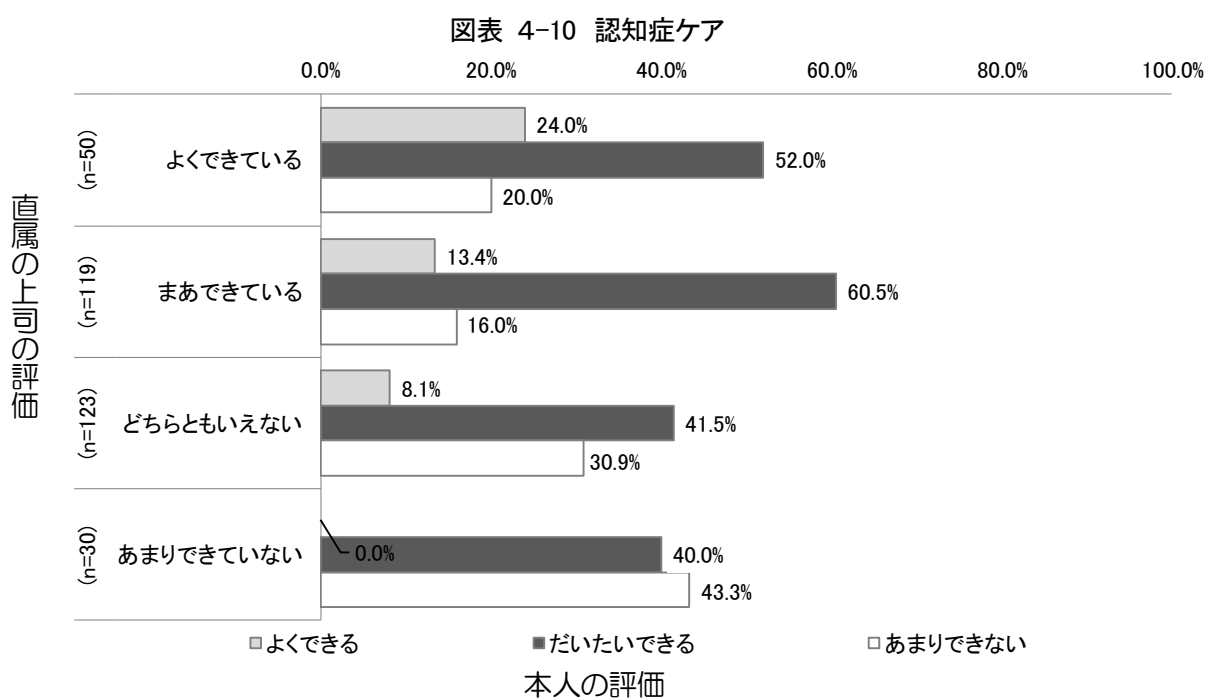
「まったくできていない」、「実施していない」といった評価はサンプル数が少ないため掲載していない。

※本人の評価：本人調査票 問 16②\_身体介護の結果。「まったくできない」、「やっていない」といった評価はサンプル数が少ないため掲載していない。

### ③ 認知症ケア

直属の上司が「よくできている」と評価した外国人（50人）のうち、本人が「よくできる」と評価しているのは24.0%、「だいたいできる」と評価しているのは52.0%であった。

また、「まあできている」と評価した外国人（119人）では、本人の「よくできる」が13.4%、「だいたいできる」が60.5%、「どちらともいえない」と評価した外国人（132人）では、本人の「よくできる」が8.1%、「だいたいできる」が41.5%であった。



※直属の上司の評価：事業所調査票② 3「個別の業務についての評価\_認知症ケア」の結果。「まったくできていない」、「実施していない」といった評価はサンプル数が少ないため掲載していない。

※本人の評価：本人調査票 問 16③\_認知症ケアの結果。「まったくできない」、「やっていない」といった評価はサンプル数が少ないため掲載していない。

## 【参考資料】

- ・ 参考資料 1 事業所向けアンケート調査票①・・・・・・・・・・204
- ・ 参考資料 2 事業所向けアンケート調査票②・・・・・・・・・・212
- ・ 参考資料 3 外国人介護職員本人向けアンケート調査票・・・・214

## 事業所調査票①

※特に注意書きがない限り、令和元年10月1日時点の状況についてお答えください。

### はじめに、貴施設・事業所のご連絡先をご記入ください

法人名		
施設・事業所名		
住所	都・道 府・県	市・区 町・村
電話番号	(市外局番： )	—
E-mail		

問0 令和元年10月1日時点において、外国人介護職員を受け入れていますか。(あてはまる番号1つに○)。

※外国人介護職員：貴施設・事業所で介護職員として受け入れており、日本語が母語でない外国人

- |             |  |
|-------------|--|
| 1. 受け入れていない | →ここまでの回答で結構です。<br>本調査票を同封の返信用封筒にてご返送ください。ご協力ありがとうございました。 |
| 2. 受け入れている  | →以下の設問にご回答ください。  |

## I. 貴施設・事業所が属する法人の概要についてお尋ねします

問1 法人の種類についてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

- |                             |                |
|-----------------------------|----------------|
| 1. 地方公共団体(市区町村、広域連合、一部事務組合) | 3. 医療法人        |
| 2. 社会福祉法人                   | 4. その他(具体的に： ) |

問2 法人全体の従業員数についてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

※職種や役職に関係なく、法人が実施するすべての事業に従事する常勤・非常勤の従業員数(実人数)について、あてはまる番号を選択してください。ただし、派遣労働者、委託業務従事者は除きます。

- |            |              |           |
|------------|--------------|-----------|
| 1. 49人以下   | 3. 100人～199人 | 5. 300人以上 |
| 2. 50人～99人 | 4. 200人～299人 |           |

## II. 貴施設・事業所の概要についてお尋ねします

問3 貴施設・事業所の種類についてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

- |                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 介護老人福祉施設(地域密着型を含む) | 6. 認知症対応型共同生活介護 |
| 2. 介護老人保健施設           | 7. 小規模多機能型居宅介護  |
| 3. 介護療養型医療施設、介護医療院    | 8. 通所介護         |
| 4. 養護老人ホーム            | 9. 病院           |
| 5. 有料老人ホーム            | 10. 障害児者支援施設    |
|                       | 11. その他(具体的に： ) |



問4 貴施設・事業所の定員・病床数、職員数についてお答えください。(あてはまる数字を記入)

定員・病床数 (令和元年10月1日現在)	人/床
職員数 (実人数) (令和元年10月1日現在)	人

※職員数については、職種や役職に関係なく、貴施設が実施するすべての事業に従事する常勤・非常勤の従業員数 (実人数) をご記入ください。ただし、派遣労働者、委託業務従事者は除きます。

問5 貴施設・事業所の介護職員の人数 (実人数)、常勤換算数 (常勤・非常勤合計、小数点第1位まで)をお答えください。(令和元年10月1日現在)

(あてはまる数字を記入。いない場合は、「0(ゼロ)」を記入)

		全体 (日本人を含む)	うち外国人 (実人数)					
			EPA 介護職員	在留資格「介護」	技能実習生	特定技能1号	身分系の在留資格	留学生アルバイト
介護職員	常勤							
	非常勤							
	常勤換算数 (常勤・非常勤計)							
うち 介護 福祉士	常勤							
	非常勤							
	常勤換算数 (常勤・非常勤計)							

※「EPA 介護職員」とは、「日インドネシア EPA」、「日フィリピン EPA」または「日ベトナム EPA」に基づき、介護福祉士候補者または介護福祉士として雇用されている外国人介護職員のことを指します。

※「身分系の在留資格」とは、「永住者」「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「定住者」のうち、いずれかの在留資格を有する外国人介護職員のことを指します。

問6 介護福祉士の資格取得に伴う昇給や手当等についてお答えください。

(1) 貴施設・事業所では、介護福祉士の資格を取得した職員に対する昇給や手当等の仕組みがありますか。(あてはまる番号すべてに○。「1. 昇給あり」、「2. 手当あり」、「3. 一時金あり」の場合は、金額も記入)

1. 昇給あり (金額: 時給 円 アップ/月給 円 アップ)	} 問6 (2) へ
2. 手当あり (金額: 1か月あたり 円)	
3. 一時金あり (金額: 円)	
4. その他 (具体的に: )	
5. 昇給や手当等の仕組みはない →問7へ	

※1の昇給の金額については、時給換算、月給換算のいずれか、回答しやすい数字をご記入ください。

(2) (1) で回答した昇給や手当等は、介護福祉士養成施設卒業者に対する経過措置が適用されている職員 (国家試験不合格あるいは未受験) にも支給されていますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 支給されている	4. その他 (具体的に: )
2. 支給されているが、金額が少ない	5. わからない
3. 支給されていない	

### Ⅲ. 介護職員のキャリア支援の取組みについてお伺いします

※本調査において、「キャリア支援」とは、貴施設・事業所で働く介護職員が定着・活躍できるよう、仕事面・生活面の支援、介護職としての技能の向上やキャリアアップに向けた支援等を行うことを指します。

※問7から問10については、日本人か外国人かを問わず、貴施設・事業所の介護職員全体のキャリア支援についてお答えください。

問7 介護職員のキャリアパス（将来自分が目指す職位や役職に対して、どのような経験を積み、能力を身に付け、資格を取得していくことが必要かなどを示すもの）と加算の算定状況についてお答えください。

(1) 施設・事業所では、介護職員のキャリアパスを導入していますか。また、そのキャリアパスを介護職員に明示していますか。(あてはまる番号1つに○)

- |                    |               |
|--------------------|---------------|
| 1. 導入し、明示している      | 3. 導入に向けて、検討中 |
| 2. 導入しているが、明示していない | 4. 導入していない    |

(2) 令和元年度で介護職員処遇改善加算（Ⅰ）～（Ⅴ）、介護職員等特定処遇改善加算を算定していますか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1. 介護職員処遇改善加算（Ⅰ） | 6. 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅰ）   |
| 2. 介護職員処遇改善加算（Ⅱ） | 7. 介護職員等特定処遇改善加算（Ⅱ）   |
| 3. 介護職員処遇改善加算（Ⅲ） | 8. 算定していない            |
| 4. 介護職員処遇改善加算（Ⅳ） | 9. 介護保険サービス施設・事業所ではない |
| 5. 介護職員処遇改善加算（Ⅴ） |                       |

問8 貴施設・事業所（あるいは法人）で実施しているキャリア支援の取組みについてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| 1. プリセプター制度・エルダー制度の導入                | 8. 選択肢7や制度上の研修以外の介護知識・技能向上のための独自研修等の開催（他法人との共同実施を含む） |
| 2. 上司・管理者にキャリア面談・相談等                 | 9. 介護福祉士国家試験の受験料の助成                                  |
| 3. 自己評価シート（個人目標設定シート）の導入             | 10. 毎年、個々の職員の研修・育成計画を策定                              |
| 4. ミタ制度の導入                           | 11. 外部で実施される研修等の受講料の助成                               |
| 5. ロールモデルとなる先輩職員の講義や相談できる機会の提供       | 12. 外部研修や学会への受講を積極的に推奨                               |
| 6. 貴施設・事業所のキャリアパス・資質向上に関する説明会・研修等の開催 | 13. テキストや教材の提供あるいは費用助成                               |
| 7. 介護福祉士国家試験対策の研修等の開催                | 14. その他（具体的に：_____）                                  |
|                                      | 15. 特に行っていない   |

※プリセプター制度：新人職員に対して、決められた経験のある先輩職員がマンツーマンで、ある一定期間新人研修を担当する方法

※エルダー制度：新人職員に決まった相談相手を配置し、仕事の仕方、学習方法、悩みごとなどの精神面、生活面など広範囲にわたり相談や支援を行う。

※ミタ制度：先輩職員（ミタ）が、新人職員を援助し、味方となり、指導し、助言し、相談にのる役割を果たすもの。通常、直接的な実地指導者として関わることはなく、支援者の役割を果たす。

問9 貴施設・事業所（あるいは法人）で実施している介護職員向けの研修等のテーマについてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

※貴施設・事業所（あるいは法人）の職員が講師を務めるもののほか、外部から講師を招く場合も含まれます。

- |                          |                                   |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1. 組織の理念・ケアの方針           | 12. 終末期ケア、看取り対応                   |
| 2. 社会人としての仕事への態度やマナー     | 13. 機能訓練・リハビリテーション                |
| 3. 尊厳の保持、自立支援            | 14. 感染症対策・衛生管理                    |
| 4. 介護職員としての職業倫理          | 15. 事故発生防止・事故対応                   |
| 5. 生活援助技術（掃除、洗濯、調理等）     | 16. 身体拘束・虐待の防止                    |
| 6. 身体介護技術（食事、入浴、排泄等）     | 17. 介護保険制度                        |
| 7. 利用者とのコミュニケーション        | 18. 地域包括ケアシステム                    |
| 8. 家族とのコミュニケーション         | 19. 人材育成・教育方法（コーチング、スーパービジョンの方法等） |
| 9. 介護過程の展開               | 20. 組織運営・リーダーシップ                  |
| 10. 認知症ケア                | 21. その他（具体的に：_____）               |
| 11. 医療的ケア（疾病・治療・服薬の理解など） | 22. 特に行っていない                      |

問10 介護職員のキャリア支援に関する課題について、自由にご記入ください。

## IV. 外国人介護職員の受入れについてお伺いします

問11 外国人介護職員の受入れにあたり、重視していることについてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 介護という仕事に対する理解度	9. 主体性や誠実さ
2. 日本の介護知識・技能の習得に対する意欲	10. 介護の仕事の継続意向
3. 日本語能力	11. 日本への定住意向
4. 日本の文化・慣習に対する理解度	12. 貴施設での就労継続意向
5. 日本語や日本の文化を知ろうという意欲	13. 将来の目標
6. 母国の看護や介護にかかる資格の取得状況	14. 他の職員とのバランス・相性
7. 母国の看護や介護にかかる経験	15. その他(具体的に: )
8. コミュニケーション能力	16. 選考の基準は特にない(個別に判断している)

問12 現在受け入れている外国人介護職員に、どのくらいの年数、貴施設・事業所で働いてほしいですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 1年以上	4. なるべく長く働いてほしい
2. 3年以上	5. 在留資格によって異なる
3. 5年以上	6. わからない

問 12-1 【問 12 で「5. 在留資格によって異なる」と回答した方にお伺いします。】

現在受け入れている外国人介護職員に、貴施設・貴事業所で働いてほしい年数について、在留資格別にお答えください。(それぞれあてはまる番号1つに○)

※技能実習、特定技能1号については、将来的に在留資格を変更する場合も含めてお答えください。

特定活動 (EPA)	1. 1年以上 2. 3年以上 3. 5年以上	4. なるべく長く働いてほしい 5. 該当する職員はいない
在留資格「介護」 (在留資格「介護」を取得予定の留学生アルバイトを含む)	1. 1年以上 2. 3年以上 3. 5年以上	4. なるべく長く働いてほしい 5. 該当する職員はいない
技能実習	1. 1年以上 2. 3年以上 3. 5年(上限)	4. なるべく長く働いてほしい 5. 該当する職員はいない
特定技能1号	1. 1年以上 2. 3年以上 3. 5年(上限)	4. なるべく長く働いてほしい 5. 該当する職員はいない
身分系の在留資格	1. 1年以上 2. 3年以上 3. 5年以上	4. なるべく長く働いてほしい 5. 該当する職員はいない

問13 【問12あるいは問12-1で「3. 5年以上」、「4. なるべく長く働いてほしい」と回答した方にお伺いします。】将来、外国人介護職員に期待する職位や役割についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 介護職員として技術・経験を積み重ねてほしい (管理的立場になることは特に期待しない)	5. 中間管理者(ユニットリーダー、フロアリーダー、主任など)として現場を統括してほしい
2. 外国人介護職員全体を統括するリーダーになってほしい	6. 施設・事業所の施設長や管理者になってほしい
3. 外国人介護職員を指導する役割を担ってほしい	7. その他(具体的に: )
4. 外国人介護職員として施設・事業所に定着する ロールモデルになってほしい	8. わからない

問14 現在受け入れている外国人介護職員のうち、以下に該当する方はいますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 他の外国人介護職員全体を統括するリーダーになっている者
2. 他の外国人介護職員に指導・助言する役割を担っている者
3. 外国人介護職員として施設・事業所に定着するロールモデルになっている者
4. 中間管理者(ユニットリーダー、フロアリーダー、主任など)として現場を統括する者
5. 施設・事業所の施設長または管理者
6. 上記に該当する職員はいない

問14-1 【問14で1~5に回答した方にお伺いします。】

その方の在留資格はなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 特定活動(EPA)	3. 身分系の在留資格
2. 在留資格「介護」	4. わからない

問15 今後3年間の、外国人介護職員の受入れの意向をお答えください。(あてはまる番号1つに○)

1. 積極的に受け入れる意向がある	3. 受け入れる意向はない
2. 受け入れる意向がある	4. わからない・未定

問15-1 【問15で「1. 積極的に受け入れる意向がある」、「2. 受け入れる意向がある」と回答した方にお伺いします。】

受け入れたい人数をお答えください。(あてはまる数字を記入)

合計			人程度
特定活動(EPA)	人程度	在留資格「介護」	人程度
技能実習	人程度	特定技能1号	人程度
身分系の在留資格	人程度	留学生アルバイト	人程度

## V. 外国人介護職員のキャリア支援の取組みについてお伺いします

問16 現在受け入れている外国人介護職員の日本で介護の仕事を選択した理由、日本で介護の仕事をする上での目標、将来の目標や希望を把握していますか。(それぞれあてはまる番号1つに○)

	把握している	まあ把握している	あまり把握していない	把握していない
日本で介護の仕事を選択した理由	1	2	3	4
日本で介護の仕事をする上での目標	1	2	3	4
将来の目標や希望	1	2	3	4

問16-1 外国人介護職員の「日本で介護の仕事をする上での目標」で最も多いものはなんですか。(あてはまる番号1つに○)

- |                        |                   |
|------------------------|-------------------|
| 1. 日本の高度な介護を学ぶこと       | 4. 日本語の上達や日本文化の理解 |
| 2. 介護福祉士等の資格の取得        | 5. 仕送りや貯蓄         |
| 3. 日本で介護職員としてキャリアを積むこと | 6. その他(具体的に: )    |

問17 貴施設・事業所(あるいは法人)で、外国人介護職員向けに、特に実施している支援についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                     |                         |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 介護知識・技能の指導       | 6. 日本の文化や慣習に関する研修や勉強会   |
| 2. 日常生活で用いる日本語会話の指導 | 7. 定期的な面談による困りごとや悩みの把握  |
| 3. 介護現場で用いる日本語会話の指導 | 8. 業務の理解度や介護技術の習得状況等の把握 |
| 4. 介護記録の日本語の指導      | 9. その他(具体的に: )          |
| 5. 日本での生活に関する研修や勉強会 | 10. 実施していない(日本人と同じ研修のみ) |

問17-1 【問17で「1. 介護知識・技能の指導」と回答した方にお伺いします。】

外国人介護職員向けに特に実施している具体的なテーマはなんですか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1. 尊厳の保持、自立支援        | 9. 医療的ケア(疾病・治療、服薬の理解など) |
| 2. 介護職員としての職業倫理      | 10. 終末期ケア、看取り対応         |
| 3. 生活援助技術(掃除、洗濯、調理等) | 11. 機能訓練・リハビリテーション      |
| 4. 身体介護技術(食事、入浴、排泄等) | 12. 感染症対策・衛生管理          |
| 5. 利用者とのコミュニケーション    | 13. 事故発生防止・事故対応         |
| 6. 家族とのコミュニケーション     | 14. 身体拘束・虐待の防止          |
| 7. 介護過程の展開           | 15. その他(具体的に: )         |
| 8. 認知症ケア             |                         |

問18 貴施設・事業所の外国人介護職員向けに、特に実施している介護福祉士国家試験対策についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                    |   |
|--------------------|---|
| 1. 介護知識の指導         | 8. 外部で実施される研修等の受講勧奨                       |
| 2. 介護技術の指導         | 9. テキストや教材の提供あるいは費用助成                     |
| 3. 国家試験対策の日本語の指導   | 10. 模擬試験の実施                               |
| 4. 実務者研修のための日本語の指導 | 11. その他(具体的に: )                           |
| 5. 国家試験の受験料の助成     | 12. 特に行っていない(日本人と同じ対策のみ)                  |
| 6. 実務者研修の受講料の助成    | 13. 現在受け入れているすべての外国人介護職員が介護福祉士国家試験に合格している |
| 7. その他の研修の受講料の助成   |   |

問19 人員・予算・時間等の理由で、貴施設・事業所(あるいは法人)だけでは、外国人介護職員向けの研修等を実施することが困難なテーマがあればお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| 1. 日常生活で用いる日本語       | 11. 認知症ケア                |
| 2. 介護現場で用いる日本語       | 12. 医療的ケア(疾病・治療、服薬の理解など) |
| 3. 介護福祉士国家試験に必要な日本語  | 13. 終末期ケア、看取り対応          |
| 4. 尊厳の保持、自立支援        | 14. 機能訓練・リハビリテーション       |
| 5. 介護職員としての職業倫理      | 15. 感染症対策・衛生管理           |
| 6. 生活援助技術(掃除、洗濯、調理等) | 16. 事故発生防止・事故対応          |
| 7. 身体介護技術(食事、入浴、排泄等) | 17. 身体拘束・虐待の防止           |
| 8. 利用者とのコミュニケーション    | 18. その他                  |
| 9. 家族とのコミュニケーション     | (具体的に: )                 |
| 10. 介護過程の展開          |                          |

問20 外国人介護職員に対してどのような相談支援の体制を設けていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談担当者を配置している	3. その他
2. 公的機関等の相談窓口を紹介している (具体的に： )	(具体的に： )
	4. 特になし

問20-1 【問20で「1. 相談担当者を配置している」と回答した方にお伺いします。】

相談担当者が対応できる言語はどれですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 日本語	3. その他の言語
2. 英語	(具体的に： )

問21 外国人介護職員の就労環境や生活面に対してどのくらい支援を行っていますか。

(1から19について、それぞれあてはまる番号1つに○)

また、現在の実施の有無にかかわらず、外国人介護職員が貴施設・事業所において定着・活躍するために重要だと思う支援についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

	支援の実施状況 (1から19について、それぞれあてはまる番号1つに○)					重要な支援 (現在実施 していても、あてはまる 番号すべてに○)
	非常に 行っ てい る	行っ てい る	い え な い	ど ち ら ど も	あ ま り 行 っ て い な い	
1) 介護知識技能の習得のための支援	1	2	3	4	5	
2) 介護現場に必要な日本語習得のための支援	1	2	3	4	5	
3) 介護記録の方法の工夫 (ICTの活用など)	1	2	3	4	5	
4) メンタルヘルスケア	1	2	3	4	5	
5) 一時帰国・休暇取得への配慮	1	2	3	4	5	
6) 文化・風習への配慮	1	2	3	4	5	
7) 日本語教室等のコミュニケーション円滑化のための支援	1	2	3	4	5	
8) 食生活の支援	1	2	3	4	5	
9) 気候等の環境への対応に関する支援	1	2	3	4	5	
10) 信仰上の配慮 (宗教的行事の日の休暇取得承認、宗教上禁忌とされている作業をさせない等)	1	2	3	4	5	
11) 住居の確保	1	2	3	4	5	
12) 行政手続きや住まいの契約手続き等の支援	1	2	3	4	5	
13) 携帯電話やインターネット等の契約・解約手続き等の支援	1	2	3	4	5	
14) プライベートに関わる問題 (恋愛・金銭の貸借・副業等)	1	2	3	4	5	
15) 他施設の外国人介護職員との交流の支援	1	2	3	4	5	
16) 地域・周りの日本人との交流の支援	1	2	3	4	5	
17) 日本の観光や行事参加に関する支援	1	2	3	4	5	
18) 地域・周りの同じ出身国の外国人との交流の支援	1	2	3	4	5	
19) 同居する外国人家族に対する支援	1	2	3	4	5	

問21-1 【問21 19)の支援の実施状況で1~4と回答した方にお伺いします。】家族に対する支援の具体的な内容についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 日本語教室等のコミュニケーション支援	4. メンタルヘルスケア
2. 地域・周りの日本人との交流の支援	5. 子どもの保育・教育支援
3. 地域・周りの同じ出身国の外国人との交流の支援	6. その他 (具体的に： )

問22 外国人介護職員を受け入れるにあたり、日本人職員に対して実施している研修等のテーマについてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                               |   |
|-------------------------------|---|
| 1. 施設・事業所としての外国人介護職員受入れの方針や姿勢 | 6. 介護の基本理念の意味の伝え方<br>(「尊厳の保持」「自立支援」など)                          |
| 2. 外国人介護職員に教育・指導する際の留意点       | 7. 外国人介護職員の出身国の文化・風習  |
| 3. 日常生活で用いる日本語の教育方法           | 8. 外国人介護職員に対し信仰上配慮すべきこと<br>(宗教的行事の日の休暇取得承認、宗教上禁忌とされている作業をさせない等) |
| 4. 介護現場で用いる日本語の教育方法           | 9. その他(具体的に: )  |
| 5. 介護知識・技能の教育方法               | 10. 実施していない   |

問23 外国人介護職員の定着・活躍支援について、連携している関係機関・団体についてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| 1. 日本語学校            | 6. 監理団体・登録支援機関       |
| 2. 介護福祉士養成校         | 7. 国際交流団体・外国人支援団体    |
| 3. 自治体(都道府県、市町村)    | 8. 町内会・自治会           |
| 4. 国際厚生事業団(JICWELS) | 9. 教会・寺院等の宗教関連の施設・機関 |
| 5. 国際研修協力機構(JITCO)  | 10. その他(具体的に: )      |
|                     | 11. 特になし             |

問 23-1 【問 23 で 1～10 と回答した方にお伺いします。】

関係機関・団体との連携内容について、具体的に記述してください。

## VI. 貴施設・事業所と地域とのつながりについてお伺いします

問24 貴施設・事業所が、地域住民に対して、実施している取組みについてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1. 施設・事業所が開催するお祭りやコンサート等のイベントへの招待  | 6. 地域住民が開催するお祭り等への参加                              |
| 2. 外国人介護職員の出身国の文化・風習の紹介            | 7. 防災訓練等の地域住民との協力による災害対策                          |
| 3. 地域住民の交流の場の提供                    | 8. 地域住民が参加する定期的な会議等の開催<br>(地域密着型サービスにおける運営推進会議など) |
| 4. 認知症の方や家族向けの集いの場の提供<br>(認知症カフェ等) | 9. その他(具体的に: )                                    |
| 5. 学校の児童生徒との交流、福祉教育                | 10. 特になし  |

問 24-1 【問 24 で 1～9 と回答した方にお伺いします。】問 24 で回答した取組みのうち、外国人介護職員が参加している取組みについてお答えください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                                    |   |
|------------------------------------|---|
| 1. 施設・事業所が開催するお祭りやコンサート等のイベントへの招待  | 6. 地域住民が開催するお祭り等への参加                              |
| 2. 外国人介護職員の出身国の文化・風習の紹介            | 7. 防災訓練等の地域住民との協力による災害対策                          |
| 3. 地域住民の交流の場の提供                    | 8. 地域住民が参加する定期的な会議等の開催<br>(地域密着型サービスにおける運営推進会議など) |
| 4. 認知症の方や家族向けの集いの場の提供<br>(認知症カフェ等) | 9. その他(具体的に: )                                    |
| 5. 学校の児童生徒との交流、福祉教育                | 10. 特になし  |

**事業所調査票①は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。**  
**お手数ではございますが、事業所調査票②と一緒に、**  
**同封の返信用封筒(切手不要)にて、12月20日(金)までに投函してください。**



※ここでは、貴施設・事業所で受け入れているすべてのEPA介護職員、技能実習生、在留資格「介護」をもって在留する外国人介護職員の就労状況についてお伺いします。ご回答は、直属の上司の方など、当該外国人介護職員の日頃の様子が分かる方をお願いします。回答欄が足りない場合は、最終ページをコピーして頂くか、調査事務局までご連絡をお願いします。

		Aさん →ご本人に「本人調査票」をお渡しください	Bさん →ご本人に「本人調査票」をお渡しください
1. プロフィール	在留資格	1. 特定活動 (EPA 介護福祉士候補者) 4. 技能実習 2. 特定活動 (EPA 介護福祉士) 5. 特定技能1号 3. 在留資格「介護」	1. 特定活動 (EPA 介護福祉士候補者) 4. 技能実習 2. 特定活動 (EPA 介護福祉士) 5. 特定技能1号 3. 在留資格「介護」
	貴事業所での就労開始年月	西暦 年 月	西暦 年 月
	現在の日本語能力	1. N1相当 4. N4相当 2. N2相当 5. N5相当 3. N3相当	1. N1相当 4. N4相当 2. N2相当 5. N5相当 3. N3相当
2. 能力・スキル等	夜勤業務	1. ひとりで対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 2. 日本人職員が付き添って指導すれば対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 3. 対応することはできるが、実際には夜勤業務を行わせていない 4. 対応することができない	1. ひとりで対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 2. 日本人職員が付き添って指導すれば対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 3. 対応することはできるが、実際には夜勤業務を行わせていない 4. 対応することができない
	引継ぎ・申し送りの理解	1. 問題なく理解し、行動することができている 2. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉で言い換えたりすれば、理解し、行動することができる 3. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉に言い換えたりしても、ほとんど理解できない	1. 問題なく理解し、行動することができている 2. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉で言い換えたりすれば、理解し、行動することができる 3. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉に言い換えたりしても、ほとんど理解できない
	介護記録等、業務上の文書を読む能力	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない
	介護記録等、業務上の文書を書く能力	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない
	ヒヤリハットの数の数	※同等の経験を有する日本人職員と比較して回答 1. 非常に多い 4. 少ない 2. 多い 5. 非常に少ない 3. どちらともいえない 6. 全くない	※同等の経験を有する日本人職員と比較して回答 1. 非常に多い 4. 少ない 2. 多い 5. 非常に少ない 3. どちらともいえない 6. 全くない
	現在の直接介助のスキル	1. ひとりで対応することができる 2. ほほひとりでも業務に対応することができるが、場合によってはフォローが必要 3. ひとりで行うことができる業務もあるが、多くの場合ではフォローが必要 4. ひとりで業務をこなすことは難しく、他の職員の付き添いが必要	1. ひとりで対応することができる 2. ほほひとりでも業務に対応することができるが、場合によってはフォローが必要 3. ひとりで行うことができる業務もあるが、多くの場合ではフォローが必要 4. ひとりで業務をこなすことは難しく、他の職員の付き添いが必要
3. 個別の業務についての評価	生活援助 (※1)	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	身体介護 (※2)	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	認知症ケア	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	医療的ケア (喀痰吸引、経管栄養)	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	終末期ケア	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	介護計画の作成・見直し	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	ケース会議やカンファレンスでの発言	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	レクリエーションの運営や進行	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない

※1 生活援助：掃除、洗濯、ベッドメイク、衣類の整理、配下膳など

※2 身体介護：清拭・入浴、身体整容、体位変換、移動・移乗介助、食事介助、排せつ介助など



		Cさん →ご本人に「本人調査票」をお渡しください	Dさん →ご本人に「本人調査票」をお渡しください
1. プロフィール	在留資格	1. 特定活動 (EPA 介護福祉士候補者) 4. 技能実習 2. 特定活動 (EPA 介護福祉士) 5. 特定技能1号 3. 在留資格「介護」	1. 特定活動 (EPA 介護福祉士候補者) 4. 技能実習 2. 特定活動 (EPA 介護福祉士) 5. 特定技能1号 3. 在留資格「介護」
	貴事業所での就労開始年月	西暦 年 月	西暦 年 月
	現在の日本語能力	1. N1相当 4. N4相当 2. N2相当 5. N5相当 3. N3相当	1. N1相当 4. N4相当 2. N2相当 5. N5相当 3. N3相当
2. 能力・スキル等	夜勤業務	1. ひとりで対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 2. 日本人職員が付き添って指導すれば対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 3. 対応することはできるが、実際には夜勤業務を行わせていない 4. 対応することができない	1. ひとりで対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 2. 日本人職員が付き添って指導すれば対応することができ、実際に夜勤業務を行っている 3. 対応することはできるが、実際には夜勤業務を行わせていない 4. 対応することができない
	引継ぎ・申し送りの理解	1. 問題なく理解し、行動することができている 2. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉で言い換えたりすれば、理解し、行動することができる 3. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉に言い換えたりしても、ほとんど理解できない	1. 問題なく理解し、行動することができている 2. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉で言い換えたりすれば、理解し、行動することができる 3. ゆっくり指示したり、繰り返したり、平易な言葉に言い換えたりしても、ほとんど理解できない
	介護記録等、業務上の文書を読む能力	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない
	介護記録等、業務上の文書を書く能力	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない	1. 専門用語も含めて対応できる 2. ひらがな、カタカナ、常用漢字は問題ないが、専門用語が不十分 3. ひらがな、カタカナ、簡単な漢字は問題ない 4. ひらがなの読み書き程度しかできない
	ヒヤリハットの数	※同等の経験を有する日本人職員と比較して回答 1. 非常に多い 4. 少ない 2. 多い 5. 非常に少ない 3. どちらともいえない 6. 全くない	※同等の経験を有する日本人職員と比較して回答 1. 非常に多い 4. 少ない 2. 多い 5. 非常に少ない 3. どちらともいえない 6. 全くない
	現在の直接介助のスキル	1. ひとりで対応することができる 2. ほぼひとりで業務に対応することができるが、場合によってはフォローが必要 3. ひとりで行うことができる業務もあるが、多くの場合ではフォローが必要 4. ひとりで業務をこなすことは難しく、他の職員の付き添いが必要	1. ひとりで対応することができる 2. ほぼひとりで業務に対応することができるが、場合によってはフォローが必要 3. ひとりで行うことができる業務もあるが、多くの場合ではフォローが必要 4. ひとりで業務をこなすことは難しく、他の職員の付き添いが必要
3. 個別の業務についての評価	生活援助 (※1)	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	身体介護 (※2)	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	認知症ケア	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	医療的ケア (喀痰吸引、経管栄養)	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	終末期ケア	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	介護計画の作成・見直し	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	ケース会議やカンファレンスでの発言	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない
	レクリエーションの運営や進行	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない	1. よくできている 4. あまりできていない 2. まあできている 5. 全くできていない 3. どちらともいえない 6. 実施していない

※1 生活援助：掃除、洗濯、ベッドメイク、衣類の整理、配下膳など

※2 身体介護：清拭・入浴、身体整容、体位変換、移動・移乗介助、食事介助、排せつ介助など

**アンケート調査は以上で終了です。ご協力ありがとうございました。**

**事業所調査票①と同じ返信用封筒で、ご返送ください。**

※事業所票②の記号をご記入の上、外国人介護職員ご本人にお渡してください↓

介護施設で働く外国人のみなさんへのアンケート (                      さん )

**1. あなたの ことについて 教えてください**

Q1 あなたの 在留資格を教えてください (1つだけ☑)。

1. 特定活動 (EPA)                      2. 介護                      3. 技能実習

Q2 性別を教えてください (1つだけ☑)。

1. 男性                      2. 女性                      3. そのほか

Q3 どの国・地域から来ましたか (1つだけ☑)。

<input type="checkbox"/> 1. 中国	<input type="checkbox"/> 5. 台湾	<input type="checkbox"/> 9. タイ	<input type="checkbox"/> 13. フィリピン
<input type="checkbox"/> 2. ベトナム	<input type="checkbox"/> 6. スリランカ	<input type="checkbox"/> 10. バングラデシュ	<input type="checkbox"/> 14. ブラジル
<input type="checkbox"/> 3. ネパール	<input type="checkbox"/> 7. インドネシア	<input type="checkbox"/> 11. モンゴル	<input type="checkbox"/> 15. ペルー
<input type="checkbox"/> 4. 韓国	<input type="checkbox"/> 8. ミャンマー	<input type="checkbox"/> 12. マレーシア	<input type="checkbox"/> 16. そのほか (                      )

Q4 今、何歳ですか (年齢を 書いてください)。

歳

Q5 これまでの合計で 日本に、どのくらい 住んでいますか (日本に 住んでいる 期間を 書いてください)。

年                       月

Q6 日本の 介護福祉士 国家試験を受けたことがありますか (1つだけ☑)。

1. 合格した                      2. 不合格だった                      3. 受けていない

Q7 今、だれと 一緒に 住んでいますか (☑はいくつでも)。

<input type="checkbox"/> 1. 職場の人	<input type="checkbox"/> 3. 配偶者 (夫・妻)・パートナー	<input type="checkbox"/> 5. そのほか (                      )
<input type="checkbox"/> 2. 友だちや 知りあい	<input type="checkbox"/> 4. 子ども	<input type="checkbox"/> 6. 一緒に 住んでいる 人は いない

Q8 日本に 来るまえ、自分の 国・地域での あなたの ことを 教えてください。

①最後に 行った 学校はどこですか (1つだけ☑)	<input type="checkbox"/> 1. 高等学校 (高校)	<input type="checkbox"/> 3. 短期大学
	<input type="checkbox"/> 2. 専門学校	<input type="checkbox"/> 4. 大学・大学院
②看護や 介護の 資格を 取りましたか (1つだけ☑)	<input type="checkbox"/> 1. どちらも 取った	<input type="checkbox"/> 3. 介護の 資格だけ 取った
	<input type="checkbox"/> 2. 看護の 資格 だけ 取った	<input type="checkbox"/> 4. どちらも 取っていない
③働いたことが ありますか (働いたことが ある人は、仕事の 内容も 教えてください)	(1つだけ☑)	(☑はいくつでも)
	<input type="checkbox"/> 1. ある →	<input type="checkbox"/> 1. 看護や 介護の 仕事
	<input type="checkbox"/> 2. ない	<input type="checkbox"/> 2. ほかの 仕事

Q9 なぜ、日本で、介護の 仕事を したいと 思いましたか (☑はいくつでも)。

<input type="checkbox"/> 1. 日本語を 学びたいから	<input type="checkbox"/> 7. 奨学金が もらえた から
<input type="checkbox"/> 2. 日本の 介護を 学びたいから	<input type="checkbox"/> 8. 日本の アニメが 好きだから
<input type="checkbox"/> 3. 日本の 介護福祉士の 国家資格を 取りたいから	<input type="checkbox"/> 9. 国・地域の 家族、友だちなどに おすすめされた から
<input type="checkbox"/> 4. 仕事を する 場所 (利用者の 家など) に 住まなくて よいから	<input type="checkbox"/> 10. 日本にいる 家族、友だちなどに おすすめされた から
<input type="checkbox"/> 5. 給料が 高いから	<input type="checkbox"/> 11. 学力や 費用などの 条件が 一番 あっていた から
<input type="checkbox"/> 6. 家族に 送金したいから、家族の ため	<input type="checkbox"/> 12. 自分の住んでいる国・地域との 距離が 近い から
	<input type="checkbox"/> 13. そのほか (                      )

Q10 日本に 来るための お金を どのように 準備しましたか (金額が いちばん 多い 方法 1つだけ)。

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 家族や 自分で 準備をした (お金は かりていない)     | <input type="checkbox"/> 5. 自分の国・地域の 団体から お金を もらった |
| <input type="checkbox"/> 2. 親せきや 知りあいから お金を かりた            | <input type="checkbox"/> 6. 日本の 団体から お金を もらった      |
| <input type="checkbox"/> 3. 自分の 国・地域の 送りだし機関や 学校から お金を かりた | <input type="checkbox"/> 7. そのほか ( )               |
| <input type="checkbox"/> 4. 日本の 学校や 施設から お金を かりた           |  |

Q11 日本語能力の レベルを 教えてください (日本に来るまえ、今、それぞれ 1つだけ)。

①日本に 来るまえ	<input type="checkbox"/> 1. N 1 程度	<input type="checkbox"/> 2. N 2 程度	<input type="checkbox"/> 3. N 3 程度	<input type="checkbox"/> 4. N 4 程度	<input type="checkbox"/> 5. N 5 程度	<input type="checkbox"/> 6. わからない
②今 (現在)	<input type="checkbox"/> 1. N 1 程度	<input type="checkbox"/> 2. N 2 程度	<input type="checkbox"/> 3. N 3 程度	<input type="checkbox"/> 4. N 4 程度	<input type="checkbox"/> 5. N 5 程度	<input type="checkbox"/> 6. わからない

Q12 日本語の 勉強について、介護施設に、どんなことを してもらっていますか (☑はいくつでも)。

- |   |   |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 施設で、日本人の職員に 教えてもらっている           | <input type="checkbox"/> 5. 施設に、勉強の 目標や 計画を 決めてもらった |
| <input type="checkbox"/> 2. 施設で、日本語の先生に 教えてもらっている           | <input type="checkbox"/> 6. 仕事の 時間内に、勉強の 時間がある      |
| <input type="checkbox"/> 3. 施設に、日本語学校などを 紹介してもらっている         | <input type="checkbox"/> 7. そのほか ( )                |
| <input type="checkbox"/> 4. 施設から テキストを もらった<br>(テキストの 名前: ) | <input type="checkbox"/> 8. とくに 何も ない               |

Q13 日本語の 勉強について、自分で、どんなことを していますか (☑はいくつでも)。

- |  |   |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 自分で 日本語教室を 探して、勉強している                | <input type="checkbox"/> 4. 友だちと 一緒に 勉強している   |
| <input type="checkbox"/> 2. 自分で テキストを 決めて、勉強している<br>(テキストの 名前: ) | <input type="checkbox"/> 5. 自分で 勉強の 目標を 決めている |
| <input type="checkbox"/> 3. アプリや インターネットで 勉強している<br>(よく使う アプリ: ) | <input type="checkbox"/> 6. 自分で 勉強の 計画を 立てている |
| <input type="checkbox"/> (よく使う ウェブサイト: )                         | <input type="checkbox"/> 7. そのほか ( )          |
|  | <input type="checkbox"/> 8. とくに 何も していない      |

Q14 つぎの 場面の 日本語は どのくらい わかりますか (①~⑤それぞれ、1つだけ)。

	よく わかる	だいたい わかる	あまり わからない	まったく わからない	やって いない
(例) あいさつを するとき	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
①いつもの 生活で 話すとき	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
②介護施設での 引きつぎ、申し送り	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
③介護記録を 読むとき	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
④介護記録を 書くとき	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑤介護福祉士国家試験の 勉強を するとき	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

## 2. 仕事のことについて 教えてください

Q15 今の 施設で、①どのくらいの 期間、働いていますか。また、② 施設での 役職は ありますか。

① 今の 施設で、働いている 期間 (かいてください)	<input type="text"/> 年	<input type="text"/> か月
② 施設での 役職	(1つだけ) <input type="checkbox"/> 1. ある → <input type="checkbox"/> 1. 現場のリーダー <input type="checkbox"/> 2. ない	(1つだけ) <input type="checkbox"/> 1. 現場のリーダー <input type="checkbox"/> 2. 施設長・管理者 <input type="checkbox"/> 3. そのほか ( )

Q16 つぎの介護の仕事はどのくらいできますか(①～⑤それぞれ、1つだけ☑)。

	よく できる	だいたい できる	あまり できない	まったく できない	やって いない
①生活援助(掃除、洗濯、ベッドメイクなど)	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
②身体介護(入浴、体位交換、食事介助など)	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
③認知症ケア	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
④医療的ケア(たんの吸引、経管栄養)	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑤終末期ケア	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

Q17 今、あなたが働いている施設の満足度を教えてください(①～⑪それぞれ、1つだけ☑)。

	満足	やや満足	やや不満	不満	受けていない 、機会がない
①給料	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	/
②休日の取りやすさ、休みやすさ	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
③労働時間	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
④利用者との関係	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
⑤施設の職員との関係	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	
⑥日本語の勉強への支援	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑦介護の技術・能力を高める研修・支援	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑧将来のキャリアに関する説明・支援	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑨家族への支援	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑩まわりの日本人と交流する機会	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5
⑪自分の国や文化を教える機会	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3	<input type="checkbox"/> 4	<input type="checkbox"/> 5

Q18 今の1ヵ月あたりの給料(税込)を教えてください(1つだけ☑)。

<input type="checkbox"/> 1. ～10万円	<input type="checkbox"/> 3. 15万円～20万円	<input type="checkbox"/> 5. 25万円～30万円
<input type="checkbox"/> 2. 10万円～15万円	<input type="checkbox"/> 4. 20万円～25万円	<input type="checkbox"/> 6. 30万円～

Q19 家族などへの送金について教えてください。

①送金していますか(1つだけ☑)	<input type="checkbox"/> 1. している ⇒ つぎの②、③も答えてください↓	<input type="checkbox"/> 2. していない
②1ヵ月あたりどのくらい送金していますか(1つだけ☑)	<input type="checkbox"/> 1. ～5万円	<input type="checkbox"/> 3. 10万円～15万円
	<input type="checkbox"/> 2. 5万円～10万円	<input type="checkbox"/> 4. 15万円～
③だれに送金していますか(☑はいくつでも)	<input type="checkbox"/> 1. 親、親せき	<input type="checkbox"/> 3. お金をかりたところ
	<input type="checkbox"/> 2. 自分の夫・妻、子ども	<input type="checkbox"/> 4. そのほか( )

### 3. いつもの生活について教えてください

Q20 自分が住んでいる地域の「日本人」とどのくらい関わりがありますか(1つだけ☑)。

<input type="checkbox"/> 1. よく話をする、交流がある	<input type="checkbox"/> 2. あいさつをするくらい	<input type="checkbox"/> 3. 話をしない、関わらない
--	--	---

Q21 これまで、自分が住んでいる地域の活動・イベント（おまつり、ボランティア活動、国際交流に関する活動など）に参加したことがありますか（1つだけ☑）。

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 1. 何度も参加した | <input type="checkbox"/> 3. 活動・イベントがあることは知っていたが、参加したことがない |
| <input type="checkbox"/> 2. たまに参加した | <input type="checkbox"/> 4. 活動・イベントがあることを知らなかった           |

Q22 これから、自分が住んでいる地域の活動・イベント（おまつり、ボランティア活動、国際交流に関する活動など）に参加したいですか（1つだけ☑）。

- |                                     |   |                                     |                                   |
|-------------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. ぜひ参加したい | <input type="checkbox"/> 2. 時間があれば参加したい | <input type="checkbox"/> 3. 参加したくない | <input type="checkbox"/> 4. わからない |
|-------------------------------------|---|-------------------------------------|-----------------------------------|

Q23 最近1年間、日本でどんなことにこまりましたか（☑はいくつでも）。

- |                                    |                                       |  |                                       |
|------------------------------------|---------------------------------------|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1. お金     | <input type="checkbox"/> 5. 住むところ     | <input type="checkbox"/> 9. 日本人からの偏見・差別  | <input type="checkbox"/> 13. 役所でのてつづき |
| <input type="checkbox"/> 2. 仕事     | <input type="checkbox"/> 6. けが・病気     | <input type="checkbox"/> 10. 宗教          | <input type="checkbox"/> 14. そのほか     |
| <input type="checkbox"/> 3. 日本語の勉強 | <input type="checkbox"/> 7. 災害（地震や台風） | <input type="checkbox"/> 11. 食べ物         | ( )                                   |
| <input type="checkbox"/> 4. 介護の勉強  | <input type="checkbox"/> 8. 日本人との関わり  | <input type="checkbox"/> 12. 年金など日本の社会制度 | <input type="checkbox"/> 15. とくにない    |

Q24 日本でこまったときに、だれ（どこ）に相談しますか（☑はいくつでも）。

- |  |   |  |
|--|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 行政（市役所など）  | <input type="checkbox"/> 6. 職場の日本人職員（上司、同僚）     | <input type="checkbox"/> 11. SNS（Twitter、facebookなど） |
| <input type="checkbox"/> 2. JICWELS    | <input type="checkbox"/> 7. 職場の母国・外国人の職員（先輩、同僚） | <input type="checkbox"/> 12. 教会・寺院                   |
| <input type="checkbox"/> 3. JITCO、監理団体 | <input type="checkbox"/> 8. 日本人の友だち・知りあい        | <input type="checkbox"/> 13. そのほか（ )                 |
| <input type="checkbox"/> 4. 国際交流協会     | <input type="checkbox"/> 9. 母国・外国人の友だち・知りあい     | <input type="checkbox"/> 14. 相談の必要がない                |
| <input type="checkbox"/> 5. 大使館・領事館    | <input type="checkbox"/> 10. 日本語の先生             | <input type="checkbox"/> 15. 相談できる相手がいない             |

#### 4. これからのことについて教えてください

Q25 今から、①5年後くらい、②10年後くらいに、どのようになりたいですか。

① 5年後くらい	② 10年後くらい
自分が住む場所について（1つだけ☑）	自分が住む場所について（1つだけ☑）
<input type="checkbox"/> 1. 日本 <input type="checkbox"/> 2. 自分の国・地域 <input type="checkbox"/> 3. そのほか（ )	<input type="checkbox"/> 1. 日本 <input type="checkbox"/> 2. 自分の国・地域 <input type="checkbox"/> 3. そのほか（ )
仕事について（☑はいくつでも）	仕事について（☑はいくつでも）
<input type="checkbox"/> 1. 介護の技術や能力を高めたい <input type="checkbox"/> 2. 介護施設で、後輩の面倒をみたい <input type="checkbox"/> 3. 介護施設で、現場のリーダーになりたい <input type="checkbox"/> 4. 介護施設の施設長になりたい <input type="checkbox"/> 5. 介護の会社・学校を作りたい <input type="checkbox"/> 6. 介護の日本語を教えたい <input type="checkbox"/> 7. ほかの仕事をしたたい	<input type="checkbox"/> 1. 介護の技術や能力を高めたい <input type="checkbox"/> 2. 介護施設で、後輩の面倒をみたい <input type="checkbox"/> 3. 介護施設で、現場のリーダーになりたい <input type="checkbox"/> 4. 介護施設の施設長になりたい <input type="checkbox"/> 5. 介護の会社・学校を作りたい <input type="checkbox"/> 6. 介護の日本語を教えたい <input type="checkbox"/> 7. ほかの仕事をしたたい
家族について（☑はいくつでも）	家族について（☑はいくつでも）
<input type="checkbox"/> 1. 自分の国・地域にいる家族（夫、妻、子どもなど）を呼んで一緒に住みたい <input type="checkbox"/> 2. 自分が住む国で新しく家族をつくりたい <input type="checkbox"/> 3. そのほか（ )	<input type="checkbox"/> 1. 自分の国・地域にいる家族（夫、妻、子どもなど）を呼んで一緒に住みたい <input type="checkbox"/> 2. 自分が住む国で新しく家族をつくりたい <input type="checkbox"/> 3. そのほか（ )

（最後に確認です）このアンケートは、どのように答えましたか（1つだけ☑）。

- |                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> 1. ひとりで答えた | <input type="checkbox"/> 2. 日本人など他の人に聞きながら答えた |
|-------------------------------------|---|



令和元年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

外国人介護人材の受入れ実態等に関する調査研究事業

【報告書】

令和2年3月

発行 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

住所 〒105-8501 東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

電話：03-6733-1021

FAX：03-6733-1029